

東日本大震災

踏み出そう!

子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡

震災から

5年間のまとめ



東日本大震災

踏み出そう!  
子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡

震災から5年間のまとめ

# 未来へむけて



国立大学法人宮城教育大学長

見上 一幸

東日本大震災から早くも5年という節目の年を迎え、あらためて震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族や被災された方々の一刻も早い復興を願ってやみません。

教育の現場では、未だに宮城県だけでもまだ3千人に近い児童生徒が仮設住宅から通学し、24校の学校の敷地内に仮設住宅があり、県全体でのスクールカウンセラーの相談件数も上昇傾向にあるとも聞いております。

本学は被災地にある唯一の教員養成大学として、東日本大震災発災直後から、被災地への支援にいち早く取り組みました。発災からわずか3週間という期間で学校支援のための組織「みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト」を発足させ、県内の学校現場の被災状況、支援ニーズの調査のほか、国内外から集まる救援物資などの中継ぎや人的資源の提供などを行ってきました。また、2011年6月には、宮城県の教育復興に向けて、中・長期的な視点に立った児童・生徒の





心のケアや学力の向上に取り組む拠点として、「教育復興支援センター」を設立させております。本センターの活動の中核をなすものとして、「未来の教師」となる本学学生による学習支援ボランティア活動がありますが、この5年の間に、全国の教員養成系大学からの派遣協力も合わせ、延べ5000名もの学生が被災地の教育現場で子どもたちと向き合ってくれました。その経験は貴重なものであり、教員となった後の財産になってくれるものと確信しております。

震災から4年目の2015年3月、仙台市で「第3回国連防災世界会議」が開催され、世界各国の首脳、閣僚級が参加して、国際社会における防災、減災活動の基本指針が検討されました。平成17年に神戸で採択された「兵庫行動枠組（HFA）」の検証を行い、その後継として「仙台防災枠組み」が採択され、世界へ向けて発信されました。本学では、この国連防災世界会議を機に、教育復興支援センターの活動の一環とし

て、日本国内の教員養成系大学や世界の災害多発地域等とのネットワークを構築し、グローバルな防災教育活動も展開しています。

このように、教育復興支援センターは、設立当時の目標にとどまらず、被災地の復興状況や社会の変化に対応しながら様々な取組を行い、更には子どもたちに未来へつなげる希望を与えるために活動してきました。

平成28年4月、教育復興支援センターは、これまで積み重ねてきた実績をベースに、「宮城教育大学・附属防災教育未来づくり総合研究センター」として新たに発足いたします。このセンターの活動はこれからではありますが、東日本大震災を負の経験で終わらせること無く、地域を越えた人類共通の課題として、各方面との連携・協働を深めながら、5年先10年先に目を向け具体的な方向性を見いだしていきたいと考えています。

# 目次

## 巻頭言

I 教育復興支援センター年表	01
II 支援実践部門	07
1 教育復興支援塾事業	07
2 教員補助事業	14
3 教員研修事業	18
4 子ども対象・参加イベント	20
5 心のケア支援事業	23
6 こころざし・キャリア教育事業	27
III 研究開発部門	28
1 震災復興・防災に関する調査研修成果の学術発表	28
2 他大学との共同研究	31
3 グローバルな連携の構築・海外発信	33
4 「復興カフェin Miyakyo」の実施	36
5 教育復興支援センター「紀要」の刊行	38
6 新たな教育の創造	41
IV 人材育成	42
1 ボランティア協力員	42
2 東日本被災地視察研修	46
V 刊行物	48
VI 外部資金	58
1 大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業	58
2 一般社団法人国立大学協会	59
3 被災地の教育復興支援事業「心に笑顔」プロジェクト	59
4 文部科学省「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」	60
5 復興庁「新しい東北」先導モデル事業	61
6 公益財団法人 上廣倫理財団	61
7 ベルマーク教育助成財団寄附金	62
VII 国連防災世界会議報告	63
VIII メモリアルイベント報告	107
IX 資料	149
1 平成23年度教育復興支援センター活動(事業)実績一覧	149
2 平成24年度教育復興支援センター活動(事業)実績一覧	152
3 平成25年度教育復興支援センター活動(事業)実績一覧	157
4 平成26年度教育復興支援センター活動(事業)実績一覧	162
5 平成27年度教育復興支援センター活動(事業)実績一覧	166
6 教育復興支援センターだより	170

## I

## 教育復興支援センター 年表

月 日	タイトル	詳細	TV 会議
2011年3月11日	午後2時46分 東日本大震災発生		
2011年3月14日	災害対策本部 設置		
2011年4月5日	みやぎ・仙台未来づくりプロジェクトスタート	ESD/RCE 推進会議が事務局を担当	
2011年5月2日	災害対策本部を教育復興対策本部に変更		
2011年6月4日	第1回未来づくりセミナー	震災復興と学校・地域の未来づくり	
2011年6月25日	第2回未来づくりセミナー	震災からの再生×生物多様性×ESD	
2011年6月28日	教育復興支援センター 設置		
2011年7月31日	第3回未来づくりセミナー	生態系の保全といぐねの役割	
2011年9月10日	第4回未来づくりセミナー	震災復興と学校・地域の未来づくり	
2011年10月29日	公開研究会	不登校支援と震災後の心の支援	
2011年11月12日	第5回未来づくりセミナー	震災復興支援ボランティア報告会	
2011年12月10日	第6回未来づくりセミナー	学校と地域コミュニティー ～地域の未来づくりを考えるWS～	
2011年12月15日	南東北3大学の連携	福島大学・山形大学・宮城教育大学	
2012年1月18日	第7回未来づくりセミナー	ユネスコスクール地域交流会 in 気仙沼	
2012年1月25日	創造的復興教育協会との連携		
2012年2月5日	第8回未来づくりセミナー	環境フォーラムせんだい2011 ～“環境”震災で見えてきたこと	
2012年2月11日	学校・地域連携研究シンポジウム	「夢と志をもつ子どもたちを育むために」	
2012年3月17日	教育復興支援ボランティア報告会		
2012年3月27日	第9回未来づくりセミナー	震災の教訓を活かした復興地域づくり	
2012年5月12日	東日本大震災—教育復興支援と地域の未来づくりフォーラム		
2012年6月28日	教育復興支援センター・ランチ開所式	仙台中央事務所・仙南事務所・気仙沼事務所	○
2012年7月11日	ボランティア協力員役割説明会		
2012年7月17日	ボランティア協力員役割説明会		
2012年8月3日	女川に元気を! ミニコンサート&演舞		
2012年9月26日	第1回東日本大震災被災地視察研修	石巻市立大川小学校～仙台市立荒浜小学校～玉浦仮設住宅～岩沼事務所	
2012年10月6日	第2回東日本大震災被災地視察研修	石巻市立大川小学校～仙台市立荒浜小学校～玉浦仮設住宅～岩沼事務所	
2012年10月17日	韓国大邱教育大学総長・仙台市立荒浜小学校視察		
2012年10月20日 ～21日	大学祭 活動紹介&意見交換会実施		
2012年11月3日 ～4日	全国生涯学習ネットワークフォーラム2012	宮城分科会	
2012年11月3日	第1回ボランティア報告会		
2012年11月8日	第3回東日本大震災被災地視察研修	女川町地域医療センター～石巻市立門脇小学校～仙台市立荒浜小学校	

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

月 日	タイトル	詳細	TV 会議
2012年11月9日	ボランティア協力員連絡会議	体制づくり相談会	
2012年11月30日	こころのふっこうコンサート	七郷中学校にて	
2012年12月5日	ボランティア協力員被災地視察研修打ち合わせ		
2012年12月7日	ボランティア協力員被災地視察研修打ち合わせ		
2012年12月9日	第4回東日本大震災被災地視察研修	石巻市立大川小学校～南三陸町立戸倉小学校～南三陸防災庁舎	
2012年12月13日	南東北3大学連携「災害復興学」市民講座	宮城会場	
2012年12月16日	第5回東日本大震災被災地視察研修	仙台市立荒浜小学校～名取市日和山～名取市立閉上中学校	
2012年12月19日	宮教大生が考える震災復興～私たちができること～	学生震災復興プロジェクト主催	
2013年1月16日	ボランティア協力員連絡会議（来年度の体制づくり相談会）		
2013年1月16日	第1回講習会	iPad講習会	
2013年1月17日	ボランティア協力員連絡会議（来年度の体制づくり相談会）		
2013年1月18日	ボランティア協力員連絡会議（来年度の体制づくり相談会）		
2013年1月18日	第2回講習会	HP講習会	
2013年1月23日	第3回講習会	HP講習会	
2013年1月25日	第4回講習会	iPad講習会	
2013年2月1日	第5回講習会	iPad活用講習会	
2013年2月6日	第6回講習会	iPad活用講習会	
2013年2月11日	学校・地域連携研究シンポジウム	第2回地域協働による防災教育をめざして	
2013年2月12日	キャリア教育に関する研究会	小中学校におけるキャリア教育の現状と大学からの支援の在り方	
2013年2月15日	第7回講習会	ボランティアキット講習会	
2013年2月18日	第1回復興カフェ in Miyakyo	気仙沼市仮設商店街における経営状況と本設の意向	○
2013年2月19日	第8回講習会	ボランティアキット講習会	
2013年2月20日	第9回講習会	iPad活用講習会	
2013年2月22日	第10回講習会	ボランティアキット講習会	
2013年3月8日	第6回東日本大震災被災地視察研修	女川町地域医療センター～石巻市立門脇小学校	
2013年3月11日	東日本大震災復興支援イベント	文部科学省・パネル展示	
2013年3月11日	第2回復興カフェ in Miyakyo	教育復興支援センターの在り方について	○
2013年3月15日	第7回東日本大震災被災地視察研修	女川町地域医療センター～石巻市立門脇小学校	
2013年3月16日	第2回ボランティア報告会	奈良教育大学と一緒に	
2013年4月18日	第3回復興カフェ in Miyakyo	宮古市田老地区の現状について	
2013年4月19日	ボランティア協力員準備会		
2013年4月24日	ボランティア協力員第1回総会		
2013年4月25日	第11回講習会	iPad講習会	
2013年4月30日	第1回ボランティア協力員定例会		

月 日	タイトル	詳細	TV 会議
2013年5月1日	第2回ボランティア協力員定例会		
2013年5月11日	第8回東日本大震災被災地視察研修	南三陸町立戸倉小学校～石巻市立大川小学校	
2013年5月13日	第3回ボランティア協力員定例会		
2013年5月26日	第9回東日本大震災被災地視察研修	南三陸町立戸倉小学校～石巻市立大川小学校	
2013年5月27日	グリーンウェブ活動参加		
2013年5月29日	第4回復興カフェ in Miyakyo	未来へ継ぐ	○
2013年6月10日	第5回復興カフェ in Miyakyo	フィリピンの自然災害と防災教育	
2013年6月12日	第12回講習会	iPad講習会	
2013年6月15日	第10回東日本大震災被災地視察研修	南三陸町立戸倉小学校～石巻市立大川小学校	
2013年6月16日	第11回東日本大震災被災地視察研修	南三陸町立戸倉小学校～石巻市立大川小学校	
2013年6月26日	第6回拡大復興カフェ in Miyakyo	震災を忘れないために～学生からのメッセージ	
2013年6月29日	センター棟竣工式&竣工記念オープニングシンポジウム	シンポジウム「学びの力が未来を開く」	
2013年7月7日	公開研究会	子どもの成長と適応支援 —震災後の心の支援を見据えながら—	
2013年7月17日	学習支援ボランティア研修会	壮行式・不安解消会	
2013年7月29日	教員研修会	東松島市の志教育で何を育てるか	
2013年7月31日	学習支援ボランティア夏休み活動 壮行会		
2013年8月6日	第1回国立大学法人宮城教育大学被災地復興支援実行委員会	学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業	
2013年8月20日	被災地研修講演会	岩沼市教育委員会との地域連携	○
2013年9月19日	第7回復興カフェ in Miyakyo	持続し復元力ある地域をつくるコミュニティの物語	
2013年10月14日	第12回東日本大震災被災地視察研修	南三陸町防災庁舎～大谷海岸～気仙沼向洋高校～リアス・アーク美術館～気仙沼プラザホテル～気仙沼事務所	
2013年10月26日～27日	大学祭企画 ボランティア報告会&フォーラム		
2013年10月31日	第8回復興カフェ in Miyakyo	台風26号による伊豆大島における災害と支援	○
2013年11月1日～2日	JICA 教員研修	気仙沼市教育委員会・お茶の水女子大連携事業	
2013年11月20日	第9回復興カフェ in Miyakyo & 第1回学び喫茶	フィリピン台風30号—私たちにできる恩返しを考えたい	
2013年11月25日	第13回講習会	HP作成講習会(1)	
2013年11月28日	第14回講習会	HP作成講習会(2)	
2013年12月3日	コミュニティスクール研修会	女川町役場庁舎	
2013年12月6日	第15回講習会	HP作成講習会(3)	
2013年12月7日	第13回東日本大震災被災地視察研修	坂元駅～中浜小学校～がれき処理場～南相馬市・小高区中心部	
2013年12月8日	南東北3大学連携シンポジウム	宮城教育大学担当	
2013年12月12日	第16回講習会	HP作成講習会(4)	

月 日	タイトル	詳細	TV 会議
2013年12月15日	第14回東日本大震災被災地視察研修	南三陸町防災庁舎～大谷海岸～気仙沼 向洋高校～リアス・アーク美術館～気 仙沼プラザホテル～気仙沼事務所	
2013年12月18日	第2回学び喫茶	フィリピンを知ろう！	
2013年12月20日	第17回講習会	HP 作成講習会（5）	
2013年12月24日	教員研修会	大郷町教員研修会「東日本大震災の影 響が懸念される児童・生徒を考慮した 授業づくり」	
2014年1月9日	第18回講習会	HP 作成講習会（6）	
2014年1月14日	第2回学びを通北被災地の地域コミュニティ再 生支援事業実行委員会	学びを通じた被災地の地域コミュニ ティ再生支援事業	
2014年1月15日	ボランティア協力員第2回総会		
2014年1月21日 ～25日	AER で学ぼう宮教大防災 Week		
2014年1月22日	出張学び喫茶（AERで学ぼう宮教大防災 Weekの一環）	災害時の食について考える	○
2014年1月30日	第19回講習会	HP 作成講習会（7）	
2014年2月1日	国際教育シンポジウム2013	国際教育から見える地域コミュニティ ～震災後の東北から考える持続可能な 社会～	
2014年2月7日	環境・防災教育セミナー	教育復興支援センター研究プロジェク ト	
2014年2月11日	高校生キャリア教育講座「考えよう！しごと・ 復興・私の未来」	仙台市中央市民センター	
2014年2月20日	教育人づくり・タウン構想会議	女川町総合体育館	
2014年3月1日	特別支援教育フォーラム	震災から3年—これからの子どもたち の元気を支援するために	
2014年3月2日	南東北3大学災害復興市民フォーラム	東日本大震災、人間復興を目指して	
2014年3月9日	宮城教育大学教育復興フォーラム（TKP ガデ ンシティ仙台）	考えよう、子どもたちの未来を拓く学 校と地域の再生支援	
2014年3月17日	第10回復興カフェ in Miyakyo	「地域活性化を対象とした人材育成に おける大学と地域の連携」	
2014年3月18日	気仙沼市復興座談会	教育復興支援センター研究プロジェク ト	
2014年3月28日	「女川町の教育・人づくりにかかる提言」提出	女川町長へ提出	
2014年4月23日	第1回ボランティア協力員総会		
2014年4月24日 ～25日	IIDEA タイ校長研修会	本センターの概要と活動、被災地視察 訪問	
2014年5月8日	ボランティア協力員定例会		
2014年5月22日	グリーンウェブ活動参加	ブルーベリー 2本植樹	
2014年6月11日	第11回復興カフェ in Miyakyo	日系アメリカ人ジャーナリストからみ た東日本大震災	○
2014年6月14日	被災地視察研修	気仙沼コース	
2014年6月15日	被災地視察研修	仙台市近郊半日コース	
2014年6月26日	第1回学びを通北被災地の地域コミュニティ再 生支援事業実行委員会	宮城教育大学管理棟中会議室	
2014年6月28日	被災地視察研修	仙台市近郊半日コース	
2014年6月29日	被災地視察研修	南相馬コース	
2014年7月16日	ボランティア協力員主催不安解消会		

月 日	タイトル	詳細	TV 会議
2014年9月19日 ～21日	再アエルで学ぼう宮教大防災3days		○
2014年10月19日	第12回出張復興カフェ in Miyakyo	東日本大震災被災地からの復興 いぐね 研究会との共催	
2014年10月25日	大学祭企画 復興と教育		
2014年10月28日	第2回学びを通北被災地の地域コミュニティ再生 支援事業実行委員会	宮城教育大学管理棟中会議室	
2014年10月31日 ～11月2日	JICA 教員研修	陸前高田市	
2014年11月5日	第20回 iPad 講習会		
2014年11月13日	第13回復興カフェ in Miyakyo	「大規模な広島土砂災害」	○
2014年11月26日	学び喫茶	「3月11日を生きて～石巻・門脇小・ 人びと・ことば～」	
2014年11月30日	被災地視察研修	石巻・女川方面	
2014年12月19日	第14回拡大・復興カフェ in Miyakyo	「仮設テント 炊き出し研修」[福島県い わき市の復興状況につて]	
2015年1月21日	第2回ボランティア協力員総会		
2015年1月22日	第15回復興カフェ in Miyakyo	「岩手県陸前高田市の復興状況につ いて」	
2015年1月25日	高校生キャリア講座「被災地ではたらく先輩の 話を聞き、未来を考えよう」	仙台市情報・産業プラザ（AER）	
2015年1月28日	国連防災世界会議プレイベント	萩朋会館大集会室	○
2015年1月31日	講演会「女川発～早寝 早起き 朝ごはん～」	女川町立女川中学校体育館	
2015年2月4日	第16回復興カフェ in Miyakyo	「継続したボランティア活動を通して」	
2015年2月4日	第3回学びを通北被災地の地域コミュニティ再生 支援事業実行委員会	宮城教育大学管理棟中会議室	
2015年3月9日	第17回復興カフェ in Miyakyo	「カンタベリー地震後のニュージーラ ンドにおける復興・防災教育」	
2015年3月14日 ～18日	第3回国連防災世界会議	仙台市において開催	○
2015年4月22日	第1回ボランティア協力員総会		
2015年5月21日	グリーンウェーブ活動2015開催		
2015年6月6日	被災地視察研修	南相馬コース（学生・教職員24名参 加）	
2015年6月11日	ネパール地震災害緊急報告会	『ネパール地震災害調査報告－斜面災 害を中心に－』を共催 65名参加	
2015年6月20日	被災地視察研修	気仙沼&南三陸 27名参加	
2015年7月1日	第1回学びを通北被災地の地域コミュニティ再生 支援事業実行委員会	宮城教育大学管理棟中会議室	
2015年7月7日	第18回復興カフェ in Miyakyo	「東日本大震災を伝える」 45名参加	○
2015年7月8日	ボランティア活動不安解消会	15名参加	
2015年7月14日	第19回復興カフェ in Miyakyo	いわき市の復興「環境と開発」実習報 告 19名参加	
2015年8月24日	第20回復興カフェ in Miyakyo	学習支援ボランティアを通じた宮城と 愛知の架け橋	
2015年9月12日 ～13日	防災ウィークエンド	仙台市情報・産業プラザ（AER）	○
2015年10月12日	JICA 教員研修 被災地視察研修	仙台近郊、女川町	

月 日	タイトル	詳細	TV 会議
2015年10月15日	JENESYS2015招へいプログラム研修生との交流	市瀬教授の授業と仙台近郊被災地視察	
2015年10月18日	第1回p4c国際フォーラム in 仙台	仙台市博物館	
2015年10月24日 ~25日	大学祭企画 パネル展示		
2015年10月28日	第21回復興カフェ in Miyakyo	『防サイ エンスショー 楽しく科学・伝える防災』	
2015年11月6日	第2回学びを通北被災地の地域コミュニティ再生支援事業実行委員会	宮城教育大学管理棟中会議室	
2015年11月26日	第22回復興カフェ in Miyakyo	復興教育学創設室キャンプ炊き出しプロジェクト (本学中庭)	
2016年1月20日	第2回ボランティア協力員総会	210番教室	
2016年1月23日	総括フォーラム	仙台市博物館	
2016年1月31日	キャリア教育講座	仙台市立生涯学習センター	
2016年2月3日	第2回学びを通北被災地の地域コミュニティ再生支援事業実行委員会	宮城教育大学管理棟中会議室	
2016年2月17日	第23回復興カフェ in Miyakyo	教育復興支援センターの活動 教員・学生・職員の立場から	
2016年3月9日 ~14日	東日本大震災「メモリアルイベント」		



センター看板の上掲



学生代表による決意表明



開所式（宮城教育大学）



開所式（気仙沼）

# II

東日本大震災

踏み出そう! 子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 震災から5年間のまとめ

## 支援実践部門



### 1 教育復興支援塾事業

#### 1) 平成24年度

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
7月～ 継続(年間)	登米市・南三陸町・気仙沼市 内の仮設住宅	仮設住宅での学習支援※NPO法人 HSF「人間の安全保障」フォーラム の実施事業への協力	31	
7/23・26	岩沼市立岩沼南小学校	自学自習支援	1	2
7/23・26	大和町立鶴巣小学校	自学自習支援	1	2
7/23 7/25～27	塩竈市立 浦戸中学校・浦戸第二小学校	自学自習支援	7	15
7/23～27	石巻市立中里小学校	自学自習支援	1	5
7/23～8/7	仙台市立七郷中学校	自学自習支援(5教科・3学年対象)	12	44
7/24～8/3	塩竈市内6小学校	自学自習支援	9	27
7/25～27	柴田町立西住小学校	自学自習支援	1	3
7/26～27	南三陸町立 志津川小学校・戸倉小学校	自学自習支援	3	6
7/30～8/6	仙台市立六郷中学校	自学自習支援(5教科・3学年対象)	12	25
7/30～8/8	亘理町立 逢隈中学校・荒浜中学校	自学自習支援(国・数・英)	8	21
8/1～2 8/6	女川町立女川第二小学校	自学自習支援	10	20
8/1～3	南三陸町立入谷小学校	自学自習支援・プール監視	3	9
8/1～7	大和町立大和中学校	自学自習支援(数・英)	6	18
8/1～7	大和町立宮床中学校	自学自習支援(数・英)	4	13
8/6～10	大崎市立古川第一小学校・古 川東中学校・古川南中学校	自学自習支援(小5・6年生及び中 1～3年生対象)	17	85
8/6～9	石巻専修大学	石巻好文館高校の生徒を対象とした 自学自習支援	5	10
8/6～10	気仙沼市内8中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中 1～3年生対象)	18	84
8/6～10	登米市南方公民館	南方中学校の生徒を対象とした自学 自習支援(5教科)	12	56
8/6～10	丸森町立丸森中学校	自学自習支援(5教科)	9	43
8/6～10 8/20～24	色麻町立色麻中学校	自学自習支援(国・数・英)	4	20
8/8～10	角田市内3中学校	自学自習支援(小3～中3年生対象)	36	106
8/9 8/22～24	美里町北浦地区公民館 他	自学自習支援	2	5
8/16～20	栗原市立築館中学校	「学府くりはら塾」での講師	20	73
8/20～24	大郷町立 大郷小学校・大郷中学校	サマースクールでの講師と自学自習 支援	18	58
8/20～24	名取市立閑上中学校	自学自習支援	16	61

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告

VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
8/21~22	柴田町立船迫小学校	自学自習支援	1	2
8/21~23	栗原市金成庁舎	小学生版「学府くりはら塾」での講師	7	43
8/21~23	宮城県黒川高校	高大連携学力向上プロジェクトでの学習指導講師（国・数・英）	4	4
8/22~24	岩沼市中央公民館	自学自習支援（仮設住宅に入居している児童生徒対象）	12	22
12/24~26	栗原市金成庁舎	「冬の学府くりはら塾」での講師	9	17
12/25~26	塩竈市内6小学校	自学自習支援	4	7
12/25~27	気仙沼市内8中学校	自学自習支援（小3～6年生及び中1～3年生対象）	18	53
12/25~27	大郷町立大郷小学校	ウィンタースクールでの講師	10	25
12/25~27	大和町立大和中学校	自学自習支援（数・英）	5	13
12/25~27	大和町立宮床中学校	自学自習支援（数・英）	6	10
12/25~28	大崎市立 古川東中学校・三本木中学校	自学自習支援	6	16
12/25~28	登米市南方公民館	南方中学校の生徒を対象とした自学自習支援（5教科）	6	18
12/27~28	栗原市金成庁舎	小学生版「冬の学府くりはら塾」での講師	11	20
1/4~5	柴田町槻木生涯学習センター	柴田町内の中学3年生を対象とした自学自習支援	4	8
3/26~29	気仙沼市内8中学校	自学自習支援（小3～6年生及び中1～3年生対象）	13	52
3/26~29	宮城県黒川高校	高大連携学力向上プロジェクトでの学習指導講師（国・数・英）	3	4

## 2) 平成25年度

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
7/22~26	女川町立女川小学校	自学自習支援	4	8
7/22~8/23	柴田町内4小・中学校	自学自習支援	5	17
7/25~8/20	大河原町立大河原中学校	自学自習支援（数学・英語）	2	7
7/25~8/6	仙台市立七郷中学校	自学自習支援（5教科・主に中3年生）	10	10
7/30~8/5	亘理町立逢隈中・荒浜中学校	自学自習支援（数学・英語、中3年生対象）	8	11
8/5~9	角田市内3小・中学校	自学自習支援	10	29
8/5~9	大崎市内3小・中学校	自学自習支援（小5・6年生及び中1～3年生対象）	17	67
8/5~9	気仙沼市内8中学校	自学自習支援（小3～6年生及び中1～3年生対象）	21	89
8/5~9	大和町立大和中学校	自学自習支援（数学・英語、中1～3年生対象）	2	10
8/5~9	大和町立宮床中学校	自学自習支援（数学・英語、中1～3年生対象）	3	11
8/5~9	登米市立南方中学校	自学自習支援（主に中3対象）	11	52

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
8/5～9	丸森町立丸森中学校	自学自習支援（5教科・中1～3年生対象）	9	44
8/5～9	名取市立閑上中学校	自学自習支援（5教科・中1～3年生対象）	16	58
8/5～9	登米市内小・中学校	自学自習支援（小3～6年生及び中1～3年生）	8	40
8/5～9	色麻町立色麻小学校①	自学自習支援（小3～6年生対象）	2	10
8/6～7	登米市立米山中学校	自学自習支援（数学・英語、中1～3年生対象）	5	10
8/6～9	仙台市立蒲町中学校①	自学自習支援（数学・英語、主に3年生対象）	3	7
8/7～9	石巻市内小・中学校	自学自習支援（小3～6年生及び中1～3年生）	1	3
8/7～11	美里町立小牛田中学校	自学自習支援（小3～6年生及び中1～3年生）	3	5
8/7～9	一関市立萩荘中学校	自学自習支援（数学・英語・国語）	2	6
8/8～12	美里町立不動堂中学校	自学自習支援（小3～6年生及び中1～3年生）	3	4
8/10～12	明成高校	学習支援（小論文・英語・数学）	3	5
8/16～20	栗原市築館中学校	「学府くりはら塾での講師」(教材作成・指導を含む)	19	73
8/19～21	仙台市立蒲町中学校②	自学自習支援（数学・英語、主に3年生対象）	8	21
8/19～22	南三陸町立戸倉小学校	自学自習支援（全学年）	9	32
8/19～22	黒川高校	サマースクール講師（国語・数学・英語、主に2年生）	2	8
8/19～23	色麻町立色麻小学校②	自学自習支援（小3～6年生対象）	9	21
8/19～23	色麻町立色麻中学校	自学自習支援（中1～3年生対象）	9	21
8/19～23	大郷町立大郷小・中学校	サマースクール講師・自学自習支援	12	40
8/19～23	女川町立女川中学校	自学自習支援（中1～3年生対象）	7	31
8/19～23	塩釜市内4中学校	自学自習支援（中1～3年生対象）	14	57
8/20～22	岩沼市中央公民館	自学自習支援（仮設に入居している児童、生徒対象）	4	11
8/20～22	岩沼市立玉浦小学校	自学自習支援	7	19
8/21～23	栗原市金成庁舎	小学校版「学府くりはら塾」・自学自習支援（小3～6年生対象）	12	31
12/22～23	蔵王町ございんホール	蔵王町冬の学習会（自学自習支援、数学・英語、中1～中3対象）	1	2
12/23～25	栗原市金成庁舎	「冬の学府くりはら塾」での講師（中3対象・教材作成・指導を含む）	6	10
12/24～26	塩釜市内2小学校	自学自習支援（国語・算数・数学、小3～6年生及び中1～中3対象）	3	6
12/25～26	大和町大和中学校	自学自習支援（数学・英語、中1～3年生対象）	2	4
12/25～26	大和町宮床中学校	自学自習支援（数学・英語、中1～3年生対象）	5	7
12/25～27	気仙沼市内7中学校	自学自習支援（小3～6年生及び中1～3年生対象）	16	46
12/25～27	仙台市立蒲町中学校	自学自習支援（主に数学・英語、中1～中3対象）	5	12

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数	延人数 (参加人数)
12/25~27	巨理町立吉田中学校①	自学習支援（主に数学・英語、中1～中3対象）	3	6
12/25~27	大郷小学校	自学自習支援（国語・算数、小4～小6対象）	8	12
12/25~27	大崎市内3中学校	自学自習支援（中学生対象）	9	17
12/26~27	登米市立南方中学校	自学自習支援（全教科）	3	6
12/26~27	栗原市金成庁舎・文化会館	小学校版「学府くりはら塾」での講師（小3～6年生対象）	8	15
12/27	美里町北浦コミュニティーセンター	自学習支援（北浦小学校生対象）	2	2
1/18~19	柴田町立船岡公民館	市内3中学校自主学習支援	4	7
3/25~28	気仙沼市内6中学校	自学自習支援（小3～6年生及び中1～2年生対象）	12	48

## 3) 平成26年度

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)		派遣延人数 (他大学内数)		協力・連携大学
7/22~7/30	塩釜市立第三小学校	自学習支援（小3～小6年生対象）	7		10		
7/31~8/6	大崎市立古川東中学校	自学自習支援（小5・6年生及び中1～3年生対象）	2	(2)	4	(4)	愛知教育大学
8/4~8/8	気仙沼市内小・中学校	自学自習支援（小3～6年生及び中1～3年生対象）	12	(2)	32	(10)	早稲田大学
8/4~8/8	色麻町立色麻学園①	自学自習支援（小3～6年及び中1～3年生対象）	2		2		
8/4~8/8	大和町立宮床中学校	自学自習支援（数学・英語、中1～3年生対象）	4		12		
8/4~8/8	大河原町内中学校	自学習支援（中1～3年生対象：大河原中・金ヶ瀬中①）	7		14		
8/4~8/8	登米市立南方中学校	自学自習支援（主に中3対象）	15	(15)	75	(75)	京都教育大学 大阪教育大学
8/5~8/11	角田市立角田小・中学校	自学自習支援（角田小学校、角田中学校）	7		8		
8/6~8/12	大崎市立古川中学校	自学自習支援（小5・6年及び中1～3年生対象）	5	(2)	10	(3)	愛知教育大学
8/6~8/8	名取市立閑上中学校①	自学自習支援（5教科・中1～3年生対象）	4		9		
8/7~8/11	本小牛田コミュニティーセンター	自学自習支援（中1～3年生：小牛田中学学生）	3		5		
8/7~8/8	丸森町立丸森中学校	自学自習支援（5教科・中1～3年生対象）	5		10		
8/9~8/11	明成高校（茂庭荘）	学習支援（小論文・英語・数学）	2		6		
8/16~8/20	栗原市教育研究センター	中学生を対象とした「学府くりはら塾」での講師（3教科、教材作成・指導を含む）	21		63		
8/18, 21	富谷町立富谷第二中学校	自学自習支援（中1～3年生対象）	6		9		
8/18~19	大河町立金ヶ瀬中学校②	自学習支援（中1～3年生対象）	2		3		
8/18~8/19	名取市立閑上中学校②	自学自習支援（中1～3年生対象）	6		12		

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)		派遣延人数 (他大学内数)		協力・連携大学
8/18～8/20	色麻町立色麻学園②	自学自習支援(小3～6年及び中1～3年生対象)	1		3		
8/18～8/20	仙台市立蒲町中学校	自学自習支援(5教科)	8	(2)	24	(6)	東北学院大学
8/18～8/20	富谷町立日吉台中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	5		8		
8/18～8/20 8/22	富谷町立富谷中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	5		12		
8/18～8/21	大崎市立古川南中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	2		7		
8/18～8/21	女川地区小・中学校および仮設住宅	自学自習支援	18	(6)	47	(24)	福岡教育大学
8/18～8/22	塩釜市内4中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	9	(7)	45	(35)	東京学芸大学
8/18～8/22	柴田町立槻木小学校	自学自習支援	1		5		
8/18～8/22	南三陸町立戸倉小学校	自学自習支援・環境整備(全学年)	8	(4)	38	(20)	奈良教育大学
8/18～8/22	大郷町立大郷小・中学校	サマースクール講師・自学自習支援	14		35		
8/18～8/22	登米市内小・中学校(迫地区)	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生対象)	5		11		
8/19～8/20	大衡村立大衡中学校	自学自習支援(5教科)	2		4		
8/19～8/21	岩沼市中央公民館(仮設住宅入居小・中学生)	自学自習支援(仮設に入居している児童、生徒対象)	5		13		
8/19～8/21	岩沼市立玉浦小学校	自学自習支援	6		14		
8/20～22	栗原市文化会館・教育研究センター	自学自習支援(小学生版「くりはら塾」での講師)	12		31		
12/23～12/26	蔵王町ございんホール	自学自習支援(主に中学生対象)	1		3		
12/24～12/26	大和町立宮床中学校	自学自習支援(中1～3年生対象、主に数・英)	3		6		
12/24～12/26	栗原市文化会館・教育研究センター	小学3～6年生を対象とした「学府くりはら塾」での講師(算数、冬休みの課題・指導を含む)	10		16		
12/25	柴田町立船岡中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	2		2		
12/25～12/26	気仙沼市内小・中学校	自学自習支援(小3～6年及び中1～3年生対象)	10	(3)	20	(6)	早稲田大学
12/25～12/26	大郷町立大郷小学校	自学自習支援(小4～6年生対象、算・国)	8		11		
12/25～12/26	大崎市立古川東中学校・古川南中学校	自学自習支援(小・中学生対象)	4		7		
12/25～12/27	栗原市教育研究センター	中学生を対象とした「学府くりはら塾」での講師(3教科、教材作成・指導を含む)	8		19		

## 4) 平成27年度

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)		派遣延人数 (他大学内数)		協力・連携大学
7/30～7/31	大和町立宮床中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	2		4		
8/3～8/7	名取市立関上中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	12	(5)	40	(25)	愛知教育大学
8/3～8/7	登米市立南方中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	14	(11)	65	(55)	京都教育大学 大阪教育大学
8/3～8/7	大河原町立金ヶ瀬中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	1		4		
8/3～8/7	大河原町立大河原中学校 ①	自学自習支援(中1～3年生対象)	2		7		
8/3～8/7	岩沼市内小中学校①	自学自習支援	7		19		
8/3～8/7	大崎市立古川中学校	自学自習支援(小学生及び中学生対象)	2		5		
8/4～8/7	丸森町立丸森中学校	自学自習支援(5教科:中1～3年生対象)	5	(2)	17	(8)	奈良教育大学
8/4～8/7	亶理町内小中学校①	自学自習支援(小学生及び中学生対象)	3		9		
8/16～8/20	栗原市教育研究センター	中学生を対象とした「学府くりはら塾」での講師(3教科、教材作成・指導を含む)	16		60		
8/17～8/21	大河原町立大河原中学校 ②	自学自習支援(中1～3年生対象)	1		4		
8/17～8/21	色麻学園	自学自習支援(小学生及び中学生対象)	2		8		
8/17～8/21	大崎市立鹿島台中学校	自学自習支援(小学生及び中学生対象)	1		4		
8/17～8/21	富谷町立富谷中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	7	(1)	24	(2)	東北学院大学
8/17～8/21	大郷町立大郷小・中学校	サマースクール講師・自学自習支援	9		23		
8/17～8/21	塩釜市内2中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	4		17		
8/18～8/19	仙台市立蒲町中学校	自学自習支援(5教科:中1～3年生対象)	2		3		
8/18～8/20	角田市内小学校①	自学自習支援	1		2		
8/18～8/20	亶理町内小中学校②	自学自習支援(小学生及び中学生対象)	3		8		
8/18～8/21	岩沼市内小中学校②	自学自習支援	1		4		
8/18～8/21	気仙沼市内小・中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生対象)	15	(9)	58	(35)	福岡教育大学 早稲田大学
8/20～8/21	女川地区小・中学校および仮設住宅	自学自習支援(小学生及び中学生対象)	7		14		
8/20～22	栗原市文化会館・教育研究センター	自学自習支援(小学生版「くりはら塾」での講師)	14		33		
8/24～8/25	角田市内小学校②	自学自習支援	8		16		
8/24～8/25	柴田町立船岡小学校	自学自習支援	1		2		
12/24～12/25	大和町立宮床中学校	自学自習支援	1		1		
12月25日	大郷町立大郷小学校	自学自習支援	4		4		

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学
12/25~12/27	栗原市文化会館・教育研究センター	自学自習支援（小学生版「くりはら塾」での講師）	13	23	
12/25~12/27	栗原市教育研究センター	中学生を対象とした「学府くりはら塾」での講師（3教科、教材作成・指導を含む）	15	26	
12/25~12/27 1/5~1/7	岩沼学び塾	自学自習支援（中学生対象）	8	14	
1/4~1/6	気仙沼市内小・中学校	自学自習支援	11	29	
1/5・6 1/16・17	柴田町立船岡中学校	自学自習支援	3	8	



冬休み学びの教室



各地域の集会所で



勉強が終わった後のゲーム大会（仮設住宅集会所）



## 2 教員補助事業

## 1) 平成24年度

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
4月～ 継続(年間)	仙台市立中野小学校	教員補助	26	
4月～ 継続(年間)	仙台市立荒浜小学校	教員補助※仮設住宅での学習支援を含む	7	
11月～ 継続(年間)	仙台市立七郷中学校	教員補助	1	
11月～ 継続(年間)	仙台市立六郷中学校	教員補助	1	
1月～ 継続(年間)	仙南地区(岩沼・名取・亘理)	教員補助※教材開発等を含む	1	
4月～5月	宮城教育大学	学校支援プログラム(学校教育講座)気仙沼市内14校(193名)分のアンケートデータの集計・入力支援	17	31
5/12～13 5/26～27	宮城県気仙沼向洋高校(仮設校舎)	図書館の書籍整理	9	10
5月26日	宮城県立石巻支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	10	10
6月16日	仙台市立荒浜小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	25	25
6月16日	岩沼市陸上競技場	岩沼市中総体(陸上競技)の実施・運営の補助	6	6
6/19・21	仙台市立六郷中学校	放課後の学習会の補助	6	8
8/7～10	南三陸町立志津川中学校・戸倉中学校	自学自習支援、部活動指導補助、教育環境整備	15	60
8/20～24	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援、部活動指導補助、教育環境整備	15	75
9/4～6	宮城県気仙沼向洋高校(仮設校舎)	図書館の書籍整理	3	8
9/19～21	大熊町立幼小中学校	大熊町立幼小中学校の児童生徒を対象とした教員補助活動(根本アリソン特任准教授+学生)	17	51
9/24～25	東松島市立小野小学校	図書館の書籍整理	9	14
9/24～28	丸森町立丸森小学校・丸森中学校 他	教員補助	12	59
10月13日	宮城県立石巻支援学校	学校祭の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	6	6
11/16～17	東松島市立鳴瀬第一中学校	図書館の書籍整理	5	5
2/1～22 (毎週金曜日)	仙台市立館小学校図書室	図書室の蔵書のデータベース化作業	2	6
2/12～15	大熊町立幼稚園・小学校	大熊町立幼稚園・小学校の園児児童を対象とした教員補助活動(根本アリソン特任准教授+学生)	23	69
3/4～15	松島町立松島第一小学校	教員補助	14	69
3/25～29	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援、部活動指導補助、教育環境整備	13	65

## 2) 平成25年度

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
4月～ 継続(年間)	仙台市立中野小学校	教員補助	26	
4月～ 継続(年間)	仙台市立荒浜小学校	教員補助※仮設住宅での学習支援を含む	2	
4月～ 継続(年間)	岩沼市立玉浦小学校	教員補助	1	
4月～ 継続(年間)	仙台市立七郷中学校	教員補助	1	
10月～ 継続(年間)	明成高校	教員補助	1	
12月～3月	仙台市立蒲町中学校	教員補助(放課後学習支援)	1	1
5月22日	宮城県立石巻支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	1	1
5月22日	仙台市立荒浜小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	20	20
6月15日	岩沼市陸上競技場	岩沼市中総体(陸上競技)の実施・運営の補助	8	8
8/19～21	石巻市立北上小学校	図書整理	5	14
8/19～23	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援・部活動支援	15	74
9/11～14	福島県会津若松市(大熊幼稚園、大熊小・中学校)	教員補助	23	92
9/24～27	丸森町内5小学校	教員補助	20	77
10月5日	石巻市立北上小学校	図書整理	5	5
11月2日	宮城県石巻支援学校	学校祭の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	7	7
11/19、22	七ヶ浜町中央公民館	七ヶ浜町内小・中学校の不登校支援	2	2
2/16～21	福島県会津若松市(大熊幼稚園、大熊小・中学校)	教員補助	25	125
3月22日	仙台市立荒浜小学校	卒業式運営補助	4	4
3/24～28	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援・部活動支援・環境整備	12	60

## 3) 平成26年度

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学
継続	仙台市立中野小学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	10		
継続	仙台市立荒浜小学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	6		
継続	塩釜市立第一小学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	1		
継続	仙台市立蒲町中学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)			
継続	女川町立女川小学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	8	37	
5/24	宮城県立石巻支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	6	6	

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)		派遣延人数 (他大学内数)		協力・連携大学
5/31	仙台市立荒浜小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	17		17		
6/21	岩沼市陸上競技場	岩沼市中総体（陸上競技）の実施・運営の補助	10		10		
8/18～8/20	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援・部活動支援	11	(8)	33	(24)	愛知教育大学
8/29～8/30	奥松島市立鳴瀬未来中学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	19		38		
9/1～9/3	南三陸町立志津川小学校	教員補助	6		18		
9/16～9/19	南三陸町立名足小学校	教員補助	5	(1)	17	(4)	群馬大学
9/17～9/20	福島県会津若松市（大熊幼稚園、大熊小・中学校）	教員補助	10		40		
9/22～9/26	丸森町立丸森小学校	教員補助	12	(5)	53	(25)	奈良教育大学
9/5、12、19、26	女川町立女川小学校	教員補助	12		22		
11/1	宮城県立石巻支援学校	学校祭の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	14		14		
3/16～20	南三陸町立志津川中学校	教員補助	16	(11)	80	(55)	愛知教育大学 奈良教育大学

### 4) 平成27年度

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)		派遣延人数 (他大学内数)		協力・連携大学
継続	仙台市立荒浜小学校	教員補助（学生による毎週の自主的な支援）	2		-		
継続	仙台市立蒲町中学校	教員補助（学生による毎週の自主的な支援）	4		-		
継続	女川小学校	教員補助（学生による毎週の自主的な支援）	4				
継続	岩沼市立玉浦中学校	教員補助（学生による毎週の自主的な支援）	11				
継続	宮城県美田園高等学校	教員補助（学生による毎週の自主的な支援）	5				
5月20日	宮城県立利府支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	1		1		
5月23日	宮城県立石巻支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	3		3		
8/17～8/21	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援・部活動支援	10	(6)	47	(30)	東京学芸大学
9/1～9/4	南三陸町立志津川中学校	教員補助	14	(12)	56	(48)	愛知教育大学 奈良教育大学 群馬大学
9/1～9/4	南三陸町立名足小学校	教員補助	6		24		
9/5～9/6	仙台市立荒浜小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	7		12		
9/16～9/19	福島県会津若松市（大熊幼稚園、大熊小・中学校）	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	13		52		
9/24～9/25	丸森町内小学校	教員補助	6		10		
10月3日	仙台市立中野小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	5		5		
10月31日	宮城県立石巻支援学校	学校祭の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	3		3		

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学
10月31日	仙台市立中野小学校	学芸会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	7	7	
2/15~2/19	福島県会津若松市(大熊幼稚園、大熊小・中学校)	教員補助	22	88	



盛り上がった「荒浜音頭」の踊り



利府支援学校運動会(スーパーアリーナ会場)



I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告

VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

## 3 教員研修等事業

## 1) 平成24年度

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
5月12日	宮城教育大学	東日本大震災—教育復興支援と地域の未来づくりフォーラム	主催	約100
5月12日	宮城教育大学	アジア太平洋ユネスコスクール「連帯と防災」フォーラム	共催	約100
8/6 8/11~12	東北自治総合研修センター	高度な学級・学校経営力養成のための短期集中講座～震災復興からマネジメントを再考する～	共催	63
11/3～4	宮城教育大学	全国生涯学習ネットワークフォーラム2012	主催	約480
12月13日	仙台市情報・産業プラザ(AER) セミナールーム	南東北3大学連携「災害復興学」市民講座	主催	47
2月18日	宮城教育大学	持続発展教育・ESDセミナー 国立教育政策研究所 五島先生による基調報告「防災教育・持続発展教育の進め方」	後援	約50

## 2) 平成25年度

日程	実施場所	実施内容	参加人数
6月29日	仙台国際センター	教育復興支援センター棟竣工記念シンポジウム「学びの力が未来を拓く」	110名
7月22日	美里町 駅東地域交流センター	美里町学び支援事業研修会「子どもと向き合うための学び相談員・支援員としての心構え」	20名
11月26日	仙台市立寺岡小学校	公開研究会コーディネーター	350名
12月8日	仙台市情報・産業プラザ(AER)	南東北3大学連携「災害復興学」市民講座「東北の未来創りと大学の使命」	80名
12月24日	大郷町立大郷小学校	講演会「震災の影響が懸念される児童・生徒を考慮した授業づくり」	42名
2月1日	仙台市青葉体育館	国際教育シンポジウム2014「国際教育から見える地域コミュニティ～震災後の東北から～」	72名

## 3) 平成26年度

日程	実施場所	実施内容	参加人数
6月6日	岩手県立生涯学習推進センター	学校と地域の融合～学校支援ボランティアが秘めている可能性～	80
7月18日	美里町駅東交流センター	子どもと向き合うための学び相談員・支援員としての心構え	20
8月21日	栗原市立志波姫小学校	防災教育校内研修	20
8月23日	TKP 新宿ビジネスセンター	関東圏同窓生ネットワーク総会 研修会「防災教育シンポジウム」	35
10月15日	栗原市文化会館大ホール	学府くりはら学力向上講演会	360

#### 4) 平成27年度

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	参加人数
7月6日	東松島市コミュニティーセンター	「ハザードマップの作り方」「防災教育の必要性」	派遣	32
7月27日	蔵王町役場	蔵王町教職員研修会～志教育と学力向上について～	派遣	50
7月28日	大崎市立沼部小学校	「ハザードマップの作り方」「防災教育の必要性」	派遣	40
8月22日	TKP 新宿ビジネスセンター	関東圏同窓生ネットワーク総会	派遣	16
9月3日	仙台市福祉プラザ	仙台市地域保健福祉計画の策定過程におけるワークショップ ～復興過程における支え合い活動の経験を、これからの活動に活かすために～	派遣	25
9月4日	仙台市教育センター	仙台市小学校長会研究協議会 ～世界が注目する仙台の防災実践、国連防災戦略「仙台防災枠組み2015-2030」採択地として～	派遣	124
10月30日	大崎市立沼部小学校	防災教育の公開授業の指導	派遣	50



## 4 子ども対象・参加イベント

## 1) 平成23年度

日程	実施場所	実施内容	備考
8月20日	石巻市立 飯野川中学校	教育夏祭り2011IN 東北への支援（ボランティア学生 の派遣）	他団体主催への 協力
8月17日 ～8月20日	国立花山 青年自然の家	気仙沼市被災児童のための「KAWTABI サマース クール」への支援（ボランティア学生 の派遣）	他団体主催への 協力
11月5日	岩沼市 岩沼西小学校	岩沼市市制40周年記念事業「理科大好きフェスティ バル」のブース活動の補助（村松教授もブース参 加）	他団体主催への 協力
11月5日	気仙沼市立 大島小学校	学校支援プログラム（技術教育講座）大島小学校児 童を対象とした「LED ランタン工作教室」	
11月19日	仙台演劇工房 10-BOX	復興への子どもの時間 ～ヤギと癒しと～ ふれあいコーナーの実施補助	他団体主催への 協力
1月13日～15日	エスパル スクエア	榴岡小学校と連携による「折り鶴プロジェクト」イ ベントでの運営補助、参加小学生とのオブジェ作成	「子ども対象 イベント」関係
2月18日	気仙沼市立 気仙沼中学校	気仙沼市立小学校児童を対象とした「図書館実験工 作教室」(講師：内山准教授)	
3月3日	気仙沼 中央公民館	気仙沼・本吉地区の小・中・高校生、一般を対象と した「2011 ESD サイエンス・ワークショップ」(講 師：玉木教授)	
3月17日	イオン石巻 ショッピングセンター	街角科学体験コーナー(提案：山形県、運営：山形 大学)へのブース出展（水谷教授）「LEDのミニイ ンテリアランタン工作教室」	他団体主催への 協力

## 2) 平成24年度

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
6月6日	大和町立鶴巣小学校	4年生「総合的な学習の時間」にお ける体験学習での指導支援（齊藤教 授+学生）	20	20
6月19日	仙台市立折立小学校（仮設校 舎）	特別授業「エジソンと電灯の発明の お話」(内山准教授)	1	1
8/1～2	志津川自然の家	みやぎ高校生ボランティアリーダ ー養成研修会の実施補助	6	12
8月3日	女川町総合運動場	仙台市立桜丘中学校、桜丘小学校、 川平小学校と連携した女川町民を対 象とした合唱・交流演奏等のイベン ト	5	5
8/11～12	陸前高田市米崎地区コミュニ ティセンター	体験教室「化石のレプリカをつくら う！」の実施・運営補助 ※国立科学博物館主催事業への協力	1	2
8/16～18	蔵王自然の家	「子どもキャンプ」の実施補助 ※ユネスコ協会の主催事業への協力	23	69
9月9日	角田市スペースタワーコスモ ハウス	角田市「はやぶさまつり」でのブ ース出展（内山准教授+学生） ※角田市教委との連携事業への協力	2	2
9月16日	石巻向陽地区コミュニティ・ センター	仮設住宅に入居している住民を対象 にした佐藤雅子名誉教授・雅座・沖 縄県安富祖小中学生による民俗舞踊 公演	主催	約120

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
9月24日	気仙沼市立小泉小学校	ピアノ演奏に親しみ、感謝の気持ちを養う「感謝のピアノコンサート」の実施支援（原田准教授+学生）	16	16
9月26日	利府町立しらかし台中学校	学校支援プログラム（技術教育講座） 利府中学校生徒・保護者を対象とした「LED ランタン工作教室」	8	8
10月20日	岩沼市立岩沼南小学校	岩沼市「理科大好きフェスティバル」の出展ブースの運営補助※岩沼市教委との連携事業への協力	5	5
10/20～21	宮城教育大学	ヤングアメリカンズワークショップへの参加※創造的復興教育協会事業への協力	協力	26
11月30日	仙台市立七郷中学校体育館	荒浜小、七郷中の児童生徒、保護者を対象としたコンサートの実施 ※中部フィルハーモニー交響楽団事業への協力	共催	約120

### 3) 平成25年度

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
6月8日	仙台市農業園芸センター (仙台市科学博物館)	こども☆ひかりフェスティバルの補助（※仙台市科学博物館より依頼）	23	
6月19日	大和町立鶴巣小学校	総合学習における体験学習での指導支援	15	
7月1日	宮城教育大学	仙台市立中野小学校「ヤギふれあい体験活動の実施」	主催	13
7月26日	気仙沼市立階上小学校図書館	楽器作りワークショップ	12	
7月26日	女川町総合体育館	女川町民を対象とした交流イベント	共催	20
9月15日	気仙沼市本吉公民館	スペースラボ in 気仙沼として、気仙沼市小学生を対象とした実験工作教室	主催	22
9/27～29	女川・石巻・荒浜地区・宮城教育大学	沖縄県立芸術大学被災地視察、教育復興ワークショップの開催	主催	30
10月12日	東北歴史博物館	仮設住宅の児童を対象とした秋の博物館イベント運営補助	4	
10月17日	宮城県宮城野高等学校	「チャレスポ！宮城野！」運営補助（※仙台市立中野小学校の依頼による）	3	
11月9日	仙台市立東六郷小学校	音楽イベントの運営補助	6	
11月23日	石ノ森漫画館	本学技術教育講座主催のクリスマス工作イベントへの協力	協力	30
11月30日	登米市内応急仮設住宅	仮設住宅住民を対象とした天文イベント	9	
12月1日	仙台市天文台	スペースラボと題した実験工作教室	主催	15
12月7日	気仙沼市階上中学校仮設住宅集会所	仮設住宅に住む親子を対象とした「お菓子の家作り教室」	13	
12月14日	石ノ森漫画館	本学技術教育講座主催のクリスマス工作イベントへの協力	協力	30
12月15日	気仙沼市総合体育館	気仙沼市での小学生・親子を対象とした運動支援イベント	協力	100

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
12/22~23	仙台市情報・産業プラザ (AER)	こども☆ひかりミュージアムスト リートの運営補助 (※仙台市科学博物館より依頼)	5	
2月8日	東北歴史博物館	仮設住宅の児童を対象とした冬の博 物館イベント運営補助	5	
2月15日	気仙沼階上学童センター	学童保育での学習・遊び支援ボラン ティア	6	
3月15日	仙台市立東六郷小学校	卒業式で音楽演奏ボランティア	4	4

## 4) 平成26年度

日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
6月3日	大和町立鶴巣小学校	総合学習における体験学習での指導 支援	18	
6月7日	松島水族館	こども☆ひかりフェスティバルの補 助	11	
6月25日	宮城教育大学	仙台市立中野小学校「ヤギふれあい 体験活動の実施」	—	13
8月3日	仙台市立西山中学校	女川町民を対象とした交流イベント	10	41
11月7日	仙台市勾当台公園	仙台市PTA フェスティバルへの参 加	3	
11月22日	東六郷小学校	東六郷小学校学校祭での演奏披露	6	
11月23日	亘理町公民館	サイエンスフェスティバル in 亘理町 2014への協力	3	
11月29日	石ノ森漫画館	本学技術教育講座主催のクリスマス 工作イベントへの協力	5	
3月7日	名取市立閑上中学校	卒業式での音楽演奏ボランティア	6	
3月21日	仙台市立東六郷小学校	卒業式での音楽指導ボランティア	2	
3月21日	仙台市立荒浜小学校	卒業式運営補助ボランティア	5	

## 5) 平成27年度

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	参加人数
6月14日	仙台市縄文の森広場	こども☆ひかりフェスティバルの補 助	13	
8月1日	仙台市立西山中学校	女川町民を対象とした交流イベント	2	
11月21日	東六郷小学校	東六郷小学校学校祭での演奏披露	5	
11月28日	石ノ森漫画館	本学技術教育講座主催のクリスマス 工作イベントへの協力	7	
3月19日	仙台市立東六郷小学校	卒業式での音楽指導ボランティア	2	

## 5 心のケア支援事業

### 1) 平成23年度

期日	会場	氏名	内容
5月26日	仙台市立 七北田小学校	佐藤 静 教授	震災に伴う心のケア講演会 講演題目：震災に伴う心のケア講演会 対象及び参加者：保護者等90名 内容：震災時のストレス反応等の理解、児童生徒に対する心の支援の方法等について講演した。
7月4日	宮城県教育研修センター (ホテル白萩)	関口 博久 教授	平成23年度教育相談コーディネーター研修会 テーマ「教師のメンタルヘルス」
7月13日	宮城県教育研修センター (登米市中田生涯学習センター)		
6月28日	ケア・宮城&プラン・ ジャパン 共：宮城県教育委員会 (気仙沼市立津谷中学校)	野口 和人 教授	子どもの心を支援する教師のための心ケア研修会 演題：震災後の子ども支援 ～今 そして これから～ 対象：気仙沼市教員（幼～高）30名 内容：震災後の子どもたちの心理反応や支援方法についての講演「傾聴」および「リラクゼーション」に関するワークショップ
6月29日	ケア・宮城&プラン・ ジャパン 共：宮城県教育委員会 (気仙沼市立松岩小学校)		研修会名、演題：同上 対象：松岩小学校教員および保護者 130名 内容：震災後の子どもたちの心理反応や支援方法についての講演「傾聴」および「リラクゼーション」に関するワークショップ
7月9日	ケア・宮城&プラン・ ジャパン 共：宮城県教育委員会 (気仙沼市立新月中学校)		研修会名、演題：同上 対象：新月中学校教員および保護者 70名 内容：震災後の子どもたちの心理反応や支援方法についての講演「傾聴」および「リラクゼーション」に関するワークショップ
7月15日	ケア・宮城&プラン・ ジャパン 共：宮城県教育委員会 (気仙沼市立大谷小学校)		子どもの心を支援する教師のための心ケア研修会 演題：震災後の子ども支援 ～今 そして これから～ 対象：大谷小学校教員および保護者 50名 内容：震災後の子どもたちの心理反応や支援方法についての講演「傾聴」および「リラクゼーション」に関するワークショップ
7月6日	仙台市立寺岡小学校 (共：寺岡市民センター) 寺岡市民センター	佐藤 静 教授	親と子のカウンセリング 講演題目：親と子のカウンセリングー震災時の子どもの心のケアについて 対象及び参加者：保護者・市民35名 内容：震災時のストレス反応等の理解、児童生徒に対する心の支援の方法等について講演した。
7月8日	仙台市教育局仙台市教育センター	佐藤 静 教授	さわやか相談員等研修 講演題目：被災した児童生徒に対する心のケアを踏まえたかわり方 参加者：仙台市立小・中学校配置のさわやか相談員等61名 内容：被災した児童生徒の心理や心の支援方法について、スクールカウンセリングの考え方を中心に講演した。

期日	会場	氏名	内容
7月25日	仙台市立七北田小学校	佐藤 静 教授	震災に伴う心のケア講演会 講演題目：震災に伴う心のケア 対象・参加者：七北田小学校教職員・学校保健委員40名 内容：被災した児童生徒の心理や心の支援方法について、学校保健及びスクールカウンセリングの考え方を中心に講演した。
7月28日 9月8日	仙台市教育委員会	佐藤 静 教授	震災に伴う児童生徒の心のケアの推進に関する検討と協議
7月28日	仙台市教育委員会	野口 和人 教授	震災に伴う児童生徒の心のケアの推進に関する検討と協議
①10月31日 ②12月22日	気仙沼市民健康管理センター	佐藤 静 教授	災害時訪問スタッフ研修会 対象者：主に訪問等被災者支援に関わる職員（保健福祉業務の職員、友愛訪問員、居宅介護支援事業所職員、社協ボランティア・生活相談員等） 内容：①講話「被災された方々の心理と対応について～聴くことの大切さ～」 ②グループワーク「訪問活動を通して感じたこと」 まとめ「今後のこころのケア活動」
12月5日	宮城県サポートセンター 支援事務所 (気仙沼市立本吉公民館)	関口 博久 教授	宮城県被災者支援従事者研修 講座名：子ども・家族への支援 定員：各会場100名 内容：環境が変わることで子どもたちが犠牲とならないよう、親と子ども両方への支援を行うために、子ども社会の現状を学び、予防策や、関係機関とその役割を知る。傾聴トレーニングでは、子どもの話を聞くという行為（ロールプレイ）を通して、被災者など弱い立場の人に寄り添った話し方・聞き方を学ぶ。
12月15日	宮城県サポートセンター 支援事務所 (宮城県石巻合同庁舎)		
12月16日	宮城県サポートセンター 支援事務所 (巨理町中央公民館)		
12月6日	宮城県教育委員会 (気仙沼市役所 本吉総合支所はまなすホール)	宮前 理 教授	平成23年度防災教育等推進者緊急研修会 対象及び参加者：小・中・高等学校及び特別支援学校の教員 約100名 内容：災害を経験した子どもたちの心の理解とケア（心の傷の見立てと対応）
1月12日	宮城県教育委員会 (仙南芸術文化センター)		平成23年度防災教育等推進者緊急研修会 対象及び参加者：小・中・高等学校及び特別支援学校の教員 約150名 内容：災害を経験した子どもたちの心の理解とケア（心の傷の見立てと対応）
12月8日	宮城県教育研修センター (大和町まほろばホール)	佐藤 静 教授	平成23年度防災教育等推進者緊急研修会 対象及び参加者：小・中・高等学校及び特別支援学校の教員 約450名 内容：災害を経験した子どもたちの心の理解とケア（心の傷の見立てと対応）
2月24日	宮城県教育委員会 (宮城県庁 講堂)	佐藤 静 教授	平成23年度小・中・高等学校初任者研修（心のケア・防災教育研修） 対象及び参加者：新規採用の小・中・高等学校及び特別支援学校教員 298名 内容：「震災と子どもたちの心の支援」

## 2) 平成24年度

期日	会場	氏名	内容
1月10日	コラッセふくしま	関口 博久 教授	南東北3大学連携「災害復興学」市民講座（福島会場） 対象：市民一般 内容：災害と心の支援
2月16日	気仙沼市民会館		気仙沼市特別支援教育支援員講習会 対象：気仙沼市特別支援教育支援員 内容：不登校と心の支援
8月20日	気仙沼市立津谷中学校	野口 和人 教授	「子どもの心を支援する教師のための心ケア研修会」 対象：気仙沼市南部の小・中学校教職員 内容：震災後1年を経た子どもへの対応についての講演および参加者による意見交換、ワークショップ。
10月26日	宮城教育大学附属特別支援学校		全国障害学習ネットワークフォーラム2012 テーマ：ICTを活用した21世紀にふさわしい学びの創造 (ICT分科会公開研究会のコーディネーター)
12月15日	ゆうキャンパス・ステーション		南東北3大学連携「災害復興学」市民講座（山形会場） 対象：市民一般
4月9日	仙台市適応指導センター	佐藤 静 教授	「震災後の学校適応支援一心の学校生活支援の観点から」
7月7日	仙台市情報・産業プラザ(AER)		公開研究会 「子どもの成長と適応支援－震災後の心の支援を見据えながら－」
8月22日	庄建上杉ビル		「たくましく生きる力育成プログラム」授業プラン開発・実践委員会 演題：たくましく生きる力育成プログラムの理念と目指すもの 内容：「たくましく生きる力育成プログラム」コア会議で議論されてきた理念、「たくましく生きる力育成プログラム」が目指す児童生徒の姿、「たくましく生きる力育成プログラム」実施上の留意点などについて講話する。
10月19日	泉区中央市民センター		学びのサポーター育成講座 テーマ：「子どもの発達と震災後の心の支援」
10月29日	泉区中央市民センター		学びのサポーター育成講座 テーマ：「(子どもの)発達と震災後の心のケア」 内容：小学生から思春期となる中学生まで、その発達に沿った心理や、東日本大震災後の心のケアについて、今最も知りたい子どもの心についてレクチャーする。
12月7日	順天堂大学		第10回学術大会・総会 課題：シンポジウム1「健康な学校づくり～東日本大震災における子どもの心のケア～」 内容：東日本大震災における子どもたちの心のケアに関する活動に携わっており、臨床心理士の立場から仙台市の取り組みを含めて子どもの心のケアへの対応について提言する。(シンポジスト)
12月13日	仙台市情報・産業プラザ(AER)		南東北3大学連携「災害復興学」市民講座（宮城会場） 対象：市民一般

期日	会場	氏名	内容
12月15日	宮城県石巻合同庁舎	佐藤 静 教授	被災地で支援する人のための「聴く力を高めるカウンセリング講座」 テーマ：カウンセリングを活かした人間関係 対象：被災地においてなんらかの対人援助の活動に関わっている方
10月11日	宮城県石巻合同庁舎	久保 順也 准教授	「登校支援ネットワーク事業」不登校理解研修会 対象：東部教育事務所管小中学校教員、適応指導教室指導員及び相談員 内容：「不登校児童生徒の理解について」講義をする。

### 3) 平成25年度

日程	実施場所	実施内容	延人数 (参加人数)
7月6日	仙台市旭丘市民センター	佐藤静教授、野澤副センター長／公開研究会「不登校・適応支援の原点」	120
1月20日	仙台市青年文化センター	佐藤静教授／不登校支援の「これまで」と支援の輪を広げた「これから」	500
1月26日	聖ウルスラ学院英智小中学校・高等学校	本図教授、藤代特任教授、野澤副センター長／いのちの教育実践交流会 in 宮城「防災教育と心のケア」	150
3月1日	仙台市シルバーセンター	震災から3年—これからの子どもたちの元気を支援するために	80

### 4) 平成26年度

日程	実施場所	実施内容	参加人数
9月20日	仙台市情報・産業プラザ(AER) 2階アトリウム(仙台市)	佐藤静教授／公開集中講座「宮教大防災3 days」 災害後の生活と心のセーフティネット	50

### 5) 平成27年度

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	参加人数
8月11日	東京エレクトロンホール宮城	こころの復興フォーラム	—	1000
1月27日	宮城県気仙沼合同庁舎	学力向上フォーラム in 南三陸		60



熱心に耳を傾ける参加者

## 6 こころざし・キャリア教育事業

### 1) 平成23年度

期日	実施場所	実施内容
2月11日	宮城教育大学教職大学院 教育復興支援センター	学校・地域連携推進研究シンポジウム 「夢と志をもつ子どもたちを育てるために」 第1回 復興に向けて！踏み出そう、学校と地域で！

### 2) 平成24年度

期日	実施場所	実施内容	延人数 (参加人数)
2月11日	仙台ガーデンパレス	学校・地域連携研究シンポジウム	130
2月12日	宮城教育大学 教育復興支援センター	キャリア教育に関する研修会	

### 3) 平成25年度

日程	実施場所	実施内容	延人数 (参加人数)
7月29日	東松島市コミュニティセンター	東松島市教員研修会「志教育講演会」	300

### 4) 平成26年度

日程	実施場所	実施内容	参加人数
10月25日	エルパーク仙台（仙台市）	野澤副センター長／キャリア教育講演会「20歳からの自分磨き」	50
11月5日	ホテル白萩（仙台市）	野澤副センター長／みやぎ教育の日推進大会「みやぎからの発信～未来につなぐ教育の創造～」	200
11月26日	東松島市コミュニティセンター	野澤副センター長／東松島市協働教育研修会「今見直される協働教育の底力～東日本大震災が教えてくれたこと～」	150
12月16日	岩出山スコーレハウス	野澤副センター長／大崎市協働教育研修会「協働教育におけるコーディネーターの役割」	100

### 5) 平成27年度

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	参加人数
12月17日	仙台市立寺岡小学校	キャリア教育の底力～東日本大震災を経験して見えてきたこと～		45
1月26日	八戸市立小中野公民館	学校・家庭・地域の絆がはぐくむ キャリア教育		76

## III

## 研究開発部門

## 1 震災復興・防災に関する調査研究成果の学術研究

## 1) 平成25年度

被災した自治体・教育委員会などの協力を得ながら、被災した地域社会や学校を取り巻く現在の課題や復興の状況の把握に努めた。特に、転居や仮設暮らしを余儀なくされている被災者の空間的移動と地域との関係や、街づくりの課題などについてモニタリングを進めた。

被災地域においては、復興、そして新たな防災の取組の過程で、学校が大きな役割を果たし得ると考えている。そこで、教育委員会や学校現場との連携は、従来にもまして重要になってくると思われる。

そして、専任教員の専門である、社会地震学や地理学の立場から、津波被災地に特有の自然環境（地震災害や津波災害に関わる地盤特性と地形地質などの環境）と社会環境（主に地域社会の仕組みや居住環境）の把握に努め、津波災害からの避難行動に関する事例について情報収集を行った。

研究開発部門では、日本地震工学会、日本建築学会、東北地理学会、日本地理学会被災地再建研究グループなどの学協会の活動にも参画し、国内外の研究者との討議を通じた学術交流も積極的に行っている。



宮教大防災 Week 市民講座

## 2) 平成26年度

平成26年度も、被災した自治体・教育委員会の協力を得つつ、被災した地域社会や学校を取り巻く現在の課題や復興の状況の把握に努めた。特に、転居や仮設暮らしを余儀なくされている被災者の空間的移動と地域との関係や、街づくりの課題などについてモニタリングを進めた。

また、教員養成系大学として教育委員会や学校現場との連携実績がある本学の長を活かし、東日本大震災で実際に多くの学校が避難所として用いられたことについて、その経験と課題に関する情報収集を行った。

専任教員の専門である、社会地震学や地理学の立場から、津波被災地に特有な自然環境（地震災害や津波災害に関わる地盤特性と地形地質などの環境）と社会環境（主に地域社会の仕組みや居住環境）の把握に努め、津波災害からの避難行動に関する事例について情報収集を行っている。平成26年度に実施した学術発表は以下の通り。

## (執筆)

小田隆史 (2014)：教員養成大学におけるサービスラーニングとしての防災・復興教育、日本安全教育学会第15回宮城大会予稿集、50-51.

小田隆史 (2014)：ボランティア支援を通じた復興人材育成のためのセンター的機能：東日本大震災被災地の教員養成大学における復興支援拠点、『シナプス』2014年9月号、ジアース教育新社.

## (学会・研究会発表)

### 国内

- 瀬尾和大 (2014) : 3. 11津波の死者率についての若干の考察, 日本地震学会講演予稿集 2014年度秋季大会 (新潟市) C11-06, p73
- 瀬尾和大 (2014) : 津波災害と学校—東日本大震災時の津波避難行動から学んだこと—, 東京工業大学地震工学研究レポート, No.130, pp.63-79
- 瀬尾和大 (2014) : 東日本大震災の津波災害について最近気になっている幾つかのこと, 神奈川大学第24回地盤環境研究会
- 瀬尾和大 (2014) : 3. 11の津波避難は成功したのか?—学校防災の教訓と未来に向けて—, 日本地震工学会「津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会」第5回震災対策技術展(宮城)併催セミナー
- 瀬尾和大 (2014) : 3. 11大震災の津波避難行動を振り返る, 神奈川大学連続講演会「大震災の教訓に学び, 減災の重要性を考える」
- 瀬尾和大 (2014) : 地震観測や災害調査の経験から地震動について考えてきたこと, 建築構造技術者講習会第16回地震応答解析・技術交流セミナー
- 小田隆史 (2014) : 教員養成大学におけるサービスラーニングとしての防災・復興教育, 日本安全教育学会第15回宮城大会, 仙台(東北工業大学)
- 小田隆史・桜井愛子・村山良之 (2014) : バンダ・アチェにおける防災教育の展開, 東北地理学会春季学術大会, 仙台(戦災復興記念館)

### 海外

- Oda, Takashi (2014) : Disaster Risk Reduction and Education for Sustainable Development towards HFA2 and Post DESD, 国際交流基金・神戸大学震災復興セミナー, London, U.K.
- Oda, Takashi (2014) : Roles of Schools in Disaster Risk Reduction following the 2011 Tohoku Disasters in Japan: DRR Education in Preservice Teacher Training and In-service Professional Development, 17th UNESCO-APEID (Asia-Pacific Programme of Educational Innovation for Development) International Conference, Bangkok, Thailand (第17回ユネスコ開発のためのアジア・太平洋教育イノベーションプログラム大会, タイ・バンコク)
- Oda, Takashi (2014) : Recovering Education and (Re) building Capacity in a Disaster-affected Teacher-Training University, 9th Annual International Workshop and EXPO on Sumatra Tsunami Disaster and Recovery, Banda Aceh, Indonesia (第9回スマトラ津波災害・復興国際ワークショップ, インドネシア・バンダアチェ)
- Oda, Takashi, Mizuno, Isao, and Hasegawa, Naoko (2014) : Displacement, relocation, and the spatial change in livelihood among survivors of the 3/11 Fukushima disaster, Association of American Geographers annual meeting, Tampa, Florida, USA (米国地理学会年次学会, 米フロリダ州タンパ)

## 3) 平成27年度

所属教員の専門性を活かし、津波被災地に特有な自然環境(地震災害や津波災害に関わる地盤特性と地形地質などの環境)と社会環境(主に地域社会の仕組みや居住環境)の把握に努め、津波災害からの避難行動

に関する事例について情報収集を行った。また、2015年9月に発生した宮城県北部の大雨災害について、日本地理学会災害対応委員会地域拠点として、本部門所属教員が緊急調査に参加し、その結果をウェブ上で速報し、またボランティア学生への情報提供等を行った。

今年度中に特任教員が実施した学術発表は以下の通り。

(執筆・著書)

小田隆史「災害の避難空間を想像するフィールドワーカー内部者として、外部者として」, 吉原直樹・仁平義明・松本行真編 (2015) :『東日本大震災と被災・避難の生活記録』の第2部・pp235-262, 六花出版

(学会・研究会発表)

国内

小田隆史 (2015) : 災害を地球規模課題として扱う社会科学習に向けて : ポスト2015アジェンダの理解を通じた教育実践の試み, 日本社会科教育学会第65回全国研究大会シンポジウム, 社会科にける復興教育の可能性をさぐる一新たな地域創生と社会参画一, 仙台

小田隆史 (2015) : 被災地の教員養成大学が果たし得るローカル／グローバルな結節機能, 日本教育経営学会第55回大会ミニシンポジウム, 教育経営と災害復興・防災教育のこれらに向けて, 東京

小田隆史 (2015) : 日系アメリカ人のポスト3.11日本に対する眼差し : 映画『東北からの物語』上映キャラバンに帯同して, 東北地理学会春季学術大会, 仙台

小田隆史・関根良平・庄子元 (2015) : 仙台防災枠組2015-2030にみる地理学と防災・復興教育 : 第3回国連防災世界会議の成果から (速報), 日本地理学会春季学術大会被災地再建研究グループ研究会, 東京

海外

Oda, Takashi and Shoji, Gen (2016) : Post-disaster Emergency Communication for School Evacuation Shelters: A Spatial Analysis of the Sendai Municipal Disaster Prevention Radio System, UNISDR Science and Technology Conference on the implementation of the Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030, Geneva, Switzerland

Oda, Takashi (2015) : Considering Geographers' Actions in the Post-2015 Agenda for Global Challenges and Future Earth Initiatives, 第10回中日韓地理学会議, 上海, 中国

Oda, Takashi (2015) : Development of teacher-training programs for disaster mitigation: a case from Japan's education sector post 2011 mega disaster, the 2nd CAPEU Workshop on Disaster Awareness, Preparedness & Management, Yogyakarta, Indonesia

Oda, Takashi (2015) : The Roles of Geography Education in Disaster Risk Reduction, Association of American Geographers annual meeting, Chicago, Illinois, USA

Kumagai, K., Nakamura, Y., Oda, T. (2015) :



2015年9月宮城県北部の大雨災害調査 (2015年9月12日・大崎市)

Fieldwork Practice and Commitment at Tsunami-hit Area: Ochanomizu University's Students in Rikuzentakata-city, Iwate Prefecture, Japan, (poster) Association of American Geographers annual meeting, Chicago, Illinois, USA

## 2 他大学との共同研究

### 1) 平成25年度

#### ① 東北大学 災害科学国際研究所

多くの犠牲を払いつつ、震災から得られた教訓と知見の蓄積に基づき、次なる災害に備え、新たな防災教育の展開と、そのための教材づくりに取り組んだ。

本センターでは、東北大学災害科学国際研究所の研究者らと連携して研究会やワークショップを開催し、東日本大震災からの復興支援に資する研究、大災害の教訓・経験を踏まえた新たなコミュニティ防災の共助の場を創出の実践のための取り組みを進めた。コミュニティ防災では、行政、学校、消防団、自主防災組織、町内会、民間企業、NGO・NPOなど様々な主体が協働して危機に備えることが重要である。教員養成系大学として、この新たなコミュニティ防災におけるパラダイムシフトにおいて、学校がいかなる役割を果たしうるのか、それにはどのような課題があるのかなどについて究明を進めた。



横浜市立北綱島小学校との学校・地域防災交流会

#### ② お茶の水女子大学 シミュレーション科学教育研究センターほか

お茶の水女子大学（東京都文京区）の研究者らと、共同研究等のプロジェクトを開始した。これは、気仙沼市教育委員会等の被災地の教育関係機関と相互協力の協定を締結していることや、本センター特任教員が、同大学より転入したネットワークを活かしたものである。現在、同大学シミュレーション科学教育研究センターとの共同研究を通じて、避難所運営のためのシミュレーション教材の開発と検証プログラムに参画している。そのため、定期的な研究会の開催や意見交換会等を実施して、東日本大震災の教訓・知見を活かした、学校における避難所運営に役立つ教材開発を行った。

#### ③ JICA 集団研修

平成25年11月1日、本学で研修中だった独立行政法人国際協力機構（JICA）の教員研修生（7か国9名）に対する研修の一環として、気仙沼市教育委員会を訪問した後、唐桑半島にある小原木中学校による海拔表示プロジェクトの実践を学んだ。翌2日、お茶の水女子大学文教育学部グローバル文化学環と本センターが共催して、気仙沼市に隣接する岩手県陸前高田市の米崎小学校仮設住宅にて、国際交流



気仙沼市立小原木中学校での津波防災教育の取組を学ぶ JICA 教員研修生

BBQ を開催した。教員研修生らは自国の伝統料理を振舞い、仮設住宅にお住まいのお年寄りや子どもたちは、身振り手振りを含めて交流を深めた。また、それに先立って、同仮設住宅自治会長で、NPO 法人・桜ライン3.11副代表の佐藤一男氏から、JICA 研修生及び参加学生に対して、東日本大震災時の避難所の運営、復興の現状に関する講話をいただいた。



陸前高田市の仮設住宅における JICA 教員研修生との交流

## 2) 平成26年度

前年度に引き続き、国立大学法人東北大学と国立大学法人お茶の水女子大学などとともに、震災復興支援及び東日本大震災の経験を踏まえた新たな防災教育に関する共同研究を実施して、それぞれの研究機関が有する長をを活かしながら、知見の交換や情報発信を行った。

### 研究代表者 共同研究の課題一覧

櫻井愛子 東北大学災害科学国際研究所 災害復興実践学分野 准教授

研究課題「大災害被災地における持続発展可能なセーフ・スクールモデルの構築に向けて～インドネシア、バンダ・アチェ市の教育」

増田 聡 東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 教授

研究課題「風評被害を克服する食料生産・供給体系の構築に関する調査研究」

水野 勲 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授

研究課題「東日本大震災復興支援及び防災教材作成にかかる共同研究」

## 3) 平成27年度

「復興教育学」創設室プロジェクト等の復興・防災教育関係の学内プロジェクトに参加するとともに、前年度に引き続き、国立大学法人東北大学や国立大学法人お茶の水女子大学などの学外機関とともに、震災復興支援及び東日本大震災の経験を踏まえた新たな防災教育に関する共同研究を実施して、それぞれの研究機関が有する長をを活かしながら、知見の交換や情報発信を行った。

### 共同研究の課題一覧

学内プロジェクト「復興教育学」創設室のメンバー機関として、主に以下の研究プロジェクトを実施

(1) 研究代表者 野澤令照 副センター長・特任教授

プロジェクト名「「仙台防災枠組」を踏まえた防災・復興のための国際協力の展開」

(2) 研究代表者 野澤令照 副センター長・特任教授

プロジェクト名「復興期における震災の教訓を踏まえた防災教育・サバイバル学習の実証・実践」

### (学外機関との共同研究)

1. 東北大学災害科学国際研究所

(1) 研究代表者 佐藤 健 災害科学国際研究所 教授

課題「防災教育国際協働センターを拠点とした地域に根差した防災教育モデルの創造」

- (2) 研究代表者 櫻井愛子 災害科学国際研究所  
准教授  
課題「大災害被災地の学校における学校防災体制の強化に関する研究」



東北大学と教育復興に関するネパール地震緊急調査を実施  
(2015年12月・コカナ村)

2. 東北大学大学院環境科学研究科

- 研究代表者 関根良平 環境科学研究科 助教  
課題「津波被災地における水産経済の再建に関する地理学的研究：水産業の連関構造に注目して」

3. お茶の水女子大学

- 研究代表者 水野 勲 基幹研究院 教授  
課題「東日本大震災による福島県の中心性と圏域の変容に関する地理学的研究」

### 3 グローバルな連携の構築・海外発信

#### 1) 平成25年度

災害からの教訓は、広く国内・国外に共有継承されてこそ活かされる。本センターでは、国内外の他の関係機関と連携して、上述の震災からの経験、教訓・知見を共有するとともに、同じく大きな災害を経験した他の被災地と協働して知恵を出し合いながら、復興を前進させるための一助とすることをめざしている。

本学はこれまでも環境教育や持続可能な開発のための教育(ESD)、ユネスコスクールなどの取組を通じて国際社会とのネットワーク構築に積極的に取り組んできた。連携協定先であるタイ教育省国際教職員研究所との研修交流や JICA 集団研修などの機会を通じて、防災教育、避難所運営等の分野での研究者・実務家交流を進めている。特に、平成27年3月に仙台市にて第3回国連防災世界会議が開催されることから、それに向けて、宮教大準備室を設置して、準備会合を開催をはじめ、効果的な情報発信や議論の進展の方途を見出す取組を行った。



平成23年2月に被災したクライストチャーチ市内の遺構



タイ教育省事務次官 Dr. Kamol RODKLAI 他  
研修訪問団との名取・岩沼訪問



カンタベリー大学(ニュージーランド・クライストチャーチ)復興プログラム関係者を訪問しての知見交換

## 2) 平成26年度

2015年3月仙台市で開催された第3回国連防災世界会議の準備・企画調整においての役割を果たした。

上述した各種学術発表を含めて、様々な機会を捉えて海外への情報発信を行っており、教育分野で強いつながりを有して来た本学の強みを活かした貢献の一つと考える。

11月、国際交流基金・ロンドンセンターと神戸大学主催による国際シンポジウムにおいて、本センターの小金澤孝昭教授と小田隆史特任准教授が、災害復興における教育の役割について講演した。



タイ王国管理職教員等の研修（4月：於・女川町立女川中学校）

PUBLIC SEMINAR  
**THE ROLE OF EDUCATION IN DISASTER RISK REDUCTION**  
*Lessons from Kobe & Tohoku*

The Japan Foundation, in collaboration with Kobe University and Miyagi University of Education, is delighted to present this special public seminar looking at the role of education in disaster risk reduction. We will be joined by speakers from both universities who will introduce their projects for promoting disaster risk reduction and creating more resilient societies.

**13 November, 2014  
 6:30pm**

Japan Foundation, London  
 Russell Square House, 20-12 Russell Square,  
 London, WC1B 5EH

Admission Free. Booking Essential!  
 Email [events@jfc.org.uk](mailto:events@jfc.org.uk) to reserve your place.

**Presentations**

**Risk Communication after Severe Earthquakes**  
 Prof Tsuyoshi Matsuda, Kobe University

**Disaster Risk Reduction and Education for Sustainable Development in Teacher Training Programs**  
 Dr Takashi Oga, Miyagi University of Education

**Education for Disaster and Recovery in Sendai and Kesennuma**  
 Dr Takumi Kogezawa, Miyagi University of Education

**Chair:** Prof Kazumitsu Tui, Kobe University  
**Discussion:** Prof Ros Wicks, London South Bank University

KOBE UNIVERSITY  
 MIYAGI UNIVERSITY OF EDUCATION  
 JAPAN FOUNDATION



岩手県陸前高田市仮設住宅の皆さんと（11月）



JICA 教員集団研修生らによる仮設住宅での国際交流 BBQ（11月）



講演会（於・国際交流基金ロンドンセンター）

### 3) 平成27年度

2015年8月には、研究開発部門の小田特任准教授がアジア工科大学院（AIT・タイ王国）に招かれ、同大学院の防災減災管理学術院（DPMM）における2単位15時間分の集中講義「学校と防災」(英語)を担当し、東南アジア諸国の学生に対する東日本大震災の学校における経験・知見を共有するとともに、同機関の災害関係研究者との交流を深めた(詳細は、本センター紀要第4巻にて報告)。

10月には、小金澤孝昭附属国際理解教育研究センター長・教授、市瀬智紀教授(ともに本センター兼務教員)および小田隆史特任准教授が、インドネシアのジョグジャカルタ国立大学で開催されたアジア太平洋教育大学コンソーシアム(CAPEU)の年次大会に招かれ、防災ワークショップにて、各国の教育大学長や現職教員に対して、東日本大震災後の教育復興や、震災の経験を踏まえた教員養成プログラムにおける新たな防災教育のあり方に関する講演を行った。

同じく10月、ASEAN9カ国と東ティモールを対象とした外務省の若者招日プログラム「JENESYS 2015」で来日中の約40名の大学生が仙台を訪れた。仙台市荒浜と名取市関上を訪問中、本学学生が英語で現地を案内するとともに、当部門にて交流がある、東北大学に留学中のインドネシア・バンダアチェ出身のAlfi Rahmanさんから、アチェでの津波被害や、津波伝承に関する話を聞き、自然災害や防災について各国の若者に学ぶ機会となった。



アジア工科大での「学校と防災」の授業風景  
(院生の課題発表・2015年8月)



アジア工科大・防災減災コース教授陣との学術交流  
(2015年8月)



海外研修生に英語でガイドする本学学部生  
(2015年10月15日・名取市関上)



アジア太平洋教育大学コンソーシアム防災ワークショップでの講演  
左から市瀬教授、小金澤教授(2015年10月・ジョグジャカルタ)



アジア太平洋教育大学コンソーシアム会合開催の告知看板  
(2015年10月・ジョグジャカルタ)

## 4 「復興カフェ in Miyakyo」の実施

	月 日	内 容	参加人数
第1回	平成25年2月18日	「気仙沼市仮設商店街における経営状況と本設の意向」 東北大学理学研究科博士課程院生 庄子 元 氏	21名
第2回	平成25年3月11日	「教育復興支援センターの在り方について」 教育復興支援センター 特任教授 阿部 芳吉	37名
第3回	平成25年4月18日	「宮古市田老地区の現状について」 教育復興支援センター 副センター長 瀬尾 和大	26名
第4回	平成25年5月29日	「未来へ継ぐ」 本学 理数・生活系 家庭科コース・1年 菊田 真由さん	36名
第5回	平成25年6月10日	「フィリピンの自然災害と防災教育」 キャピトル大学教授 アモーレ・デ・トレス 氏	20名
第6回	平成25年6月26日	「震災をわすれないために～学生からのメッセージ」 赤間 仁美（国語コース・1年） 首藤 大知（数学コース・1年） 渡辺 壮太（家庭科コース・2年）	60名
第7回	平成25年8月19日	（附属図書館と共催） 「持続し復元力ある地域をつくるコミュニティの物語」 ポर्टランド州立大学 都市研究学部教授 スティーブ・リード・ジョンソン博士	40名
第8回	平成25年10月31日	「台風26号による伊豆大島における災害と支援」 教育復興センター 副センター長 瀬尾 和大 特任准教授 小田 隆史	17名
第9回	平成25年11月20日	（学生企画・学び喫茶と共催） 「フィリピン台風30号—私たちにできる恩返しを考えたい」 清水 卓樹（数学コース・4年）ほか学生有志	38名
第10回	平成26年3月17日	「地域おこしや過疎化対策などの地域活性化を対象とした、人材育成における大学と地域連携の役割」 金沢大学環境保全センター長・教授 鈴木 克徳	13名
第11回	平成26年6月11日	「日系アメリカ人ジャーナリストからみた東日本大震災 ～被災者と海を越えた支援者の心のアーカイブ～」 監督 ダイアン・フカミ	21名
第12回	平成26年10月19日	出張復興カフェ 第13回いぐねの学校	40名 職員4名
第13回	平成26年11月13日	「大規模な広島土砂災害」 教育復興支援センター 副センター長 瀬尾 和大	23名
第14回	平成26年12月19日	「福島県いわき市の復興状況について」 教育復興センター 副センター長 瀬尾 和大 特任准教授 小田 隆史	15名
第15回	平成27年1月22日	「岩手県陸前高田市の復興状況について」 教育復興支援センター 副センター長 瀬尾 和大 研究・連携課主任 藤原 忠和	30名
第16回	平成27年2月4日	「継続したボランティア活動を通して」 仙台市立荒浜小学校・仙台市立中野小学校ボランティア学生一同	20名
第17回	平成27年3月9日	「カンタベリー地震後のニュージーランドにおける復興・防災教育」 オークランド大学教育学部 准教授 キャロル・マツチ	7名

	月 日	内 容	参加人数
第18回	平成27年 7 月 7 日	「東日本大震災を伝える」～山形県の中学生をお迎えして 学生 峯田 清人氏、首藤 大知氏 教育復興支援センター 特任教授 伊藤 芳郎 山形県中学生31名参加	45名
第19回	平成27年 7 月14日	「いわき市の復興―「環境と開発」実習報告」 「環境と開発」実習参加学生 教授 西城 潔 特任准教授 小田 隆史	19名
第20回	平成27年 8 月24日	「学習支援ボランティアを通じた宮城と愛知の架け橋」 愛知教育大学生 市川 真基 氏、伊藤 誉之 氏、中島 恵 氏	13名
第21回	平成27年10月28日	「防サイエンスショー 楽しく科学・伝える防災」 サイエンスインストラクター・防災キャスター 阿部 清人 氏 ※学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の一環として実施	約100名
第22回	平成27年11月26日	「復興教育学創設室 キャンプ炊き出しプロジェクト」 教授 水谷 好成 准教授 小野寺 泰子 教授 鶴川 義弘 助手 福井 恵子 ほか	129名 (受付数)
第23回	平成28年 2 月17日	「三年間をふりかえって (英語による発表)」 教育復興支援センター 研究・連携推進課主任 藤原 忠和 特任准教授 小田 隆史	15名



第 1 回



第 2 回



第 9 回



I 年表  
II 支援実践部門  
III 研究開発部門  
IV 人材育成  
V 刊行物  
VI 外部資金  
VII 国連防災世界会議報告  
VIII メモリアルイベント報告  
IX 資料

## 5 教育復興支援センター「紀要」の刊行

## 1)「紀要」第1集

1	市瀬 智紀	Creating New Relationship between School and Local Community from the Lesson of East Japan Earthquake 3.11
2	小金澤 孝昭	防災教育・復興教育の視点～仙台広域圏を事例にして～
3	安藤 明伸	プロボノ プラットフォームを通じた仙台市教育委員会との復興支援
4	岩永 則子 國分 秀 黒川 修行	東日本大震災後の宮城県沿岸地域における児童の身長・体重 について
5	阿部 芳吉 伊藤 芳郎 門脇 啓一 吉田 利弘	学習支援ボランティア活動を通じた学生の育成（教育復興支援センター活動報告）
6	根本 アリソン	梨の花プロジェクト Okuma & M.U.E. Friendship Programme
7	笠井 香代子 高田 淑子 松下 真人	被災地復興支援活動としての理科実験教室の実施 ～仙台市天文台との連携事業「スペースラボ in 気仙沼」～

## 2)「紀要」第2集

1	瀬尾 和太	津波災害と学校－東日本大震災時の津波避難行動から学んだこと－ Tsunami and Schools - What We Learned from Evacuation Behaviors during the 3.11 Tsunami - Kazuoh SEO
2	小田 隆史	東日本大震災における学校の経験と教訓の継承 グローバルな防災主流化へのローカルな実践 Amidst Global Disaster Risk Reduction Mainstreaming, Practices from the Field: Sharing Lessons from post 3.11 Schools in Northeastern Japan Oda TAKASHI
3	黒川 修行 佐藤 洋	東日本大震災後の仙台市小学6年生の体格の変化について（平成22年度～平成24年度まで） Change of body physique among school children in Sendai, Japan after the Great East Japan Earthquake
4	岡 正明	津波被害地域の小学校支援を想定した代表的教材植物の耐塩性評価 Evaluation of Salinity Tolerance in Plants as Teaching Materials for Elementary School at Tsunami Disaster Area Masaaki OKA
5	水谷 好成	光のインテリア工作による復興支援活動 Workshop of Interior Lighting with LED for Reconstruction Assistance MIZUTANI Yoshinari
6	西城 潔 目黒 李歩 鹿野 愛里加 福田 はる香	津波被災校への環境教育支援－仙台市立中野小学校の炭焼き体験－ Support for reconstruction of environmental education in school damaged by the 2011 Tohoku Earthquake Tsunami KIYOSHI SAIJO, RIHO MEGURO, ARIKA KANO and HARUKA FUKUDA
7	門脇 啓一 吉田 利弘 伊藤 芳郎	教育復興支援センター活動報告 学習支援ボランティア活動等を通じた学生の育成 Training students through volunteer activities Keiichi KADOWAKI, Toshihiro YOSHIDA and Yoshiro ITO
8	小田 隆史 四ノ宮 誠也 木村 充希 吉田 絵里奈 伊藤 勇馬 佐藤 武文 橋本 一輝	大学生のボランティア参加に関する意識 宮城教育大学教育復興支援ボランティア協力員アンケート調査の結果から Post 3.11 Japan Disaster Volunteerism Consciousness among University Students: Results from a 2013 M.U.E. Student Survey Takashi ODA, Seiya SHINOMIYA, Mitsuki KIMURA, Erina YOSHIDA, Yuma ITO, Takefumi SATO, Kazuki HASHIMOTO

### 3)「紀要」第3集

1	瀬尾 和太	3.11 津波の教訓 —地域によって異なる死者率が意味するもの—
2	瀬尾 和太	最近多発している豪雨災害について
3	小田 隆史	Assisting the Recovery of School Education in National Disaster Emergencies — Roles of Local Teacher Training University in Tohoku
4	門脇 啓一 吉田 利弘 伊藤 芳郎	教育復興支援センター活動報告 学習支援ボランティア活動等を通じた学生の育成
5	吉田 利弘	「環境・防災教育」における担当授業の省察 ～「学校安全」に関する2時間の授業を通して～
6	野澤 令照	市民協働により復興を支える宮城教育大学の新たな取組コミュニティ再生を目指す新たな活動を通して
7	庄子 修 堀越 清治	教育現場における p4c 活用の可能性を探る
8	川崎 惣一	子どもの哲学 (p4c) の意義について — 震災からの復興に向けて / クリティカル・シンキングとの比較を中心に
9	黒川 修行 佐藤 洋	東日本大震災後の仙台市小学6年生の身長、体重、肥満および痩身傾向児の出現率 (平成22年度～平成25年度について)
10	小畑 千尋 佐藤 里紗 水戸 まりな 山崎 夏実 菊地 真季子 八木沼 賢悟	参加者同士の関わりを目的としたボディパーカッション活動 —宮城県丸森町立丸森中学校に於ける復興支援—
11	伊藤 芳郎 朝間 康子	外国人避難者と災害時多文化共生
12	小野寺 泰子 水谷 好成 小田 隆史 鶴川 義弘 福井 恵子	災害発生時の避難所運営を想定した炊き出し研修の実践
13	水谷 好成 小野寺 泰子 鶴川 義弘 福井 恵子	屋外体験型研修とものづくりを組み合わせた防災教育
14	岡 正明 内海 菜央子	塩分を含む土壌で栽培できるアイスプラントの教材化

### 4)「紀要」第4集

1	小金澤 孝昭	復興教育によるグローバル人材の育成 ～大学生教育での ESD・アクティブラーニングを事例に～ Learning program for Global human By Education for Sustainable Development A Case Study about ESD Program and Active Learning for University Students Takaaki KOGANEZAWA
2	田端 健人	子どもの哲学 (p4c) による超自我の覚醒 コミュニティ対話の現象学的心理学 The Metaself Awakens in the philosophy for children (p4c) The Phenomenological Psychology of the Community Dialogue Taketo TABATA
3	黒川 修行 佐藤 洋	東日本大震災後の子ども達の体格の変化について (平成22年度～平成26年度) Change of body physique in school children in Sendai, Japan after the Great East Japan Earthquake, 2010-2014 Naoyuki KUROKAWA and Hiroshi SATOH

4	野澤 令照	市民協働により復興を支える宮城教育大学の新たな取組 Vol.2 コミュニティ再生を目指す新たな活動を通して New Actions Take by Miyagi University of Education Supporting Recovery from Disaster through Citizens Collaboration: new activities aiming for community rebuilding vol.2 Yoshiteru NOZAWA
5	小田 隆史	教育セクターでの国際防災協力の展開可能性 -アジア工科大学短期研究滞在の経験から- Fostering International Cooperation in the Education Sector for Disaster Risk Reduction: From an Academic Exchange at the Asian Institute of Technology Takashi ODA
6	門脇 啓一 吉田 利弘 伊藤 芳郎 藤原 忠和	支援実践部門報告 学習支援ボランティア活動等を通じた学生の育成 Training Students through Volunteer Activities Keiichi KADOWAKI, Toshihiro YOSHIDA, Yoshiro ITO and Tadakazu FUJIWARA
7	庄子 修 堀越 清治	教科等の授業における p4c (子どもの哲学) 活用の可能性を探る Seeking the Application of p4c in Subjects Osamu SHOJI, Seiji HORIKOSHI
8	Alison NEMOTO	Supporting Post-Disaster Community Resettlement: Some perceived short-term and long-term effects of the "Nashi No Hana Volunteer Project" (2012-2016)
9	西城 潔 小田 隆史	復興カフェを利用した被災地巡検報告 -現代的課題科目「環境と開発」での取り組み- Active learning in a Disaster-Affected Area from the 2011 Great East Japan Earthquake: A Case from "Environment & Development," a University Field Excursion Course in Iwaki City, Fukushima Prefecture Kiyoshi SAIJO and Takashi ODA
10	水谷 好成 小野寺 泰子 鵜川 義弘 福井 恵子 小田 隆史	雨天に対応できる防災・炊き出し研修 Outdoor Food Distribution Drill for Emergency Shelter Operation Applicable under Rainy Weather Yoshinari MIZUTANI, Taiko ONODERA, Yoshihiro UGAWA, Keiko FUKUI and Takashi ODA
11	小野寺 泰子 水谷 好成 福井 恵子 鵜川 義弘	炊き出し研修で簡単にできる調理メニューの提案 Proposal of easy soup kitchen menu for Outdoor Food Distribution Drill Taiko ONODERA, Yoshinari MIZUTANI, Keiko FUKUI, and Yoshihiro UGAWA
12	香曾我部 琢	家庭科教育が震災後の教育復興に果たした役割とは - 震災を単元に取り入れた家庭科授業実践のKJ法を用いたレビュー - The Meaning of Home Economics Education in Disaster Education Taku KOUSOKABE
13	小田 隆史 竹内 治	身近な地域の自然と歴史に親しむ防災ワークショップ - 宮城県大崎市立沼部小学校における実践事例から - Workshop for Disaster Risk Reduction through Gaining Knowledge of the Local Natural Environment and Historical Legacy at Numabe Elementary School, Osaki, Miyagi, Japan Takashi ODA and Osamu TAKEUCHI

## 6 新たな教育の創造

教育復興支援センターは、宮城県の教育復興に向けて、中・長期的な視点に立って児童・生徒の心のケアや学力の向上に取り組む拠点として設置され、実践部門、研究部門を配置し、それぞれの目的を目指して取り組んできた。

復興への取組も、1年後、2年後と時を経るにつれて、目指すべきことが変化してきた。大震災直後は、失われた町の機能や住環境を取り戻すことが第一だった。やがて、生活を立て直したり、人々の心を支えたり、次第に目指すべきところが変わっていった。

そのような中で、復興に関わることで、防災に関わることで、新たに目指すべきものが見えてきた。活動を通して広がりや、深まりが生まれ、当初の目的を超えて取り組むことも出てきた。ここに「新たな教育の創造」と題して、紹介する。

- ① 国連防災世界会議への取組だが、「震災の経験と教訓を仙台・東北から世界へ」と銘打って参画した。防災をテーマとした内容なので教育復興支援センターが中心となったが、内容からすれば全学を挙げて取り組むべきもので、センターの事業の範疇を超えたものであった。これまで蓄積してきた防災・減災への知見、学生ボランティア支援の成果を存分に活かすことができ、本センターの実践として、大きな足跡の一つとなるものと自負している。
- ② 「学びを通じた被災地のコミュニティ再生支援事業」も当初のセンター事業構想には入っておらず、平成25年度から取り組んできた事業である。多くの事業予算を獲得できたことから、様々な事業を実施することができた。市民を対象に街中で開講した「宮教大防災連続講座」、高校生を対象とする「キャリア教育」、被災地の教職員の心を支え、県内の教員同士のつながりを深めるために発行した「ちょっとたいむ」、大震災の経験を後世に語り継ぐ各種の記録集の刊行など、数々の成果を残すことができた。この事業への取組も、教員養成を本務とする宮教大が、市民への学びの場の提供を通し、広く地域社会へ貢献する道を開いたという点で、画期的な取組であった。
- ③ コミュニティポールを用いた p4c (philosophy for children) は、ハワイ大学で開発された教育手法だが、「探求の対話」として仙台・宮城で展開してきた。いくつかの小中学校を中心に実践を重ね、成果を蓄積している。仙台から始まった取組が、白石、そして県内各地へと広がりを見せている。ここには、「命の教育」「生き方教育」の要素が盛り込まれており、被災地の復興に大いに役立つものとなっている。宮教大では、教育復興支援センターが中心となり、平成25年度から活動に取り組んできた。



## 1 ボランティア協力員

### 1) 発足の経緯

24年4月、本センターが本格的に始動した。それ以前も被災地の教育委員会や学校から学生ボランティアの派遣要請がありそれに応えてきたが、これらの要請は5年、10年継続されるとの見通しがあった。

そこで24年6月、新入生から専攻ごとに有志1~2名を選出しボランティア協力員とした。協力員は本センターと全学生とをつなぐ役割であり、自らさまざまな活動に意欲的に参加するとともに各専攻の先輩、仲間呼びかけ各種ボランティアの派遣要請に応える人材確保をめざした。

### 2) 組織と分担

総会に出席した有志学生のなかから各学年の代表、副代表を選出するとともに、自薦により運営委員会を組織し、下記の各分担で企画、検討された案を審議し、承認を受け、それに基づいて各種会合等が実施されている。

26年度の組織、担当者数は以下のとおりである。各組織は1~2年生が担当し、各係とも一部を除いて2年生がチーフである。3年生はオブザーバー的な立場とし、適宜企画に参加し前年度の経験に基づく助言を行うシステムである。

- |  |                  |
|--|------------------|
| 1 総会 (3名)                                | 2 不安解消会 (6名)     |
| 3 大学祭 (6名)                               | 4 ボランティア報告会 (6名) |
| 5 実態調査 (6名)                              | 6 オープンキャンパス (6名) |
| 7 DVDの作成 (若干名)                           | 26年度の活動をまとめたもの   |
| 8 その他 (ホームページ、掲示、被災地視察研修、国連防災世界会議) (若干名) |                  |



### 3) 主な活動 (平成26年度)

#### ●総会 4月23日

役員紹介、あいさつ

前年度の活動報告 (全体・個別)。

ボランティア協力員の説明、運営委員への勧誘。ボランティアへの積極参加と情報連絡方法の周知。新入生代表・副代表の選出 (自薦、承認)。

#### ●不安解消会 7月16日

初めてボランティア活動に参加するにあたっての不安を取り除くために開催するもの。2年生のボランティア活動経験者による体験談、アドバイスが中心。

「ボランティアの心構え」「不安解消Q&A」の作成、配布。

#### 不安解消Q&A

**Q** 被災した子どもたちに接する際、何か気をつけることはありますか?

**A** 震災や被災状況についての話題は、持ち出さないように気をつけてください。筆者も被災者の一人ですが、被災状況を思い出すことは少なく、元気に過ごしています。しかし、震災の話題に触れると、安心感や不安感が湧いてきます。よって、震災の話題は避け、ごく自然に明るく話しましょう!

**Q** 指導の際のポイントがありますか?

**A** 子どもたちは、夏休みの期間にせいかく学校にきているのですから、単なる答え合わせにならないようにしましょう。分からない問題は一緒に考えてあげてくださいね。また、勉強話をアドバイスしてあげるのも良いかもしれません。

**Q** 学習支援のボランティアに参加するのは宮崎生だけですか?

**A** 全国の教員養成系大学など、他大学と連携することも多いです。今回のボランティアが、他大学との交流の良い機会になるかもしれませんね。

**Q** 最初の一言をかけるのが難しいです。アドバイスはありますか?

**A** 「ほめること」から始めてはどうですか? 「よく来たね」「学習中だね」「頑張っているね」程度でもいいです。子どもたちは先生からの声かけを待っています。

**Q** 最初の自由参加ボランティアでは、ボランティアの時間以外は何をするのですか?

**A** 自治体の教育委員会の配慮により、研修会、被災地研修が行われることもあります。

**Q** 指導のために、何か事前準備は必要ですか?

**A** 多くの学校では自学自習の支援を行うので特に必要ありませんが、一部の学校では授業形式となり、事前に教材を作成する場合もあります。(9月以降、中学校)

**Q** 担当する児童・生徒の人数はどれくらいですか?

**A** 一般的には1学級(20~30名)を2,3人で担当することが多いです。1対1対応の機会もあります。

その他の疑問点は、ボランティア協力員や教育支援センターへ相談を。☎214-3667

## ●オープンキャンパス 8月1日（秋のミニオープンキャンパス 10月5日）

高校生に教育復興支援センターやボランティア協力員、運営などについて知ってもらい、興味をもってもらうと企画。OC ツアーに参加している高校生にポスター掲示とともにセンターやボランティアについて説明を行う。参加した高校生には説明を聞いての感想や今思っていることを付箋に書いてもらい、後日掲示した。直接センターを訪れた高校生には、上述のDVDの上映やセンターの刊行物を配布した。



## ●大学祭 10月25日～26日

### 〈展示の部〉

学習支援ボランティア活動、防災グッズ（新聞紙スリッパ、ローソク）、工作

### 〈発表の部〉

映画上映と講話

意見交換会（子どもに震災を伝える）

展示ブースでは、今年度実施した6つの学習支援ボランティア等の活動の様子が描かれたパネルが展示され、協力員が来場者へ展示資料の説明にあたった。また、来場者と防災グッズ（ローソク、スリッパ）作製を行い、交流を深めた。

映画上映では、日系アメリカ人監督が製作した東日本大震災の姿「Stories from Tohoku」を上映し、その後、カリフォルニアから来日した日系アメリカ人である本学研究生による講話「日系アメリカ人から見た震災」を行った。

意見交換会では、テーマを「子どもに震災を伝える」とし、はじめに学校の被災状況や新しい防災教育の実践事例を2名の先生に講演をいただいた後、参加者を2グループに分けて意見交換を行った。震災を伝えることの大切さや難しさなど貴重な意見が寄せられた。

今回の大学祭への企画運営にあたって、学生主体の活動と内容になるよう話し合いを重ね、大学祭の広報活動の工夫や出席者参加型の意見交換会などを設定するなど、積極的な取組が行われた。



- ボランティア報告会（第2回総会） 1月21日  
 協力員の活動報告（不安解消会、大学祭等の担当者）  
 各ボランティア活動報告



#### 4) 主な活動（平成27年度）

- 新入生オリエンテーション 4月3日 仙台国際センター

入学式後のオリエンテーションで、教育復興支援センターの取組を示すDVD放映後、新2年生の代表からボランティア協力員の選出法、学習支援ボランティア等への参加の呼びかけが行われた。

- 総会 4月22日

前年度の活動報告、今年度の活動予定を説明した。

また、ボランティア協力員とは何かを説明するとともに、運営委員として積極的に活動するよう勧誘した。

- 被災地視察研修

今年度は、2回にわたり学生の企画による被災地視察ツアーを開催した。南相馬市方面は福島原発の影響による被災状況について、気仙市・南三陸町方面は津波による被災とその復興の様子について視察することを目的とした。

6月6日（山元町・南相馬市方面）参加者23名

旧山元町立中浜小学校⇒南相馬市小高区市街⇒南相馬市小高区村上地区



総会  
4月22日



津波に襲われた旧中浜小学校舎  
(山元町)



解体できない津波の被害を受けた家屋  
(南相馬市村上地区)

6月20日（気仙沼市・南三陸町）参加者26名

気仙沼市街⇒旧宮城県気仙沼向洋高校⇒南三陸町防災庁舎⇒旧南三陸町立戸倉中学校



復興仮設商店街の見学  
(気仙沼市街)



津波で被災した防災庁舎の見学  
(南三陸町志津川地区)

### ●不安解消会 7月8日

初めてボランティア活動に参加する学生の不安を取り除くために開催している。

ボランティア活動経験者による体験談、アドバイスに加え、「ボランティアの心構え」、「不安解消Q&A」の作成、配布している。

### ●オープンキャンパス 7月31日

宮城教育大学を訪れた入学希望の高校生、教員、保護者等へ教育復興支援センター、ボランティア協力員の取組等の説明を行った。

### ●大学祭 10月24日～25日

#### 〈展示の部〉

4年間の協力員活動のあゆみ、学習支援ボランティア活動のポスター、防災グッズ。工作（紙コップ、スリッパ）

#### 〈他団体連携〉

パネル展示（被災地写真）、震災関連映像資料のDVD視聴（「東北地域づくり協会」の協力）

展示ブースでは、今年度の学祭のテーマを「復興⇄福幸」とし、協力員の4年間の活動のあゆみや今年度実施した6つの学習支援ボランティア活動等の様子が描かれたパネルを展示し、協力員が来場者へ展示資料の説明にあたった。また、来場者と防災グッズ（紙コップ、スリッパ）作製を行い、交流を深めた。



不安解消会  
7月8日



オープンキャンパス  
7月31日



他団体連携では、一般社団法人東北地域づくり協会との協力によるパネル展示や震災関連映像資料のDVD視聴も行い、被災地の被害状況を比較することができた。

今回の大学祭への企画運営にあたって、2年生代表の声がけと多くの協力員の応援が学生主体の活動を導きだし、取組を通して学生が成長していく活動となった。

●総会・ボランティア報告会 1月20日

本年度の活動報告と次年度に向けた取組について協議した。本年度は、各種行事やボランティア等活動に対する1年生の参加が少なかったことから、新入生に対するボランティア活動への参加をどう促すかが話題となった。

2 東日本被災地視察研修

	月 日	視 察 地	参加人数
第1回	平成24年9月26日	石巻市立大川小学校～仙台市立荒浜小学校～ 玉浦仮設住宅～岩沼事務所	19名
第2回	平成24年10月6日	石巻市立大川小学校～仙台市立荒浜小学校～ 玉浦仮設住宅～岩沼事務所	17名
第3回	平成24年11月8日	女川町地域医療センター～石巻市立門脇小学校～ 仙台市立荒浜小学校	20名
第4回	平成24年12月9日	石巻市立大川小学校～南三陸町立戸倉小学校～南三陸町防災庁舎	19名
第5回	平成24年12月16日	仙台市立荒浜小学校～名取市日和山～名取市立閑上中学校	13名
第6回	平成25年3月8日	女川町地域医療センター～石巻市立門脇小学校	8名
第7回	平成25年3月15日	女川町地域医療センター～石巻市立門脇小学校	7名
第8回	平成25年5月11日	南三陸町立戸倉小学校～石巻市立大川小学校	36名
第9回	平成25年5月26日	南三陸町立戸倉小学校～石巻市立大川小学校	34名
第10回	平成25年6月15日	南三陸町立戸倉小学校～石巻市立大川小学校	34名
第11回	平成25年6月16日	南三陸町立戸倉小学校～石巻市立大川小学校	22名
第12回	平成25年10月14日 学生企画	南三陸町防災庁舎～大谷海岸～気仙沼向洋高校 ～リアス・アーク美術館～気仙沼プラザホテル～気仙沼事務所	33名
第13回	平成25年12月7日 学生企画	坂元駅～中浜小学校～がれき処理場～南相馬市・小高区中心部	38名
第14回	平成25年12月15日 学生企画 お茶大附属高校との コラボ	南三陸町防災庁舎～大谷海岸～気仙沼向洋高校 ～リアス・アーク美術館～気仙沼プラザホテル～気仙沼事務所	13名
第15回	平成26年6月14日	南三陸町防災庁舎～大谷海岸～気仙沼向洋高校 ～リアス・アーク美術館～気仙沼プラザホテル	33名 (職員2名含む)
第16回	平成26年6月15日	仙台市立荒浜小学校～名取市日和山～名取市立閑上中学校 ～千年希望の丘	19名 (職員3名含む)
第17回	平成26年6月28日	仙台市立荒浜小学校～名取市日和山～名取市立閑上中学校 ～千年希望の丘	21名 (職員4名含む)
第18回	平成26年6月29日	山本町立中浜小学校～南相馬市小高区役所～南相馬小高区中心部	39名 (職員6名含む)

	月 日	視 察 地	参加人数
第19回	平成26年11月30日	石巻市立門脇小学校～女川地域医療センター～大川小学校	23名 (職員5名含む)
第20回	平成27年3月18日	仙台市荒浜・名取市閑上方面 第3回国連防災世界会議エクスカージョン	34名
第21回	平成27年6月6日	旧山本町立中浜小 南相馬市小高区市街 小高区村上地区	24名 (職員1名含む)
第22回	平成27年6月20日	気仙沼&南三陸	27名 (職員1名含む)
第23回	平成28年3月9日	大川小学校～女川地域医療センター～石巻市立門脇小学校	13名 (職員6名含む)
第24回	平成28年3月10日	仙台市荒浜・名取市閑上方面	28名 (職員11名含む)



石巻市立大川小学校・慰霊碑の前にて



仙台市立荒浜小学校・屋上にて、川村孝男校長先生より説明を聞く



気仙沼ホテル屋上からの被災状況の説明



津波被災後、解体できないままの家屋～小高区村上地区～



## 1 平成23年度 広報資料

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災 世界会議報告

VIII メモリアル イベント報告

IX 資料

**被災地の子どもと大学生**  
活動して思ったことを語り合おう!

11月12日 13:00~18:00 (開場12:30)  
宮城教育大学 2号館220教室

【内容】  
第1部 13:10~15:20 【報告会】  
第2部 15:30~16:30 【パネルディスカッション】  
第3部 16:45~18:00 【懇親会】 秋野会館1階

ボランティア報告会パンフレット (ボランティア報告会2011)

宮城教育大学  
教育復興支援センター

踏み出そう!  
子どもたちの笑顔のために

教育復興支援センターパンフレット

国立大学法人  
宮城教育大学

踏み出そう!  
子どもたちの笑顔のために  
~宮城教育大学の教育復興支援活動~

学長メッセージ  
教育復興と「復興教育」  
~宮城教育大学の取組み~

3・11以降、何度も見聞しました体験した事実のなかには、私たち教育者としての責任を背負って、被災地にも寄り添うべきものがあります。そして、被災地にも寄り添うべきものがあります。そして、被災地にも寄り添うべきものがあります。...

宮城教育大学長 高橋孝助

復興支援活動パンフレット (3.11新聞折り込みチラシ)

第1回  
未来づくり  
ESDセミナー  
報告書

東日本大震災の記録  
2011年3月11日(金) 14時46分

仙台広域圏ESD-RCE運営委員会

第1回 未来づくり ESD セミナー報告書



第4回  
未来づくり ESD セミナー報告書



学生支援ボランティア参加ガイド



東日本大震災復興支援セミナー  
報告書



あすへ向けての軌跡  
～震災から1年を経て～



記録「東日本大震災」  
被災から前進するために

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告

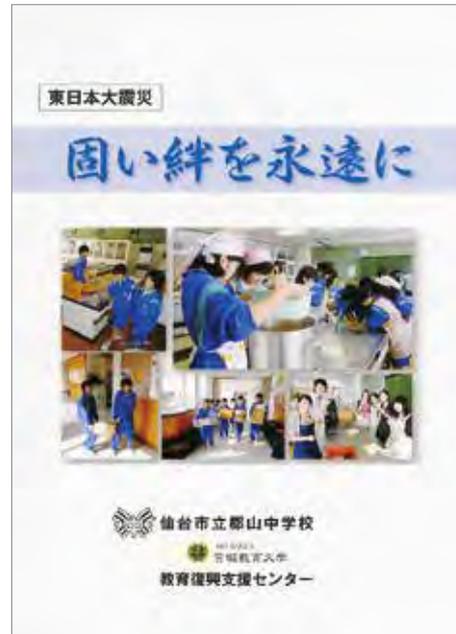
VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

## 2 平成24年度 広報資料



語り継ぐ鮮明な記憶  
(仙台市立七郷中学校)



固い絆を永遠に  
(仙台市立郡山中学校)



東日本大震災と教育現場  
(仙台市立中野小学校)



震災から1年…未来へ  
(仙台市立榴岡小学校)



あすへ向けての軌跡  
～震災から2年を経て～



出島 学舎の軌跡



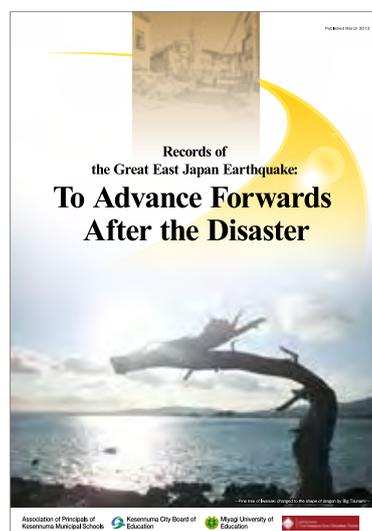
東日本大震災からの復興の軌跡  
『希望の光』



教育復興実践事例集  
『明日の子どもたちのために』

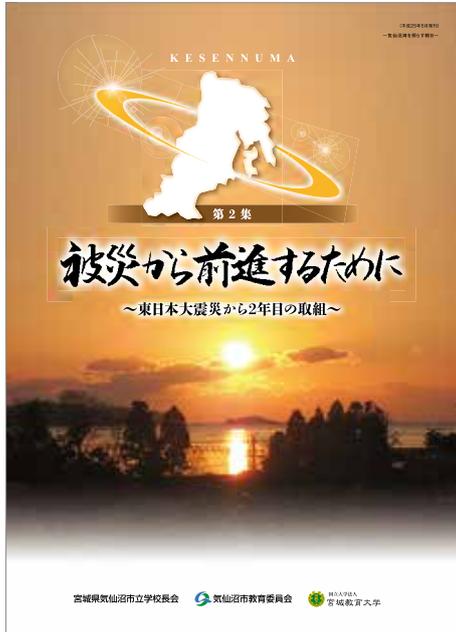


教育復興支援センター 紀要



記録 - 東日本大震災 被災から  
前進するために (英語版)

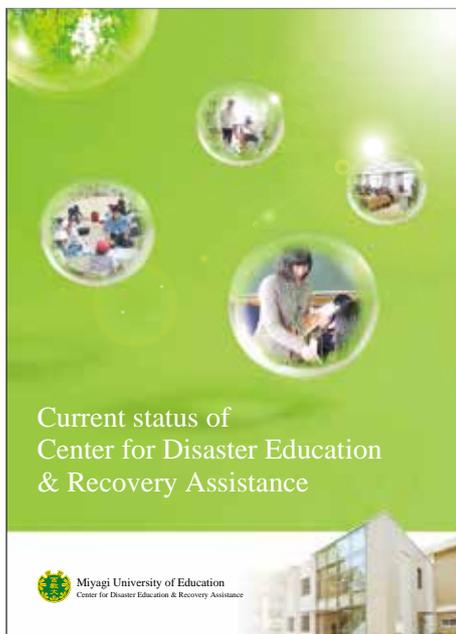
3 平成25年度 広報資料



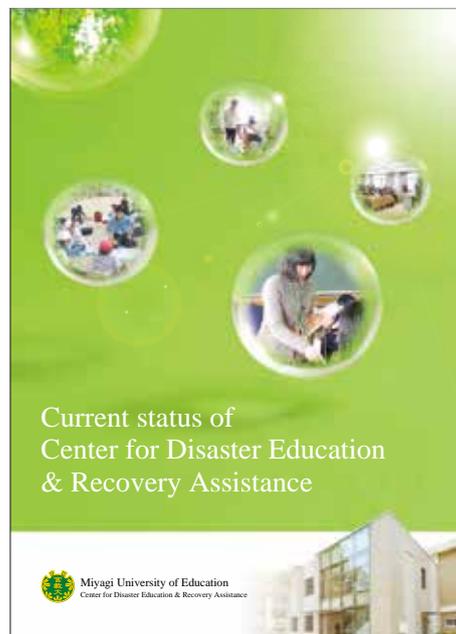
被災から前進するために  
～東日本大震災から2年目の取組～



教育復興支援センター  
パンフレット



Current Status  
(8 P)



Current Status  
(8 P + Case Examples)

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

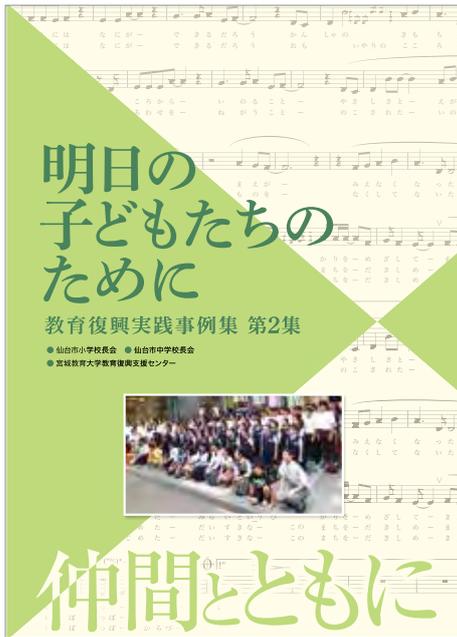
V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告

VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料



明日の子どもたちのために  
教育復興実践事例集第2集



あすへ向けての軌跡  
～震災から3年を経て～



教育復興支援センター紀要  
第2巻



架け橋 教育支援ボランティア  
『希望の光』

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告

VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

## 4 平成26年度 広報資料



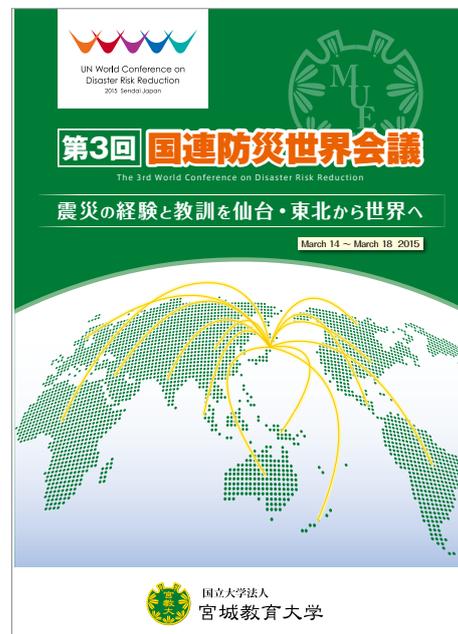
教育復興支援センター機関誌  
未来を運ぶ風



被災から前進するために  
第3集



3.11を忘れない



第3回国連防災世界会議



教育復興支援センター紀要  
第3巻



あすへ向けての軌跡  
～震災から4年を経て～

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告

VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

## 5 平成27年度 広報資料



3.11を忘れない

教育復興支援センター紀要  
第4巻あすへ向けての軌跡  
～震災から5年を経て～架け橋 教育支援ボランティア  
『希望の光』

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

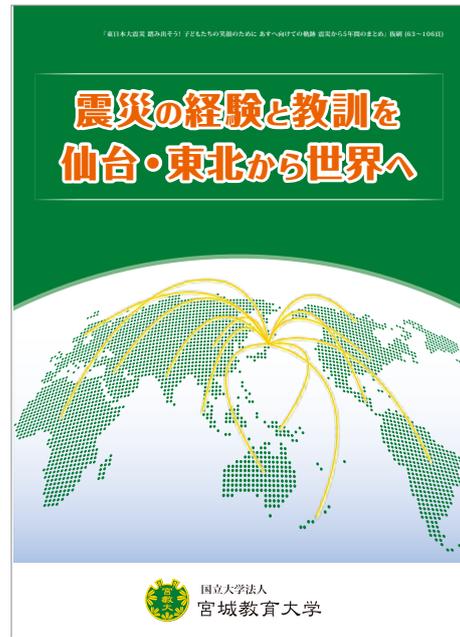
VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料



あすへ向けての軌跡  
震災から5年間のまとめ



震災の経験と教訓を  
仙台・東北から世界へ



メモリアルイベント  
震災から5年 私たちはあの日を忘れない

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告

VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

## 外部資金



## 1 大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業

本学が行う教育復興支援の充実のため、文部科学省の競争的資金「平成23年度大学改革推進等補助金（大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業）」に応募し、その申請が認められた。

平成24年度以降においても申請することとした。

平成23年度	110,600千円
平成24年度	64,394千円
平成25年度	66,994千円
平成26年度	51,195千円
平成27年度	46,075千円

## 事業の趣旨・目的

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、宮城県は生活全般にわたり極めて甚大な被害を被り、被災地では未だ避難生活も続いている状況である。しかし、震災からの本格的な復興に向けて自治体を中心に様々な活動が動き出している中、被災地仙台にあり教員養成教育に責任を負う大学として、被災地への中・長期的な教育的支援を重点的に取り組むため、その中核的な学内組織「宮城教育大学教育復興支援センター」を立ち上げ、宮城県及び仙台市教育委員会との連携のもと、宮城県の教育の復興及び発展を目指すとともに地域に密着した現職教員支援及び教員養成実践教育を行うものである。

被災地の学校では、授業再開によって明らかになった事実関係が明確化しており、学力低下・学力格差が懸念されている。

- ①教室復旧過程における児童・生徒の学習意欲・態度、集中力、学習達成度における課題が明確化
- ②避難所生活や仮設住宅生活等の家庭環境の変化が与える子どもへの影響
- ③転校を余儀なくされ、離ればなれになった児童・生徒の心的ストレス
- ④家族を失った児童・生徒の癒されない気持ちの潜在化

しかしながら、これら困難な諸課題に向き合っている教職員は疲労が蓄積しており、日々進行する被災の現状認識に伴う心的ストレスの増加、問題をもった児童・生徒に対する心のケアを含む教育の方法に関する知識不足などから、適切な教育環境が確保されておらず、教育復興への大きな障壁となっているうえ、これらは短期間で解決できる課題ではないものである。被災地仙台にあり教員養成教育に責任を負う本学が、被災地域の日も早い復興のためにできることを考えたとき、中・長期的な教育的支援という視点に基づいた本事業を実施することにより、宮城県の教育復興を図る取り組みの一つとして寄与するものである。さらに、教員を目指す学生が被災地域に赴き、困難な生活に立ち向かう児童・生徒や教職員とふれ合いながら勉学を教えたり教育活動に携わることは、今後の教員生活に必須となる教育実践力や人間力の向上のための貴重な財産となり得るものである。

## 2 一般社団法人国立大学協会

### 事業の趣旨・目的（被災自治体からの要望内容を含む）

被災地の学校では、仮設住宅生活や転校を余儀なくされる等、家庭・教育環境の大きな変化や、家族や友だちを失った癒されない心的ストレス等によって起因される、児童・生徒の中・長期的な学習意欲の低下・学力格差が懸念されている。

また、被災した児童・生徒に対応する側の教員も自らが被災者であるため疲労や心的ストレスが蓄積している上、被災した児童・生徒への心のケアや教育方法については、知識・経験不足も影響し、適切な教育環境が確保されておらず、教育復興への大きな障壁となっている。

このため本学では、甚大な被害をこうむった宮城県の教育の復興に向け、平成23年6月28日に「宮城教育大学教育復興支援センター」を設置し、宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会との連携のもと、県内の国公立大学及び国立教員養成系大学・学部と連携しながら、県内の児童・生徒の確かな学力の定着・向上及び現職教員の支援を中・長期的視点に立って実施するものである。

平成23年度においては、学力低下・学力格差に対応するため、被災地区の学校現場や教育委員会から支援要請のあった各学校へ学生を派遣して、長期休業期間や土日を活用した学習支援や補習授業を行う、「宮城教育大学教育復興支援塾事業」を実施した。

平成24～25年度は、学生派遣が集中する長期休業期間の調整にあたって、被災地の学校や教育委員会、連携している他大学との緊密な連絡調整を図る。さらに、本事業の支援プログラムについての広報を積極的に行い、これまで本事業を活用していない学校の参加を促す。また、ボランティア活動に際しては、自己健康管理や、被災地の児童・生徒の気持ちに配慮した行動をすることが重要となるので、より質の高いボランティア活動ができるよう学生派遣前における研修を実施し工夫・改善を図った。

震災復興・日本再生支援事業	
平成23年度	1,000千円
平成24年度	1,000千円
平成25年度	1,000千円

## 3 被災地の教育復興支援事業「心に笑顔」プロジェクト

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が実施する「被災地の教育復興支援事業『心に笑顔』プロジェクト」の協力（事業費の支援）先の一つとして、本学が行う教育復興支援事業が選ばれ、活動資金として助成金が寄附された。

平成24年度	7,960千円
平成25年度	3,132千円

### 事業の趣旨・目的

「心に笑顔」プロジェクトとは、UNESCO がドイツの化学会社 BASF の寄附を受けて実施する事業で、被災地の教育復興に協力するものである。

BASF の支援によって実現する「心に笑顔」プロジェクトは、被災地の教育復興という課題に対し、自治体の教育復興計画に沿い、ストレスの多い生活の中で子どもたちや市民が笑顔を取り戻せる機会を提供し、震災体験の共有化により、持続可能な未来に向けた防災教育を推進していくことを目的とするものである。

事業は次の8つの活動で構成されている。

- ①学習支援活動、②遊具・スポーツ用具支援活動、③安全な遊び場支援活動、④心のケアを考慮した実験・工作教室支援活動、⑤心のケアを考慮した市民向け文化活動（コンサートや講演などの開催）支援、⑥子どもキャンプ、⑦学校の震災経験の共有化、⑧市民の震災体験の共有化

本学には、①学習支援活動の一つとして、宮城県内の被災地の子どもたちを対象に、大学生による学習支援ボランティア活動を通じて、長期休業中の学習支援を行うことを目的に助成された。

本寄附金の具体的な用途は、学生ボランティアの移動費用（バス借上げ代など）、活動先での食事代、ボランティア学生活動支援金（500円～1,500円／1日当たり）等に活用されたものであり、本学教育復興支援センターにおける学生ボランティア活動を大きく支えるものとなった。



#### 4 文部科学省「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

##### 事業の趣旨

東日本大震災の復興が進む一方で先が見えがたい現実に、仮設住宅や見なし仮設住宅に疲労感や焦燥感が広がってきており、地域コミュニティの再生・復興がままならない中、被災直後とは変化した地域課題が生じてきている。本事業は、

そういった課題への対応策を一過性のものとせず、今後の被災地の自律的な復興が長く地域コミュニティに根ざす仕組みづくりを実現するため、産・官・学が連携して以下の事業に取り組むこととした。

平成25年度	33,812千円
平成26年度	46,870千円
平成27年度	32,640千円

- ・地域における活動を担う人材の育成
- ・人と人とのつながりを再生する学びの事業の推進
- ・学校と地域とが協働で取り組む防災教育の創造と実践
- ・コミュニティ再生を支える地域連携組織の構築



## 5 復興庁「新しい東北」先導モデル事業

### 事業の趣旨（平成25年度）

女川町を中心とする宮城県沿岸部は平地が少なく、本来、子どもの遊び場となる公園や校庭等に仮設住宅が設置されるなど、野外での子どもの遊び場が圧倒的に不足している。学校の統廃合や学区外の仮設校舎への通学のため、遠方からのスクールバスの登下校を強いられる児童が多いことから、体を動かす機会が極端に減少しており、体力低下や心身の発育への悪影響が懸念される。将来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、行政・町民・大学等教育関係者が一体となって基礎的生活習慣の改善を通じて、子どもたちの生きる力の向上と育成環境の整備を進めていく必要がある。

### 事業の趣旨（平成26年度）

女川町では震災により、本来子どもの遊び場となる公園や校庭等に仮設住宅が設置され、野外での子どもの遊び場が圧倒的に不足している。学校の統廃合や学区外の仮設校舎への通学のため、遠方からのスクールバスの登下校を強いられる児童も多く、生きる力を育むための土台となる体力が著しく低下し、運動不足におちいっている。生活習慣の乱れは心身の発達にも大きく影響することから、行政・町民・大学・学校等教育関係機関が一体となって、学習習慣の定着・生活環境の改善を目指し、将来を担う子供たちの生きる活力の向上を目指す。

平成25年度	8,874千円
平成26年度	3,583千円



## 6 公益財団法人 上廣倫理財団

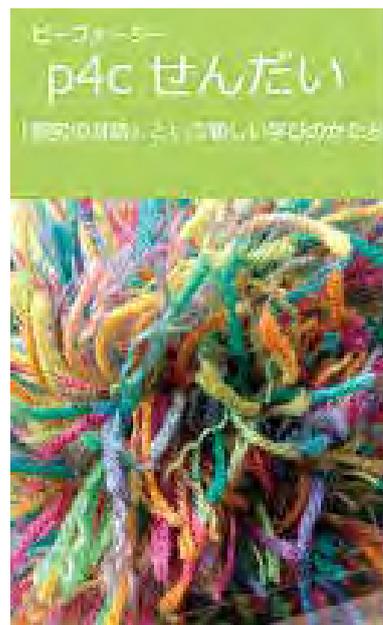
### 事業の概要

人間の倫理観の育成・教育に関わる研究及び活動への助成を行っている当該財団より、被災地における「命の教育」「生き方教育」に寄与する p4c (philosophy for children: 子どもの哲学) 推進への支援をいただいた。大学研究者、学校、企業人など幅広い委員で構成した実行委員会を核に、研究、実践を積み重ねてきた。

平成25年度	1,712千円
平成26年度	8,000千円
平成27年度	9,000千円

震災により発生した家庭や地域環境の激変は、児童生徒の学習意欲の低下や心的ストレス、体力低下など大きな課題をもたらしただけでなく、人生観や価値観を大きく揺るがす状況を生み出した。復旧復興の過程において、さらに根源的な問題が発生してくることが予見されるが、その解決へ導くプログラムとして p4c のプログラムに着目し、下記のような研修・実践・研究の活動を行うこととした。

従来の大学と教育委員会、学校との連携に留まらず、広く地域や企業なども巻き込んで、児童生徒の考える力やコミュニケーション力、想像力の高揚をめざす取り組みを展開する。またその成果を学生及び地域にも波及させ、p4cが教育復興の一翼を担えるよう強力に推進する。



## 7 ベルマーク教育助成財団寄附金

### 事業の概要

「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい。」というベルマーク運動を推進し、集めた資金（ベルマーク預金）で学校の設備や教材をそろえ、さ

らに国の内外でハンディを背負いながら学んでいる子どもたちに援助の手を差し伸べる活動を行ってきた。これまで財団が行ってきた援助は、へき地学校、特別支援学校、災害被災校を含む多くの学校、さらには、病院内学級、海外にある日本人学校、海外被災地への援助など多岐に渡っている。

今回、本学が教育復興支援センターを拠点に、被災地の復興支援に取組み成果を残してきたことが認められて、活動への援助をいただけることになった。

東日本大震災から5年を経てもなお支援を必要とする被災地の子どもたちや教育環境を改善するために、今後の教育復興活動に有効に活用させていただく考えである。

平成27年度より  
3年間

500千円

# 国連防災世界会議報告

## 1 事業のテーマ

震災の経験と教訓を仙台・東北から世界へ

## 2 事業の趣旨

東日本大震災直後、宮城教育大学は教育支援による震災復興を目的とする教育復興支援センターを2011年6月に開設した。センターでは学内外における他機関との連携によって積極的に貢献してきた。

宮城教育大学は教員養成大学として、国内の教育大学と協力し、宮城教育大学生を含む国内の大学生を被災地へ派遣し、震災後被災地で滞っていた教育の補助をボランティアで行ってきた。

この取組は地域貢献へとつながり、また、参加した学生は教育支援の重要性をボランティアを通して理解を深めることができた。

学生がこのような経験をすることは大変貴重であり、学生の成長過程へ影響を及ぼした有用な取り組みとして、国連防災世界会議パブリック・フォーラム ブース展示にて紹介した。

## 3 事業の形態

大学における事前ワークショップ、第3回国連防災世界会議公認の場における、シンポジウム、パネルディスカッション、パネル展示、及び関連スタディ・ツアーの開催

## 4 実施期間

- ESD ユネスコ世界会議振り返りワークショップ 2015年1月28日
- パネル展示&実践事例発表 2015年3月14日～3月18日
- スタディ・ツアー 2015年3月16日
- 東日本大震災総合フォーラム 2015年3月16日
- 被災地視察研修 2015年3月18日

## 5 会場・場所

- ESD ユネスコ世界会議振り返りワークショップ 宮城教育大学
- パネル展示&実践事例発表 せんだいメディアテーク
- パネル展示 仙台市民会館
- スタディ・ツアー 宮城教育大学 附属特別支援学校
- 東日本大震災総合フォーラム 東北大学 川内萩ホール
- 被災地視察研修 仙台市荒浜・名取市閑上方面

## 6 共催機関

東日本大震災総合フォーラム：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会

## 7 参加人数

- ESD ユネスコ世界会議振り返りワークショップ 約250名
- スタディ・ツアー 宮城教育大学 附属特別支援学校 10名
- 東日本大震災総合フォーラム 東北大学 川内萩ホール 約1,100名
- 被災地視察研修 仙台市荒浜・名取市閑上方面 34名

## 8 参加国の内訳

アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、スウェーデン、インドネシア、フィリピン、東ティモール、ジャマイカ、インド、台湾、イラン、南アフリカ等

## 9 各企画

### 1) 企画一覧

実施時期	実施事項	摘要
2015年1月28日	ESD ユネスコ世界会議振り返りワークショップ	宮城教育大学
2015年3月14日～3月18日	パネル展示：本学の防災関連の取組をパネル展示	仙台市民会館
2015年3月14日～3月18日	パネル展示&実践発表：本学の防災関連の取組パネルを展示し、教育現場の取組を発表	せんだいメディアテーク
2015年3月16日	スタディ・ツアー：仙台市と共催で、本学附属特別支援学校の防災関連の取組を視察研修	宮城教育大学・附属特別支援学校
2015年3月16日	東日本大震災総合フォーラム：ESD を通じた防災・減災の展開（国際シンポ）	東北大学・萩ホール
2015年3月18日	被災地視察研修：本学学生主催の被災地視察研修	仙台市近郊

#### 1) - 1 ESD ユネスコ世界会議振り返りワークショップ (1/28)

ESD ユネスコ世界会議での議論を踏まえ、宮城教育大学において、ワークショップを実施し、国連防災世界会議に向けた防災教育におけるESDの貢献についての議論の予察的整理を行った。学内外の関係者約250名が出席した。

#### 1) - 2 国連防災世界会議・パネル展示&実践発表 (3/14～3/18)

第3回国連防災世界会議の開催期間中に、せんだいメディアテーク及び仙台市民センターに設置された本学展示ブースにおいて、本学及び関係機関が実施してきたESD推進と防災教育関連の取組を、パンフレットやスライドショー等で展示し、広く情報発信した。3月15日には、せんだいメディアテーク6階のコミュニケーションスペースにおいて、宮城教育大学教員、学生や多賀城高校の学生による復興・防災についての発表を行った。

#### 1) - 3 公式スタディ・ツアー(3/16)

会議参加者を対象として宮城教育大学附属特別支援学校への、公式スタディ・ツアーを実施し、本体会議参加者10名が参加した。東日本大震災前後で防災の取組がどう変わったかをテーマに、学校内参観・防災ショート訓練参観等を行い、特別



ESD ユネスコ世界会議  
振り返りワークショップ



国連防災世界会議  
パネル展示&実施発表

支援教育の現場におけるインクルーシブな防災に関する説明・討議が行われた。

#### 1) - 4 国連防災世界会議・東日本大震災総合フォーラム (3/16)

##### ●テーマに関する国内外における現在の状況、背景

気候変動等の様々な環境問題をはじめとする地球規模課題を克服する上で、教育の果たす役割の重要性が認識されるなか、2005年～2014年を持続可能な開発のための教育（ESD）の10年（DESD: Decade of Education for Sustainable Development）と定め、ユネスコがESDの推進機関として指名されると共に、学校現場におけるESDの推進役として、ユネスコスクールの活動が展開された。この流れのなか宮城教育大学は、ESDの普及やそれを支えるユネスコスクール活動のネットワークングの一翼を担って来た。

2011年には、東日本大震災が発生し、震災後の復旧・復興支援、そしてそれらを通じた復興人材の育成に注力している。特に、従前から連携関係にあった気仙沼市等の被災自治体の教育委員会とともに、ESDにおける防災と生きるちからをもった人づくりなどについて研修を実施する等して、大規模災害の影響も含む地球規模の課題にESDが果たす役割や、その効果的な学校での活用について検討してきた。被災地における教育分野での復興支援や、震災の教訓を踏まえた防災教育の実施におけるESDの果たす役割などの知見を蓄積している。

2014年11月には、ESDに関するユネスコ世界会議で「あいち・なごや宣言」が採択され、今後いかにESDのコンセプトを防災・減災に取り入れるかを考える必要性が更に高まった。こうしたなか、2015年3月に当地・仙台市で開催された第3回国連防災世界会議では（報道等によれば、延べ15万人が当該防災会議に参加）、10年前に実施された第2回国連防災世界会議（神戸）で策定された「兵庫行動枠組」(HFA: Hyogo Framework for Action) の評価とその後継枠組み「仙台防災枠組2015-2030」が、世界の防災政策の柱として採択されることとなった。

##### ●上記状況に対する問題意識

上記の通り、ESD及びHFAはともに過去10年間にわたって展開してきたが、必ずしも、ESDの実践者と防災の実務者とが十分な協働関係を構築するに至っていなかった。そこで、地元の教育委員会等と連携して、これまでユネスコスクールを通じたESDの展開、それを通じた防災教育の学校での推進を行ってきた大学として、また、東日本大震災被災地唯一の教員養成単科大学として、第3回国連防災世界会議が開催される機会を捉え、ESD実践者と広義の防災（教育）実践者との議論の場を設け、ESDの更なる普及促進と、防災への展開に貢献したいと考えた。

具体的には、ESDに関するユネスコ世界会議における10年間の振り返りや今後の展開に関する議論を踏まえつつ、防災教育、復興人材育成、持続可能でレジリエントな地域づくりなど、国際防災戦略におけるESDの果たす役割について、被災地での実践の事例や、諸外国の防災・教育の専門家等と議論すること、それによって、改めてESDと防災教育、持続可能な地域づくりについての防災・教育実務者や一般市民の認識を高めることが、関連隣接分野におけるESDの普及促進、それを通じた世界の防災力向上に資するものと考えた。

##### ●実施機関の特徴

宮城教育大学は、東日本大震災発生以前から、ESDにおいて防災教育を扱った取り組みにも注力しており、2010年には第2回ユネスコスクール全国大会のサイドイベントとして、附属小学校で公開授業「防災教育」を開催した。

東日本大震災発生後、宮城教育大学内に教育復興支援センターを設置して、学生ボランティア活動の支援とともに、災害時における学校の役割や震災の教訓を踏まえた新たな防災教育とESDに関する調査・研究を遂行している。

これを踏まえ、宮城教育大学では、東日本大震災の学校での経験やそこから得られた教訓を、諸外国教員研修や英文記録集の刊行などを通じて、国内外の防災関係者と共有する取組みを展開している。

### ●事業実施内容及び上記状況に対するアプローチ

上記の背景を踏まえ、本学の特徴を活かしつつ、また本学がこれまで培った人的ネットワークや組織間関係を活かして、本事業では、出来る限り国連防災世界会議の公式関連行事にコミットして、そこでの議論や展示、視察等を通じて、実践的なESDの経験と視点を踏まえた防災教育についての方向性を示し、その成果を国内外へ広く周知し、それに関わる新たな人材の発掘とネットワーク醸成をはかることを目的とし、全体のテーマを「未来へ発展を続けるESDから実践的防災教育を考える～東日本大震災の経験を踏まえたポストDESとHFA2～」と位置づけ、事前のワークショップから国連防災世界会議本番にかけて、複数の企画運営・展示を実施した。

本事業のなかで最大の目玉となるイベントとして、第3回国連防災世界会議の公式フォーラム（東日本大震災総合フォーラム）を実施した。ユネスコスクール等を通じてESDと防災・復興教育に取り組んでいる実践者や有識者を交えて、ESDが今後の防災・復興教育にいかなる役割を果たし得るかを議論した。当日は、国内外から、中学生等を含む約1,100人もの参加者を得て盛会となり充実した討議が展開された。

本事業で当初計画していた通り、国内外のESDの実践者、有識者、及び防災の専門家を交え、所期の目的である討議及び情報発信、ネットワーク形成を十分に達成することが出来た。

実施した東日本大震災総合フォーラムの概要・プログラム・登壇者等は以下の通り。

テーマ：「持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開

～より良い子どもたちの未来に向けて～

日時：2015年3月16日（月）15：00～18：00

会場：東北大学川内萩ホール

主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、宮城教育大学

共催：東北大学災害科学国際研究所、国連防災世界会議防災教育日本連絡会

後援：岩手県教育委員会、宮城県教育委員会、福島県教育委員会、仙台市教育委員会  
気仙沼市、河北新報社

言語：日本語・英語 同時通訳付

プログラム（司会 大葉 由佳）

○開会挨拶 山脇 良雄 文部科学省国際統括官

○趣旨説明 見上 一幸 宮城教育大学長

○東日本大震災被災地における実践事例発表

— 大学による防災・復興教育プロジェクト

## 東北大学

東北大学減災『結』プロジェクト

災害科学国際研究所 保田 真理 助手

市民協働による仙台107万人の防災人づくり

災害科学国際研究所 佐藤 健 教授

## 宮城教育大学

震災を伝える、宮教大生の活動とその思い

初等教育教員養成課程 言語・社会系 英語コミュニケーションコース 3年

渡辺 涼子

初等教育教員養成課程 芸術・体育系 音楽コース 3年

八木沼 賢悟

— 宮城県多賀城高校 災害科学科開設に向けた歩み

(ユネスコスクール加盟を目指して)

宮城県多賀城高校 小泉 博 校長 生徒 2名

— 気仙沼市階上地区コミュニティ防災の10年

(ユネスコスクール活動を通じた ESD と防災・復興)

日本ユネスコ国内委員会委員・宮城教育大学国際理解教育研究センター協力研究員

及川 幸彦

気仙沼市立階上中学校 吉田 智美 教諭 生徒 2名

気仙沼市立階上中学校 PTA 菊田 篤 元会長

## ○パネルディスカッション

コーディネーター：

・ ショウ ラジブ 京都大学大学院地球環境学堂 教授・SEEDS Asia 理事長

登壇者：

・ アレクサンダー・ライヒト 国連教育科学文化機関本部 ESD 課長

・ アモーレ・デ・トレス キャピトル大学（フィリピン）副学長

・ 今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所所長・防災教育日本連絡会会長

・ 菅原 昭彦 気仙沼市商工会議所会頭・仙台  
広域圏 ESD・RCE 運営委員

・ 武田 真一 河北新報社論説委員会副委員長

コメンテーター：

・ 角地 スヴェンドリニ インタープレスサー  
ビス特派員・日本外国特派員協会理事

本件・東日本大震災総合フォーラムは、国際シンポジウムとして位置づけられるため、以下に、本フォーラムの英文要約を付します。

## Fostering DRR through Education for Sustainable Development: Towards a Better Future for Children

### Organizers

- ・ Ministry of Education, Culture, Sport, Science and Technology (Japan)
- ・ Japanese National Commission for UNESCO
- ・ Miyagi University of Education

The forum has discussed Disaster Risk Reduction (DRR) education within the context of Education for Sustainable Development (ESD) with more than 1,100 participants from the public including many children and youth. DRR education has grown as a major component of ESD, particularly since March 2011 in the Tohoku area. The Aichi-Nagoya declaration on ESD (November 2014) clearly reaffirmed that it can serve as a vital means of implementation of DRR, hence specific measures and strategies should be discussed to effectively foster DRR within the ESD context. As leading promoters of ESD, the organizers present practical DRR educational programs from local junior high and high schools. Practitioners in both fields were invited to explore the contribution of ESD to DRR and develop a framework from their common ground for a better future for children.

### Opening Remarks

Yoshio Yamawaki, Director-General for International Affairs, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

### About the Symposium

Kazuyuki Mikami, President, Miyagi University of Education

### Presentation on Local School DRR Practices

- ・ Disaster prevention awareness YUI project -Future outlook of educational actives for disaster prevention-  
Mari Yasuda, Research Associates, International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University
- ・ Nurturing DRR Resilient 1.07 million Citizens through Collaboration  
Takeshi Sato, Professor, International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University
- ・ Passing on Our Experience  
Ryoko Watanabe, English Communication Course 3rd year student, Miyagi University of Education  
Kengo Yaginuma, Music course, 3rd year student, Miyagi University of Education

- ・ Disaster Science Course Project at Tagajo High School  
Hiroshi Koizumi, Principal, Miyagi Prefecture Tagajo High School and students
- ・ 10 Years of DRR at Local Community - The case of Hashikami District, Kesenuma  
Tomomi Yoshida, Principal of Kesenuma City Hashikami Junior High School and students  
Atsushi Kikuta, Former President of Parent-Teacher Association (PTA) at Hashikami Junior High School

## Panel Discussion

### Coordinator

Shaw Rajib, Professor, Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University

### Panelists

Alexandar Leicht, Head of Section of ESD, UNESCO

Amor Q. de Torres, Vice President for Academic Affairs, Capitol University (Philippines)

Fumihiko Imamura, Director, International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS),  
Tohoku University

Akihiko Sugawara, President of Kesenuma Chamber of Commerce and Industry, Executive  
Council of Greater Sendai Area ESD/RCE Projects

Shinichi Takeda, Deputy Director of Editorial Committee, Kahoku Shimpo Publishing Co.

### Commentator

Suvendrini Kakuchi, Special Correspondent, Inter Press Service

Director-at-Large, the Foreign Correspondents' Club of Japan

## 1) - 5 被災地視察研修 (3/18)

会議参加者を対象に、被災した若林区や名取市閑上地区を含む被災地域の学校現場を英語で案内する「被災地視察研修」を本学の被災地出身の学生が企画実施した。取材のため帯同したマスコミ関係者を含め34名が出席した。



被災地視察研修

## 10 総括

特筆すべき点は、本事業が、教育分野におけるESDの10年と防災分野における兵庫行動枠組の10年がそれぞれ節目を迎えて、新たな針路を考える決定的に重要な時期に、子どもの未来とESDを通じた防災をテーマに企画を展開したテーマ設定にある。特に、東日本大震災総合フォーラムには、300人近くの小中高生や大学生が参加し、パネルディスカッションの質疑等で議論に参加したことは、持続可能な社会の担い手としての子どもたちに目を向けた点で有意義なフォーラムとして成立した。(具体的議論の内容については、当日の記録を踏まえ、今後、わかり易い形で、関係先や広く社会に発信していく。)

今次国連防災世界会議の成果として採択された「仙台防災枠組2015-2030」においても、子どもや若者(ユース)が、新たな防災の展開における重要な主体の一つであることを認識し、彼らをサポートする体制づくりの重要性が挙げられた。また、3月14日に実施されたパブリック・フォーラムにおいて発出された防災教育に関する「仙台宣言」においても、ESD(の取組)との連携を図ることが、今後の防災教育の展開において重要となる旨、明記されている。

このように、兵庫行動枠組の後継として採択された「仙台防災枠組2015-2030」や民間レベルでの合意文書として示された諸文書においても、子どもやESDが重視する、多様な主体間との連携が重視され、今次会議に参加した各国の防災関係者間での、これらのテーマへの関心の高さが示されている。そのなかで、我が方が、本事業をこの通り位置づけて企画実施したそれぞれの事業は時宜を得たもので、参加者間の情報交換や、理解を深める機会を提供する有意義なものとなった。

### ○マルチステークホルダーへの配慮

上記の通り実施した企画フォーラム、展示、スタディ・ツアーを通じて、大変有益な成果が得られた。特に1,000人を超える聴衆が参加した東日本大震災総合フォーラムにおいては、所期の目的を達成すべく、著名な専門家や実践者の参加を得て討議が行われた。ESDや防災等の国際的なイニシアティブの推進において近頃重視されている、マルチステークホルダーの視点から、官民、ジェンダー、先進国・途上国のバランスを考慮して登壇者や参加者の調整を行った。

### ○教育的効果とユース層へのESDの普及・促進

かかる準備段階から、教育復興支援ボランティア協力員等の、本センターで実施するボランティア活動に積極的に活動している学生をかかわらせて、同防災会議の開催中、教育復興に関する英語でのプレゼン及び会議ブースの企画・運営や展示の説明を行わせた。学生が主体的に、これらの計画や調整を担い、英語教員等の指導も得つつ、準備した。

最大のパブリック・フォーラムである東日本大震災総合フォーラム等の機会において、学生自らが被災地の現状と教育現場の復興に向けた取り組み等につき発表することができた。また英語で被災地の学校(仙台市立荒浜小学校及び名取市立閑上中学校跡地)を案内する関連ツアーを実施して、海外からの参加者に対する説明のための英語プレゼンテーションの練習や案内文の作成等を通じて、グローバルな復興人材の育成にも寄与する取り組みとなった。これらを通じて学生の成長につながるとともに、ユース層へのESDの普及・促進にも貢献したといえる。

## 11 事業の実施により、今後国際的にリードできる、または国際的にモデルとなりうる点

ESDの10年と兵庫行動枠組の10年の節目を捉え、ESDを通じた防災教育の展開を考えるテーマを、両分野の専門家が、震災被災地の実践者や、未来を担う子どもたちを交えて話し合う取組は、管見の限りあまり例はなく、しかも、様々な背景をもった聴衆を前に、議論した点は、ESDの取組として、国際的にも高く評価され得るものと考ええる。

この成果を、同フォーラムや展示、視察・交流活動に参加出来なかった聴衆に対して、今後、本事業の取組を広く積極的に発信していくことが、かかる事業実施を、国際的なモデルとして位置づける鍵となると考える。

## 12 東日本大震災の教育現場での経験・知見の共有

2011年7月に東日本大震災復興対策本部が提示した「復興の基本方針」では、「災害の経験や復興の過程で得た知見や教訓を“国際公共財”として海外と共有」していく必要性を強調している。また、「我が国の人道支援方針」(同年)では、「自らの災害経験から得た防災に関する豊富な知見及び教訓を、国内の防災体制に活かすとともに、我が国に温かい支援の手をさしのべてくれた国際社会とも共有」して国際的防災に貢献するとしている。本学としても、様々な機会を捉え、海外の教育関係者や防災関係者に対して、東日本大震災の学校・教育現場での経験や、そこから得られた教訓・知見を共有する取組を実施してきた。

国連防災世界会議は、まさに、発展途上国を含む多くの国の防災関係者が一堂に会する機会であり、かかる会議の参加者や当地でのESD・防災の実践者に対して、広く、震災の経験を共有するため、フォーラムでの議論や展示、そして、実際に被災地の学校現場に赴いて、被災地の状況を説明するツアーの実施は、この趣旨に照らしても効果的だったと言える。

※本学が実施した第三回国連防災世界会議関連事業は、文部科学省「平成26年度日本/ユネスコパートナーシップ事業」の一環として実施しました。本報告書は、文部科学省へ提出した事業報告書より抜粋したものです。

## 国連防災世界会議プレイベント（1月28日・水）



①国連防災世界会議防災教育日本連絡会  
事務局長（東北大学災害科学国際研究所）  
桜井 愛子 准教授  
「HFA2と防災教育に関する“仙台宣言”  
発出にむけて」



②宮城教育大学教育復興支援センター  
小田 隆史 特任准教授  
「宮教大・ESD 推進の軌跡、震災後の歩み  
～国連防災世界会議総合フォーラムに向けて」



③宮城教育大学 学校教育講座  
田端 健人 教授  
「ESD と震災復興を通じた教育系大学の  
連携を目指して」

第3回国連防災世界会議にて、本学は総合フォーラムの一つとして、文部科学省・日本ユネスコ国内委員会と共催し、ESD と人づくり、防災教育をテーマにシンポジウムを開催するにあたり、プレイベント・【東北発！防災教育の新たな展開を考えるワークショップ】～ポスト DESD とポスト HFA を考える～を開催し ESD ユネスコ世界会議での議論を踏まえ、国連防災世界会議に向けた防災教育における ESD の貢献についての議論の予察的整理を行った。学内外の関係者約250名が出席した。

左記3人の発表の後、参加者による「国連防災世界会議へ向けた教育現場からの期待」と題したワークショップを行った。参加者には現職の教員も多く、短時間ではあったが実りあるワークショップとなった。

本センター所有のTV会議システムを活用して、気仙沼市連携センターやセンター内事務室へ映像を配信した。

コメント：山形大学地域教育文化  
学部・大学院教育実践研究科  
(教職大学院) 村山 良之 教授



参加者によるワークショップ



## 参考資料

宮城教育大学 国連防災世界会議プレイベント 概要

**東北発！防災教育の新たな展開を考えるワークショップ**

～ポスト DESD とポスト HFA をみすえて～

趣旨：第3回国連防災世界会議にて、本学は総合フォーラムのひとつとして、文部科学省と共催し、ESD と人づくり、防災教育をテーマにシンポジウムを開催します。また、同世界会議開催にあたり、関係機関が加入しての、「防災教育日本連絡会」が発足し、国連防災世界会議において、防災教育に関する「仙台宣言」が発出される見込みです。このワークショップでは、防災教育の推進にあたり、本学が推進してきたESDが学校現場の防災教育の推進に果たす役割や、「仙台宣言」とのリンク、その方法について、国連防災世界会議関連事業を計画している学内外の関係者・参加者とともに考えます。

日 時 2015年1月28日（水）13：00～15：30

場 所 宮城教育大学 萩朋会館大集会室

## プログラム（演題は暫定）

13：00～13：10 開会の挨拶

13：10～13：40 「HFA2と防災教育に関する“仙台宣言”発出にむけて」

桜井 愛子（東北大学災害科学国際研究所准教授・防災教育日本連絡会事務局長）

13：40～14：00 「宮教大・ESD 推進の軌跡、震災後の歩み

～国連防災世界会議総合フォーラムに向けて」

小田 隆史（宮城教育大学教育復興支援センター特任准教授）

14：00～14：25 「ESD と震災復興を通じた教育系大学の連携を目指して」

田端 健人（宮城教育大学学校教育講座教授・教育復興支援センター兼務）

14：25～14：30 質疑応答

休憩（10分）

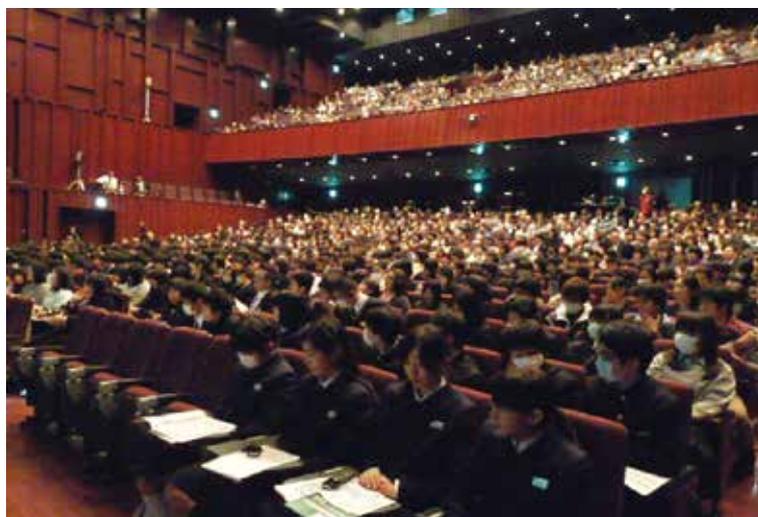
14：40～15：25 参加者ワークショップ

（国連防災世界会議へ向けた教育現場からの期待）

15：25～15：30 閉会の挨拶 見上 一幸 宮城教育大学長

主 催 宮城教育大学国連防災世界会議実行委員会

協 力 国連防災世界会議防災教育日本連絡会



本事業のなかで最大の目玉となるイベントとして、第3回国連防災世界会議の公式フォーラム（東日本大震災総合フォーラム）を実施した。ユネスコスクール等を通じてESDと防災・復興教育に取り組んでいる実践者や有識者を交えて、ESDが今後の防災・復興教育にいかなる役割を果たし得るかを議論した。当日は、国内外から、中高生等を含む約1,100人の参加者を得て盛会となり充実した討議が展開された。

本事業で当初計画していた通り、国内外のESDの実践者、有識者、及び防災の専門家を交え、所期の目的である討論及び情報発信、ネットワーク形成を十分に達成することが出来た。

実施した東日本大震災総合フォーラムの概要・プログラム・登壇者等は以下の通り。

テーマ：「持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開

～より良い子どもたちの未来に向けて～

日時：2015年3月16日（月）15：00～18：00

会場：東北大学川内萩ホール

主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、宮城教育大学

共催：東北大学災害科学国際研究所、国連防災世界会議防災教育日本連絡会

後援：岩手県教育委員会、宮城県教育委員会、福島県教育委員会、仙台市教育委員会  
気仙沼市、河北新報社

言語：日本語・英語 同時通訳付

## ●プログラム

(司会 大葉 由佳)

○開会挨拶 山脇 良雄 文部科学省国際統括官



山脇 良雄 文部科学省国際統括官

○趣旨説明 見上 一幸 宮城教育大学長



見上 一幸 宮城教育大学長

○東日本大震災被災地における実践事例発表

— 大学による防災・復興教育プロジェクト  
東北大学

東北大学減災『結』プロジェクト

災害科学国際研究所 保田 真理 助手

市民協働による仙台107万人の防災人づくり

災害科学国際研究所 佐藤 健 教授



保田 真理 助手

宮城教育大学

震災を伝える、宮教大生の活動とその思い

初等教育教員養成課程 言語・社会系

英語コミュニケーションコース3年 渡辺 涼子

初等教育教員養成課程 芸術・体育系

音楽コース3年 八木沼 賢悟



佐藤 健 教授

— 宮城県多賀城高校 災害科学科開設に向けた歩み

(ユネスコスクール加盟を目指して)

宮城県多賀城高校 小泉 博 校長 生徒2名



宮城教育大学



宮城県多賀城高校

— 気仙沼市階上地区コミュニティ防災の10年

(ユネスコスクール活動を通じた ESD と防災・復興)

日本ユネスコ国内委員会委員・宮城教育大学国際理解教育研究センター協力研究員 及川 幸彦

気仙沼市立階上中学校 吉田 智美 教諭 生徒 2 名  
気仙沼市立階上中学校 PTA 菊田 篤 元会長



及川 幸彦



気仙沼市立階上中学校

○パネルディスカッション

コーディネーター：

- ・ ショウ ラジブ 京都大学大学院地球環境学堂 教授・SEEDS Asia 理事長

登壇者：

- ・ アレクサンダー・ライヒト 国連教育科学文化機関本部 ESD 課長
- ・ アモーレ・デ・トレス キャピトル大学（フィリピン）副学長
- ・ 今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所所長・防災教育日本連絡会会長
- ・ 菅原 昭彦 気仙沼市商工会議所会頭・仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員
- ・ 武田 真一 河北新報社論説委員会副委員長

コメンテーター：

- ・ 角地 スヴェンドリニ インタープレスサービス特派員・日本外国特派員協会理事

○質疑応答



パネルディスカッション



パネルディスカッション

## 発言記録(当日の録音から編集)

## 開会挨拶

文部科学省国際統括官 山脇 良雄



皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、フォーラムにご参加いただきありがとうございます。ユネスコは国連の専門機関で、教育、科学、文化分野での協力・交流の促進を通じて国際平和に貢献することを目的とする機関です。ユネスコの事業としては世界遺産が有名ですが、その他にもさまざまな事業を実施しています。ESDは、持続可能な開発のための教育ということでユネスコの事業の重要な柱であります。

ESDは、防災、環境、技能、意識、価値観、すなわち持続可能な未来を形成する能力を身に付けるための教育であり、重要な持続可能な問題、防災、環境破壊、貧困といった課題を学習に取り入れています。その結果、ESDは、例えば批判的な思考力、将来的なシナリオの想定、また、意思決定を協動的にするような能力を推進します。

昨年11月に、日本政府とユネスコはESDに関するユネスコ世界会議を、愛知県名古屋市と岡山市で開催しました。153カ国、地域から3000名の方々がこの世界会議に参加しています。国連、ESDの10年を振り返り、2015年以降のESDの推進策が議論されました。国連ESDの10年の後継プログラムとして、ESDに関するグローバル・アクション・プログラムが正式に発表されました。さらに「あいち・なごや宣言」が採択されています。これはESDをさらに強化し、そのための行動を起こすことを宣言しているものです。

実は仙台は日本におけるユネスコ活動の発祥の地であることを忘れてはなりません。2011年以前、ESDの努力、これは防災教育であります。宮城教育大学、気仙沼市において積極的に展開されました。ESDの関与を通じて、気仙沼市の子どもたちは自己判断できる能力、その判断を行動に移す力が育まれています。東日本大震災の非常時においても、子どもたちは冷静に状況を判断し、臨機応変に対応することができました。子どもたちの行動の背景にあるのが、地域との連携が図られていたことです。子どもたちと地域の住民は協調関係を築いていたのです。これはESDの取り組みを通じてということでもあります。

私の出身地、兵庫県は、20年前の1995年に阪神淡路大震災が起きました。私はこの地震を受けて地震の調査研究体制を再構築する仕事に従事しました。その結果、全国的な地震調査網ができました。しかし、それだけでは十分ではありません。地震に関する研究成果や知識の積み重ねを基にそれを生かす人間の知恵と行動、防災のための教育が重要だと感じています。ESD会議のフォローアップ・アクションとして、特別なESDタスクフォースがあります。ユネスコの委員会がフォローアップ・プランを研究しており、三つの課題を検討しています。一つはESDを広める取り組みとして、ESDを実践する学校の拡充を通じた、学校教育におけるESDの浸透です。二つ目は、ESDを深める取り組みとして、学校教育におけるESDの実践力を優良事例の共有などで向上させる。三つ目は、ESDを国際的に浸透・充実させる取り組みであります。

宮城教育大学をはじめ、関係の皆さまの多大なるご支援、ご協力にあらためて感謝を申し上げたいと思います。あわせてこのフォーラムの開催が貴重な機会、ESDの概念や実践を普及する手段となること。それが日本全国に広まることを祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

## 趣旨説明

宮城教育大学 学長 見上一幸



皆さま、こんにちは。ご来賓の方々、そして世界中からお集まりの友人の皆さま、ご出席の生徒の皆さん、そしてご出席の皆さま方、私は宮城教育大学の学長、見上一幸と申します。主催者を代表いたしまして、この度、皆さまに今日の午後のプログラムの目的と概要についてご紹介できることをとてもうれしく思います。前半は英語で、あとで日本語に切り替えたいと思います。

まず、この度の大震災で亡くなった2万人以上の方々の慰霊を込めて、4年前、東北地方における地震や津波の被災者の方々に思いをはせたいと思います。私の友人の多く、学内の人たちも含めてこの災害で多くの被害にあいました。家族の一員を亡くした人たちもいれば、経済的に困難な状況に直面した人もいました。例えば失業、住宅の損傷、原子力発電所の避難区域からの避難による問題であります。

教育という観点から言えば、地元の学校はこの災害において多くの人たちの生命を救いました。620以上の学校の施設が、避難所として使われました。

しかしながら、一方で今回の地震と津波によって亡くなった子どもたちの悲劇的な状況も知っております。子どもたちの学習環境も大きく悪化し、学生、生徒たちはそのような状況に対応せざるを得ませんでした。東北唯一の教育大学として宮城教育大学は東北大学などと協力して、被災地の復旧に貢献すべく努力をしてみました。災害直後、半分以上の学生が何らかのボランティア活動に参加しました。がれきの撤去から避難所の運営に至る活動に参加しました。こうしたボランティアの中で約4分の1が、学校の運営に関わる支援を行いました。私たちは災害教育復旧支援センターを、本学学内に2011年6月に設置しました。そして、日本中の教育大学と協力をして、宮城教育大学は約5000名の学生ボランティアを被災地に派遣する調整活動を行いました。中には全国各地から、教職プログラムの中から参加してきた学生たちもおりました。子どもたちにはプラスの影響が及んだと考えています。この災害においては、教育大学における災害復旧という面での重要な新しい役割が生まれました。本学は、今年50周年を記念します。それでは、ここからは日本語でお話をしたいと思います。

本フォーラムでは持続可能な開発のための教育を通じて、防災・減災の展開をテーマに実践発表やパネルディスカッションを行います。先ほど山脇国際統括官からもお話がございましたが、このESD、持続可能な開発のための教育は、人類共通の諸問題や地球規模の課題解決のために教育を通じて考えようと、世界中で取り組まれているプログラムです。

宮城教育大学は文部科学省と共にESD推進拠点の事務局として、ユネスコスクールの推進者として、ここ東北で過去10年以上にわたってESDと環境教育の推進の一端を担ってまいりました。詳しくはお手元の資料の最後のページをご覧くださいと存じます。

東日本大震災によって私たちが気付かされたのは、地域におけるさまざまな主体、ステークホルダーと手を携え、世界の仲間たちとつながりを持ちながら地域や地球の未来を考えて行動するESDが、災害対策や復興にも大きく貢献できるということです。

しかし、ESDの実践者にとっても、これから防災・減災に取り組もうという方々にとっても、ESDの考え方やこれまでの経験が、これからの防災・減災にどのように役立つのか、十分な論議がなされていないのが現状です。そこで、私ども主催者である文部科学省日本ユネスコ国内委員会、宮城教育大学では、第3回国

連防災世界会議において防災や防災教育に関心のある方々が一堂に会する機会を捉えて、ESD と防災教育、防災の実践者や専門家を交えて新たな、貴重なシナジーをもたらしたいと願っております。

このあとの発表では、東日本大震災の被災地において教育復興やコミュニティ防災においてどのような取り組みがなされているか、そして、子どもたちや若者がどんな思いを持っているかを伝えていただきます。主催、共催者である東北大学、宮城教育大学の実践発表、そして、2016年4月から「災害科学科」というコースの新設を準備しておられます宮城県多賀城高等学校の発表、長年ESDを通じた防災に取り組んでこられた気仙沼市階上地区の学校、地域の方々による実践報告と続いております。休憩をはさんだ第2部では、教育が防災、地域づくりなどの分野において世界の第一線で活躍する方々にご議論いただくことになっております。

ご登壇いただける方々のプロフィールにつきましては、お手元の資料にございますが、いかに優れた専門家、実践者にお集まりいただいたかがお分かりいただけると存じます。こうした皆さまと共にESDの今後の展開、これからの防災教育について14日に採択された防災教育に関する「仙台宣言」や、海外の実践事例を踏まえまして、さまざまな観点から論議を深めてまいります。どうぞご期待ください。

さて皆さん、一度周りを見ていただけますでしょうか。お気づきのとおり、今日は多くの児童、生徒、大学生の皆さまにも参加していただいております。せっかくですので、この場で確かめてみたいと思います。小学生、中学生、高等学校の生徒さん、大学生の皆さんは手を挙げてくださいませんか。(挙手)ありがとうございます。私たちの未来を担う子どもたちや若者たちがこんなにたくさん参加してくれることに感謝と期待を込めて、ここから厚かましいのですが拍手をお願いしたいと思います。(拍手)ありがとうございます。「よりよい子どもたちの未来に向けて」というサブタイトルにあるように、私たち大人が、子どもたちの明るい未来のためにどんな取り組みをすべきか、どういう社会を託せるのか、真剣に論議する姿を見てもらう絶好の機会になるかと思っております。

本学は今年創立50周年に当たりますが、戦後創設されたユネスコは70周年を迎えます。この地、仙台は1947年に世界で最初に民間ユネスコ運動の生まれた民間ユネスコ運動発祥の地でもございます。こうした節目の年に、東日本大震災の被災地でもある仙台で10年前に策定された「兵庫行動枠組」の次なる世界防災行動政策が論議されております。このフォーラムが、防災・減災の展開に教育がどのように貢献できるかについて考える有意義な時間になるように願っております。

最後になりましたが、本フォーラムの実施に当たりまして多大なご協力をいただきました、共催先でもあります東北大学災害科学国際研究所、防災教育日本連絡会、ならびに仙台市国連防災世界会議実行委員会をはじめとする多くの団体、個人の皆さま、そして運営を支えてくださいましたボランティアの方々にご心より感謝申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いたします。Thank you very much for your attention.

## 大学による防災・復興教育プロジェクト

災害科学国際研究所 助手 保田 真理



皆さん、こんにちは。今日は被災地の大学として東北大学が取り組んでおります減災出前教育「結」プロジェクトについてご紹介させていただきたいと思います。

東日本大震災で多くの若い世代、19歳以下の方が命を落としました。それによって、その人たちの命だけでなく家族の大きな悲しみがありました。それに基づいて皆さんお一人お一人に減災意識を持っていただきたいと思ってこういう活動を始めています。

減災「結」プロジェクトでは、現在までに宮城県内で70校に回らせていただきました。今日の会場の中にもどなたか、私の授業を受けてくださった方がいらっしゃるかもしれません。タイ、フィリピン、インドネシア、ハワイなど諸外国にも行かせていただいております。3部構成になっておりまして、座学、グループワーク、グループディスカッションの発表をしてもらおうという構成になっています。

なかでも気を使っている点は、しっかりとしたサイエンスを皆さんに知っていただく、メカニズムを知っていただくということで、こういう材料を使ってやっております。このスライドを見ていただきますと、1896年の津波では牡鹿半島がしっかり津波を止めています。東日本大震災では南からの波を止めることができず、大きな被害が出てしまったことがわかります。もちろん規模も大きく違いました。

私は授業の前後にアンケートを採らせていただいています。「いざ避難をするというときに、家族で避難に関する情報共有は必要ですか」という質問に対して、授業のあとは大きく「強く思う」が伸びています。「今日習ったことを家族とシェアしますか」という質問に対しては、やはり授業のあとは大きく伸びています。これは海外の事例ですが、海外はちょっと言葉の壁があつたりしますが、同じようにアンケートで「強く思う」という結果が伸びています。こういう活動を地道に続けていきたいと思っています。そして、教える教育ではなく、皆さんに考えてもらう教育を今後展開していきたいと思っています。減災・防災、そういう意識は自分の中で育てて育まないと身に付かないと思います。今から事例を見ていただきます。

(映像)

どうもご清聴ありがとうございました。Thank you for your attention.

## 市民協働による仙台107万人の防災人づくり

災害科学国際研究所 教授 佐藤 健



東北大学の佐藤です。私からは、災害に強く持続可能な地域づくりのために、学校と地域コミュニティとの関係性が非常に重要であるという観点から、ご覧のタイトルにありますように、「防災人」という人づくりに対する東北大学の関わりについてお話をさせていただきます。

まず、こちらのスライドは、東日本大震災のあと文部科学省主催のフォーラムや教育関係の雑誌で最近取り上げられている特集のテーマを整理したものです。「学校と地域との関係づくり」「学校と地域との連携・協力」といったキーワードが多いことを確認することができます。特に閣議決定されました第2期教育振興基本計画の基本的方向性の一つとして教育振興ということが目的でありながら、コミュニティの形成ということが掲げられていることは注目すべきポイントであると思います。このようなことから、東日本大震災のあと、学校は地域コミュニティとの連携を強く求めてきている状況にあることを確認することができます。次に、学校側から連携のために差し延べられた手を受け取る地域コミュニティ側の機能について、仙台市における事例を紹介させていただきます。それは仙台市地域防災リーダー(SBL)です。SBLの養成に東北大学として協力をさせていただいています。

この養成事業は2012年度からスタートして、これまでの3年間で約400名のSBLが誕生しました。その養成ポイント、コンセプトは、上に掲げております四つのポイントです。特に地域に根差した活動、それから受講者が居住されている地域に受講した成果を必ず持ち帰って還元していただくことを特徴としています。そして、SBLの受講終了者により、各地域において実際の防災活動として行っていることの最も多いことは、学校での避難所運営の協議、訓練となっております。また、学校における防災教育の支援など多様な活動が少しずつではありますが、広がってきています。

最後に成果と課題をまとめさせていただきます。まず、成果です。仙台市では東日本大震災のあと、新しいタイプの地域防災リーダーとしてこれまで約400人のSBLが誕生しました。地域に根差した多様な防災活動が展開されています。そして、学校と地域コミュニティとの連携におきまして、つなぎ手の機能を担い始めていると言えます。

次に課題です。地域コミュニティにとっての課題は、学校がESDや地域に根差した教育に基づいて防災教育を展開する際に、学校を支援するための地域の教育力を発揮することだと考えます。学校にとっての課題は、地域に根差した防災教育を展開する際に地域の教育力を活用することができる「受援力」を持つことだと考えます。以上です。ご清聴ありがとうございました。

## 震災を伝える、宮教大生の活動とその思い

宮城教育大学 渡辺 涼子・八木沼 賢悟



私たちの震災の体験を伝えます。皆さん、こんにちは。私が渡辺涼子です。隣にいるのは八木沼賢悟です。私たちが今まで実践してきた活動、体験をご紹介します。

私たちは宮城教育大学の学生です。日本における教員養成大学で、2011年、この教育大学の学生は東日本大震災を直接体験しました。この大震災を「災害」と呼びたいと思います。私たちは将来、できるだけ被災地において教師になりたいと思っています。

私は震災後の3年間、学生ボランティアのリーダーとしてボランティアが教育の支援を行い、被災地における学校の復旧のお手伝いをしてきました。こういった被災地において、学生たちが学習を続けることを奨励し、私の友人たちは被災地においていくつかの学校を回り、児童の学習のお世話、支援をしてきました。また、八木沼さんはさまざまな被災地における生活状況を私と一緒に視察してきました。あとで話をしてくれます。

私は現在どういった問題に人々が直面しているのか、子どもたちが私たちに何をしてもらいたいと考えているのか、今、彼らに私たちは何ができるのかを考えることがこの体験を通じて可能となりましたが、2013年3月、私が最初にオーストラリアに行ったとき、英語で私たちの体験を伝えることが十分にできず、大変残念に思いました。

その体験をきっかけとして、『Reminder of 3・11』という英語版の小冊子を編纂することができました。これは外国人向けに私たちの体験を伝えるためのものです。多くの方たちの支援をいただいて、英語と日本語で2013年7月に作成することができ、2013年8月英国に行ったとき、2014年3月にアメリカに行ったときには、これを使って多くの人たちに体験を伝えることができました。

また、フィリピンとの学生の交流、日系アメリカ人との交流を、それぞれ2014年7月、10月に持つことができ、こういった異文化間交流を通じて、『reminder of 3・11』第2版を作成することができました。第2版においては多くの方たちの協力をいただいて、日本語を含め7カ国語で作成をすることができました。私たちが撮った被災地の写真も加わっています。それでは八木沼さんにバトンタッチしたいと思います。

**八木沼** ありがとうございます。それでは、学生の福島における体験ツアーについてご紹介したいと思います。

私は福島県南相馬市の出身です。福島県の北東部にある町です。津波と地震によって甚大な被害にあいました。それに加え、私が住んでいる町は原発圏内25キロということで深刻な大きな問題に直面しており、依然として多くの住民が帰宅をすることができずにいます。そして、宮城における津波によって被災した被災地に行く学生はいるものの、誰も住んでいない、この放射能で汚染された地域に短時間でも学生の人たちが訪問することができないか考えて、福島の学生向けのツアーを企画することにしました。2回にわたって南相馬へのツアーを行い、学生たちを案内することができました。

小高地区は原発20キロ圏内にある地区です。今は日中立ち入りが可能になりましたが、夜間はみんなほかの地区に退避しなければいけないことになっています。小高の放射線量はほかの地区に比べて低くなっていますが、毎回40人の学生、教師に参加をしてもらうことができました。

中心部、海沿いには線量計が設置されていてご覧のような情景になっています。多くの家々は海岸線沿いで崩壊しています。まだ20キロ圏内にあることから、撤去をすることができない倒壊家屋が残っています。

多くの参加者は言葉を失い、私に対して感想として「できるだけ多くの人たちにこの物語を伝えたい。そのためには放射能についての正確な情報を伝えたい」と言ってくれました。風評被害があるにも関わらず、私の故郷に来てくれたことを大変ありがたく思っています。

このベンチを見てください。小高の中心部で「がんばっぺ!」「お帰り」と書いてあります。この絵を見ていただいても、小高の住民に対して多くの人たちが応援してくれていることが分かります。大震災から4年が経過しましたが、東北に住み、このツアーを計画した若者の一人としてできるだけ多くの人たちに、私たちの体験、教訓をこれからも伝えていきたいと思っています。以上です。ありがとうございました。

## 宮城県多賀城高校 災害科学科開設に向けた歩み

宮城県多賀城高校 小泉 博 校長 生徒 2 名



紹介いただきました多賀城高等学校の小泉でございます。私からは多賀城高校が取り組んでいる防災教育とESDの関係について概略を説明し、後半には生徒から活動の一端を説明させていただきます。

多賀城市は仙台市の北東に隣接しており、陸奥国府が置かれた歴史ある町です。仙台港には工場や倉庫群があり、内陸部は仙台市のベッドタウンとして住宅地が広がっています。東日本大震災のときには、津波により市内の約34%が浸水しました。海の見えないところ、海とは違う方向から津波が押し寄せる都市型津波の被害により、188名の貴い命が奪われました。

多賀城高等学校は海から少し離れた高台にあることから津波の被害は免れましたが、その日のうちに帰宅できない生徒108名が学校で一夜を明かしました。近隣の石油コンビナートでは火災が起り、いつ爆発が起るかわからない恐怖の中での避難でした。

宮城県では被災地に立地していること、全県から志の高い生徒が通学できること、そして、上級の学校でさらなる学びが期待できる高校として平成28年4月に日本で2番目となる防災系学科、災害科学科1クラスを本校に開設することにしました。教育目標はここに示したとおり、防災や災害を学習することを通して未来を予想する能力、課題を解決する能力、そして、リーダーシップやコミュニケーション能力を身に付けさせることで未来を創る力を育てていきたいと、開設準備を進めているところです。

これをESDの視点で捉え直してみると、持続可能な社会づくりに関わる課題を見出し、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける。このことを通して、持続可能な社会の形成者としてのリーダー的資質を養うと捉え直すことができます。

ESDの基本的な考え方の一つとして防災学習が取り上げられますが、本校の学習内容として検討している事項を当てはめてみると、この図のようにさまざまな基本的な考え方に当てはめることができます。本校では普通科も含めた学校全体で防災教育のパイロットスクールの役割を果たすために、現在はESDの観点から主に三つのプログラムを試行しております。

一つ目は、防災学習プログラムです。防災・減災についての基本知識を身に付け、地域の調査から課題を見つけ、情報収集し、グループ学習やワークショップを通して内容を深め、最終的にはその成果を地域に発

信するプログラムです。

二つ目は、国際理解プログラムです。JICA のプログラムを活用したり、外国からの旅行者に被災と復興の様子を生徒自らが効果的に伝える工夫を行うプログラムとなっています。

三つ目は、自然科学学習プログラムです。自然災害を科学的に捉え、課題研究を通して理解を深め、その成果を発表していくプログラムです。専門性の高い発表を行う一方で、災害のモデル化を行い、小中学校への出前授業を行うことも検討しています。今後、これらのプログラムの充実を図り、21世紀型学力の目指す、生徒が主体的に課題を解決するための資質・能力の育成を、大学や関連機関、地域自治体などと協力しながら進めていきたいと考えております。

次に三つのプログラムのうち、主に防災学習プログラムについて、生徒のほうから報告をさせていただきます。私からの概略説明は以上です。

**生徒** 多賀城高校における防災についての学習を紹介したいと思います。ここにありますように、ESD の学習プロセスを応用しております。災害の専門家の講義から知識を得、地域のために何ができるか、多賀城市の被災地の津波の高さを調査しました。

災害が起こりますと、復興のプロセスの際に問題があります。われわれの結果をコミュニティの人たち、海外の人たちと共有しています。学生は災害のときに生き延びる能力だけでなく、他者と今後のために問題解決する能力を身に付けねばなりません。そして災害後、津波について将来世代に伝えねばならないと考えました。そこで、津波標識を設置することにしました。また、津波の経験者は「思い出したくない」と言う方もいらっしゃいます。しかしながら、忘れたい思いもあるが高校生の活動ならば応援をしようということで、電柱の所有者の許可を得まして標識を設置しています。この写真は、電柱に標識を設置している様子であります。100本ほど設置をしました。

次の事例は、「地域への発信と交流」です。高校生は災害の際に何ができるかということを考えました。そこで多賀城市の総合防災訓練に参加をし、地元の人たちと協力をしました。多賀城市はまた、津波標識のプログラムも検討しました。これは多賀城市との協力の始まりでありました。

こちらも、もう一つの地域への発信と交流の事例です。仙台キャンプに参加しました。これは被災体験プログラムであります。いかにして、災害が起きたときに生き延びるかを学びます。また災害経験を、日本のほかの地域の方々と共有しました。次の事例は、海外への発信と交流です。被災地の現状を説明し、この災害の経験を海外からの方々と共有しました。被災地を案内し、意見交換も行いました。今年、来訪者はアメリカ、チリ、フィジー、ジャマイカ、ベトナムからでありました。

私は3年間、多賀城高校で勉強してきました。防災について学ぶ機会がさまざまありました。高校生でもできることが、防災に関して、復興に対して多々あることが分かりました。また、夢も見出しました。私は多賀城高校の生徒であることを誇りに思っております。また、多賀城高校の後輩たちが学び続けることを期待しております。

最後に、多賀城高校はこのような活動を通じてユネスコスクール登録を目指したいという考えを披露したいと思います。本日は発言の機会をいただき、感謝しております。ありがとうございました。

## 気仙沼市階上地区コミュニティ防災の10年

日本ユネスコ国内委員会委員・宮城教育大学国際理解教育研究センター

協力研究員 及川 幸彦

気仙沼市立階上中学校 吉田 智美 教諭 生徒 2 名

気仙沼市立階上中学校 PTA 菊田 篤 元会長



(及川幸彦 日本ユネスコ国内委員会委員) こんにちは。私からは、「気仙沼市の事例から防災教育と ESD の相乗効果シナジー」について、初めに申し述べたいと思います。その実例として、このあと階上中学校のほうから実践発表をしていただきます。

気仙沼市は2002年、まさしく ESD がヨハネスブルクサミットで日本政府から提案された当初から宮城教育大学と連携し、ESD を推進してまいりました。その間、国連大学の RCE、文部科学省、国際統括官付き国内委員会の指導の下に小学校全て、中学校全て、幼稚園、高校も含む35校がユネスコスクールとなり ESD を進めてきた地域であります。

しかしながら、ご存じのように2011年3月11日に巨大地震による大津波により甚大な被害を受けました。このような気仙沼市の ESD の実践と東日本大震災の教訓から、ESD と防災の間にどのような関連、相乗効果があるかについて、次の四つの視点から申し述べたいと思います。

一つは、持続可能な社会を創っていく、それに向けて復興していくという視点。二つ目は、防災教育の質的向上を目指すという視点。三つ目は防災の能力、態度を育成するという視点。そして、最後はネットワークを構築するという視点であります。

言うまでもなく災害というのは、極限の持続不可能性であります。そのような中で、ESD の理念である生命の尊重、共に生きるという共生、そして持続可能な地域を創っていくという復興、これらの理念はそのまま防災教育の理念に通ずるものであります。したがって、防災 (DRR) は ESD の重要なテーマであり、アプローチであります。これにつきましては、ESD の国連の10年の三つの優先分野、テーマにも示されておりますし、昨年11月愛知・名古屋で開催された世界会議で全世界に向けて発信されたグローバル・アクション・プログラムという ESD の後継のプログラムでも明記されているところであります。

もう一つのポイントは、ESD が防災教育の質を高めるという視点であります。ESD はこのように探究的な学習、問題解決的な学習、体験的な学習、それよりも何よりも地域に根差した学習、それを総合的、統合的、学際的に行っていくという学習であります。このような学習者主体の学習方法が防災教育に応用されたときに、防災教育が自ら学び、能力を勝ち取り、最終的には行動に結び付ける教育に高まるものと言えます。

もう一つの視点として、防災教育を単なる避難、訓練として捉えるのではなく、災害の発生メカニズムからわれわれの生活に与える影響、それを少しでも軽減し備えるという行動、さらにはわれわれが今、直面している地域の復興、こういうまさしく持続可能なプロセスとして防災教育を考えていかなければならないということを、私たちは震災から学んだわけであります。その学びの中でどのような能力を高めるのか。ここに掲げたのは、日本ユネスコ国内委員会が ESD で育むべき能力、態度を示したものであります。コミュニ

ケーション、情報収集力は困難な災害時、非常時のアクセス力として働きますし、批判的思考、体験的思考などは最善の、あるいは最良の判断に結び付けるという思考力に結び付きます。最終的にはそれを意思決定し、行動するという、まさしくこのような一連の思考経路の中にESDと防災の相乗効果があると言えます。

最後に、防災教育ではよく「自助、共助、公助」と言われます。しかし、大震災のようにあれほど甚大で広範囲な場合には「自助、共助」は頑張っても、なかなか公助の手が行き届かないところがありました。そういう際にNPO、NGOをはじめ多様なセクターがネットワークとして助けていただくという「N助」という視点が当時生まれたのです。気仙沼市ではそれを「N助」と表現しております。このような視点から、気仙沼市では防災教育に取り組んでまいりました。この実際を、これから階上中学校が気仙沼市のグッド・プラクティスとして発表しますのでどうぞお聞きください。ありがとうございました。

それでは、学校と地域が一体となって取り組む地域連携型の防災教育について、気仙沼市立階上中学校教諭吉田智美さん、生徒2人、PTA元会長の菊田篤さんにも発表していただきます。それではお願いします。

**吉田** こんにちは。気仙沼市立階上中学校教諭、吉田智美です。初めに私から本校の防災学習の取り組みについてお話しします。気仙沼市階上地区周辺は、上空から見るとこのようになっております。当地区は、陸中海岸国立公園の最南端にある観光地です。半農半漁の地区であり、地区民は約4800人で13の自治会から成り立っております。

この地区の震災における犠牲者は208人にのぼり、この数は地区住民の約4.3%に当たります。被災家屋は地区の約67%にものぼり、特に多くの犠牲者を出した杉の下地区は自治会を解散しました。東北地方太平洋沖地震による大津波はおおよそこの範囲にまで及びました。本校はここに位置し、発震直後は避難場所として多くの地元避難者と共に国道45号線を走行していた自動車も避難してきました。本校の海拔は31メートルであり、震災前から気仙沼市指定の避難所になっておりました。

防災学習を行うまでの経緯としましては、平成15年5月26日に宮城県沖を震源としたマグニチュード7.0の地震が発生しました。翌平成16年12月26日には、スマトラ大地震によるインドネシア大津波が発生しました。これらを受けて気象庁では、高確率で宮城県沖地震が発生する可能性があるという予測を打ち出しました。そこで、本校では平成17年から防災教育を行うことにしました。平成21年からはユネスコスクールに加盟し、ESDの視点から気仙沼市危機管理課と連携しながら取り組んでおります。

階上中学校の防災学習は総合的な学習の時間の35時間を使用し、未来の防災リーダーの育成をテーマに、自分自身を災害から守る方法や、災害が発生したときの対処法などを学ぶ「自助」、身近な人たちと協力する「共助」、公的な支援と自分たちの役割について学ぶ「公助」について1年単位で学習してきました。ですから、年によっては共助、公助から学ぶことがありましたが、3年間でこのサイクルを学んで卒業します。防災学習を行って6年目、平成23年3月11日のことです。大津波が気仙沼地方で起こりました。

(映像)

**生徒** 次に私たちが防災学習について説明します。

震災直後、多くの自動車が本校を目掛けて入ってきました。これがそのときの様子です。避難所になった体育館には本校の卒業生が多く駆け付けました。このような掲示コーナーを作成したり、体育館への避難所設営や炊き出しなどを手伝ったり、まさにこれまで防災学習で学んできたことが生かされました。

震災後、お盆までは校舎内の教室も避難者でいっぱいでした。避難者と校舎で同居しながらわずかな教室を活用して、4月中ごろから授業が再開されました。そんな中、一つの奇跡が起こりました。体育館が使えず狭い教室で練習をしていた男子卓球部が、その年の秋の県新人大会で優勝し、全国大会に出場することになりました。

このグラフは、東北地方太平洋沖地震の大津波による気仙沼市の地域別犠牲者と地域別家屋被害率です。

ご覧のとおり、どちらも階上地区が多いことが分かります。特に杉の下地区では85世帯中81世帯が流失し、93人ももの貴い命が奪われてしまいました。震災後、私たちはなぜ階上地区だけ犠牲者が多かったのかということに注目しました。まず、「被災者の方々になぜ津波犠牲者の割合が高かったのか」というアンケートを実施したところ、「津波が来ても、大したことないと思っていた」など危機意識の問題や、「居住地の海拔を認識していなかった」などといった認識不足の問題、「家族を心配して家に戻った」など家庭の事情と考えられるものなどいくつかの問題点が、アンケート結果から分かりました。

**生徒** 防災学習については、これまで学習してきたことを生かすとともに「知る」「備える」「行動する」といった視点を大切に考えてきました。また、私たち生徒が学校生活を送る時間は1日の約3分の1であり、家庭や地域で生活している時間が大半です。家庭や地域での災害に対する避難行動が特に大切になると強く感じました。そこで、地域と連携した防災学習を強化していくことにしました。

本校の防災学習の一つの特徴としては、生徒たちだけによる避難所設営訓練があります。本校体育館は市指定の避難所でもあり、今回の震災でも発災直後、約2000人の避難者が押し寄せました。そこで、日中は私たち中学生が常に学校にいることから自分たちの手で避難所を作成し、初期対応を行おうと考えました。通常の生徒会の委員会活動の組織を避難所設営のそれぞれの担当に移行すれば、無理なく活動ができると考えました。生徒会執行部を対策本部にし、運営委員会が体育館内の地区割りを担当、生活委員会が避難者のカードやリストを作成、図書委員会が高齢者や幼児スペースの作成といったようにそれぞれが役割を持ちます。この活動は毎年行われ、1年生が3年生になったときには活動内容を理解し1年生に指示が出せるようになります。これが代々引き継がれることにより、学校として安定的に避難所設営に取り組むことができます。

こういった活動が実際の場面で生かされる出来事がありました。2012年12月7日の夕方に地震が発生し、その直後、津波警報が発表されました。すぐに避難行動を取ったあと、学校に残っていた生徒を中心に体育館に避難所を設営しました。帰宅していた生徒も身の安全を確認した上で、避難所設営の手伝いに駆け付けました。避難者リストを作成する生徒、畳や椅子で避難スペースをつくる生徒、避難者リストやトイレなどの案内を掲示する生徒、毛布を配給する生徒、救護スペースを作成する生徒など、これまでの訓練の成果が現れました。このときの避難者数は300人を超えていましたが、訓練どおりに行動することができました。

**菊田** 元階上中学校父母教師会の菊田篤です。私からは、階上地区防災教育推進委員会について説明いたします。

この組織は津波災害による生命、財産の被害を最小限にとどめる。地区住民が安全かつ安心に暮らせるために防災、避難対策等を実践することで地域住民への防災意識の高揚を図ることが目的で、平成24年度に設置されました。

委員会の仕事としては、

- 1、階上地区住民の防災意識の高揚、減災対策の推進。
- 2、階上地区の危険箇所の調査、把握。
- 3、災害発生時における自助、共助の体制づくり。
- 4、階上小中学校が実施する防災教育への支援、協力。
- 5、階上小中学校児童生徒に対する防災教育内容の検討。
- 6、その他、地震津波防災対策の推進。

組織としては、このようになっており、平成26年度の委員は37名です。階上地区防災教育推進委員会では、階上中学校区にある全ての自治会で避難訓練等を実施するなど将来に向けて継続的に学校と地区とのパイプ役を担っております。

昨年11月8日は土曜日でしたが、階上小中学校は振替授業日にし、気仙沼市総合防災訓練に合わせて各自

治会ごとの合同一時避難訓練を実施しました。同日は地区内に流れる防災無線を聞き、地域の方々は非常持ち出し袋を持参して家族で避難する姿が見られました。各地区の中学生は参加者に避難カードの記入を呼び掛け、一覧表にまとめて掲示する訓練にも取り組みました。訓練後も自治会ごとに非常持ち出し袋の情報交換や、地区の様子についてのお話、救命講習、搬送訓練などさまざまな企画が実施されました。

成果としましては、地域住民の防災に対する取り組みの意識が向上したこと、階上小中学校と地域との連携がより強化されたこと、新しいまちづくりに対して防災の面から提言できたことなどが挙げられます。

今後の課題は、行政区ごとの防災学習に取り組む温度差を解消することです。これからも階上小中学校は地域と連携し防災意識を高く持ち続け、復興に向けて頑張っていきたいと思います。以上で階上中学校、階上地区の連携した防災への取り組みについての説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

## パネルディスカッション



アレクサンダー・ライヒト



アモーレ・デ・トレス



今村 文彦



菅原 昭彦



武田 真一



ショウ・ラジブ



スヴェンドリニ・角地

それでは、パネリストの皆さんをご紹介しますと存じます。ユネスコ本部 ESD 課長のアレクサンダー・ライヒトさん。(拍手)

ありがとうございます。続いて、フィリピン・キャピトル大学副学長のアモーレ・デ・トレスさん。(拍手)

東北大学災害科学国際研究所所長の今村文彦さん。(拍手)

気仙沼商工会議所会頭の菅原昭彦さん。(拍手)

河北新報社論説委員会副委員長の武田真一さん。(拍手)

なお、今日コメンテーターをお願いしておりましたヒンケル学長はご都合により来日することができませんでした。残念ですが、ご欠席されています。それでは、コーディネーターのショウ・ラジブさん、どうぞよろしくお願いいたします。

**ショウ** 皆さん、どうもこんにちは。ご紹介いただきましたショウでございます。よろしくお願いいたします。今日は日本語と英語を混ぜながらお話しさせてください。もう1人のコメンテーターが私の隣にいらっしゃるのですが、スヴェンドリニ・角地さんです。(拍手)

角地さんはスリランカ出身で、今、インタープレスサービスの記者を務めております。東日本大震災でいろいろなところでご活躍されているようで、いろいろなお話を聞かせてください。よろしくお願いいたします。

今日は素晴らしいパネリストの方々がおそろいです。そこで、このセッションを2部に分けて考えていきましょう。先ほどのセッションで大変実践的な現場での経験について、生徒、学生、教授、教師などの方々からお話を伺いました。ESD、防災教育がいかに効果を発揮したか、実際これが多くの事例においていかに役立ったかという話を聞きました。このパネルにおいてはそれぞれの経験に鑑み、この10年ほど持続可能な

開発のための教育というESDの取り組みの中で、また10年間兵庫行動枠組について経験してきた中でこのあと次にどうするのか。ESDがどういった形で自然な相乗効果を生んでくれるのか。政策、実践双方の面でのような効果を生むことができるのかということを考えてみたいと思います。

それでは最初に、アレクサンダー・ライヒトさん。ESDプログラムをユネスコにおいて先頭に立っていらっしゃいました。特にライヒトさんからは名古屋で行われた前回の会議の内容も含めてお話を伺えればと思います。  
**ライヒト** ありがとうございます。ショウ先生、ご出席の皆さま方、今日をご招待をいただいたことを、まず主催者に対して感謝申し上げたいと思います。少し時間をいただいて、この持続可能な開発のための教育に関し、また将来の計画、特にいかにESDが、防災教育に役立つのか。そういった観点からお話をしてみたいと思います。

基本的な前提としては、持続可能な開発のための教育をなぜ重要と考えるのか。なぜユネスコでESDを促進してきたのか。教育プログラムの中で、重要なプログラムとして位置付けてきたかを考えてみたいと思います。というのも、基本的な前提として持続可能な開発を達成しようと思ったら、単に技術的な解決策とか、政策的な規制とか、資金面・財政面からの取り組みだけでは不十分であり、結局、われわれ一人一人の行動、考え方を変えていかなければ変えることはできない。達成することはできないということです。そして、このような変化のために、どうしても教育が必要である。教育がなかったら、そういった行動や考え方の変化は望めないということです。教育が一つの手段となって、持続可能な開発を進めるための行動の変革につながります。

次のスライドですが、ここにまとめておりますのは、ユネスコにおいて持続可能な開発の教育に関わる人たちが、シンプルに、学者の使うような言葉を使うことなしにESDを定義しております。その意味するところは、全ての人たちに対して持続可能な未来を築くために必要な知識や技術、技能、価値、そして姿勢を提供していくということ。すなわち何かを実際の世界において変えていくという行動が重要であり、知識も重要ですが知識だけではなく具体的な技能、スキル、価値観、そして姿勢が必要だということです。そのためには、重要な持続可能な開発に関する問題を総合的に捉えることが必要です。

例えば気候変動、生物多様性、貧困、防災、こういったものを取り上げていく必要があります。そしてESDにおいてこれを教える中においては、参加型の教育学習を奨励しています。学習者が中心に据えられるべきであるからです。つまり教育の中で行動を伴わなければ、成果は達成できません。また、批判的思考、あるいは将来のシナリオについて考えると、共同で決定を下す協力、協調についてもその技能を育て、また学校において行われるこういった教育だけではなく、ESDというのは、防災という文脈の中でも論じてまいりましたが、学校教育だけではなく学校以外の場における教育も同じように重要だということです。そして、教育分野、その他の分野、もちろん教育分野も重要ですが、持続可能な開発に関わるほかの分野、セクターも一緒に取り組んでいく必要があります。例えば気候変動とか環境問題に関してその目標をどのように達成するかということ考えたとき、ほかの関連分野も参加していかなければなりません。考え方、行動の仕方を変えることが必要です。

さて、防災の枠組みとしてのESDですが、いくつかここに要点を指摘しました。これが全てではないと思います。議論の中でもっと出てくるかと思いますが、いくつか重要な点として、ユネスコがなぜESDを大変に有益な防災にも関わる枠組みになると考えているかと言えば、先ほどの事例からも明らかになったと思います。全てがいろいろな形で、ここにあるような項目に関連していたと思います。まず、持続可能な開発のための教育によって認知、社会、情緒的なスキルを得られます。これによってグループのエンパワーメントができます。つまり単なる知識の習得を超えて、社会的、情緒といった側面にも関わっていくことができます。また、ESDは人災にも取り組むものであります。

そして次に、ESD は災害をより広い広範な社会、環境、経済的な問題という背景の中で捉えていくものです。そういう意味でいわゆる人災、われわれが食い止めることができないような災害が発生したときにいかに対応するのか。もし、災害そのものの予防が駄目であれば、短期間の準備の時間、メカニズムの中でまずはいかにそれに即座に対応していくことができるのか。そういったことに関連して、例えばなぜ気候変動によって集中豪雨のような災害がどんどん増えているかを考える必要があります。

ESD はいわゆる学校での教育の枠を超えて、さまざまなステークホルダーにも関わるものであります。マスコミもその一つです。地域社会の役割、あるいは地方政府の役割が、防災教育の中でどういった役割を果たしていくのか。つまり教育のネットワークをつくっていく中で、その地域においてさまざまなステークホルダーが関わっていく。それによってこのような教育が円滑に進むわけであります。さらには ESD によって災害という問題に関しても、総合的により大きな全体像の中で捉えることができるようになります。

将来のプログラムを少しだけ紹介します。ユネスコ加盟国においてフォローアップとして国連は、持続可能な開発のための教育の10年のフォローアップを考えています。新しいグローバルな戦略、枠組みを ESD に関連して考えていこうというもので、これはユネスコの総会でも支持されました。つまり加盟国によって承認されたということです。

また、2014年12月においては、今回の ESD の10年間のフォローアップとして ESD に関する世界会議を立ち上げることになりました。もちろんユネスコと一緒に日本国政府も協力して、2014年に愛知・名古屋で会議が開かれました。コーディネーションを務めたのはユネスコですが、そこでの最終的な目的はあらゆるレベルにおいて行動を生んでいくようにする。そして、教育や学習の分野において、いかに持続可能な開発の前進を図っていくかということであります。長きにわたる突っ込んだ協議の中で、五つの重要な分野が明らかになりました。これから何年かかけて取り組んでいく分野です。このスライドにあるものです。

五つの分野としては、まず最適な政策の環境を ESD に関して生んでいくということ。もちろんここで言うところは防災も含まれています。いかにして ESD がきちんと教育政策の中に組み込まれていくのか。それは教育政策というだけではなく、持続可能な開発に関わる全ての政策の中に取り込まれていかなければなりません。

二つ目としては、特に教育環境に関して変革していこうというものです。個々の学校においていかに ESD に取り組んでいくのか。総合的なアプローチに向けて ESD を行っていくことで、ここでは単に教育、あるいは教育の方法論、教育学といったような文脈だけではなく、例えばキャンパスの管理、学校と地域社会相互の関係なども含まれています。ここでも総合的な取り組みが必要です。効果的な形で ESD を実現しようと思えばそういった観点が必要であり、またここでも防災と ESD の関連、関係が重要です。つまりいかに防災のために、学校が地域社会と関わっていくかということにも関連しています。

三つ目、教育者の能力を構築していくことも重要です。これは明らかだと思えます。

四つ目は、若者のエンパワーメントと動員を図りつつ ESD を実現していくということです。若者が一番持続可能な開発には大きく影響を受けるわけであり、もし、持続性のないような開発があったら、一番悪影響を被る人たちです。この人たちがこそが、そういった教育のプロセスの推進要員になる人たちです。実際そのようなよい実例が、先ほどの報告の中にも生き生きとした発表の中で出てきたと思います。

五つ目は、地域レベルにおける持続可能な開発をいかに加速的に積み上げていくかということです。ESD を通じ、特に地方政府の機能の強化、また、政府以外のさまざまなステークホルダーの機能も強化していかなければなりません。

最後のスライドですが、もちろんユネスコはこのプログラムの実施の先頭に立っているわけですが、もちろん私たちはあくまで触媒的な役割を果たすのみであります。つまり私たちの取り組みに加えて、個々の加

盟国において、政府以外のステークホルダーも含めてこの五つの分野に関して行動を取っていかなければなりません。そして、さまざまなプログラムを実施していかなければなりません。例えばESDのための新たな勢いを生んでいこうというとき、戦略の中で必要なアクションが、こういった五つの優先分野において取られていくようにするということです。

この四つの戦略を、まず何としてもこれを実施していくことです。グローバルなフォーラムという形で日本政府からの資金を得て、ESDに関する会議が開かれたことを申し上げました。こういったいろいろな取り組みがあるということを申し上げておきたいと思います。ユネスコ日本省というのもあります。ESDが防災の中でも重要な枠組みになることを期待したいと思います。ありがとうございました。(拍手)

**ショウ** ライヒトさん、ありがとうございました。話はグローバル・アクション・プログラムというもので、今後どんなことをやっていくかという、かなり大きな話だったと思います。

これから何うお話は、菅原さんが実際に気仙沼でやっておられる実践事例だと思えますが、昨年、私も京大の学生を何人か連れて菅原さんのところに伺って、非常に楽しい話を聞かせていただきました。ぜひ皆さんにもそれを聞いていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

**菅原** 気仙沼からやって来ました、菅原と言います。先ほど気仙沼のESDと防災については及川先生、階上中学校の皆さんからお話がありましたので、私は復興計画の策定に関わってその推進もやっている視点から、地域とESD、ESDと復興といったことをお話しさせていただきたいと思います。

ラジブ先生から「楽しいお話」と言われたのですが、今日はそういう感じでもありません。非常にポリティックというか、政策的な話になるかもしれませんので、ご了承いただきたいと思います。

今日はパワーポイントは使いません。これは、今の気仙沼の中心部を空撮で見た状況です。階上中学校、階上地区は、右側のほうにずっと広がっていきます。ですので、一部だけ空から撮った写真をバックにお話をさせていただきたいと思います。

最初に震災前の気仙沼がどういうところだったのかということをお話をさせていただきます。気仙沼は、仙台から2時間半かかります。そして、高速道路のインターチェンジから1時間20分。新幹線の駅から1時間20分。交通の便の非常に悪いところでありました。しかし、高速交通体系から遅れたおかげで私たちは大きな経済の変動を受けずに、バブルのころも全くなかったと言ってもいいと思います。住んでいれば当たり前ですが、本当に豊かな自然と、そこから育むさまざまな食べ物の恵みにあずかってきた。そういう地域であります。

気仙沼地域には、海、山、川、里、素晴らしい自然が残されてきました。また、気仙沼は遠洋漁業の基地でもあります。仙台や東京という日本の大都市圏との交流よりも、むしろ海を通じて海外との交流が盛んであった町でもあります。言い方を変えれば、気仙沼の食というのは総合力を持っていた。海、山、川、里全てそろって、魚、野菜、米、果物など全てそろってという優れた特徴を持っていたとすることができます。

例えば水産だけを例に取っても、遠洋、近海、沿岸、浅海養殖漁業と多様な漁業が存在し、多種類の魚介類が上がる港でした。そこでは豊富で質の高い加工品も製造されていました。さらに、独特の魚食文化、漁労の文化が残されていたと言えます。私は気仙沼の話をするときによくこの話を紹介するのですが、漁師さんたちは小さい魚は逃がすのですね。幼い魚は逃がす。なぜかと言うと、自分たちが先々食べられなくなるということを肌身で感じるからであります。いわゆる資源管理とか自然保護というのを自分たちの生活の現場でやってきたのが、気仙沼でもあります。また、食べ物を無駄なく使います。せっかく取った魚ですから、骨も食べます。内臓も食べます。残すのは頭としっぽぐらいの、無駄なく食べるという文化も残されていました。そしてまたへき地であり、遠隔地ですから、独立の気概を持った地域でもあります。

こういった気仙沼は、自然との共生に取り組む最適なフィールドであり、さまざまな環境問題を考えるの

に最適なフィールドであったということで、自然と調和、共生を目指す生態系への構築を目指して、行政、経済界、教育の現場など市を挙げて持続発展可能な地域社会の構築に取り組んできました。その代表的な例が、積極的なESDの推進やスローフード運動の推進です。その意味や価値が市民に広がり始めた矢先に、今回の震災に遭ったということでもあります。

津波被害の特徴ですが、先ほどの階上地区は集落ごと流された大変な損害を被ったところでもありますが、気仙沼の大きな特徴は、漁船養殖のいかだ、冷凍冷蔵庫、水産加工場の生産施設が壊滅的なダメージを受けたところにあります。被災事業所数は80.7%、被災直後の気仙沼のGDP、域内総生産は、50%を切っていました。

現状であります、4年たった今ですけれども、復興はまだまだままならない状態が続いています。やっと仮復旧から本復旧の入口に入ったところが現状です。そんな中でも、私たちは2011年10月に復興計画を策定しました。今日ここにいらっしゃる今村先生も、委員として復興計画に関わっていただきました。復興計画のキャッチフレーズは、「海と生きる」という言葉であります。

そもそもこの地方は、1896年、1933年、1960年、そして今回の2011年と、120年余りの間に4度の大きな津波の被害を受けてきました。それでも自然の力を、人の知恵の及ばぬ壮大な力と認めながらも、人間も自然の一部であることを経験的に体得し、私たちは自然を敵視せず、美しいリアスの海と緑豊かな山、川、里といった自然環境と共生しながら海と生きてきたのであります。

私たちの誇りは、アイデンティティは、恵まれた自然環境とそこに暮らす自然と調和した暮らしであり、個性豊かな独自の地域文化でもありました。ですから、海を離れて山で暮らすという選択肢は取れないのです。それには、津波に対しての備えが必ず必要なのだということを感じています。

さて、では、どうやって、どのような考えで、どのように復興させていくかということですが、私たちは震災によってあらためて気付いたことがあります。経済性や効率性も大事だが、温かさも大事でしょう。自然を支配するという考え方から、自然から享受するという考え方へ、富よりも愛、拡大よりも充実、都会よりも古里、近代化よりもつながり、これらのことを感じたのではないのでしょうか。

ですから復興計画の考え方も、ここに突然大都会が現れるわけではなく、ディズニーランドみたいなものが現れるわけでもなく、経済性、効率性を考えながらも地域の文化や伝統を大切に、多様性を認め合う、個性的でバランスの取れたまちづくりを行い、自立した持続可能な地域社会をつくっていくことだと考えています。

つまり、やり方は新しい方法、技術を駆使した創造的なものであっても、今回の津波被害も含めて精神性や文化、伝統、つまりスピリットやマインドは継続させていくことが必要であると考えます。そして、生活の質的水準の向上を目指し、量的な発展ではなく、人間復興の視点、人間の生活の場としての復興を考えていくことだと思っています。

現在、先ほどの理念に基づいた復興計画に沿って施策が進められています。計画の主な柱をいくつかご紹介いたします。当然、2度とこのような悲劇を繰り返さないための防災体制の整備は必要です。したがって、防災体制の整備を強化すること。これはハードだけではなく、先ほどの階上中学校の例もありましたが、ソフトの面においてもきちんとやっていくということでもあります。それから、まだまだ仮設住宅には8人に1人の方がいらっしゃいますので、住まいの再建は早くやらなければいけない。産業の復興も急がなければいけないということです。

ただ、これから先長い目で見ていったときには、まずは持続発展可能な産業を再構築させていくことが必要です。また、徐々にもどりつつある自然環境や景観の復元と保全をしっかりとやっていく必要があるということでもあります。また、持続発展教育、ESDの継続強化と防災学習の充実も、これからの大きな施策の柱に

なるのではないかと考えております。私はこういうことをしっかりやっていくことが、地域の中を横につなぐ。つまりさまざまなステークホルダーが連携することにつながり、また縦につなぐ。意外とこのことは言われていませんが、つまり歴史からの教訓を得ることになっていくのではないかと思います。

地域では「津波文化教育」という言葉も使われております。これはどういうことかと言うと、地域をきちんと知る。地域はさまざまな要素で構成されていますから、自分たちの地域のことをしっかりと歴史から学んでいくということ。そして、いろいろな人たちと連携をしていくということ。まず、これが1点であります。次に地域を誇れる、語れる人を育てるということだろうと思います。このプロセスや循環こそが、最大の防災になるような気がいたします。

自然と共生することは、繰り返すまでもなく自然の怖さも知ることだという下に、必ず地域を知ってそれを語れる。その繰り返しをずっと続けていくことが必要ではないかと思います。私の話は以上です。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

**司会** どうもありがとうございました。今日はお話の中であまりスローフードの話が出なかったのですが、パネルディスカッションの中でもし時間があれば、ぜひそれを聞かせていただければと思います。

**ショウ** 次は今村先生にお願いしたいのですが、今村先生は先ほどライヒトさんの話の中で、ESDのスライドの中で「link to DRR」という単語があって、それはなぜ必要かと言うと、「bigger picture」という単語も結構あったのです。ESDとDRRのリンクがあったら、もうちょっと大きな写真が見えてくるのではないかと指摘があったと思うのですが、それも含めたコメントをいただければと思います。よろしくお願いします。

**今村** あらためて東北大学の今村です。私のほうは、今回の国連の防災世界会議に合わせまして、「防災教育日本連絡会」という組織を立ち上げさせていただきました。そこを代表して、皆さま方に初日に行いました、国際フォーラムの報告をさせていただきたいと思います。そこが、防災と、本日のテーマでありますESDのつながりということになるかと思います。

若干、自己紹介をさせていただきたいと思います。先ほど、階上中学校の皆さま方から今回の被災の状況、またあそこから立ち上がろうという取り組みを紹介いただきました。

私は実は23年前に、気仙沼の皆さま方と津波防災の活動を始めさせていただきました。当時は津波の観測ということで超音波を使って、津波だけではなく海の波を観測できないかという科学的なプロジェクトに参加させていただいたわけです。過去も繰り返し発生している地震・津波に対して地域でぜひ取り組みたいということで始めたのが、23年前です。

先ほど出ました杉の下は、市が指定した避難場所です。なぜ指定したかと言うと、われわれが過去の津波の記録、また、将来起こるであろう宮城県沖地震の連動の地震・津波のシミュレーションを使って、あのエリアは標高15メートルあります。来ないだろうという判断のもと、指定させていただいたわけです。しかし、今回の3・11では、15メートルの高さをはるかに上回りました。3メートル以上でした。そこに逃げていただいた住民の方のほとんどは流されてしまい、今回の最大の犠牲になったということです。われわれは大きな反省をしておりますが、どこが不十分だったのか、さまざまあります。

一つは、過去の資料だけに頼っていた。その資料も100年から200年ぐらい前のものです。それだけでは、今回のような数百年、1000年に1回のサイクルを持つ地震・津波は評価できなかったということになります。これは当時の科学の問題点、限界であります。

まだあります。住民の方々、確かに津波は意識していただいたと思います。あれだけの地震、3分間揺れ、次に来るだろう津波は頭の中にあっただと思います。しかし、行動が取れなかった。また、残念ながら行動が適切ではなかったということになります。これらは専門家だけではなくて、むしろ地域の方一人一人の問題

であるかと思えます。この二つの状況を解決しなければ、今後起こるであろう災害に対してわれわれはまた同じ被害を繰り返してしまうということを常に頭に置いております。そういうこともありまして、今回この会議の中でも防災教育、また、皆さまと一緒に考える啓発も最も重視しております。

先日14日、この会議の初日に、防災教育の交流国際フォーラムを開催させていただきました。これは防災が一つの中心ではありますが、地域の防災力を向上するための教育、啓発、最終的にはresilient（回復する、立ち上がる）、そのための社会を構築したいというものでした。

まず冒頭には、トダ先生に過去20年間、阪神淡路から中越、今日まで至る防災教育の発達、発展の紹介をしていただきました。毎回、災害を繰り返すたびに課題があり、わが国ではその課題に対してしっかり取り組んでいた。しかし、今回の3・11も残念ながら被害を繰り返してしまったということになります。

その報告を受けまして被災地域、福島、宮城、岩手の教育委員会から、まさに学校という現場と一緒に取り組んでいる今の状況を報告いただいたわけです。特に宮城県教育委員会では、学校のきちんとした組織、先生方の責務が大切だろうということで、今、防災の主任、または主幹という制度を設けております。各学校にはきちんと安全、防災を責任を持って実施していただく先生を指定し、かつその方々が地域の取り組みとの連携を広めております。

岩手からも報告をいただきました。岩手では学校の中で被災した方はおりません。残念ながら移動途中、また、自宅で流された方はおりましたが、防災教育は釜石だけではない奇跡が起こっていたわけです。

午後は何をやったかと言いますと、過去20年間を振り返りますとインド洋大津波、中国の四川大地震がございました。いずれも広域で、甚大な被害です。インド洋津波では、23万人の方が亡くなりました。われわれ人類はさまざまな地震津波の経験を持っておりますが、最悪のものです。当時避難警報がなかった、教育もなかった、防潮堤等の施設もなかったということになります。

四川大地震はどうでしょうか。当時の報道を思い起こしていただきたいのですが、学校が、役場が、重要な施設の建物が、形がなく壊れていた。そこで多くの生徒さんが亡くなったということです。それを受けてどのような活動をしているのか、紹介をいただきました。

その次に紹介があったのがシェイクアウト、日本各地での活動ということで、実践的な具体的な例を紹介していただきました。このような議論を踏まえて、次のスライドをお願いします。当時の様子です。今日のような大きな会場ではないのですが、250名入るところに合計330名の方に来ていただきました。

かつ展示ということで、皆さま方の防災アクションゲームやパネル、P波、S波を学ぶ器具も置いていただきました。

われわれは今回のフォーラムの終了に際して、「仙台宣言」を挙げさせていただきました。まず背景について、口頭で紹介させていただきます。「防災教育は、全ての防災対策の基礎である、礎である。自然災害を乗り越える力は、過去の経験、先人の知恵を学び、家庭、学校、社会において協働で日ごろから実践し育ていく、われわれ一人一人の能力に掛かっている。その力を組織的に高める試みが、防災教育である。私たちは防災教育を積極的に進め、自然災害から貴い命を一つでも多く救い、多くの人々と協力しながら厳しい状況を克服していかなければいけない」。このような背景の下、四つの宣言を挙げさせていただきました。

一つ、国内外の被災地及び被災懸念地域と連携し、各学校や地域等での実践を支援する。経験を共有するとともに、学校防災、地域防災における研究者、実践者の人材育成を進める。

二つ目、世界各国における自然災害リスクの軽減を念頭に、学校防災、地域防災に関して、東日本大震災を含む日本の大規模災害からの教訓を、国際的に積極的に発信する。

三つ目、ポスト HFA の枠組みにおいて国連機関等が推進するセーフスクールの枠組みと連携し、国際的に

発展可能な、展開可能な学校や地域における災害リスク軽減に関する研究、実践、普及、高度化に貢献する。

最後、四つ目でございます。レジリエントな社会の構築に向けて持続可能な開発のための教育、ESD との連携を図りつつ、災害アーカイブ等との震災記録の活用を含む地域に根差した全ての市民を対象とする防災教育モデルの開発、実践、普及、高度化を目指す、です。本日のパネルディスカッションにおかれましても、この四つについてご意見をいただき、この内容を合意いただきましたなら、この会議の中でも周りの参加者、関係の皆さま方にぜひ伝えていただきたいと思います。以上です。(拍手)

**ショウ** 今村先生、どうもありがとうございました。非常に現実的な提案だと思えます。それについてあとで議論していきたいと思えます。ありがとうございます。

続きまして、今度はフィリピンです。フィリピンのアモーレ・デ・トレス先生にお願いしたいと思えます。できるだけ簡潔にお願いしたいと思えます。ディスカッションの時間を取りたいと思えますので。

**トレス** ミンダナオから平和の祈りをお伝えしたいと思えます。今回、お招きいただいたことをとても光栄に考えております。アモーレ・デ・トレスと申します。フィリピン・ミンダナオ島のカガヤン・デ・オロシティーという都市から参りました。私は、センドン台風の被災者です。フィリピンは気候変動の影響は、世界的にも象徴的な国だと言われております。なぜかと言えば、このようにさまざまな災害に見舞われているからです。2014年、フィリピンは自然災害に関しては最も自然災害を受けやすい国の第2位になりました。暴風雨、洪水、地震、火山噴火、干ばつ、地滑りなどに関連してです。2013年、フィリピンの海面上昇60センチ、これは1901年以来、世界的には19センチだったのですが、しかし、WMO（世界気象機関）によって、フィリピンは60センチ上昇したと言われてました。2013年10月ボホール地震が起きました。マグニチュード7.2、222人が亡くなりました。7万3000の建物が被害を受けました。

これは？フィリピン気象地質宇宙局から出されたものです。同じ年、ヨランダという台風に見舞われました。高潮は6フィートの高さに及び、6000人以上が亡くなりました。全部で300万人のフィリピンの人たちが、被災者として大変悲惨な目に遭いました。

2011年、センドン台風によって10時間の間に455ミリの猛烈な豪雨に見舞われ、その結果、鉄砲水が起り、1200人が亡くなり、1万5000人が被災者となり、さまざまな農作物、さまざまな建物、財産などが失われました。私はこの台風を経験しました。15分もたたないうちに20メートルの高さの水に完全に家は水没しました。屋根に登らなかったら、近所の人と同じように私たちも死んでいたかもしれません。1月に教皇フランシスコがわが国にやって来て、ヨランダの台風の被災者に対して連帯を表明してくださいました。気候変動によって経済的に貧しい人たちが、社会で置き去りにされてきた人たちに対していかにこのような不公正な状況が生じるかということが明らかになりました。

また、国内避難民モニタリングセンター(IDMC)によれば、同じ規模の台風が襲った場合、フィリピンと日本を比べれば、死者の数はフィリピンのほうが17倍になり、避難民の数もフィリピンのほうがずっと多いであろうと言われております。それは、フィリピンの社会経済的な弱点によります。それによってこのような自然の猛威が災害になるわけです。

ヨランダに関しては、1年ぐらいい経過してもいまだに復旧は遠い道のりです。フィリピンはそれぞれに対してどのような対応をしてきたかと言うと、これに対して強靱化に努めてまいりました。つまり開発のパターンを変えることで、まずは現存するリスクを減らしていく。そして新たなリスクに備え、吸収力、適応力、変換能力を高めること。これがわれわれにとっての強靱性ということなんです。

強靱性というのは、これからもっと頻繁に、しかももっと強い台風が襲ってくるのが当たり前のことになると受け止め、その中でより強靱なインフラをつくり、強靱な経済と社会をつくっていかねばいけない

ということです。

カガヤン・デ・オロ市、特に私のいるキャピトル大学においてはこういった取り組みを行っているかと言いますと、まず本学においては、防災イニシアチブ、防災教育として三つの分野に関わる活動を行っています。まず、『センドンの夜』という本です。これは8歳から11歳の被災者の子どもたちの声をまとめたものです。フィリピン語で最初作られ、その後英語に翻訳されました。多くの意味でこれは役に立ちました。

例えばこれは防災教育でも使われました。というのも、それぞれのストーリーのあとに論点がまとめられていたからです。また、これを読む人にとっても、若い人でも年寄でも同じような苦しみを味わってきた人たちにとってはストレスを和らげるものともなりました。また、これは補助教材としても使えることになりました。フィリピン語で書かれた教材そのものが少ない中で、大変有用でした。

二つ目としては、2014年に行われた「MOVE PHILIPPINES」です。これは国際交流基金とキャピトル大学が協力したものです。プラス・アーツという日本の団体、タイの Club Creative 社、マニラの63社以上が一緒になって、教育のためのゲームを防災に関して作ることになりました。災害に対する備えを、ゲームのような形を通じて分かりやすく学習できるようにしようというものです。八つの新しいプログラムが作られ、その中で子どもたちはいかに災害から生き延びるかというテクニックや知識を学ぶことになります。まず、パイロット的な形で公立学校、私立学校、150人ほどの生徒を対象にカガヤン・デ・オロ市でこれを教育に使用しました。生徒に聞いたところ、これによって大変楽しく防災について学ぶことができると答えていました。

また、防災強靱化チームをつくりました。この中で「MOVE PHILIPPINES」を、まずはカガヤン・デ・オロ市の小学校から導入し、全国的に広めていくことになりました。『センドンの夜』同様これも防災教育で役立てられることになるでしょう。

三つ目は、地方政府との協力の下で地域社会強化のためのプロジェクトを防災に関してつくっていきましょうというものです。18のモジュールに対して AUSAID という、オーストラリア国立大学（オーストラリア国際開発庁）、気候変動学会、基金などが協力をし、その中で早期警戒システム、例えば雨量計やハザードマップなどについて学ぶことができます。こうした防災に関する技術を活用することを、カリキュラムの中に取り込んで防災教育を行おうとしております。

アキノ大統領も言っています。「われわれは災害による破壊と復興の繰り返しといったような運命は、われわれとしては受け入れられない」ということで、持続可能な開発のための教育をぜひ防災に役立てていきたいと思えます。本日はお招きいただき、ありがとうございました。（拍手）

**ショウ** トレス先生、ご自身の経験からのお話ありがとうございました。ESD と DRR の全体的なお話で、具体的な教訓といういろいろなお話を伺いました。

ESD、DRR の両方ではコミュニケーション、伝えるというのが、一つ非常に重要だと思います。ぜひ武田さんからお話ししたいと思えます。武田さん、よろしく願います。

**武田** ご紹介いただきました、河北新報の武田と申します。よろしく願います。

新聞社の人間であれば、いつもは皆さんの意見を取りまとめたり、論評したりという立場ですが、今日は防災・減災啓発の実践者という立場でこの場に呼ばれました。われわれ新聞、メディアとしての取り組みを説明して、それが教育界が進める防災の取り組みないしは ESD の趣旨とも密接に関わるということでお話を進めてまいりたいと思えます。

まず、河北新報は震災1年後、それまでとは違った啓発報道の取り組みを始めました。小さなワークショップを月に1回開催して、震災月命日の11日、毎月11日に、その結果を逐次防災特集紙面3ページ掲載しております。町内会、子ども会、学校、病院、職場など地域の小さなまとまりに働き掛けて、専門家や記者と一

緒にその場に必要避難や備えの具体策を話し合う、語り合う。名前は「むすび塾」と付けています。人と人、人と地域を結んで備えの輪を深く広げていきたいという願いを込めました。これまで41回、2月までで開いております。地元宮城東北だけでなく、災害が懸念される北海道、宮崎、高知、愛知等でも開きました。それから、大きな津波被災の経験をわれわれと共有するインドネシアのアチェとチリでも開きました。

以上の取り組みは、震災前の啓発報道への反省に基づいた取り組みであります。この地域は三十数年に一度大きな地震が起きると言われ、「宮城県沖地震」と言われましたが、それに備えて、私たちは地震や津波に警戒を呼び掛ける報道、紙面づくりにかなり力を入れて取り組んでまいりました。全国でも最も防災啓発の報道に力を入れていた新聞社であったと自負しております。

しかし、大震災では主たる発行地域である宮城県だけで1万1000人の犠牲が出てしまいました。震災の半年後に、仮設住宅にいる被災者にアンケートをしました。「河北新報の紙面は皆さんの避難に役立ちましたか」という問いに対して、「役に立たなかった」という人たちが72%でした。先ほど「自負を持って全国で最も力を入れていた」とご紹介しましたが、われわれが行っていた啓発報道は、広く浅くただ呼び掛けるだけの啓発にとどまっていたのではないかと。実践に結び付かない、一方通行の啓発報道だったことになる。もっと言うと、「われわれの記事、紙面によって地域の命を守る」という気概に欠けていた。

アンケート結果を特集した紙面が右側にありますけれども、この紙面では当時の取材部門の責任者だった私の立場で、そういう内容の反省文を載せてあります。より深く深く報道機関自らが仕掛けて、実践に結び付く啓発に乗り出す必要があるのだろうと書いたことを、試行錯誤の途中ではありますが実行に移しているのが、「むすび塾」の取り組みであります。むすび塾以外の防災の取り組みも含めて、キャンペーンを展開しています。タイトルは、「命と地域を守る」と決めました。河北新報社自身の誓いであり、読者や地域自身の誓いにしてほしい。そういう願いを込めています。

このキャンペーンに取り組んで、あらためて気付いたことがあります。防災というのは、あらゆる仕事や活動の原点を問い直す起点になり得るということです。報道メディアにとって何が一番の使命なのか。さまざまありますが、大震災が起きてみれば、特に地域密着の地方新聞、そこで仕事をする者にとって地域の人たちの命に関わっていること、地域を守ることが最上位になる。その自覚を確かめたのが震災であり、今の防災の取り組みの出発点になっております。

われわれの取り組みと私が確かめたことを説明したわけですが、それは教育界も、経済界も全て同じではないか。例えば、宮城教育大学は復興支援センターを構えて、大学の枠を超えたさまざまな復興支援、学習支援、防災教育の取り組みを続けていらっしゃいます。被災地にある唯一の教員養成単科大学の責務として復興を支え、防災教育の先頭に立つ人材を育てる。少々力んでいる様子も窺えないわけではありませんが、そんなに複雑な話でもないだろうと。大災害を経験してみると、先ほど言ったわれわれの報道機関と同じように犠牲に対する反省があって、被災後、地域の核としての学校の重み、教員という仕事の原点を直視させられた結果なのだろうと思います。そのためには、大学という枠の中で教育人材を育てるだけでなく地域や市民の中に自ら働き掛けて、教育の立場から防災や復興に力を尽くす。そういう取り組みが必要だということが、共有された結果として復興センターの活動が今あるのだろうと思います。

宮教大の活動は、初期は学習支援、被災地へのボランティア派遣といったレベルにとどまっていた印象があります。それが次第に防災の本質、そこに教員や大学がどう関われるか、地域とどう協働できるかといった問題意識による活動、発信に変わってまいりました。命と地域にもっと積極的に関わっていこう、そういう人材を育てていこうという大学の責任感、気概を感じます。

その他の団体や企業も同じです。先日、当報の紙面でも紹介しましたが、仙台青年会議所は災害発生時の

安否確認や救助の判断を、黄色いハンカチを掲げることでスムーズに進めようというプロジェクトを独自に始めました。それぞれが命と地域を守るために、自らの立ち位置を問い直して動き出している。大切なのは自分たちの仕事や活動、あるいは存在は、隣人の命、地域の命と直接関わっているという自覚、実感なのだろうと思います。それを最もリアルにとらえて実践できるのが、防災なのだろうと思います。

ESD に関して私はあまり詳しくありませんが、目指されているのは人格の発達や自立心、判断力、責任感などの人間性を育むこと。それから、他人、社会、自然環境との関係性を認識し、つながりを尊重できる個人を育むこと。そういうふうに書かれていました。これは、今までお話したようにまさに「命と地域を守る」の視点であります。震災を経験した私たちが手にした防災の要点です。本日のタイトルは、「ESD を通じた防災・減災の展開」とあります。おそらく防災・減災を軸にした ESD の展開、そういう視点こそが求められているのかもしれないと、素人ながら思いました。

最後に、防災がより大切なのは、地方や地域が実践や考え方の出発点になるということです。災害はほとんどのケースで、普段目配せが行き届いていないところ、弱いところで大きな犠牲が出ます。今回の東日本大震災もそうでした。大きな犠牲と被害が出たのは、発展軸から外れた地域、沿岸部の町や集落でした。国土の格差が放置されて、発展の偏りの中に置かれた地域に大きな被害が集中した。そういうことは絶対に忘れてはいけない。何がこうした地域の自立を阻害して、衰退をもたらす結果になっていたのか。そこまでさかのぼって掘り下げて考えて行動することが、われわれ報道機関も教育界も求められている。

防災を突き詰めていくと、災害以前からあった開発や発展上の格差、支配、放置の構造そのものを問い直す作業になります。それはまさしく ESD の核心だろうと思いました。足元の震災被災地から始まって、日本国内の同じ構造に置かれた地方、地域、被災が繰り返されるアジアの貧困地域、世界の災害多発地域へと思いが及んで、ローカルから始まってグローバルな実践と思考につながっていく。環境も含めてグローバルな視点で問題の本質を考えて実践していく。その出発点として、防災の意義はもっと強調できると思います。以上です。(拍手)

**ショウ** 武田さん、どうもありがとうございました。私も昨日、一昨日、メディア関係の方たちと、いろいろな防災と情報をどうやって伝えていくか。そこからどうやってものを学んでいくか。教訓を今度の備えにどうつなげていくかという議論もしてきたので、その必要性をもう一度あらためて実感しました。どうもありがとうございます。

では、角地さん、海外と日本で長年にわたって活動をしていらっしゃると思います。日本に住みながら海外の視点を忘れないでいらっしゃると思います。持続可能な発展のための教育と、防災教育の相乗効果をどのようにお考えでしょうか。

**角地** ありがとうございます。英語で話させていただきます。

私は国際メディアの記事を書いています。仙台に4年前に来ていろいろな記事を書きました。私の記事を読んでいる人は海外の人です。そうすると、東北の文化、東北の何が必要だということは私の記事の中でも大事だと思います。この災害のとき、海外からいっぱい援助が来ました。私の記事を読んでいる人たちも「何を送ればいい？ 何が今必要？」と。そうすると国際報道の責任感、記事を書いている中では、正しく災害を経験した東北の人たちの気持ちをまずまとめないといけない。それを私は認識しました。

その中で、非常に大事な記事になるのは、「希望」ということです。4年前、私が来たとき、いろいろな避難所を回っているいろいろな人と話をしたとき、その人たちが一生懸命のことを考えている。大変な経験を乗り越えるところが、私にとってすごく大きな報道でした。だから今も、防災教育の中で希望、あきらめない人間の強さをずっと忘れないで書くことがとても大事だと思います。一つ、昔を思い出すと、私がよく書いたのは、どこの学校に行っても、鶴をいっぱいぶら下げている。その意味を、できるだけ私は海外の読者に

伝えようと思いました。

今日、フィリピンの話でも、私はスリランカに生まれ育ちましたが、発展というと経済発展のことしか皆さん考えてないのです。これをどんなふうに温暖化につないでいるか。将来的に、目の前の将来だけではなくて20年、30年後、今、子どもたちもいっぱい来ていますが、そういうふうに報道することがとても大事だと思います。

この東北の災害から、私たちはアジアの中でもいっぱい学ぶことができます。アジアの中でも地域が密集して、地域と学校のリンクなどいろいろな活動を一緒に起こしています。そうした報道と日本の報道と一緒に、お互いに勉強する場があればいいなと私は思います。(拍手)

**ショウ** 角地さん、どうもありがとうございます。非常にキーワードをいただいたと思います。「希望」ですね。私から見ると、今日のこの場の一番楽しいところは、会場の皆さんの中に学生さんが多くいらっしゃるということです。小中学校、高校生と大学生もかなり多くいらっしゃるという話ですが、この防災会議でいろいろな宣言がされたりして、今度15年間の防災の枠組みで、一番最初のライヒトさんもおっしゃってくれた、ESDの今後の枠組みとして10年、15年先の話をするとき、15年先には皆さんの中からどなたかがこちらに座っていて、われわれは向こうに行かないといけないと思っています。

## 質疑応答

**【質問者1・大学生（東京）】** 貴重なお話ありがとうございます。ESDを通じた防災・減災の展開というのが今後非常に大事だということが分かりましたが、これを実践していく教員養成はどのようにしていくかということを知りたいと思って、質問させていただきました。よろしくをお願いします。

**ショウ** ありがとうございます。あと三つ、四つ質問を受けたあと、パネリストの先生方にお聞きしたいと思います。ほかにどなたかいらっしゃいますか。

**【質問者2・NPO職員（東京）】** 貴重なお話どうもありがとうございました。どなたでも結構ですが、グローバル・アクション・プログラムで少し話があったのですが、これを具体的に落としていくとどんなものを教えていただければ幸いです。以上です。

**ショウ** ありがとうございます。あと2点ぐらいあれば、一番ありがたいのですが。

**【質問者3・高校生（東京）】** 今日はどうもありがとうございました。今日の話は、防災・減災について教育を通じて子どもたちなどに啓発運動をしていくという話だったと思いますが、今回の震災でもう一つ大きなテーマであった原子力発電の事故については、今までどのような教育をなさっていたのか、何かあればお願いします。

**ショウ** どうもありがとうございます。では、お願いします。

**【質問者4・大学生（東京・仙台出身）】** 今日はお話ありがとうございます。一つお伺いしたいのが、今回このフォーラムというか、防災・減災の取り組みをされているのが、東日本大震災を中心にいろいろ被害を受けた地域がメインだと思います。これからの日本の将来、持続可能ということを考え、将来、未来に向けてというお話をされている中で、これからいつどこで災害が起きるか分からないと思います。災害が少ない地域、津波などなかなか被害がない地域にどうやって防災教育の必要性を訴えていく必要があるのか、お尋ねしたいと思います。よろしくをお願いします。

**ショウ** どうもありがとうございます。前のほうで一つ手が挙がっていたと思います。どうぞ。



**【質問者5・高校生（仙台）】** 私の場合は感想になります。私は小学校6年生のときに地震を経験して、それまで1年生からずっと避難訓練をしてきましたが、その間、あまり大きな地震がなくて、地震というものにあまり……、「そこまで大きくもないのでは？」といった考えがあったのですが、経験することによって考えが変わり、私たちのこの経験は、経験しないと分からないこともあるけれど、それをどうやって伝えていくかというのが問題だと思います。先ほどの方が言ったように、災害の少ない地域にどれだけ伝えていくかというのが、経験した私たち宮城県民の課題になると思いました。

**ショウ** どうもありがとうございます。非常にいい感想です。どうもありがとうございました。それでは次を最後の質問として、このあとはパネリストにお願いしたいと思います。

**【質問者6・海外参加者】** インドネシアのバンダ・アチェから参りました。防災、ESD、これはユネスコにとっても新しい用語です。そこで提案ですが、インドネシアの被災地、あるいはフィリピン、日本、世界各地の被災地間で一つの連携をつくって、人々にメッセージを配信することにはいかがでしょうか。ユネスコの学校への取り組みも含めて行っていけばと思います。

**ショウ** ありがとうございます。まず、教員育成の話があったと思うのですが、一つ一つ質問に答えていくというのではなくても、今までの質問に対してパネリストの皆さんからできればお話ししていただきたいのですが、どなたが最初になりますか。グローバル・アクション・プランの実際の導入に関してありましたが、どうでしょうか。

**ライヒト** 教職員の役割と、グローバル・アクション・プランとの関係について、一言申し上げたいと思います。

先生の役割は、ESDの中で、もちろん重要なものです。さまざまな具体的な行動を、実際教師の側でもとることができると思います。例えば、まず教師の側においてESDの重要な役割を理解し、これを新しい科目というふうに捉えず、むしろESDを現在教えている全ての科目の中に取り込んでいくことが必要です。また、実際今日の休憩前の最初のセッションでのプレゼンテーションにもありましたが、先生も一歩下がって生徒を信頼して生徒に主導権を与えることも、ESDにおいては重要だと。これは一つの具体的な提言として言えるかと思います。教職員に関しての優良事例の中で見られたものです。

また、グローバル・アクション・プランの具体例としていろいろ具体的な行動を、私たちはいろいろな出版物の中でも提案しています。「Roadmap for Global Action Program」が、愛知の会議のあとで出されました。その中で五つのアクションの分野に関して、さまざまな行動が提案されています。例えば個々の教育機関、個々の学校におけるものとして、これから2、3年かけて、ユネスコスクールの一部に対して学校全体を通して全学的なアプローチを奨励する。また、それを支持してほしいと思います。いかにして個々の学校において、ESDを何か特別な科目というふうに捉えるのではなく、むしろ総合的なアプローチを取ってほしいと考えます。

また、キャンパスと共同体、つまり学校と地域社会の関係も重要で、こういったものもユネスコスクールなどで始まっている具体例として申し上げられるかと思います。ありがとうございます。

**今村** 答えられるところで、よろしいですか。私から三つ答えたいと思います。まず一つは、原子力発電、原子力の、啓発も含めた教育についてです。ご存じのとおり原子力は非常にエネルギーを出す有効なものではありますが、同時にとてもハイリスクです。日本も50年くらい前からかなり開発をし、実践しているのですが、当時どういう啓発教育をしていたかと言うと、「本当に素晴らしいものです。一方、危険もあります」と、最初は同じような形で並列して説明されていました。しかし「危険性、万が一になったらとても大変なのでやはり要らない」「いや、必要だ」という中で、どうしても安全神話というのがだんだん出てくるようになりました。特につくる側は、「いや、リスクはあると言っても本当に小さいから。そんなものはわれわれ生きている間にはないから」という形で、それが絶対安全だということが伝わってしまいました。

そういう状況で、万が一津波が来たときに例えば避難訓練をしてみるとかいろいろな対応を取りたいけども、そういうことをすると、「いや、皆さん、電力側は安全だと言ったじゃないか。それはうそか」というような形で、対立が進んでしまったかと思います。われわれは今一度、安全性というものと、その利用というものを考えなければいけないと思っております。

二つ目、低頻度のところでどうやって啓発をするのか。経験したならば誰でも分かることですが、経験しないものをどう伝えるかということです。これは本当に難しいのですが、われわれ人間というのはいろいろな状況を見て、知って、想像することができます。想像によって体験に近いものがあります。頭の中での理解だけではなく、体を使ったり、実際に動いてみたり、触ってみたり、それによって疑似体験ができる。それが一つ有効なものかなと思います。

三つ目、教育養成について。これは見上先生にお答えしていただいたほうがいいと思いますが、私から答えると、教員養成するためには、例えば防災というものはどういう学問なのか。最初に必要なもの、次に必要なもの、また展開すること、そういうものをきちんと整理して、学問として体系化する必要があります。体系化して初めて、先生方に教えていただくような内容ができると思います。それが、実はまだまだ防災というのは皆さんと議論しているところなので、そういうことと教員養成と同時にやっていかないといけないのかなと思います。以上です。

**ショウ** どうもありがとうございます。トレス先生、どうぞ。

**トレス** 私からは、高校1年生の方のご質問にお答えしたいと思います。どうしたら経験していない人たちに対して防災教育を行うことができるか。一つは、ストーリーを出版物という形で伝えることができます。例えば先ほどフィリピンで出版されているこの本の話をしました。これは現地語で書かれていて英語に翻訳されたものですが、例えばカナダにおいては、今やこの問題の大きさに鑑み、今このストーリーを広く広めようとしています。経験のない人たちに対しても、こういった本を通じて災害教育を広めようとしています。

**ショウ** 武田さん、何かコメントがあれば。

**武田** 私からは2点お答えします。原発で教育は何を教えていたのかというのは、そのまま報道と置き換えれば同じような質問になると思います。先ほど私が申し上げた、震災以前の防災報道の反省は、そのまま原発を巡る報道の反省と同じです。したがって事故が起こったことの批判のみで済むのではなく、これからは危険性を踏まえた地域の今後、地域の人たちの命がきちんと守れるかどうか。そういう視点で、提案型できちんと検証していかなければいけないと思います。

もう1点は、世界の被災地間できちんと連携して発信していく必要があるのではないかとという質問と、高校1年の方のご質問の被災地ではない人たちにどういうふうに伝えたいのかというのは、全く同じようなことだと私は思います。

被災地だから連携しなければいけないということもないですし、被災地じゃないから連携できないということも全然ないということも、まず踏まえる必要があると思います。われわれの発信を待っている人たちが相当数います。私たちの新聞はこの宮城というエリアを中心にしていますが、われわれが先ほど説明した「むすび塾」という取り組みを始める際に、全国には地元紙が山のようにあります。その地元紙と「むすび塾」を共催する形でわれわれの書くものを地元紙さんと共有して、それをまた住民に伝えていく。こちらから語り部を伴って行って、体験を下にその地域に必要な防災対策を話し合うというようなこともやっています。

それから、先ほどのアチェの方からもあったように、われわれはJICAと連携してアチェで「むすび塾」を開きました。そうすると、被災地間での人々の連携は非常に深まって、「あなたも同じようなつらい思いをしたんだね。であれば、私たちの役目はこの経験をきちんと伝えていかなきゃいけないことだね」と、逆に

アチェからこちらの被災地が学ぶような場面もありました。そういう取り組みをやはり地道に続けていくことなのだろうと思います。

宮城県民の課題ではないかというようなご指摘が、高校1年生の方からありました。まさにそのとおりだと思います。宮城県民は宮城県民のためにいるわけではなく、これから全国、世界に向けて皆さんが活躍するフィールドが出てくる。その場で自らが経験したことを、隣の人に語り合う。そこからまた1人の命が救われるのであれば、そういう活動をつなげていかなければいけないと思います。そういうことの重要性を報道も気付いたし、教育も気付いたし、市民の方々も気付いた。これを忘れないで継続していくことが大切だと思います。

**ショウ** ありがとうございます。菅原さん、よろしいですか。一言お願いします。

**菅原** 今、武田さんも言われました。やはりわれわれも、例えば気仙沼のことを今どうやって外に伝えようかということをしている考えです。一人一人がいろいろなところに呼ばれているいろいろな話をするというのは一番簡単にできることですが、でも、数は限られますよね。だとすれば、今度は今村先生が言ったような話で、発信方法、伝え方を少し考えていく必要があるのかなと思います。疑似体験ということもあるでしょうし、何かのプログラムを作ってそれが伝わるようにするという方法もあるかもしれません。今3Dでも体験できるようになっています。そういった技術を使いながら浸透させるというか、発信をしていくことも大切なのかなと思っています。

**ショウ** ありがとうございます。角地さんはいかがですか。

**角地** 災害がない地域というお話がありましたが、そういう地域はないんじゃないかなと思います。いろいろな災害が起こっている。例えばスリランカでは、野生のゾウが襲ってくる。それも一つの災害の中に入っています。だから、災害で自分の価値観がどんなものとか、全部失ったらどうやって立ち上がるかということは、いろいろな人がいろいろな場面で経験していると思います。それをお互いに語り合って、お互いにそれを勉強の場にするということは、DRR はとても大事な場ではないかなと思います。

**ショウ** どうもありがとうございます。このような素晴らしいパネラーの皆さんがいらっしゃるし、大勢の方たちもいらっしゃるの、本来ならもう1回実際にやりとりできればなと思っているのですが、時間の関係で、もし、どうしても一つだけ聞きたいという方がいらっしゃれば、一つだけ質問いかがですか。じゃあ、そちらどうぞ。

**【質問者7・中学生（仙台）】** 今日素晴らしいお話をいただきました。今は防災についての教育に対してのお話でしたが、避難することに関しても、障がい者、身体障がい者はもちろん、脳に障がいがある知的障がいや自閉症、多動症などの人たちがどのように素早く避難させるかということについてはどのような教育をしているのか、お願いします。

**ショウ** どうもありがとうございます。非常に素晴らしい質問だと思います。この会議の中でも、防災会議の本体会議の中でも、この議論はよくされていると思います。皆さんに聞く時間はないと思いますが、今村先生、何か一言あれば、よろしくをお願いします。

**今村** いわゆる支援が必要な方ですね。まず、われわれはどういう方々に支援が具体的にどのように必要なのか。これを理解する必要があります。そういう教育をさせていただく。では、その支援はいつ誰ができるのか。これは大変難しい問題ですが、一つ一つ考えなければいけない。

さらに言うと、要支援者の方は全てリスクはありますが、できるだけ安全なところにいていただいて、本来避難しないようにしたほうがいいのですね。このような考え方を伝えさせていただいております。よろしいでしょうか。

**ショウ** ありがとうございます。本当はもうちょっと続けたいという感じですが、時間の関係で。今までの話はなかなかまとめられないという感じですが、3時からずっと皆さんのいろいろな話を聞いて、自分は何

が一番耳に残るかということは、皆さんそれぞれの考え方が違うと思います。少なくとも私なりの解釈ですが、まず1点目は今日のメインテーマ、持続可能な発展のための教育、ESDと防災教育の共通の点は何か。スライドの中でESDは、防災教育そのままか、防災教育がESDそのままかという話もあったと思いますが、特に一つ非常に重要なのは、日ごろの防災、日ごろの準備、毎日の準備をどうやっていくかということ。特に防災教育の一つが非常に基本的なことだと思います。毎日の準備の中でやったことは、何かあったときにつながっていくことなので、その辺がESDと防災教育の非常に共通点だと思います。日ごろの準備、毎日の準備を、毎日やっていって体で覚えることが、一つ目です。

二つ目は、今までいくつかパイロット的にいろいろな地域で防災教育、ESDの教育、ユネスコスクールなどはやっておられたと思いますが、これから必要なのは、それを全部の学校、全部の地域で。さっきの話でも、非常に低頻度な地域でどうやって広げていくかということが重要だと思います。これからやっていかなければならない大きなことは、全学校、全地域で防災教育とESDをどのようにやっていくかということが、二つ目だと思います。

もう一つの共通点は、皆さんのお話の中でも出ていたと思いますが、ESDでも防災教育でも、学校の中ではそういう教育ができないですね。学校と地域、地域と家庭をどうやって結び付けていくかということが実践事例からもいくつか出ていたし、階上中学校の子どもたちの発表の中でも出ていました。どうやって学校、地域、家庭を結んでいくか。それもESDと防災教育の共通点ではないかなと思います。

四つ目の言葉は、教育はあくまでも行動に移していくための教育です。もちろん教育でもものを知って、いろいろな興味を持って、自分の一つの願望になって、実際はあくまでも行動です。どうやってアクションにつながっていくかということがESDとDRR、防災教育、この二つの進展ではないかなと思います。それ以外、パネリストの皆さん、3時からの最初の講演の中でもいっぱいいろいろなキーワードが出ていたと思いますが、皆さんがどんなキーワードを頭の中に残しながら帰るかはお任せします。

英語でプロセスとプロダクトというのがありますが、教育はずっとやっていくという一つプロセスだと思います。だから、これが終わったら全部教育が終わったわけではないのですね。これはずっと行かないといけない。それはESDの場合も、防災教育の場合もそうだと思います。その辺りをみんなで一緒にやっていかないといけないので、学生の皆さん、市民の皆さん、海外から来られている皆さん、みんなでやっていかないといけないと思います。

全然まとめになっていないと思いますが、時間の関係でこの辺りで今日のパネルディスカッションを終了させていただきます。ご清聴、どうもありがとうございました。

### 第3回国連防災世界会議 宮城教育大学・エクスカーシオン被災地視察研修報告(3月18日・水)

会議参加者を対象に、被災した若林区や名取市閑上地区を含む被災地域の学校現場を英語で案内する「被災地視察研修」を本学の被災地出身の学生が企画実施した。取材のため帯同したマスコミ関係者を含め34名が出席した。

#### 研修箇所

- 1) 名取市「洞口家」いぐねの学校
- 2) 閑上中学校



名取市「洞口家」いぐねの学校

- 3) 名取市日和山
- 4) メープル館 昼食
- 5) 仙台市立荒浜小学校



### 参加者からの感想

How did you like the tour?	Any DRR in your country?
Thank you very much for the tour - it provides great and valuable experience	I am working on detecting outbreaks caused by natural disasters and ways to reduce the rising and long term effects of nature-made and exposures. We need to learn how to better protect all in needs and create supportive and resilient communities. Thank you for your hard work!
非常に良い経験をさせていただきました。地元の人だから出来る観光だったと思います。ただ、私個人の意見ですが、現地の人のお考えをもっとお聞きできればよかったです。頑張ってください。	
Wonderful trip! Very informative and inspiring. Good organization. Keep doing this.	I'm a geologist and work with satellite images. We do change detection, i.e., before and after event comparison. The challenge is to deliver this type of information in real time to the first responders. Should you need or want to know more about the use of satellite images for disaster risk reduction, please contact me at Boston University Center for Remote Sensing.
It's a great chance for us to learn and gain knowledge about disaster especially earthquake and tsunami. We understand better what had happened in 2011. Really worthy to share what we learned from this tour. I do appreciate it. Thank you very much MUE & everyone involved here.	Early warning system (tsunami & eruption) City plan & design (flood) Trauma center Prevention training
This has been a learning experience. It was very informative. The tour guides were professional and gave personal experience which was quite touching. The efficiency and time management was very good. I would have liked a longer tour, but as a whole, it was very good!	The ODPEMC (Office of Disaster Preparedness Management) usually send out bulletin and other disaster risk measurements to reduce and to also educate the public.
The tour was very informative. Thank you for your patience with our questions and a very well spent day.	
It was fantastic. I was very honored that the students shared their experiences so generously with us. And it was a real privilege to have access to the school and house. Thank you!	I work for an organization that uses media and communication for development (including DRR) and emergency response: BBC Media Action. I'm certain we could learn a lot from Japanese broadcasters.
Very interesting. Extremely well organized. Nice mixture of different sites visited Very kind students	Flood hazard mapping in all flood-prone communities Flood prevention & mitigation through embankment (which causes negative effects down stream)

- I 年表
- II 支援実践部門
- III 研究開発部門
- IV 人材育成
- V 刊行物
- VI 外部資金
- VII 国連防災世界会議報告
- VIII メモリアルイベント報告
- IX 資料

## 参考資料

## 第3回国連防災世界会議 宮城教育大学・エクスカーショ 被災地視察研修 概要



### 目的：

本学は、震災以前からESDの一環として、仙台市若林区沿岸地域において、伝統的で持続可能な暮らしを体験する「いぐねの学校」を実施してきたが、今回の東日本大震災によりその地域も甚大な被害を被った。

この度、本学の被災地出身の学生が中心となって、国連防災世界会議の参加者を対象に、被災した若林区を含む被災地域の学校現場で「被災地視察研修」を実施し、本学や国内の教員養成大学からの協力を得た、復興に向けた教育支援の取組などの情報を発信する。

また、今回の研修視察は会議スケジュールの都合により半日としたが、今まで本学が視察した地域（気仙沼・石巻・女川・南相馬市など）の情報も提供する。

1. 日 時 2015年3月18日（水） 8：30～13：30
2. 視察場所 重要文化財「洞口家」(いぐねの学校)・名取市立閑上中学校・名取市日和山・仙台市立荒浜小学校・閑上朝市
3. 参加者 海外からの参加者優先（先着40名）
4. 参加費 無料（昼食は各自負担）
5. 申込先
  - 宮城教育大学 教育復興支援センター・企画調整室
  - 8：00 宮城教育大学 スタート
  - 8：30 仙台駅前 スタート
  - 名取市「洞口家」いぐねの学校 視察
  - 閑上中学校 視察
  - 名取市日和山 視察
  - メープル館 昼食
  - 仙台市立荒浜小学校 視察
  - 閑上朝市 視察
  - 13：30 仙台駅 着
  - 14：00 宮城教育大学 着

## メモリアルイベント報告

宮城教育大学 教育復興支援センター メモリアルイベント

震災から5年  
私たちはあの日を忘れない

2016年3月9日(水)～3月14日(月)

## 目的

震災から5年目の節目にあたり、東日本大震災を忘れないため、被災地視察研修やメモリアルフォーラムなどを開催する。

## 日程

## 3月9日(水)

被災地視察研修(石巻市立大川小学校)

8:00 宮教大発 ～ 17:00 宮教大着

## 3月10日(木)

被災地視察研修(仙台近郊・午後出発)

13:00 宮教大発 ～ 17:00 宮教大着

## 3月11日(金)

メモリアルフォーラム

場 所: 萩朋会館2F交流・談話スペース

時 間: 12:00～17:00

内 容: 「あの日を忘れない～そなえも忘れない～」炊きだしプロジェクト  
復興支援ボランティア学生のお話(愛知教育大学学生を迎えて)  
追悼式典テレビ中継

14:46 黙禱

懇談会「活動を振り返ろう」(センター特任教授からのお話を含む)

## 3月14日(月)

仙台市立七郷中学校野球部生徒紅白試合  
(本学グラウンド)

10:30～ トレーニング

13:00～ 感謝の会

13:30～ 紅白試合



## 1 被災地視察研修

## 被災地視察研修（石巻市立大川小学校・門脇小学校、女川町）報告

- 1 期 日 平成28年3月9日（水）8：00～16：45
- 2 研修場所 石巻市立大川小学校、女川町駅前商店街（シーパルピア女川）、女川町地域医療センター、石巻市立門脇小学校
- 3 参加者 本学学生7名 センター職員6名
- 4 活動内容

## (1) 視察のねらい

津波による被災を受けた二つの学校の視察を通して児童の生命を守る防災教育の在り方について考えさせるとともに、女川町における津波の大きさや威力について実感し、その後の復興状況を観察させる。

## (2) 石巻市立大川小学校、門脇小学校における状況について

大川小学校は、児童74名職員10名の犠牲者のあった学校である。一方、門脇小学校は、引き渡しの後に下校した7名の児童が犠牲になっている。今回は、具体的に実地踏査することにより、学生一人一人がその背景について思いをもつことを期待した。

大川小学校は海岸線から約4km離れ、門脇小学校は約700mの所に立地しており、海拔も1mを少々越える程度であった。また、両校の近くには距離の違いはあれ、1級河川である北上川、新北上川が流れている。

## 2016年3月9日 石巻市立大川小学校

地震発生後、門脇小学校は校長を先頭に在校生全員が校舎の北側にある日和山に避難している。日頃から、強い地震が発生した際は裏山に避難することになっていたという。一方大川小学校は、地震発生から津波到来までの約45分間、校地内に待機していた。両校には、共通して海岸線からの津波と河川の堤防を越えた津波が同時に押し寄せる状況になった。その結果、門脇小学校は流されてきた自動車のガソリンが発火し、津波火災により校舎が炎上した。校庭に避難し車内にいた人たちや周辺の住民には多数の犠牲者があったものの、前述のように当時在校していた全員の児童は無事避難することができた。



## 2011年4月15日 石巻市立門脇小学校

大川小学校においては、新北上大橋のたもとにある三角地帯に向けて避難を開始した直後に多くの児童及び職員が津波の犠牲になった。大川小学校は、地域の避難所となっていること（避難所と避難場所の違いとそれに対する一般的に認識について説明）、宮城県総務部危機対策課制作のハザードマップでは大川小学校のある釜谷地区は津波による浸水は予



想されていないこと（但し、どれほど住民が認識していたか不明だったことも触れる）。また、慰霊塔の碑に刻まれた犠牲者数に地区による違いがあること（釜谷地区は約4割の住民、海岸線に近い長面地区は約2割の住民が犠牲になったことを説明）などについて解説した。

さらに、指摘されている裏山への避難方法について、その山道が体育館北側に確認出来ることなどを実際現地に立って学生たちの目で確かめることを促した。

### （3）女川町地域医療センター付近の被災状況と駅前付近の復興状況について

女川町は、人口の8.8%に当たる約880名の方々が犠牲になっている。発災から5年経った今、犠牲者も含め当時の人口の約37%の人たちが町外に流失している状況になっている。

まず、津波の大きさを実感してもらうために、女川町地域医療センターは海面より約17mの所に立地していたのにも関わらず、それを越える約18.8mもの津波が押し寄せたことをセンターの玄関の近くにある津波到達ラインを表示した柱で確認させた。従って、高台避難をしてきた住民の方々も、駐車場で車内にいたことや、フェンス沿いで津波の到来を見ていたために多くの人たちが犠牲になった所である。

また、既に解体撤去された「江ノ島会館」が横たわっていたことを写真で知らせた。4階建ての鉄筋コンクリートの建造物が横倒しになった理由について、現存する同じく鉄筋コンクリート造りの2階建て交番に基礎部分についている地中の基礎杭が残っていることから浮力による倒壊とされていることを知らせた。このことにより、津波の威力を感じ取ってもらった。

### （4）女川駅商店街（シーパルピア女川）の状況について

女川町の復興のシンボルである駅前付近の見学をした。女川駅の再開とともに整備された地域である。平日にも関わらず、多くの視察者が買い物や食事に訪れていた。町内で被災した地域においてこの一部が活況を呈しているものの、回りを見渡せば山肌を切り崩して得た土砂を運ぶダンプカーがひっきりなしに行き来し、復興は道半ばであることを学生たちも実感したはずである。

石巻市、女川町を視察し、被災の大きさを改めて感じ取ったことを学生のレポートの中に読み取ることができた。復旧の槌音の響きも地域ごとに違いがあり、復興の進み具合に差があることも実感したようである。いずれにしても、子どもたち、そして地域の方々の一日も早い元の生活を取り戻せることを強く願った学生たちであった。



## 石巻・女川の視察を振り返って

学籍番号 E7023 氏名 齋藤 彩里

被災地を目の当たりにしたのは今回が初めてでした。授業等で写真や映像を見ながら話を聞くのと自分の足でその土地を歩いて、少し冷たい空気を吸って現地で話を聞くのでは全く違うなと感じました。2011年3月11日、その場にいた教師、児童が何を考えていたのか、自分がその立場だったらどう行動するか、考えを巡らすことができたのは、授業よりも今回の視察でした。多くの児童、教員が犠牲となってしまった大川小学校を視察しながら、自分が指示する側ならどうしていたか、何を思うか想像しました。周囲の状況、安全性、色々なことを考慮して、少し遠い高地へ逃げることを選択した大川小学校の先生を私は責めることができないなと感じました。それと同時に、この事例を決して無駄にはしてはいけないと思いました。地震が来た。津波がきそう。こないそんなの気にせずとにかく高い所へ逃げ続けること。そして何より、早く判断すること。最悪の状態を想像した行動が大切だと思いました。石碑をみて、この3才の子がもし生きていたら...小学校6年の子がもし生きていたら、今からいい高校生か...と思ったり、やりきれない気持ちでした。被災地は茶色とグレーの世界でした。立入禁止の文字があちこちに見える風景がとてつもない寂しかったです。しかし、復興に向け、元気に働く女川駅の人々、製紙工場の煙を見て、私ももっとも毎日大事に頑張ろうと思いました。貴重な経験をさせていただく機会をくださり、ありがとうございました。

## 石巻・女川の視察を振り返って

学籍番号 E7237 氏名 葛森 皐

今回、石巻、女川を視察して、あの大地震からもうすぐ5年も経つというのに 被災地のことについて自分がどれだけ無知であったのかということを実感した。

授業やメディアで多く取り上げられている大川小視察では、実際に自分の目で周りの状況を見でみないとわからないことが多くあると感じた。話で聞いていた以上に、逃げていけば助かったといわれる山は大きく、簡単にこのぼる事ができる山ではないという印象を受けた。その場に合った正しい判断とは一体何なのか考えさせられた。

女川は中心部は復興が進んでいるようにみえたが、津波にのまれて震災以前の人々の暮らしがわかるものは残っていない気がした。

今回 実際に行ってみて、津波がどのくらいの力をもっていて、どのくらい大きな被害をもたらしにののかという事は初めて足を踏み込んではじめて理解することができた。しかし震災以前の町の様子を知らない私にとって、津波のむごさや、恐ろしさを理解するには、もう少し以前の町の様子や人々の暮らしぶりを知らないとできないと思った。

## 被災地視察研修（荒浜小・関上中）報告

- 1 期 日 平成28年 3月10日（水） 13：00～16：30
- 2 研修場所 浪分神社、仙台市立荒浜小学校、名取市立関上中学校・日和山
- 3 参加者 愛知教育大学学生等 7名、本学生10名、他にセンター職員など12名 合計29名
- 4 活動内容

### （1）ねらい

3月10日（木）午後1時から荒浜小学校・関上中学校方面の被災地視察研修を参加者29名で行った。今回の視察のねらいは、「仙台平野部における津波被害の現在と過去を調べる」として地理的歴史的視点から津波被害状況を観察することにした。

### （2）浪分神社

はじめに、若林区霞目にある浪分神社を訪れた。海岸から5.5km離れた浪分神社は、慶長三陸津波（1611年）の津波の浸水域との境目に1702年に建てられたと伝わり、現在は更に500m内側に移動したところにある。今回の津波は仙台東部道路にせき止められ2km手前で止まったが、以前であれば津波浸水の可能性があったと言える。神社の存在は教訓としては生かされたとはいえない。



### （3）荒浜小学校

次に仙台市立荒浜小学校に向かった。海岸から700mにあった荒浜小は、校長と町内会長などの連携で避難者319名全員を無事に避難させた学校である。訪問時に居合わせた技師さんに案内をいただき、1階2階の教室や職員室などを見学した。津波被害の大きさに一同衝撃を受けた。その後、海岸にある慰霊塔や新設された7mの防潮堤から、冬の太平洋を見下ろした。



### （4）関上地区

塩釜・亘理線で南下し、名取市関上地区に移動した。この地区は南北に走る道路は津波の被害を受け、関上地区の5差路の車渋滞などで地区住民753名、内中学生14名が犠牲になった。1階に津波が押し寄せた関上中学校の校舎は取り壊しが予定されていて近くの道路が閉鎖されていた。津波が越えた約6mの高さのある日和山に登り、町並みの被害の状況とかさ上げが進んでいる復興の姿を視察した。日和山の足下に「地震があったら津波の用心」の警句が刻まれた昭和8年三陸津波の石碑を確認し、更に津波犠牲になった関上中学生の慰霊碑や関上地区の慰霊塔に足を運び、手を合わせた。



今回の被災地が初めてという学生が多く、津波被害の状況や被災地の現状を体感し、震災復興の一層の願いと学生自身が果たす役割や支援の重要性をについて強い思いをもって、被災地を後にした。

関上・荒浜の視察を振り返って

愛知教育大学

学籍番号 2140051 氏名 市川 莉奈

「視察を振り返って」という文章を書きたいと思うのだが、うまく言葉に表せたいというものが本音です。とても胸が苦しく、こみあげるものがあります。私は今回初めて被災地を訪れました。日本人として、将来教員になろうと考えている身として、東日本大震災について無知であること、あるいは、表面状のことが知らないということに、とても恥じがあると考えたので、参加しました。正直、東日本大震災が起ころう前の情景や、欠けた様子、子どもたちの姿を想像することはできませんでした。私の想像と起る被害でした。特に小学校の視察のときに、5年前の津波がおよせたという水のラインがくっきりと残っており、当時の津波の勢いに驚きました。教室、給食室、廊下には土が張り付いて、私の知っている学校の半ほど大きくかけ離れており、ただ立ちつくすしかありませんでした。私は、愛知県海岸付近に住んでいます。小学校、中学校も、海に近い場所です。関上・荒浜と同じように立地条件の場所に住んでいるにも関わらず、震災や津波について、深く考えていませんでした。荒浜の子どもたちを守る教員の執念、町の方との連携と夫の、私もちゃんと災害のことを考え、向き合い、今回知ったことを発信していく必要性を感じました。

震災があつたら5年たつたが、まだまだ時間がかかると思っています。愛知県から自分のできることを探し、実践していきます。

## 関上・荒浜の視察を振り返って

学籍番号 E17063 氏名 西村 春香

自分が被災した南三陸町以外の被災地に行くのは初めてでした。いつも報道番組で見るよりも直接自分の目で見る方が当時の状況などがすぐ目の前で再現されるような感覚になりました。改めて震災の恐ろしさを肌で感じました。それと同時に「忘れてはいけない」「二度とくり返してはいけない」「後世に伝えていくのは私たちだ」という気持ち胸の中で強く響いていました。今回は、伊藤先生がおっしゃった「縦と横から被災地を見る」ということで、被災してしまった地域の土地について、地域の歴史についてを考えると被災地に対しての見方がずいぶん変わったように思います。また、今後教員という立場になった時、上に述べた土地や歴史についてよく学び、それを踏まえて、地域と密接なつながりを持った防災教育をしなければならぬと思いました。このふりこに起きたことを二度とくりかえしてはなりません。その役割をその責務を果たさなければなりません。これを機に様々な地域について見つめていきたいと思いました。地域の歴史や土地の特色など、様々な視点で見つめていこうと思いました。震災から早5年が経とうとしています。改めて自分の当時の様子を振り返らうと思います。私は私なりに逃げずに向き合っています。このような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございます。

# 荒浜小学校ボランティア学生

初等教育教員養成課程 理数・生活系 数学コース 高橋 英里

3月11日、今年で140年間の歴史に幕を閉じた荒浜小学校の校庭で、地域の方々がそれぞれの思いを込めた1000個の風船を空に飛ばし、夜には音楽室で荒浜にゆかりのあるアーティストたちが音楽を奏でました。荒浜小学校は東日本大震災により校舎が被災、また周辺一帯が災害危険区域に指定されました。小学校として使用できなくなってしまった校舎は今年、小学校としての役目を終え、4月からは震災遺構として新たな役割を担っていきます。荒浜に住む高山智行さんは、3年目の3月11日から荒浜小学校で「HOPE FOR project」というイベントを卒業生の同志とともに企画し、毎年行ってきました。今年は、荒浜地区に新しくできた地下鉄東西線の荒井駅にて、地域の方々をお呼びして3月6日にトークイベントを開催しました。「荒浜について話す事によって、気持ちが癒される気がする。毎年3月11日に対する思いが違う。それぞれのタイミングで荒浜に向き合えるようになると良い」「荒浜小学校は自分たちを守ってくれた場所という思いが強い。ぜひ残してほしい。」などの声を聞くことができ、2日間を通し地域内外の人々が一体となり荒浜やそれぞれの未来について語り合うことができました。



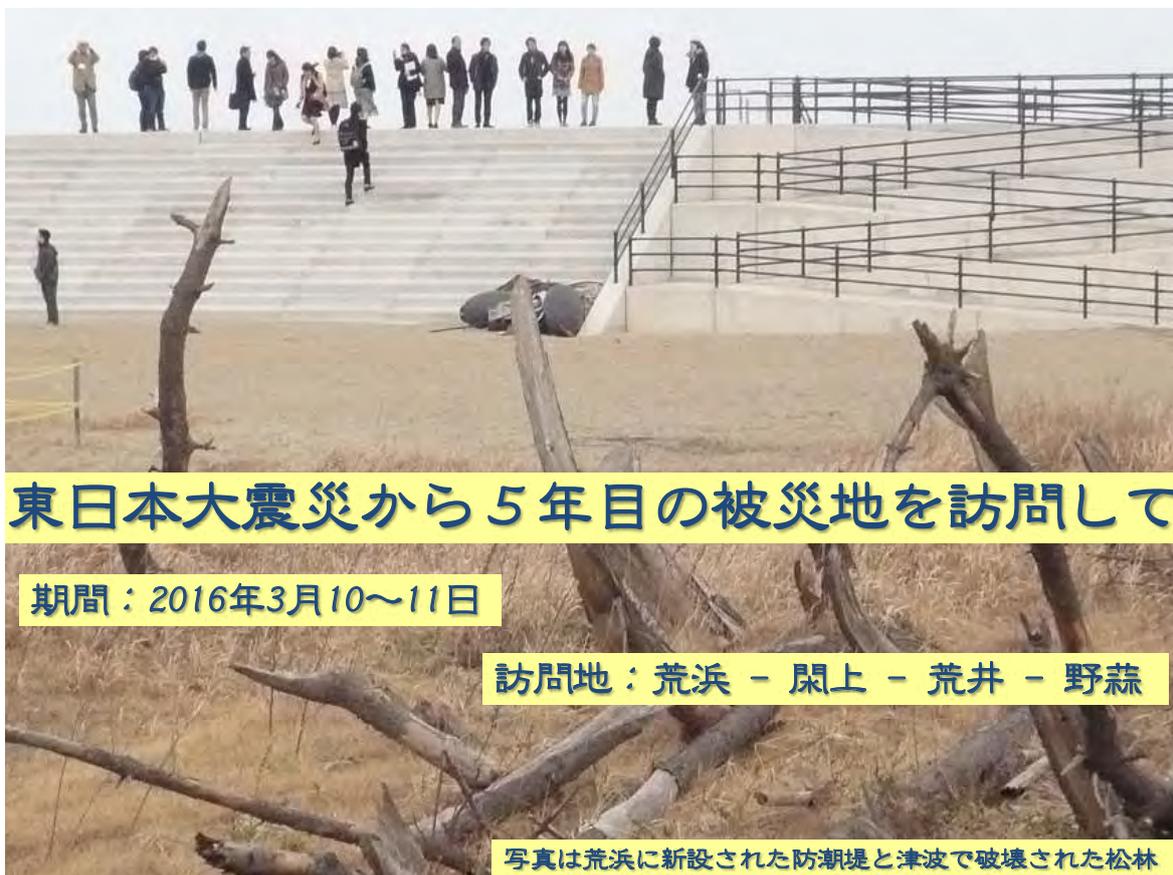
# 被災地視察研修

(荒浜小・関上中)

3/10 コメンテーターより

教育復興支援センター 前副センター長(平成25～26年度)

**瀬尾 和大**



東日本大震災から5年目の被災地を訪問して

期間：2016年3月10～11日

訪問地：荒浜 - 関上 - 荒井 - 野蒜

写真は荒浜に新設された防潮堤と津波で破壊された松林

## 東日本大震災から5年目の被災地を訪問して

【2016年3月10日(木)】

久しぶりに仙台の宮城教育大学を訪問し、午後からスタッフの先生方や学生君たちと一緒に津波被災地視察研修に同行させて頂いた。この視察研修には愛知教育大学の学生君たちも参加されている由、30人乗りのバスはほぼ満席となった。訪問先は若林区霞目の浪分神社、荒浜地区と、名取市の関上地区であった。荒浜地区はほとんど変化がなく、震災遺構として保存が決まった荒浜小学校では校舎の補強工事が行われていた。関上地区は嵩上げ工事の真っ最中で、土砂を積んだダンプカーがひっきりなしに走り回っていて、関上中学校には近づくことができなかった。津波で亡くなった関上中学の生徒14人の慰霊碑や、中学校の近くにあった仮設小屋“関上の記憶”は日和山の近くに移設されており、新たに名取市によって建立された慰霊碑には犠牲者990人の氏名が刻まれていた。帰路、関上五叉路で皆さんと別れ、関上小学校へと向かったものの、ここでも嵩上げ工事のために校舎に近づくことはできなかった。名取市のマイクロバス“なとりん号”で名取駅を経て仙台に戻った。

【2016年3月11日(金)】

午前中は地下鉄東西線の東端、荒井駅の周辺を歩いてみた。駅舎の一角に新設された“せんだい3.11メモリアル交流館”を訪問するのが目的であったが、付近に続々と建設が進められている瀟洒な戸建て住宅やマンション、震災復興住宅としての市営住宅、荒浜小学校がこの4月から合流することになる七郷小学校や七郷中学校、七郷小学校の前身である荒井小学校発祥の地である七郷神社、荒井小学校用地で仮設住宅などを次々に訪問し、近隣の方々とおしゃべりしているうちに、予定していた女川・石巻を訪問する時間がなくなってしまった。最後に訪問した仮設住宅は以前にも訪問したことがあったが、集会所におられた若林区まちづくり推進課職員の話によれば、一時は190世帯も入居しておられたのが、現在は19世帯を残すのみで、順次、復興住宅などへの移転が進められていること、残っている方のほとんどが独居であることから健康上の心配があってパトロールが欠かせないこと、5月9日をもって仮設住宅を閉鎖する予定になっているが、全員が出て行かれるまでは閉鎖できないこと等々のお話を伺うことができた。最後に荒井駅に戻り、メモリアル交流館に設けられた祭壇にお参りしてから仙台駅に向かった。

午後は女川・石巻を諦め、東松島市の野蒜地区を訪問することにした。これまでは代行バスを利用していたので、仙石線ごと移設された新しい野蒜駅で下車するのは初体験であった。駅前は大規模な造成工事中で、旧野蒜駅までは徒歩25分とのこと、まずは途中の野蒜小学校跡を目指した。野蒜小学校周辺には特に大きな変化はなかったが、2月末に建立されたばかりの閉校記念碑には心打たれるものがあった。仙石線の電車が津波で被災した場所のすぐ近くでは、作業場でタバコを吹かしておられた同年配の男性と話し込み、石巻で地震に遭ってから急速、軽トラックで帰宅し、その直後に自宅が津波に襲われたこと、家人はすでに裏山に避難しており全員無事であったこと、津波は1階の軒下まで来たこと、津波に流された電車の正確な位置、はては、高校時代に知り津波で被災した女川に今で云うボランティア活動に行ったことなど、話は際限なく続いた。旧野蒜駅はプラットホームの保存と共に、コンビニが併設された“野蒜交流センター”として機能しており、テーブルと椅子が置かれた休憩スペースの周囲には被災写真等が展示されていて、一角の観光案内所では宮戸島への奥松島遊覧や民宿の案内をしていた。この野蒜地区では、津波災害を何とか免れた住宅はそのまま居住することが可能であり、嵩上げをすれば新築も可能とのことであった。仙台駅では帰りの新幹線で時間があつたので、改札口に近い“気仙沼の寿司屋”でにぎりトホヤの刺身、それに男山の冷酒；蒼天伝を堪能させていただいた。



校舎2階東から津波の到来方向を見る



### 仙台市若林区の荒浜小学校



津波襲来の痕跡を残す1階の教室



**避難**  
Evacuation

「逃げる」ことを重視し、避難の丘や避難施設、避難道路などを整備

Placing importance on fleeing, and developing evacuation hills, facilities and roads.

**多重防御**  
Multi-layered Defences

防潮堤再整備、防災林再生、県道かさ上げなどによる「多重防御による減災」

Disaster Risk Reduction with Multi-layered Defences by reconstructing coastal levees, reviving disaster-prevention forests, and raising prefectural roads.

**移転**  
Relocation

安全な内陸への集団移転による「総合的な防災対策」

'Comprehensive Disaster-prevention Countermeasures' by relocating inland to a safe place as a group.

**最大クラスの津波の防御** Defence Against Largest Tsunami

数十年～百数十年に一度の津波の防御  
Defence Against Tsunami that Occurs Once Every Few Decades or Centuries

避難施設  
Evacuation Facilities

かさ上げ道路  
Raised Roads

避難の丘  
Evacuation Hill

荒浜小学校の校門前に掲示されていた仙台市の津波対策の概念図

名取市閑上の日和山にて

日和山近くに新たに建立された名取市の津波慰霊碑

津波被害の大きかった名取市閑上地区と日和山

閑上小学校と津波避難場所を示す案内板

上の写真のお社の柱間隔が二尺五寸七分である理由？

名取市閑上の日和山に置かれていた  
昭和三陸津波の『地震津波記念碑』

震嘯記念

地震があつたら津波の用心

昭和八年三月三日午前二時三十分突如強震アリ、鎮静後四十分ニシテ異常ノ音響ト共ニ怒濤澎湃來リ、水嵩十尺名取川ヲ遡上シテ西八猿猴園ニ到リ南八貞山堀廣浦江一帯ニ氾濫セリ浸水家屋二十餘戸名取川町裏沿岸ニ在リシ三十噸級ノ發動機漁船數艘ハ柳原園畑地ニ押上ケラレ、小艇ノ破碎セラレタルモノ數カラザリシモ幸人畜ニハ死傷ナカリキ縣内枕生牡鹿本吉ノ各郡及ビ岩手青森兩縣地方ノ被害甚大ナリシニ比シ輕少ナリシハ震源地ノ遠ク金華山ノ東北東約百三十哩ノ沖合ニ在リテ濤勢ノ牡鹿半島ニ遮断セラレ其ノ餘波ノ襲來ニ過ギザリシト河口ノ洲丘及ビ築堤ノ之レヲ阻止シタルトニ因ルナリ震災ノ報一度天驥ニ達スルヤ長クモ、天皇皇后兩陛下ヨリ御救恤トシテ御内帑金ヲ御下賜セラル、聖恩ノ宏大ナルコト洵ニ恐懼感激ニ兼ヘザルトコトナリ惟フニ天災地變ハ人カノ豫知シ難キモノナルヲ以テ緊急護岸ノ萬策ヲ講スベキハ勿論平素用心ヲ怠ラズ豫ニ慮アルノ覺悟ナカルベカラズ茲ニ刻シテ以テ記念トス

昭和八年十一月三日

閑上町長 渡邊卓郎 篆額  
從七位 駒八等 加藤忠藏 撰文  
駒八等 赤松傳一郎 書

宮城縣本吉郡志津川町  
石工 阿部清藏 刻



閑上中学校に置かれていた閑上中学生徒のための慰靈碑と『閑上の記憶』は嵩上げ工事のために日和山の近くに移設されていた



閑上の記憶に掲示されていた『3.11 追悼の集い』への参加を呼び掛けるポスター(上)と翌日実際に行われた追悼の集いで飛ばされた『メッセージ風船』(下、朝日新聞3/12より)



津波の犠牲になった14人の閑上中学生徒のための慰靈碑。碑の手前に野球のホームベースが置かれているのは犠牲者の1人が野球部に所属していたためで、碑の両脇の机には犠牲者全員に宛てたメッセージが書き込まれている。



## 東松島市野蒜地区 (2)



旧野蒜駅から見た北側の住宅地（手前の空地は被災地跡）



仙石線の線路跡（道路の左側）と付近の居住者



旧野蒜駅のプラットフォームと駅舎（右手）

旧駅舎に残る  
津波高さの標識



道路の部分だけに残された線路



被災したまま残された住宅

## 東松島市 野蒜地区 (3)



旧野蒜駅に設置された  
“野蒜交流センター”  
に展示されている津波  
被災当時の写真



JR石巻車両



野蒜小学校



野蒜駅

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告

VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

宮城教育大学 教育復興支援センター メモリアルイベント

# メモリアルフォーラム

2016年3月11日(金)

## 場所

菫朋会館2F交流・談話スペース

## 時間

12:00～17:00

## 内容

12:00～13:00

・「あの日を忘れない～そなえも忘れない～」  
炊きだしプロジェクト

13:00～14:00

・復興支援ボランティア学生のお話  
愛知教育大学学生を迎えて

14:00～15:00

・追悼式典テレビ中継  
・14:46 黙祷

15:00～16:00

・懇談会「活動を振り返ろう」  
センター特任教授からのお話を含む

16:00～16:10

・閉会式

進行係 小田隆史特任准教授 & 藤原忠和主任

## 2 メモリアルフォーラム

### 「あの日を忘れない～そなえも忘れない～」炊きだしプロジェクト

拡大・復興カフェ in Miyakyo として実施してきた炊き出し研修の第3弾である。メニューは「1分パスタ!」。11:30～13:00の間に70人を超える人が参加した。「本当に1分でできるの?」と質問されたが、実際に体験すれば、すぐに納得してもらえた。事前にスパゲッティの乾麺を水に浸しておいて茹で時間を短縮する方法で調理している。

手順はとても簡単。(1) 乾麺100gに対して300gの水に浸しておく。麺の太さによるが、1.4mmで1時間、1.7mmで1.5時間、1.9mmで2時間程度である。そのままの長さでも良いが、今回は扱いやすくするために半分に折った。塩は入れなくてもよい。(2) 白色になったフニャフニャな麺を沸騰したお湯に入れる。いったん温度が下がるが、再度沸騰するのを待って約1分間で茹で上がる。お湯に入れるとすぐに黄色に変わるの、ちょっと感動的である。(3) 茹でた麺同士がくっつかないように、湯切りした麺を金属ボウルに入れてオリーブオイルで少し和えた。トングを使ってサララップで覆った小型容器に小分けして、用意した様々なドレッシングやマヨネーズをかけて和える。トッピングとして、かつおぶし、刻みのり、ごま、ツナなどをお好みで加えてオリジナルな味つけで完成、後は食べるだけである。

事前に水に浸す時間が長いような気がするが、水に浸す時間は長くても良い(スパゲッティの小麦の特長で飽和するため)。前日の夜や朝出かけるときに事前にジップロックなどに入れておくだけで良い。今回は、時間短縮のために鍋のお湯をやや多めにしたが、水は多くなくてもかまわない。水も少なく加熱時間も短い省エネの料理で、震災時のメニューとして適している。こんな簡単な調理方法にもかかわらず、沸騰したお湯で11分程度茹でる方法に負けない。むしろ、ちょうどいい感じに失敗せずに茹で上がる。水につけたままの状態でも冷蔵で3日間、水を切って冷凍すれば1ヶ月は保存できるので、普段の料理としても応用しやすい。

これまでに行った炊き出し研修もとても喜ばれたが、今回の方法は特別な道具が不要であり、自宅ですぐにできる。この研修の後、何人もの方から「自宅でやってみました。とてもおいしくて、びっくりしました!」と声をかけられた。「東日本大震災のときにも、スパゲッティを食べたね。」という声かけもいただいた。震災の時を思い出しながらも、楽しみながらできる炊き出し研修にできたのではないだろうか。今後のためにも、何らかの形で継承していけたらと思う。

(水谷好成：技術教育講座、小野寺泰子：家庭科教育講座、鶴川義弘・福井恵子：情報処理センター)



### 3 七郷中学校野球部感謝の会報告

- 1 期 日 平成28年3月14日（月）10：00～15：30  
 2 研修場所 野球場、表現活動実習棟  
 3 参加者 七郷中学校野球部員22名、顧問2名、部員保護者3名  
 本学生（平田優輔・4年）松本次長・センター職員10名合計 38名

#### 4 活動内容

##### (1) 学生コーチとしての支援

教員補助事業として行われた七郷中学校野球部への支援は、平田さんが学生コーチとして平成24年10月以降顧問の先生の指導の下、今年度まで3年半野球部員への技術指導などの支援を行った。支援のきっかけは、平田さんが夏の学習支援に参加したあと、もっと支援を続けたいとの申し出があり、センターから校長先生にお願いして実現したものである。



2013.4.20 練習試合の時の平田さんの審判姿

##### (2) 感謝の会

感謝の会は、10時30分より表現活動実習棟で開催された。感謝の会は、当センター及び本学生平田さん（4年生）の支援に対して七郷中学校野球部員が感謝の気持ちを表すねらいで開催され、松本次長、野澤副センター長などが参列した。2年野球部長が当センター及び平田さんへの支援に対する感謝の言葉を述べ、また平田さんも支援活動を通しての思いを述べた。最後に、副センター長から感謝の会の御礼と七郷中学校野球部員の今後の活躍への励ましの言葉が述べられた。

##### (3) 校内試合

11時から本学野球場で、1・2年生対3年生の紅白試合が行われた。3年生9名は中学校最後の練習となり、回毎にポジションを変えながら、笑顔で後輩へ力強い勇姿を示していた。13名の1・2年生は、先輩の野球に対する熱い思いを受け止めながらの最後まであきらめずに挑戦していた。試合は大接戦で素晴らしい試合であった。3年生の保護者3人が応援に訪れ、大学や顧問の先生そして平田さんの計らいに感謝の言葉を述べていた。15時過ぎに試合が終了し、グラウンド整備をして元気なあいさつをして帰宅についた。



# 七郷中学校野球部での活動を終えて

特別支援教育教員養成課程 発達障害教育コース 平田 優輔

振り返ってみると、七郷中学校野球部での3年半はあまりにも早く過ぎ去ってしまった。けれども、これまでの日々は間違いなく私の人生の大きな財産となった。大学1年生の秋に「野球で復興にかかわれませんか？」と何の計画もなく思っただけで駆け込んだ私に、温かく対応してくださり、活動の場を提供してくださった復興支援センターの方々には感謝してもしきれない。常に活動を応援していただき、報告に行くといつも笑顔でセンターの皆様が私の話を聞いてくださったことで、私は自信を持って活動に取り組むことができた。野球部としては今回宮教大グラウンドで野球をやらせていただいたのは2回目となり、他にも野球道具の寄付など、復興支援センターからは多くのサポートをいただいた。そのおかげで今では何不自由なく、子どもたちは野球に打ち込んでいる。継続的な温かいご支援に子どもたち共々感謝いたします。

好きな野球で子どもたちとかわれる。それだけでとても幸せなことであり、その上、学校現場に入り、先生方からご指導をいただき、保護者の方々の思いを聞くという学生では得難い経験をさせていただいた。七郷に来て、多くの人とかわり、人と人がつながるのは心であると強く感じた。私たちはプロ野球選手を育成しているわけではなく、子どもたちもスポーツで食べていくわけではない。部活動を通して何を学ぶのか。部活動が終わったときに何が残っているのか。それが最も大切だろう。子どもたちは部活動を通して、人とのかわりを学び、努力することの辛さや楽しさを知り、社会の中で生きていく力を身につけていく。相手のことを理解したい、どうかして人の役に立ちたい、これらは野球云々の話ではなく、生きていくのに重要な力である。子どもたちが人として大きくなっていく瞬間に立ち会えるこの仕事はなんて楽しいのだろうか。七郷中学校野球部に入り、部活動には大きな教育的意義があることを理解できた。子どもたちのためにとやってきたつもりだったが、子どもたちに成長させてもらった3年半だったと思う。

あの日から5年が過ぎた。復興には目に見えるものと目に見えないものがある。現在、七郷地区には地下鉄が走るようになり、住宅や商業施設等の建設が続き、地域の利便性は高まり、人やモノが集まり、復興を遂げつつある。地域の発展の中でぼんやりしていると、あの日や当時の思いを忘れてしまいそうになる。ボランティアとして七郷中に入ったときには何のためにやっているのか、まだ明確なものなかった。しかし、今なら胸を張って言える。子どもたちの成長は日本の未来そのものである。そこにかかわれたことは間違いなく復興につながる。子どもたちは私たちが気付かぬうちにもものすごい勢いで成長していき、あっという間に巣立っていく。寂しさはあるが、それ以上にドキドキする。これからどんな力をつけ、どんなに活躍してくれるのだろうか。もっとかっこいい大人になっていくのだろうか。学校生活や部活動で身につけた力をさらに磨き上げ、より眩い光を発してくれるはずだ。だったら私も負けてはいられない。そんな子どもたちが仙台、東北、日本、さらには世界を舞台に羽ばたいていく。確かに復興はまだまだだ。しかし、そうやって現在から未来へと思いをつないでいけば、復興も決して遠い話ではないだろう。今後は教員として希望の架け橋をつなぐ手伝いをしていければ嬉しい。未来を担う力強い子どもたちがたくさんいる。10年後、20年後、さらにはその先の、これからの未来にワクワクする。きっと、日本の未来は明るい。

## 仙台市立七郷中学校野球部を迎えて

教育復興支援センター 特任教授（元仙台市中学校長会 会長） 庄子 修

会場に入って、驚いた。精悍な面構えと、はち切れんばかりの若さと初々しさを内に秘めた中学生たちが、背筋を真っ直ぐに伸ばし、きちんと整列している。ピーンと張りつめた空気の中、「感謝の会」は、これまで4年間、部活動への支援を続けてきた教育復興支援センターに対する顧問の先生からの感謝の言葉から始まった。聞いている生徒たちの瞳は、眩しいほど輝いている。続いて、2年生の部長からの御礼の言葉があった。先生の指導もあったと思うが、部長が話すその言葉の一つ一つからは、感謝の思いの深さが伝わってきた。それを受け、野澤副センター長が、被災地というハンディを乗り越え、頑張っている中学生への労いと励ましの言葉を贈った。久しぶりに子どもたちの前に立つ副センター長は校長時代に戻ったようで、その目は慈愛に満ちていた。これまで指導に当たってきた本学4年生の平田さんからは、「教え、指導するつもりで始めたが、気が付くと自分が多くのことを学ばせてもらい、成長できた」との話があった。中学生にとって身近な、そして憧れの存在である平田さんの言葉は、きっと心に染み入ったに違いない。最後に花束の贈呈を受けて、ひとまず「感謝の会」のセレモニーが終了した。

中学生が、室内でウォーミングアップをしている際に、顧問である守屋先生からお話を聞くことができた。あの震災で、仙台市内の中学校では唯一、七郷中の生徒が2名犠牲となった。そのうちの1名は野球部の先輩だったという。その思いを胸に、これまで頑張ってきたということであった。

室内でのウォーミングを終えた生徒たちに、本センターの伊藤芳郎特任教授から、次のような話があった。「人が力を発揮できないのは、やらされている時。一方、力を発揮できるのは、自分のためというよりも人のためにやろうとする時。」この奥の深い話に、中学生たちは真剣なまなざしで聞き入っていた。

午後からは、本学の野球場で1、2年生対3年生の親善試合が行われた。2日前に卒業したばかりの3年生の表情は、とても伸びやかだった。それがプレーにも表れており、機敏な動きの中で、ファインプレーが続出した。グラウンドに立つのは数か月ぶりだとは、とても思えないほどだった。試合が動いたのは、そうした3年生が連続ヒットで1点をもぎ取った5回の表。会場に駆けつけていた3年生の保護者だというお母さん方3名。その応援の声も弾んでいる。圧巻だったのは、最終回。3年生は満を持してエースがマウンドに上がり、もの凄いスピードのボールが、パチン！という乾いた音を立ててキャッチャーミットに吸い込まれる。これでは1、2年生はとても打てないだろう。そう思っていた矢先、ヒットが生まれた。さらに下級生を気遣ってのエラーなども絡み、気が付くと、ノーアウト満塁。一打逆転サヨナラの場合。どうなるのかと、息をのむ中、下級生のバットが快音を残して火を噴いた。大声援の中、まず一人がホームイン。そして、二人目がホームに駆け込もうとするその瞬間、ライトの深くまで転がったはずの白球が、3年生の見事な連携プレーでキャッチャーまで戻ってきたのである。判定は、・・・アウト。本当に見応えのある試合だった。結局試合は1対1の引き分けに終わったが、先輩の胸を借りて本気になって向かっていった1、2年生と、その思いをしっかりと受け止めて下級生にバトンを託した3年生の姿は、とても清々しく、どちらにも大きな拍手を贈らずにはいられなかった。指導にあたってきた、顧問の高橋先生と守屋先生、そして、本学4年生の平田さんにも、大きな拍手を贈りたい。そして、何よりも、被災地にあって様々な困難にも負けず、前向きに野球に取り組んでいる七郷中の生徒の皆さんに万感の思いを込めて拍手を贈りたい。この生徒たちなら、将来きっと被災地の復興を成し遂げてくれるに違いない。



## 1 平成23年度 教育復興支援センター活動(事業)実績一覧(緊急的なボランティア派遣を除く)

	日程	実施場所	実施内容	備考
1	6月4日	宮城教育大学	第1回未来づくりESDセミナー (震災復興と学校・地域の未来づくり)	「セミナー」 関係
2	6月25日	宮城教育大学	第2回未来づくりESDセミナー (震災からの再生×生物多様性×ESD)	「セミナー」 関係
3	7月25日～29日、 8月1日～3日	七ヶ浜町立七ヶ浜中学校	プリント学習での質問への対応	
4	7月25日～7月27日	松島町立松島第一小学校	自学自習への支援	
5	7月25日～7月29日	松島町立松島中学校	自学自習への支援	
6	7月25日～7月29日	仙台市立七郷中学校	プリント学習での質問への対応	
7	7月25日～27日、 8月18日～19日	東松島市立矢本東小学校	自学自習への支援	
8	7月26日～7月29日	東松島市立大曲小学校	自学自習への支援	
9	7月26日、7月28日	東松島市立矢本西小学校	自学自習への支援	
10	7月26日～7月29日	東松島市立矢本第二中学校	自学自習への支援	
11	7月26日	東松島市立鳴瀬第二中学校	自学自習への支援	
12	7月21日～7月22日	東松島市立大塩小学校	自学自習への支援	
13	7月31日	名取市洞口家住居 他	第3回未来づくりESDセミナー (生態系の保全といぐね(居久根)の役割)	「セミナー」 関係
14	8月22日～8月24日	大崎市立松山小学校	サマースクールへの支援	
15	8月1日～8月5日	大和町立大和中学校	自学自習への支援	
16	8月1日～8月5日	大和町立宮床中学校	自学自習への支援	
17	8月1日～2日、4日～5日、 8日～9日	亘理町立逢隈中学校	自学自習への支援	
18	8月1日～8月4日	東松島市立矢本第一中学校	自学自習への支援	
19	8月1日～8月3日	女川町立女川第二小学校	補習授業の補助	
20	8月1日～8月3日	女川町立女川第一中学校	補習授業の補助	
21	8月2日～8月5日	宮城県本吉響高等学校	自学自習への支援	
22	8月4日～5日、 8日～10日	大崎市立古川東中学校	サマースクールへの支援	
23	8月8日～8月12日	宮城県志津川高等学校	自学自習への支援	
24	8月1日～5日、 8日～11日、18日	名取市立開上中学校	自学自習への支援	
25	8月17日～19日、 22日～23日	七ヶ浜町立向洋中学校	教員補助	
26	8月17日～8月19日	相馬市立磯辺中学校	補習学習	
27	8月18日～8月19日	気仙沼市立唐桑中学校	自学自習への支援	
28	8月18日～8月19日	気仙沼市立松岩中学校	自学自習への支援	
29	8月18日～8月19日	気仙沼市立津谷中学校	自学自習への支援	
30	8月20日	石巻市立飯野川中学校	教育夏祭り2011IN 東北への支援 (ボランティア学生の派遣)	「子ども対象 イベント」関係
31	8月22日～8月24日	岩沼市(市総合体育館)	補習授業、自学自習支援	
32	8月22日～8月24日	大崎市立富永小学校	サマースクールへの支援	
33	8月29日～9月2日	南三陸町立伊里前小学校	教員補助	

	日程	実施場所	実施内容	備考
34	8月8日～8月10日	宮城県石巻好文館高等学校	自学自習への支援	
35	8月17日～8月20日	国立花山青年自然の家	気仙沼市被災児童のための「KAWTABI サマースクール」への支援（ボランティア学生の派遣）	「子ども対象イベント」関係
36	8月26日、8月28日	東松島市立鳴瀬第二中学校	運動会への支援（用具の準備・誘導）	
37	8月29日～9月2日	南三陸町立名足小学校	教員補助	
38	8月17日～8月21日	栗原市立志波姫中学校	補習学習	
39	8月19日～8月21日	大郷町立大郷中学校	補習学習	
40	9月5日～9月30日	岩沼市立玉浦小学校	教員補助	
41	9月5日～9月30日	岩沼市立玉浦中学校	教員補助	
42	9月26日～9月30日	相馬市立中村第二中学校	教員補助	
43	8月25日～継続（年間）	仙台市立七郷中学校	教員補助	
44	8月25日～継続（年間）	仙台市立中野小学校	教員補助、放課後の学習支援	
45	8月25日～継続（年間）	仙台市立荒浜小学校	教員補助	
46	8月25日～継続（年間）	仙台市立東六郷小学校 幼児学園	教員補助	
47	9月5日～30日	岩沼市立玉浦小学校	教員補助	
48	9月5日～30日	岩沼市立玉浦中学校	教員補助	
49	9月10日	宮城教育大学	第4回未来づくりESDセミナー （震災復興と学校・地域の未来づくり）	「セミナー」関係
50	9月17日	岩沼市立玉浦小学校	運動会の運営補助	
51	9月26日～30日	相馬市立中村第二中学校	教員補助及び自学自習支援	
52	10月13日～継続（年間）（週1回程度）	岩沼市立玉浦小学校	教員補助	
53	10月5日～継続（年間）（週1回程度）	岩沼市立玉浦中学校	教員補助	
54	10月28日、11月下旬	仙台市立将監西小学校	学校支援プログラム（音楽教育講座） 仙台市立将監西小学校での総合学習に対する支援	
55	10月29日	青葉区中央市民センター・ホール	不登校支援と震災後の心の支援 （話題提供とパネルディスカッション、コーディネーター佐藤静教授）	「セミナー」関係
56	11月5日	岩沼市岩沼西小学校	岩沼市市制40周年記念事業「理科大好きフェスティバル」のブース活動の補助 （村松教授もブース参加）	「子ども対象イベント」関係
57	11月5日	気仙沼市立大島小学校	学校支援プログラム（技術教育講座）大島小学校児童を対象とした「LEDランタン工作教室」	「子ども対象イベント」関係
58	11月6日	石巻市	全国生涯学習ネットワークフォーラム2011 第一分科会 の補助	
59	11月6日	文部科学省	全国生涯学習ネットワークフォーラム2012 第五分科会 ブースセッションの出展	
60	11月12日	宮城教育大学	第5回未来づくりESDセミナー（震災復興ボランティア報告会）	「セミナー」関係
61	11月15日～3月21日 （週1回程度）	仙台市立折立小学校	放課後の学習支援	
62	11月19日	仙台演劇工房10-BOX	復興への子どもの時間 ～ヤギと癒しと～ ふれあいコーナーの実施補助	「子ども対象イベント」関係
63	11月27日	特別支援教育支援員講習会	「災害と心のケア」講師：関口博久 「視覚障害のある子どもの教育指導」講師：猪平真理	「心のケア」関係

	日程	実施場所	実施内容	備考
64	12月6日、8日、 1月12日	防災教育等推進者 緊急研修会	災害を経験した子どもたちの心の理解とケア 講師：宮前理(12/6、1/12) 佐藤静 (12/8)	「心のケア」 関係
65	12月10日～11日	石巻市相川運動公園 仮設住宅サポートセンター	第6回未来づくりESDセミナー	「セミナー」 関係
66	12月20日	東北福祉大学	東日本大震災における東北地区大学支援プロ ジェクト報告会(ボランティア学生の派遣)	「セミナー」 関係
67	12月21日、26日	大崎市立鹿島台中学校	自学自習支援	
68	12月25日～27日	栗原市教育委員会	自学自習支援(冬の学府くりはら塾)	
69	12月26日～28日、 1月4日～6日	岩沼市立玉浦中学校	自学自習支援(冬休み勉強会)	
70	12月26日、27日	岩沼市総合体育館	自学自習支援(ニコ・ニコ・ウィンタース クール)	
71	12月26日、27日	大崎市立真山小学校	教員補助	
72	12月26日、27日	大崎市立田尻中学校	自学自習支援	
73	12月26日、27日	大和町立大和中学校	自学自習支援(たいわウィンタースクール)	
74	12月26日、27日	大和町立宮床中学校	自学自習支援(たいわウィンタースクール)	
75	1月4日～6日	柴田町船岡公民館	自学自習支援(冬期受験力アップ学習会)	
76	1月5日、6日	大郷町立大郷中学校	自学自習支援(大郷町ウィンタースクール)	
77	1月13日～15日	エスパルススクエア	榴岡小学校と連携による「折り鶴プロジェク ト」イベントでの運営補助、参加小学生との オブジェ作成	「子ども対象 イベント」関係
78	1月18日	気仙沼ホテル観洋	第7回未来づくりESDセミナー	「セミナー」 関係
79	2月5日	せんだいメディアテーク・ オープンスクエア	第8回未来づくりESDセミナー 環境フォーラムせんだい2011「環境」震災で 見えてきたこと	「セミナー」 関係
80	2月11日	TKP 仙台カンファレンスセ ンター	学校・地域連携研究シンポジウム「夢と志を もつ子どもたちを育むために～復興へ向け て！踏みだそう、学校と地域で！～」	「こころざし・ キャリア教育」 関係
81	2月16日	東北大学・ 片平さくらホール	グローバルセミナー東北(震災復興と生態適 応)でのボランティア活動報告及びポスター 発表(ボランティア学生の派遣)	「セミナー」 関係
82	2月18日	気仙沼市立気仙沼中学校	気仙沼市立小学校児童を対象とした「図書館 実験工作教室」(講師：内山准教授)	「子ども対象 イベント」関係
83	2月19日	特別支援教育支援員講習会	「障害が重複している子どもへの支援」(講 師：菅井教授)「発達障害等のある子どもへの 支援」(講師：野口教授)	「心のケア」 関係
84	2月27日～3月2日	南三陸町立志津川中学校	教員補助	
85	2月29日～3月22日	仙台市立八本松小学校	教員補助	
86	2月29日～3月23日	岩沼市立玉浦小学校	教員補助	
87	3月3日	気仙沼中央公民館	気仙沼・本吉地区の小・中・高校生、一般を 対象とした「2011 ESDサイエンス・ワーク ショップ」(講師：玉木教授)	「子ども対象 イベント」関係
88	3月4日	仙台市情報・産業プラザ (AER) 6階セミナールーム	特別支援教育フォーラム 「東日本大震災と特別支援教育」	「セミナー」 関係
89	3月5日～9日	丸森町立館矢間小学校	教員補助	
90	3月5日～15日	丸森町立丸森小学校	教員補助	
91	3月5日～16日	松島町立松島第一小学校	教員補助	
92	3月5日～23日	七ヶ浜町立七ヶ浜中学校	教員補助	
93	3月8日～22日	仙台市立蒲町小学校	教員補助	
94	3月13日～22日	女川町立女川第一中学校	教員補助	
95	3月13日～23日	大崎市立古川第四小学校	特別支援学級の補助	
96	3月13日～30日	南三陸町立志津川中学校	教員補助	

	日程	実施場所	実施内容	備考
97	3月17日	イオン石巻ショッピングセンター	街角科学体験コーナー(提案：山形県、運営：山形大学)へのブース出展(水谷教授)「LEDのミニインテリアランタン工作教室」	「子ども対象イベント」関係
98	3月26日～30日	亘理町立荒浜中学校	自学自習支援(春休み勉強会)	
99	3月27日～30日	丸森町立丸館中学校	自学自習支援(春休み勉強会)	
100	3月27日～30日	気仙沼市内中学校(10校)	「春休み学び教室」での学習支援(対象：小・中学校生徒)	

## 2 平成24年度 教育復興支援センター活動(事業)実績一覧(3月末日現在)

	日程	実施場所	実施内容	派遣実人数	延人数(参加人数)	備考
1	4月～継続(年間)	仙台市立中野小学校	教員補助	26		②教員補助事業
2	4月～継続(年間)	仙台市立荒浜小学校	教員補助 ※仮設住宅での学習支援を含む	7		②教員補助事業
3	7月～継続(年間)	登米市・南三陸町・気仙沼市内の仮設住宅	仮設住宅での学習支援※NPO法人HSF「人間の安全保障」フォーラムの実施事業への協力	31		①教育復興支援塾事業
4	11月～継続(年間)	仙台市立七郷中学校	教員補助	1		②教員補助事業
5	11月～継続(年間)	仙台市立六郷中学校	教員補助	1		②教員補助事業
6	1月～継続(年間)	仙南地区(岩沼・名取・亘理)	教員補助※教材開発等を含む	1		②教員補助事業
7	4月～5月	宮城教育大学	学校支援プログラム(学校教育講座)気仙沼市内14校(193名)分のアンケートデータの集計・入力支援	17	31	②教員補助事業
8	5月12日	宮城教育大学	東日本大震災—教育復興支援と地域の未来づくりフォーラム	主催	約100	③教員研修事業
9	5月12日	宮城教育大学	アジア太平洋ユネスコスクール「連帯と防災」フォーラム	共催	約100	③教員研修事業
10	5/12～13 5/26～27	宮城県 気仙沼向洋高校(仮設校舎)	図書館の書籍整理	9	10	②教員補助事業
11	5月26日	宮城県立石巻支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	10	10	②教員補助事業
12	6月6日	大和町立鶴巣小学校	4年生「総合的な学習の時間」における体験学習での指導支援(齊藤教授+学生)	20	20	④イベント事業
13	6月16日	仙台市立荒浜小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	25	25	②教員補助事業
14	6月16日	岩沼市陸上競技場	岩沼市中総体(陸上競技)の実施・運営の補助	6	6	②教員補助事業
15	6月19日	仙台市立折立小学校(仮設校舎)	特別授業「エジソンと電灯の発明のお話」(内山准教授)	1	1	④イベント事業
16	6/19・21	仙台市立六郷中学校	放課後の学習会の補助	6	8	②教員補助事業
17	7月7日	仙台市情報・産業プラザ(AER)セミナールーム	公開研究会「子どもの成長と適応支援—震災後の心の支援を見据えながら—」	協力	143	⑤心のケア事業
18	7/23・26	岩沼市立岩沼南小学校	自学自習支援	1	2	①教育復興支援塾事業
19	7/23・26	大和町立鶴巣小学校	自学自習支援	1	2	①教育復興支援塾事業

	日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)	備考
20	7/23 7/25～27	塩竈市立 浦戸中学校・ 浦戸第二小学校	自学自習支援	7	15	①教育復興支援塾 事業
21	7/23～27	石巻市立中里小学校	自学自習支援	1	5	①教育復興支援塾 事業
22	7/23～8/7	仙台市立七郷中学校	自学自習支援（5教科・3学年 対象）	12	44	①教育復興支援塾 事業
23	7/24～8/3	塩竈市内6小学校	自学自習支援	9	27	①教育復興支援塾 事業
24	7/25～27	柴田町立西住小学校	自学自習支援	1	3	①教育復興支援塾 事業
25	7/26～27	南三陸町立 志津川小学校・戸倉小学校	自学自習支援	3	6	①教育復興支援塾 事業
26	7/30～8/6	仙台市立六郷中学校	自学自習支援（5教科・3学年 対象）	12	25	①教育復興支援塾 事業
27	7/30～8/8	巨理町立逢隈中学校・荒浜中 学校	自学自習支援（国・数・英）	8	21	①教育復興支援塾 事業
28	8/1～2	志津川自然の家	みやぎ高校生ボランティアリー ダー養成研修会の実施補助	6	12	④イベント事業
29	8/1～2 8/6	女川町立女川第二小学校	自学自習支援	10	20	①教育復興支援塾 事業
30	8/1～3	南三陸町立入谷小学校	自学自習支援・プール監視	3	9	①教育復興支援塾 事業
31	8/1～7	大和町立大和中学校	自学自習支援（数・英）	6	18	①教育復興支援塾 事業
32	8/1～7	大和町立宮床中学校	自学自習支援（数・英）	4	13	①教育復興支援塾 事業
33	8月3日	女川町総合運動場	仙台市立桜丘中学校、桜丘小 学校、川平小学校と連携した女川 町民を対象とした合唱・交流演 奏等のイベント	5	5	④イベント事業
34	8/6～10	大崎市立 古川第一小学校・ 古川東中学校・古川南中学校	自学自習支援（小5・6年生及 び中1～3年生対象）	17	85	①教育復興支援塾 事業
35	8/6 8/11～12	東北自治総合研修センター	高度な学級・学校経営力養成の ための短期集中講座～震災復興 からマネジメントを再考する～	共催	63	③教員研修事業
36	8/6～9	石巻専修大学	石巻好文館高校の生徒を対象と した自学自習支援	5	10	①教育復興支援塾 事業
37	8/6～10	気仙沼市内8中学校	自学自習支援（小3～6年生及 び中1～3年生対象）	18	84	①教育復興支援塾 事業
38	8/6～10	登米市南方公民館	南方中学校の生徒を対象とした 自学自習支援（5教科）	12	56	①教育復興支援塾 事業
39	8/6～10	丸森町立丸森中学校	自学自習支援（5教科）	9	43	①教育復興支援塾 事業
40	8/6～10 8/20～24	色麻町立色麻中学校	自学自習支援（国・数・英）	4	20	①教育復興支援塾 事業
41	8/7～10	南三陸町立 志津川中学校・戸倉中学校	自学自習支援、部活動指導補 助、教育環境整備	15	60	②教員補助事業
42	8/8～10	角田市立3中学校	自学自習支援（小3～中3年生 対象）	36	106	①教育復興支援塾 事業
43	8/9 8/22～24	美里町北浦地区公民館 他	自学自習支援	2	5	①教育復興支援塾 事業
44	8/11～12	陸前高田市米崎地区コミュニ ティセンター	体験教室「化石のレプリカをつ くろう！」の実施・運営補助 ※国立科学博物館主催事業への 協力	1	2	④イベント事業
45	8/16～18	蔵王自然の家	「子どもキャンプ」の実施補助 ※ユネスコ協会の主催事業への 協力	23	69	④イベント事業
46	8/16～20	栗原市立築館中学校	「学府くりはら塾」での講師	20	73	①教育復興支援塾 事業

	日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)	備考
47	8/19~20	名取市立 本郷幼稚園・ 本学附属幼稚園	大阪市立幼稚園PTA連絡協議 会・幼稚園長会による被災幼 稚園・保育所訪問	協力	6	その他
48	8/20~24	南三陸町立 志津川中学校	自学自習支援、部活動指導補 助、教育環境整備	15	75	②教員補助事業
49	8/20~24	大郷町立 大郷小学校・大郷中学校	サマースクールでの講師と自学 自習支援	18	58	①教育復興支援塾 事業
50	8/20~24	名取市立関上中学校	自学自習支援	16	61	①教育復興支援塾 事業
51	8/21~22	柴田町立船迫小学校	自学自習支援	1	2	①教育復興支援塾 事業
52	8/21~23	栗原市金成庁舎	小学生版「学府くりはら塾」で の講師	7	43	①教育復興支援塾 事業
53	8/21~23	宮城県 黒川高校	高大連携学力向上プロジェクト での学習指導講師(国・数・英)	4	4	①教育復興支援塾 事業
54	8/22~24	岩沼市中央公民館	自学自習支援(仮設住宅に入居 している児童生徒対象)	12	22	①教育復興支援塾 事業
55	8月25日	遠刈田温泉ゆと森倶楽部	日本育療学会第16回学術集会研 究集会への活動ポスター出展			その他
56	9/4~6	宮城県 気仙沼向洋高校(仮設校 舎)	図書館の書籍整理	3	8	②教員補助事業
57	9月9日	角田市スペースタワーコスモ ハウス	角田市「はやぶさまつり」での ブース出展(内山准教授+学 生)※角田市教委との連携事業 への協力	2	2	④イベント事業
58	9月16日	石巻向陽地区コミュニティ・ センター	仮設住宅に入居している住民を 対象にした佐藤雅子名誉教授・ 雅座・沖縄県安富祖小中学生に よる民俗舞踊公演	主催	約120	④イベント事業
59	9/19~21	大熊町立幼小中学校 (会津若松市内)	大熊町立幼小中学校の児童生徒 を対象とした教員補助活動(根 本アリソン特任准教授+学生)	17	51	②教員補助事業
60	9月24日	気仙沼市立小泉小学校	ピアノ演奏に親しみ、感謝の気 持ちを養う「感謝のピアノコン サート」の実施支援(原田准教 授+学生)	16	16	④イベント事業
61	9/24~25	東松島市立小野小学校	図書館の書籍整理	9	14	②教員補助事業
62	9/24~28	丸森町立 丸森小学校・丸森中学校 他	教員補助	12	59	②教員補助事業
63	9月26日	利府町立しらかし台中学校	学校支援プログラム(技術教育 講座)利府中学校生徒・保護者 を対象とした「LEDランタン 工作教室」	8	8	④イベント事業
64	9月26日	石巻市立大川小学校 他	第1回被災地視察研修	主催	19	人材育成
65	9月28日	南三陸町立戸倉小学校 他	オーストラリアメルボルン大学 院生及び本学学生の南三陸町視 察・現状解説	協力	17	その他
66	10月6日	石巻市立大川小学校 他	第2回被災地視察研修	主催	17	人材育成
67	10月13日	宮城県立石巻支援学校	学校祭の準備・運営補助、児童 生徒への活動補助	6	6	②教員補助事業
68	10月17日	仙台市立荒浜小学校 他	韓国大邱教育大学総長及び孫先 生の仙台市立荒浜小学校視察・ 現状解説	協力	7	その他
69	10月20日	岩沼市立岩沼南小学校	岩沼市「理科大好きフェスティ バル」の出展ブースの運営補助 ※岩沼市教委との連携事業への 協力	5	5	④イベント事業
70	10月20日	仙台市立旭丘小学校・旭ヶ丘 市民センター	「融合フォーラム in 東北2012」 でのボランティア活動報告・ポ スター出展	協力	7	その他

	日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)	備考
71	10/20～21	宮城教育大学	ヤングアメリカンズワーク ショップへの参加 ※創造的復興教育協会事業への 協力	協力	26	④イベント事業
72	10/20～21	宮城教育大学	学生主催ボランティア報告会・ 意見交換会「私たちにとっての 震災復興」	協力	27	人材育成
73	10/20～21	宮城教育大学	大学祭での活動ポスター出展			その他
74	11月2日	宮城教育大学	2012年 JICA 集団研修での「震 災と教育復興」の講義・解説	協力	10	その他
75	11/3～4	宮城教育大学	全国生涯学習ネットワーク フォーラム2012	主催	約480	③教員研修事業
76	11/3～4	宮城教育大学	ボランティア報告会・意見交換 会	主催	約90	人材育成
77	11月8日	女川町地域医療センター 他	第3回被災地視察研修	主催	20	人材育成
78	11/16～17	東松島市立鳴瀬第一中学校	図書館の書籍整理	5	5	②教員補助事業
79	11月30日	仙台市立七郷中学校体育館	荒浜小、七郷中の児童生徒、保 護者を対象としたコンサートの 実施 ※中部フィルハーモニー 交響楽団事業への協力	共催	約120	④イベント事業
80	12月9日	石巻市立大川小学校 他	第4回被災地視察研修	主催	19	人材育成
81	12月13日	仙台市情報・産業プラザ (AER) セミナールーム	南東北3大学連携「災害復興 学」市民講座	主催	47	③教員研修事業
82	12/14～15	東北学院大学	復興大学災害ボランティアス テーション主催シンポジウムへ の活動ポスター出展			その他
83	12月16日	仙台市立荒浜小学校 他	第5回被災地視察研修	主催	13	人材育成
84	12月19日	宮城教育大学	学生主催ボランティア報告会 「宮教生が考える震災復興～私 たちにできること～」	協力	40	人材育成
85	12/24～26	栗原市金成庁舎	「冬の学府くりはら塾」での講 師	9	17	①教育復興支援塾 事業
86	12/25～26	塩竈市内6小学校	自学自習支援	4	7	①教育復興支援塾 事業
87	12/25～27	気仙沼市内8中学校	自学自習支援(小3～6年生及 び中1～3年生対象)	18	53	①教育復興支援塾 事業
88	12/25～27	大郷町立大郷小学校	ウィンタースクールでの講師	10	25	①教育復興支援塾 事業
89	12/25～27	大和町立大和中学校	自学自習支援(数・英)	5	13	①教育復興支援塾 事業
90	12/25～27	大和町立宮床中学校	自学自習支援(数・英)	6	10	①教育復興支援塾 事業
91	12/25～28	大崎市立 古川東中学校・三本木中学校	自学自習支援	6	16	①教育復興支援塾 事業
92	12/25～28	登米市南方公民館	南方中学校の生徒を対象とした 自学自習支援(5教科)	6	18	①教育復興支援塾 事業
93	12/27～28	栗原市金成庁舎	小学生版「冬の学府くりはら 塾」での講師	11	20	①教育復興支援塾 事業
94	1/4～5	柴田町榎木生涯学習センター	柴田町内の中学3年生を対象と した自学自習支援	4	8	①教育復興支援塾 事業
95	1月16日	宮城教育大学	第1回講習会(iPad活用)	主催	6	人材育成
96	1月17日	仙台国際センター	「産学官連携フェア2013 winter みやぎ」への活動ポスター出展			その他
97	1月18日	宮城教育大学	第2回講習会(HP作成・活 用)	主催	8	人材育成
98	1月23日	宮城教育大学	第3回講習会(HP作成・活 用)	主催	6	人材育成
99	1月25日	宮城教育大学	第4回講習会(iPad活用)	主催	6	人材育成

	日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)	備考
100	1月26日	宮城野区文化センター	宮城県社会福祉協議会主催「災害ボランティアシンポジウム」への活動ポスター出展			その他
101	2月1日	宮城教育大学	第5回講習会 (iPad 活用)	主催	9	人材育成
102	2/1~22 (毎週金曜日)	仙台市立館小学校図書室	図書室の蔵書のデータベース化作業	2	6	②教員補助事業
103	2月2日	福島県文化センター	南東北三大学連携シンポジウム「安全と信頼で支えられる地域社会の構築を目指して」での活動報告			その他
104	2月2日	仙台市天文台	「天文台まつり2013」への活動ポスター出展			その他
105	2月6日	宮城教育大学	第6回講習会 (iPad 活用)	主催	9	人材育成
106	2月11日	仙台ガーデンパレス	第2回 学校・地域連携研究シンポジウム「夢と志をもつ子どもたちを育むために～地域協働による防災教育をめざして～」	共催	約130	⑥キャリア教育事業
107	2月12日	宮城教育大学	キャリア教育に関する研修会 国立教育政策研究所 藤田先生による講演	主催	20	⑥キャリア教育事業
108	2/12~15	大熊町立幼稚園・小学校 (会津若松市内)	大熊町立幼稚園・小学校の園児児童を対象とした教員補助活動 (根本アリソン特任准教授+学生)	23	69	②教員補助事業
109	2月15日	宮城教育大学	第7回講習会 (ボランティアキット活用)	主催	21	人材育成
110	2月18日	宮城教育大学	第1回復興カフェ「気仙沼市仮設商店街における経営状況と本設の意向」	主催	21	研究開発事業
111	2月18日	宮城教育大学	持続発展教育・ESD セミナー 国立教育政策研究所 五島先生による基調報告「防災教育・持続発展教育の進め方」	後援	約50	③教員研修事業
112	2月20日	宮城教育大学	第8回講習会 (iPad 活用)	主催	2	人材育成
113	2月22日	宮城教育大学	第9回講習会 (ボランティアキット活用)	主催	3	人材育成
114	3/4~15	松島町立松島第一小学校	教員補助	14	69	②教員補助事業
115	3月8日	宮城教育大学	上越教育大学と本学の特別支援教育合同セミナーでの「教育復興支援について」の講義・解説	協力	9	その他
116	3月11日	文部科学省	「東日本大震災復興支援イベント～教育・研究機関としてできること、そしてこれから～」への活動ポスター出展			その他
117	3月11日	宮城教育大学	第2回復興カフェ「教育復興支援センターの役割と課題」	主催	37	研究開発事業
118	3月16日	宮城教育大学	ボランティア総会	主催	28	人材育成
119	3/25~29	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援、部活動指導補助、教育環境整備	13	65	②教員補助事業
120	3/26~29	気仙沼市内8中学校	自学自習支援 (小3~6年生及び中1~3年生対象)	13	52	①教育復興支援塾事業
121	3/26~29	宮城県黒川高校	高大連携学力向上プロジェクトでの学習指導講師 (国・数・英)	3	4	①教育復興支援塾事業

### 3 平成25年度 教育復興支援センター活動(事業)実績一覧

	日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携団体	備考
1	4月～継続 (年間)	仙台市立中野小学校	教員補助	26			②教員補助事業
2	4月～継続 (年間)	仙台市立荒浜小学校	教員補助	2			②教員補助事業
3	4月～継続 (年間)	岩沼市立玉浦小学校	教員補助	1			②教員補助事業
4	4月～継続 (年間)	仙台市立七郷中学校	教員補助	1			②教員補助事業
5	4月18日	宮城教育大学	第3回復興カフェ「宮古市 田老地区の現状について」	26			研究開発事業
6	4月19日	宮城教育大学	ボランティア協力員準備会	6			人材育成
7	4月24日	宮城教育大学	第1回 ボランティア総会	101			人材育成
8	4月25日	宮城教育大学	iPad 講習会	9			人材育成
9	4月30日	宮城教育大学	第1回ボランティア定例会	26			人材育成
10	5月1日	宮城教育大学	第2回ボランティア定例会	21			人材育成
11	5月10日	文部科学省	「地域と協働する大学づく りシンポジウム」パネル出 展				その他
12	5月11日	南三陸町立戸倉小学校 他	第8回被災地視察研修	36			人材育成
13	5月13日	宮城教育大学	第3回ボランティア定例会	24			人材育成
14	5月15日	宮城教育大学	河北新報社講習会 事前勉 強会	8			人材育成
15	5月22日	宮城県立石巻支援学校	運動会の準備・運営補助、 児童生徒への活動補助	1	1		②教員補助事業
16	5月22日	仙台市立荒浜小学校	運動会の準備・運営補助、 児童生徒への活動補助	20	20		②教員補助事業
17	5月26日	南三陸町立戸倉小学校 他	第9回被災地視察研修	34			人材育成
18	5月29日	宮城教育大学	第1回ボランティア新聞を 作ろう講習会	26			人材育成
19	5月29日	宮城教育大学	第4回復興カフェ「未来へ 継ぐ」	36			研究開発事業
20	6月8日	仙台市農業園芸セン ター(仙台市科学博物 館)	こども☆ひかりフェスティ バルの補助(※仙台市科学 博物館より依頼)	23			④こども対象・参 加イベント事業
21	6月10日	宮城教育大学	第5回復興カフェ「フィリ ピンの自然災害と防災教 育」	20			研究開発事業
22	6月12日	宮城教育大学	iPad 講習会	11			人材育成
23	6月15日	岩沼市陸上競技場	岩沼市中総体(陸上競技) の実施・運営の補助	8	8		②教員補助事業
24	6月15日	南三陸町立戸倉小学校 他	第10回被災地視察研修	34			人材育成
25	6月16日	南三陸町立戸倉小学校 他	第11回被災地視察研修	22			人材育成
26	6月19日	大和町立鶴巣小学校	総合学習における体験学習 での指導支援	15			④こども対象・参 加イベント事業
27	6月26日	宮城教育大学	第2回ボランティア新聞を 作ろう講習会	10			人材育成

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

	日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携団体	備考	
28	6月26日	宮城教育大学	第6回復興カフェ「震災を忘れないために～学生からのメッセージ」	60			研究開発事業	
29	6月26日	石巻市鹿妻地区	「鹿妻復興マップづくり」	4		東北大学災害科学国際研究所	研究開発事業	
30	6月29日	仙台国際センター	教育復興支援センター棟竣工記念シンポジウム「学びの力が未来を拓く」	主催	110		③教員研修等事業	
31	7月1日	宮城教育大学	仙台市立中野小学校「ヤギふれあい体験活動の実施」	主催	13		④こども対象・参加イベント事業	
32	7月6日	仙台市旭丘市民センター	佐藤静教授、野澤令照副センター長／公開研究会「不登校・適応支援の原点」	協力	120		⑤心のケア支援事業	
33	7月10日	石巻市鹿妻地区	「鹿妻復興マップづくり」	5		東北大学災害科学国際研究所	研究開発事業	
34	7月17日	宮城教育大学	学習支援ボランティア壮行式・不安解消会	50			人材育成	
35	7月22日	美里町教育委員会	「美里町学び支援事業研修会」講師		20		③教員研修等事業	
36	7/22～7/26	女川町立女川小学校	自学自習支援	4	(1)	8 (3)	東北大学	①教育復興支援塾事業
37	7/22～8/23	柴田町内4小・中学校	自学自習支援(槻木小学校、船迫小学校、船岡小学校、船岡中学校)	5		17		①教育復興支援塾事業
38	7/25～8/20	大河原町立大河原中学校	自学自習支援(数学・英語)	2		7		①教育復興支援塾事業
39	7/25～8/6	仙台市立七郷中学校	自学自習支援(5教科・主に中3年生)	10		10		①教育復興支援塾事業
40	7月26日	気仙沼市立階上小学校図書館	楽器作りワークショップ	12				④こども対象・参加イベント事業
41	7月26日	女川町総合体育館	女川町民を対象とした交流イベント	共催		20		④こども対象・参加イベント事業
42	7月29日	東松島市コミュニティセンター	東松島市教員研修会「志教育講演会」	主催		300		⑥こころざし・キャリア教育事業
43	7/30～8/5	亘理町立逢隈中学校・荒浜中学校	自学自習支援(数学・英語、中3年生対象)	8		11		①教育復興支援塾事業
44	8/5～8/9	角田市内3小・中学校	自学自習支援(角田小学校、北角田中学校、角田中学校)	10	(1)	29 (5)	群馬大学	①教育復興支援塾事業
45	8/5～8/9	大崎市内3小・中学校	自学自習支援(小5・6年生及び中1～3年生対象)(古川第一小、古川中・古川南中)	17	(7)	67 (35)	愛知教育大学	①教育復興支援塾事業
46	8/5～8/9	気仙沼市内8中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生対象)	21	(5)	89 (25)	早稲田大学	①教育復興支援塾事業
47	8/5～8/9	大和町立大和中学校	自学自習支援(数学・英語、中1～3年生対象)	2		10		①教育復興支援塾事業
48	8/5～8/9	大和町立宮床中学校	自学自習支援(数学・英語、中1～3年生対象)	3		11		①教育復興支援塾事業
49	8/5～8/9	登米市立南方中学校	自学自習支援(主に中3対象)	11	(9)	52 (45)	京都教育大学	①教育復興支援塾事業
50	8/5～8/9	丸森町立丸森中学校	自学自習支援(5教科・中1～3年生対象)	9	(6)	44 (29)	奈良教育大学、北海道教育大学	①教育復興支援塾事業
51	8/5～8/9	名取市立関上中学校	自学自習支援(5教科・中1～3年生対象)	16	(8)	58 (35)	早稲田大学、仙台大学	①教育復興支援塾事業
52	8/5～8/9	登米市内小・中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生)	8	(8)	40 (40)	大阪教育大学	①教育復興支援塾事業

	日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)		派遣延人数 (他大学内数)		協力・連携団体	備考
53	8/5～8/9	色麻町立色麻小学校①	自学自習支援(小3～6年生対象)	2		10			①教育復興支援塾事業
54	8/6～8/7	登米市立米山中学校	自学自習支援(数学・英語、中1～3年生対象)	5		10			①教育復興支援塾事業
55	8/6～8/9	仙台市立蒲町中学校①	自学自習支援(数学・英語、主に3年生対象)	3		7			①教育復興支援塾事業
56	8/7～8/9	石巻市内小・中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生)	1		3			①教育復興支援塾事業
57	8/7～8/9	一関市立萩荘中学校	自学自習支援(数学・英語・国語)	2		6			①教育復興支援塾事業
58	8/7～8/11	美里町立小牛田中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生)	3		5			①教育復興支援塾事業
59	8/8～8/12	美里町立不動堂中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生)	3		4			①教育復興支援塾事業
60	8/10～8/12	明成高校	学習支援(小論文・英語・数学)	3		5			①教育復興支援塾事業
61	8/16～8/20	栗原市立築館中学校	「学府くりはら塾」での講師(3教科、教材作成・指導を含む)	19		73			①教育復興支援塾事業
62	8/19～8/21	仙台市立蒲町中学校②	自学自習支援(数学・英語、主に3年生対象)	8	(3)	21	(9)	東北学院大学	①教育復興支援塾事業
63	8/19～8/21	石巻市立北上小学校①	図書整理	5	(2)	14	(8)	東北学院大学	②教員補助事業
64	8/19～8/22	南三陸町立戸倉小学校	自学自習支援(全学年)	9	(1)	32	(3)	東北学院大学	①教育復興支援塾事業
65	8/19～8/22	宮城県黒川高校	サマースクール講師(国語・数学・英語、主に2年生)	2		8			①教育復興支援塾事業
66	8/19～8/23	色麻町立色麻小学校②	自学自習支援(小3～6年生対象)	9		21			①教育復興支援塾事業
67	8/19～8/23	色麻町立色麻中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	9		21			①教育復興支援塾事業
68	8/19～8/23	大郷町立大郷小・中学校	サマースクール講師・自学自習支援	12		40			①教育復興支援塾事業
69	8/19～8/23	女川町立女川中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	7	(5)	31	(25)	福岡教育大学	①教育復興支援塾事業
70	8/19～8/23	塩釜市内4中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	14	(9)	57	(45)	東京学芸大学	①教育復興支援塾事業
71	8/19～8/23	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援・部活動支援	15	(10)	74	(50)	上越教育大学、愛知教育大学	②教員補助事業
72	8月20日	岩沼事務所	岩沼市教育委員会との地域連携 被災地研修講演会	17					その他
73	8/20～8/22	岩沼市中央公民館(仮設住宅入居小・中学生)	自学自習支援(仮設に入居している児童、生徒対象)	4		11			①教育復興支援塾事業
74	8/20～8/22	岩沼市立玉浦小学校	自学自習支援	7	(3)	19	(9)	北海道教育大学	①教育復興支援塾事業
75	8/21～8/23	栗原市金成庁舎	小学校版「学府くりはら塾」・自学自習支援(国語・算数、小3～6年生)	12		31			①教育復興支援塾事業
76	9/11～9/14	福島県会津若松市(大熊町幼稚園・小・中学校)	教員補助	23		92			②教員補助事業
77	9月14日	同志社大学	「第10回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」パネル出展						その他
78	9月15日	気仙沼市本吉公民館	スペースラポin気仙沼として、気仙沼市小学生を対象とした実験工作教室	主催		22			④子ども対象・参加イベント事業

	日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携団体	備考
79	9月19日	宮城教育大学	第7回復興カフェ「持続し復元力ある地域をつくるコミュニティの物語」	40			研究開発事業
80	9/24～9/27	丸森町内5小学校	教員補助	20	(11)	77 (44)	奈良教育大学 ②教員補助事業
81	9/27～9/29	女川・石巻・荒浜地区・宮城教育大学	沖縄県立芸術大学被災地視察、教育復興ワークショップの開催	主催		30	④こども対象・参加イベント事業
82	10月～継続 (年間)	明成高校	教員補助(土曜日の学習支援)	1			②教員補助事業
83	10月5日	石巻市立北上小学校②	図書整理	5	(3)	5 (3)	東北学院大学 ②教員補助事業
84	10月12日	東北歴史博物館	仮設住宅の児童を対象とした秋の博物館イベント運営補助	4			④こども対象・参加イベント事業
85	10/13～17	宮城教育大学・岩沼市立玉浦中学校 他	IIDEA(タイ教育省国際教職員開発研究所)被災地視察研修等				その他
86	10月14日	気仙沼市立向洋高校 他	第12回被災地視察研修	33			人材育成
87	10月17日	宮城県宮城野高等学校	「チャレスポ!宮城野!」運営補助(※仙台市立中野小学校の依頼による)	3			④こども対象・参加イベント事業
88	10月18日	宮城教育大学	第2回ユネスコスクール東北大会/第3回ユネスコスクール宮城県大会へのパネリスト出演				その他
89	10月26日	宮城教育大学	ボランティア報告会	50			その他
90	10月27日	宮城教育大学	フォーラム「震災時の学校現場とこれからの防災教育」	50			その他
91	10月31日	宮城教育大学	第8回復興カフェ「台風26号による伊豆大島における災害と支援」	17			研究開発事業
92	11/1～11/2	気仙沼市・陸前高田市 他	気仙沼市教育委員会・お茶の水女子大学・教育復興支援センター連携事業			お茶ノ水女子大学	その他
93	11月2日	宮城県立石巻支援学校	学校祭の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	7		7	②教員補助事業
94	11月9日	仙台市立東六郷小学校	音楽イベントの運営補助	6			④こども対象・参加イベント事業
95	11/19、22	七ヶ浜町中央公民館	七ヶ浜町内小・中学生の不登校支援	2		2	②教員補助事業
96	11月20日	宮城教育大学	第9回復興カフェ「フィリピン台風30号—私たちにできる恩返しを考えたい—」	38			研究開発事業
97	11月23日	石ノ森漫画館	本学技術教育講座主催のクリスマス工作イベントへの協力	協力		30	④こども対象・参加イベント事業
98	11月25日	宮城教育大学	第1回 HP 作成講習会	3			人材育成
99	11月26日	仙台市立寺岡小学校	公開研究会コーディネーター	主催		350	③教員研修等事業
100	11月28日	宮城教育大学	第2回 HP 作成講習会	5			人材育成
101	11月30日	登米市内応急仮設住宅	仮設住宅住民を対象とした天文イベント	9			④こども対象・参加イベント事業
102	12月1日	仙台市天文台	スペースラボと題した実験工作教室	主催		15	④こども対象・参加イベント事業
103	12月6日	宮城教育大学	第3回 HP 作成講習会	5			人材育成

	日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)		派遣延人数 (他大学内数)		協力・連携団体	備考
104	12月7日	気仙沼市階上中学校仮設住宅集会所	仮設住宅に住む親子を対象とした「お菓子の家作り教室」	13					④こども対象・参加イベント事業
105	12月8日	仙台市情報・産業プラザ(AER)	南東北3大学連携「災害復興学」市民講座「東北の未来創りと大学の使命」	80					③教員研修等事業
106	12月7日	南相馬市 他	第13回被災地視察研修	38					人材育成
107	12月11日	石巻市鹿妻地区	「鹿妻復興マップづくり」発表会	3					研究開発事業
108	12月12日	宮城教育大学	第4回 HP 作成講習会	4					人材育成
109	12月14日	石ノ森漫画館	本学技術教育講座主催のクリスマス工作イベントへの協力	協力		30			④こども対象・参加イベント事業
110	12/14~15	仙台市・名取市・気仙沼市	お茶大附属高校ボランティア部との被災地視察研修	4					その他
111	12月15日	気仙沼市総合体育館	気仙沼市での小学生・親子を対象とした運動支援イベント	協力		100			④こども対象・参加イベント事業
112	12月15日	気仙沼市立向洋高校他	第14回被災地視察研修	13					人材育成
113	12月20日	宮城教育大学	第5回 HP 作成講習会	4					人材育成
114	12/22~23	蔵王町ございんホール	蔵王町冬の学習会(自学習支援、数学・英語、中1~中3対象)	1		2			①教育復興支援塾事業
115	12/22~23	仙台市情報・産業プラザ(AER)	こども☆ひかりミュージアムストリートの運営補助(※仙台市科学博物館より依頼)	5					④こども対象・参加イベント事業
116	12/23~25	栗原市金成庁舎	「冬の学府くりはら塾」での講師(中3受験生対象・3教科、教材作成・指導を含む)	6		10			①教育復興支援塾事業
117	12月24日	大郷町教育委員会	「大郷町立小・中学校教員研修会」講師			42			③教員研修等事業
118	12/24~26	塩釜市内2小学校	自学習支援(国語・算数・数学、小3~6年生及び中1~中3対象)	3		6			①教育復興支援塾事業
119	12/25~26	大和町立大和中学校	自学自習支援(数学・英語、中1~3年生対象)	2		4			①教育復興支援塾事業
120	12/25~26	大和町立宮床中学校	自学自習支援(数学・英語、中1~3年生対象)	5		7			①教育復興支援塾事業
121	12/25~27	気仙沼市内7中学校	自学自習支援(小3~6年生及び中1~3年生対象)	16	(11)	46	(33)	早稲田大学、東北学院大学、徳島大学	①教育復興支援塾事業
122	12/25~27	仙台市立蒲町中学校	自学習支援(主に数学・英語、中1~中3対象)	5		12			①教育復興支援塾事業
123	12/25~27	亘理町立吉田中学校①	自学習支援(主に数学・英語、中1~中3対象)	3		6			①教育復興支援塾事業
124	12/25~27	大郷町立大郷小学校	自学自習支援(国語・算数、小4~小6対象)	8		12			①教育復興支援塾事業
125	12/25~27	大崎市内3中学校	自学自習支援(中学生対象)	9		17			①教育復興支援塾事業
126	12/26~27	登米市立南方中学校	自学自習支援(全教科)	3		6			①教育復興支援塾事業
127	12/26~27	栗原市金成庁舎・栗原市文化会館	小学校版「学府くりはら塾」・自学自習支援(国語・算数、小3~6年生)	8		15			①教育復興支援塾事業

	日程	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携団体	備考
128	12月27日	美里町北浦コミュニティセンター	自学習支援（北浦小学校児童対象）	2	2		①教育復興支援塾事業
129	1月～継続 (年間)	仙台市立蒲町中学校	教員補助（放課後の学習支援）	1			②教員補助事業
130	1月9日	宮城教育大学	第6回 HP 作成講習会	4			人材育成
131	1月15日	宮城教育大学	第2回ボランティア総会	52			人材育成
132	1/18～19	柴田町船岡公民館	自学習支援（数・英、槻木中学校、船迫中学校、船岡中学校の3年対象）	3	7		①教育復興支援塾事業
133	1月20日	仙台市青年文化センター	佐藤静教授／不登校支援の「これまで」と支援の輪を広げた「これから」	共催	500		⑤心のケア支援事業
134	1月26日	聖ウルスラ学院英智小中学校・高等学校	本図教授、藤代特任教授、野澤副センター長／いのちの教育実践交流会 in 宮城「防災教育と心のケア」	共催	150		⑤心のケア支援事業
135	1月30日	宮城教育大学	第7回 HP 作成講習会	6			人材育成
136	2月1日	仙台市青葉体育館	環境教育実践研究センター主催「国際教育から見える地域コミュニティ～震災後の東北から～」	共催	72		③教員研修等事業
137	2月8日	東北歴史博物館	仮設住宅の児童を対象とした冬の博物館イベント運営補助	5			④こども対象・参加イベント事業
138	2月15日	気仙沼階上学童センター	学童保育での学習・遊び支援ボランティア	6			④こども対象・参加イベント事業
139	2/16～2/21	福島県会津若松市（大熊町幼稚園・小・中学校）	教員補助	25	125		②教員補助事業
140	3月1日	仙台市シルバーセンター	震災から3年—これからの子どもたちの元気を支援するために—	主催	80		⑤心のケア支援事業
141	3月15日	仙台市立東六郷小学校	卒業式での音楽演奏ボランティア	4			④こども対象・参加イベント事業
142	3月17日	宮城教育大学	第10回復興カフェ「地域おこしや過疎化対策などの地域活性化を対象とした、人材育成における大学と地域連携の役割」	13	13		研究開発事業
143	3月22日	仙台市立荒浜小学校	卒業式運営補助	4	4		②教員補助事業
144	3/24～3/28	南三陸町立志津川中学校	自学習支援、部活動指導補助、環境整備等	12	(5)	60 (25)	愛知教育大学 ②教員補助事業
145	3/25～3/28	気仙沼市内6中学校	自学習支援（小3～小6、中1～中2対象）	12	(5)	48 (20)	奈良教育大学 ①教育復興支援塾事業

#### 4 平成26年度 教育復興支援センター活動（事業）実績一覧

	実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学	備考
1	継続	仙台市立中野小学校	教員補助（学生による毎週の自主的な支援）	10		②教員補助事業

		実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学	備考	
2	継続	仙台市立荒浜小学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	6			②教員補助事業	
3	継続	塩釜市立第一小学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	1			②教員補助事業	
4	継続	仙台市立蒲町中学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	3			②教員補助事業	
5	継続	女川町立女川小学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	8			②教員補助事業	
6	4/17~18	仙台市立寺岡小学校・西山中学校	キャリア教育推進の意義と学校現場における効果的な指導のあり方(教員研修)	共催			⑥こころざし・キャリア教育事業	
7	4月23日	宮城教育大学	第1回学生協力員総会	60			人材育成	
8	5月24日	宮城県立石巻支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	6	6		②教員補助事業	
9	5月31日	仙台市立荒浜小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	17	17		②教員補助事業	
10	6月3日	大和町立鶴巣小学校	総合学習における体験学習での指導支援	18			④こども対象・参加イベント事業	
11	6月6日	岩手県立生涯学習推進センター	学校と地域の融合～学校支援ボランティアが秘めている可能性～	派遣			③教員研修事業	
12	6月7日	松島水族館	こども☆ひかりフェスティバルの補助	11			④こども対象・参加イベント事業	
13	6月11日	宮城教育大学	第11回復興カフェ	21			研究開発事業	
14	6月14日	気仙沼向洋高等学校跡他	第15回被災地視察研修	33			人材育成	
15	6月15日	仙台市立荒浜小学校跡他	第16回被災地視察研修	19			人材育成	
16	6月21日	岩沼市陸上競技場	岩沼市中総体(陸上競技)の実施・運営の補助	10	10		②教員補助事業	
17	6月25日	宮城教育大学	仙台市立中野小学校「ヤギふれあい体験活動の実施」	主催			④こども対象・参加イベント事業	
18	6月28日	仙台市立荒浜小学校跡他	第17回被災地視察研修	21			人材育成	
19	6月29日	山元町中浜小学校跡他	第18回被災地視察研修	39			人材育成	
20	7月9日	石巻市鹿妻地区	東北大学災害科学国際研究所「鹿妻復興マップづくり」	3		東北大学災害科学国際研究所	研究開発事業	
21	7月16日	宮城教育大学	夏休みボランティア不安解消会	50			人材育成	
22	7月18日	美里町駅東交流センター	子どもと向き合うための学び相談員・支援員としての心構え	共催			③教員研修事業	
23	7/22~7/30	塩釜市立第三小学校	自学習支援(小3~小6年生対象)	7	10		①教育復興支援塾事業	
24	7/31~8/6	大崎市立古川東中学校	自学自習支援(小5・6年生及び中1~3年生対象)	2	(2)	4 (4)	愛知教育大学	①教育復興支援塾事業
25	8月3日	仙台市立西山中学校	女川町民を対象とした交流イベント	共催		11		④こども対象・参加イベント事業
26	8/4~8/8	気仙沼市内小・中学校	自学自習支援(小3~6年生及び中1~3年生対象)	12	(2)	32 (10)	早稲田大学	①教育復興支援塾事業
27	8/4~8/8	色麻町立色麻学園①	自学自習支援(小3~6年生及び中1~3年生対象)	2		2		①教育復興支援塾事業
28	8/4~8/8	大和町立宮床中学校	自学自習支援(数学・英語、中1~3年生対象)	4		12		①教育復興支援塾事業
29	8/4~8/8	大河原町内中学校	自学習支援(中1~3年生対象:大河原中・金ヶ瀬中①)	7		14		①教育復興支援塾事業
30	8/4~8/8	登米市立南方中学校	自学自習支援(主に中3対象)	15	(15)	75 (75)	京都教育大学 大阪教育大学	①教育復興支援塾事業

I 年表  
II 支援実践部門  
III 研究開発部門  
IV 人材育成  
V 刊行物  
VI 外部資金  
VII 国連防災世界会議報告  
VIII メモリアルイベント報告  
IX 資料

		実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学	備考
31	8/5～8/11	角田市立角田小・中学校	自学自習支援(角田小学校、角田中学校)	7	8		①教育復興支援塾事業
32	8/6～8/12	大崎市立古川中学校	自学自習支援(小5・6年及び中1～3年生対象)	5	(2) 10	(3) 愛知教育大学	①教育復興支援塾事業
33	8/6～8/8	名取市立関上中学校①	自学自習支援(5教科・中1～3年生対象)	4	9		①教育復興支援塾事業
34	8/7～8/11	本小牛田コミュニティセンター	自学自習支援(中1～3年生:小牛田中学学生)	3	5		①教育復興支援塾事業
35	8/7～8/8	丸森町立丸森中学校	自学自習支援(5教科・中1～3年生対象)	5	10		①教育復興支援塾事業
36	8/9～8/11	明成高校(茂庭荘)	学習支援(小論文・英語・数学)	2	6		①教育復興支援塾事業
37	8/16～8/20	栗原市教育研究センター	中学生を対象とした「学府くりはら塾」での講師(3教科、教材作成・指導を含む)	21	63		①教育復興支援塾事業
38	8/18、21	富谷町立富谷第二中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	6	9		①教育復興支援塾事業
39	8/18～19	大河町立金ヶ瀬中学校②	自学自習支援(中1～3年生対象)	2	3		①教育復興支援塾事業
40	8/18～8/19	名取市立関上中学校②	自学自習支援(中1～3年生対象)	6	12		①教育復興支援塾事業
41	8/18～8/20	色麻町立色麻学園②	自学自習支援(小3～6年及び中1～3年生対象)	1	3		①教育復興支援塾事業
42	8/18～8/20	仙台市立蒲町中学校	自学自習支援(5教科)	8	(2) 24	(6) 東北学院大学	①教育復興支援塾事業
43	8/18～8/20	富谷町立日吉台中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	5	8		①教育復興支援塾事業
44	8/18～8/20	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援・部活動支援	11	(8) 33	(24) 愛知教育大学	②教員補助事業
45	8/18～8/20、8/22	富谷町立富谷中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	5	12		①教育復興支援塾事業
46	8/18～8/21	大崎市立古川南中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	2	7		①教育復興支援塾事業
47	8/18～8/21	女川地区小・中学校および仮設住宅	自学自習支援	18	(6) 47	(24) 福岡教育大学	①教育復興支援塾事業
48	8/18～8/22	塩釜市内4中学校	自学自習支援(中1～3年生対象)	9	(7) 45	(35) 東京学芸大学	①教育復興支援塾事業
49	8/18～8/22	柴田町立槻木小学校	自学自習支援	1	5		①教育復興支援塾事業
50	8/18～8/22	南三陸町立戸倉小学校	自学自習支援・環境整備(全学年)	8	(4) 38	(20) 奈良教育大学	①教育復興支援塾事業
51	8/18～8/22	大郷町立大郷小・中学校	サマースクール講師・自学自習支援	14	35		①教育復興支援塾事業
52	8/18～8/22	登米市内小・中学校(迫地区)	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生対象)	5	11		①教育復興支援塾事業
53	8/19～8/20	大衡村立大衡中学校	自学自習支援(5教科)	2	4		①教育復興支援塾事業
54	8/19～8/21	岩沼市中央公民館(仮設住宅入居小・中学生)	自学自習支援(仮設に入居している児童、生徒対象)	5	13		①教育復興支援塾事業
55	8/19～8/21	岩沼市立玉浦小学校	自学自習支援	6	14		①教育復興支援塾事業
56	8/20～22	栗原市文化会館・教育研究センター	自学自習支援(小学生版「くりはら塾」での講師)	12	31		①教育復興支援塾事業
57	8月21日	栗原市志波姫小学校	防災教育校内研修	派遣	20		③教員研修事業
58	8月23日	TKP 新宿ビジネスセンター	関東圏同窓生ネットワーク総会 研修会「防災教育シンポジウム」	共催	35		③教員研修事業
59	8/29～8/30	奥松島市立鳴瀬未来中学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	19	38		②教員補助事業

		実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学	備考
60	9/1～9/3	南三陸町立志津川小学校	教員補助	6	18		②教員補助事業
61	9/16～9/19	南三陸町立名足小学校	教員補助	5	(1)	17 (4)	群馬大学 ②教員補助事業
62	9/17～9/20	福島県会津若松市(大熊幼稚園、大熊小・中学校)	教員補助	10	40		②教員補助事業
63	9/19～9/21	仙台市情報・産業プラザ(AER) 2階アトリウム	佐藤静教授/宮教大防災3days「災害後の生活と心のセーフティネット」	-			⑤心のケア支援事業
64	9/22～9/26	丸森町立丸森小学校	教員補助	12	(5)	53 (25)	奈良教育大学 ②教員補助事業
65	9/5、12、19、26	女川町立女川小学校	教員補助	12	22		②教員補助事業
66	10月15日	栗原市文化会館大ホール	学府くりはら学力向上講演会	派遣	360		③教員研修事業
67	10月19日	名取市洞口家住宅	第12回復興カフェ	40			研究開発事業
68	10月25日	エルパーク仙台(仙台市)	キャリア教育講演会「20歳からの自分磨ぎ」				⑥こころざし・キャリア教育事業
69	10/31～11/2	陸前高田市等	お茶の水女子大学との連携事業(JICA)				研究開発事業
70	11月1日	宮城県立石巻支援学校	学校祭の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	14	14		②教員補助事業
71	11月5日	宮城教育大学	ipad講習会	10			人材育成
72	11月5日	ホテル白萩(仙台)	みやぎ教育の日推進大会「みやぎからの発信～未来につなぐ教育の創造～」				⑥こころざし・キャリア教育事業
73	11月7日	仙台市勾当台公園	仙台市PTAフェスティバルへの参加・ワークショップ開催	3			④こども対象・参加イベント事業
74	11月13日	宮城教育大学	第13回復興カフェ	23			研究開発事業
75	11月22日	東六郷小学校	東六郷小学校学校祭での演奏披露	6			④こども対象・参加イベント事業
76	11月23日	亶理町公民館	サイエンスフェスティバルin亶理町2014への協力	3			④こども対象・参加イベント事業
77	11月26日	東松島市コミュニティセンター	東松島市協働教育研修会「今見直される協働教育の底力～東日本大震災が教えてくれたこと～」				⑥こころざし・キャリア教育事業
78	11月29日	石ノ森漫画館	本学技術教育講座主催のクリスマス工作イベントへの協力	5			④こども対象・参加イベント事業
79	11月30日	石巻・女川地区	第19回被災地視察研修	30			人材育成
80	12月16日	岩出山スコレハウス	大崎市協働教育研修会「協働教育におけるコーディネーターの役割」				⑥こころざし・キャリア教育事業
81	12月19日	宮城教育大学	第14回復興カフェ	30			研究開発事業
82	12/23～12/26	蔵王町ございんホール	自学習支援(主に中学生対象)	1	3		①教育復興支援塾事業
83	12/24～12/26	大和町立宮床中学校	自学習支援(中1～3年生対象、主に数・英)	3	6		①教育復興支援塾事業
84	12/24～12/26	栗原市文化会館・教育研究センター	小学3～6年生を対象とした「学府くりはら塾」での講師(算数、冬休みの課題・指導を含む)	10	16		①教育復興支援塾事業
85	12/25	柴田町立船岡中学校	自学習支援(中1～3年生対象)	2	2		①教育復興支援塾事業
86	12/25～12/26	気仙沼市内小・中学校	自学習支援(小3～6年及び中1～3年生対象)	10	(3)	20 (6)	早稲田大学 ①教育復興支援塾事業
87	12/25～12/26	大郷町立大郷小学校	自学習支援(小4～6年生対象、算・国)	8	11		①教育復興支援塾事業
88	12/25～12/26	大崎市立古川東中学校・古川南中学校	自学習支援(小・中学生対象)	4	7		①教育復興支援塾事業

I 年表  
II 支援実践部門  
III 研究開発部門  
IV 人材育成  
V 刊行物  
VI 外部資金  
VII 国連防災世界会議報告  
VIII メモリアルイベント報告  
IX 資料

		実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学	備考
89	12/25~12/27	栗原市教育研究センター	中学生を対象とした「学府くりはら塾」での講師(3教科、教材作成・指導を含む)	8	19		①教育復興支援塾事業
90	1月21日	宮城教育大学	第2回学生協力員総会	60			人材育成
91	1月22日	宮城教育大学	第15回復興カフェ	30			研究開発事業
92	2月4日	宮城教育大学	第16回復興カフェ	30			研究開発事業
93	3月7日	名取市閑上中学校	卒業式での音楽演奏ボランティア	6			④こども対象・参加イベント事業
94	3月9日	宮城教育大学	第17回復興カフェ	7			研究開発事業
95	3月21日	仙台市立荒浜小学校	卒業式運営補助ボランティア	5			④こども対象・参加イベント事業
96	3月21日	仙台市立東六郷小学校	卒業式での音楽指導ボランティア	2			④こども対象・参加イベント事業
97	3/16~20	南三陸町立志津川中学校	教員補助	16	(11)	愛知教育大学 奈良教育大学	②教員補助事業

## 5 平成27年度 教育復興支援センター活動(事業)実績一覧

		実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学	備考
1	継続	仙台市立荒浜小学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	2			②教員補助事業
2	継続	仙台市立蒲町中学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	4			②教員補助事業
3	継続	女川小学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	4			②教員補助事業
4	継続	岩沼市立玉浦中学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	11			②教員補助事業
5	継続	宮城県美田園高等学校	教員補助(学生による毎週の自主的な支援)	5			②教員補助事業
6	4月22日	宮城教育大学	第1回学生協力員総会	44			人材育成
7	5月20日	宮城県立利府支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	1			②教員補助事業
8	5月23日	宮城県立石巻支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	3			②教員補助事業
9	6月6日	旧山元町立中浜小学校他	第20回被災地視察研修	24			人材育成
10	6月14日	仙台市縄文の森広場	こども☆ひかりフェスティバルの補助	13			④こども対象・参加イベント
11	6月20日	気仙沼・南三陸方面	第21回被災地視察研修	27			人材育成
12	7月6日	東松島市コミュニティーセンター	「ハザードマップの作り方」「防災教育の必要性」	派遣	32		③教員研修等事業
13	7月7日	宮城教育大学	第18回復興カフェ	45			研究開発事業
14	7月8日	宮城教育大学	夏休みボランティア不安解消会	15			人材育成
15	7月14日	宮城教育大学	第19回復興カフェ	19			研究開発事業
16	7月27日	蔵王町役場	蔵王町教職員研修会～志教育と学力向上について～	派遣	50		③教員研修等事業

		実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学	備考
17	7月28日	大崎市立沼部小学校	「ハザードマップの作り方」 「防災教育の必要性」	派遣	40		③教員研修等事業
18	7/30～7/31	大和町立宮床中学校	自学自習支援（中1～3年生 対象）	2	4		①教育復興支援塾 事業
19	8月1日	仙台市立西山中学校	女川町民を対象とした交流イ ベント	2			④こども対象・参 加イベント
20	8/3～8/7	名取市立閉上中学校	自学自習支援（中1～3年生 対象）	12	(5)	40 (25)	愛知教育大学 ①教育復興支援塾 事業
21	8/3～8/7	登米市立南方中学校	自学自習支援（中1～3年生 対象）	14	(11)	65 (55)	京都教育大学、 大阪教育大学 ①教育復興支援塾 事業
22	8/3～8/7	大河原町立金ヶ瀬中学 校	自学自習支援（中1～3年生 対象）	1		4	①教育復興支援塾 事業
23	8/3～8/7	大河原町立大河原中学 校①	自学自習支援（中1～3年生 対象）	2		7	①教育復興支援塾 事業
24	8/3～8/7	岩沼市内小中学校①	自学自習支援	7		19	①教育復興支援塾 事業
25	8/3～8/7	大崎市立古川中学校	自学自習支援（小学生及び中 学生対象）	2		5	①教育復興支援塾 事業
26	8/4～8/7	丸森町立丸森中学校	自学自習支援（5教科：中1 ～3年生対象）	5	(2)	17 (8)	奈良教育大学 ①教育復興支援塾 事業
27	8/4～8/7	亘理町内小中学校①	自学自習支援（小学生及び中 学生対象）	3		9	①教育復興支援塾 事業
28	8月11日	東京エレクトロンホー ル宮城	田端健人教授 / こころの復興 フォーラム	-			⑤心のケア事業
29	8/16～8/20	栗原市教育研究セン ター	中学生を対象とした「学府く りはら塾」での講師（3教 科、教材作成・指導を含む）	16		60	①教育復興支援塾 事業
30	8/17～8/21	大河原町立大河原中学 校②	自学自習支援（中1～3年生 対象）	1		4	①教育復興支援塾 事業
31	8/17～8/21	色麻学園	自学自習支援（小学生及び中 学生対象）	2		8	①教育復興支援塾 事業
32	8/17～8/21	大崎市立鹿島台中学校	自学自習支援（小学生及び中 学生対象）	1		4	①教育復興支援塾 事業
33	8/17～8/21	富谷町立富谷中学校	自学自習支援（中1～3年生 対象）	7	(1)	24 (2)	東北学院大学 ①教育復興支援塾 事業
34	8/17～8/21	大郷町立大郷小・中学 校	サマースクール講師・自学自 習支援	9		23	①教育復興支援塾 事業
35	8/17～8/21	塩釜市内2中学校	自学自習支援（中1～3年生 対象）	4		17	①教育復興支援塾 事業
36	8/17～8/21	南三陸町立志津川中学 校	自学自習支援・部活動支援	10	(6)	47 (30)	東京学芸大学 ②教員補助事業
37	8/18～8/19	仙台市立蒲町中学校	自学自習支援（5教科：中1 ～3年生対象）	2		3	①教育復興支援塾 事業
38	8/18～8/20	角田市内小学校①	自学自習支援	1		2	①教育復興支援塾 事業
39	8/18～8/20	亘理町内小中学校②	自学自習支援（小学生及び中 学生対象）	3		8	①教育復興支援塾 事業
40	8/18～8/21	岩沼市内小中学校②	自学自習支援	1		4	①教育復興支援塾 事業
41	8/18～8/21	気仙沼市内小・中学校	自学自習支援（小3～6年生 及び中1～3年生対象）	15	(9)	58 (35)	福岡教育大学、 早稲田大学 ①教育復興支援塾 事業
42	8/20～8/21	女川地区小・中学校お よび仮設住宅	自学自習支援（小学生及び中 学生対象）	7		14	①教育復興支援塾 事業

		実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学	備考	
43	8/20~22	栗原市文化会館・教育研究センター	自学自習支援（小学生版「くりはら塾」での講師）	14	33		①教育復興支援塾事業	
44	8月22日	TKP 新宿ビジネスセンター	関東圏同窓生ネットワーク総会	共催	16		③教員研修等事業	
45	8月24日	宮城教育大学	第20回復興カフェ	13			研究開発事業	
46	8/24~8/25	角田市内小学校②	自学自習支援	8	16		①教育復興支援塾事業	
47	8/24~8/25	柴田町立船岡小学校	自学自習支援	1	2		①教育復興支援塾事業	
48	9/1~9/4	南三陸町立志津川中学校	教員補助	14	(12)	56	(48)	愛知教育大学、奈良教育大学、群馬大学 ②教員補助事業
49	9/1~9/4	南三陸町立名足小学校	教員補助	6	24		②教員補助事業	
50	9月3日	仙台市福祉プラザ	仙台市地域保健福祉計画の策定過程におけるワークショップ～復興過程における支え合い活動の経験を、これからの活動に活かすために～	派遣	25		③教員研修等事業	
51	9月4日	仙台市教育センター	仙台市小学校長会研究協議会～世界が注目する仙台の防災実践、国連防災戦略「仙台防災枠組み2015-2030」採択地として～	派遣	124		③教員研修等事業	
52	9/5~9/6	仙台市立荒浜小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	7	12		②教員補助事業	
53	9/16~9/19	福島県会津若松市（大熊幼稚園、大熊小・中学校）	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	13	52		②教員補助事業	
54	9/24~9/25	丸森町内小学校	教員補助	6	10		②教員補助事業	
55	10月3日	仙台市立中野小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	5	5		②教員補助事業	
56	10月28日	宮城教育大学	第21回復興カフェ	100			研究開発事業	
57	10月30日	大崎市立沼部小学校	防災教育の公開授業の指導	派遣	50		③教員研修等事業	
58	10月31日	宮城県立石巻支援学校	学校祭の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	3	3		②教員補助事業	
59	10月31日	仙台市立中野小学校	学芸会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	7	7		②教員補助事業	
60	11月21日	東六郷小学校	東六郷小学校学校祭での演奏披露	5			④こども対象・参加イベント	
61	11月26日	宮城教育大学	第22回復興カフェ	129			研究開発事業	
62	11月28日	石ノ森漫画館	本学技術教育講座主催のクリスマス工作イベントへの協力	7			④こども対象・参加イベント	
63	12月17日	仙台市立寺岡小学校	野澤副センター長 / キャリア教育の底力～東日本大震災を経験して見えてきたこと～				⑥こころざし・キャリア教育事業	
64	12/24~12/25	大和町立宮床中学校	自学自習支援	1	1		①教育復興支援塾事業	
65	12月25日	大郷町立大郷小学校	自学自習支援	4	4		①教育復興支援塾事業	
66	12/25~12/27	栗原市文化会館・教育研究センター	自学自習支援（小学生版「くりはら塾」での講師）	13	23		①教育復興支援塾事業	
67	12/25~12/27	栗原市教育研究センター	中学生を対象とした「学府くりはら塾」での講師（3教科、教材作成・指導を含む）	15	26		①教育復興支援塾事業	

		実施場所・学校名等	実施内容	派遣実人数 (他大学内数)	派遣延人数 (他大学内数)	協力・連携大学	備考
68	12/25~12/27 1/5~1/7	岩沼学び塾	自学自習支援（中学生対象）	8	14		①教育復興支援塾事業
69	1/4~1/6	気仙沼市内小・中学校	自学自習支援	11	29		①教育復興支援塾事業
70	1/5・6 1/16・17	柴田町立船岡中学校	自学自習支援	3	8		①教育復興支援塾事業
71	1月20日	宮城教育大学	第2回学生協力員総会	18			人材育成
72	1月26日	八戸市立小中野公民館	学校・家庭・地域の絆がはぐくむキャリア教育				⑥こころざし・キャリア教育事業
73	1月27日	宮城県気仙沼合同庁舎	学力向上フォーラム in 南三陸	-			⑤心のケア事業
74	2/15~2/19	福島県会津若松市（大熊幼稚園、大熊小・中学校）	教員補助	22	88		②教員補助事業
75	2月17日	宮城教育大学	第23回復興カフェ	15			研究開発事業
76	3月9日	大川小学校～女川地域医療センター～石巻市立門脇小学校	第22回被災地視察研修	13			人材育成
77	3月10日	仙台市荒浜・名取市閑上方面	第23回被災地視察研修	29			人材育成
78	3月19日	仙台市立東六郷小学校	卒業式での音楽指導ボランティア	2			④子ども対象・参加イベント

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災世界会議報告

VIII メモリアルイベント報告

IX 資料



夏期休業中 学習支援ボランティア＝前期編＝

【学習支援ボランティア状況】			
☆ 塩屋市内小中学校	7月23日～8月3日	宮城教育大学生	
☆ 仙台市立七郷小学校	7月23日～8月7日	宮城教育大学生	愛知教育大学生 東北学院大学生
☆ 栗田町立高住小学校	7月25日～27日	宮城教育大学生	
☆ 南三陸町立志津川・戸倉小	7月25日～27日	愛知教育大学生	
☆ 仙台市立六郷中学校	7月30日～8月6日	宮城教育大学生	
☆ 五里町立遠藤中学校	7月30日～8月8日	宮城教育大学生	
☆ 南三陸町立入谷小学校	8月1日～8日	宮城教育大学生	東北大学生
☆ 女川町立女川二小中学校	8月1日～6日	宮城教育大学生	群馬大学生
☆ 大和町立大和中学校	8月1日～7日	宮城教育大学生	
☆ 大和町立宮本中学校	8月1日～7日	宮城教育大学生	東北学院大学生
☆ 気仙沼市内小中学校	8月6日～8日	宮城教育大学生	早稲田大学生
☆ 大崎市古川地区内小中学校	8月6日～10日	愛知教育大学生	
☆ 釜米町立高方中学校	8月6日～10日	宮城教育大学生	京都教育大学生
☆ 丸森町立丸森中学校	8月6日～10日	宮城教育大学生	奈良教育大学生 福岡教育大学生
☆ 石巻市立大森高等学校	8月6日～9日	宮城教育大学生	東北学院大学生
☆ 南三陸町立志津川中学校	8月7日～10日	宮城教育大学生	東京学芸大学生
☆ 釜石市立向陽高等学校	8月7日～10日	宮城教育大学生	
☆ 奥州市内小中学校	8月7日～9日	宮城教育大学生	東北学院大学生
☆ 角田市内小中学校	8月8日～10日	宮城教育大学生	上越教育大学生 大隈教育大学生

教育復興支援センターだより 5号



じっくり基礎を築いて  
～後援中学校～



各員教大、北海道教大、福岡教大と本学生との交流会  
～あぶくま荘にて～



京都教育大学生の被災地訪問  
～開上中学校の被災生徒と被災文の前にて～



おそこのチャットで  
～志津川小にて～

'12 9. 18

夏期休業中 学習支援ボランティア＝後期編＝

【学習支援ボランティア状況】			
☆ 大郷町立大郷小学校	8月20日～24日	宮城教育大学生	
☆ 南三陸町立志津川中学校	8月21日～22日	宮城教育大学生	
☆ 栗田町立高住小学校	8月21日～23日	宮城教育大学生	
☆ 宮前町立玉海小学校	8月22日～24日	宮城教育大学生	鹿児島大学生
☆ 奥平町立小中学校	8月22日～24日	宮城教育大学生	東北学院大学生
☆ 栗原市立小中学校	8月16日～20日	宮城教育大学生	
☆ 南三陸町立志津川中学校	8月20日～24日	愛知教育大学生	
☆ 大郷町立大郷中学校	8月20日～24日	宮城教育大学生	
☆ 名取市立開上中学校	8月20日～24日	宮城教育大学生	早稲田大学生
☆ 宮城県黒川島高等学校	8月21日～23日	宮城教育大学生	東北学院大学生

教育復興支援センターだより 6号



充実したボランティア活動にするために  
(大郷町立大郷小学校ボランティア事前指導の資料から)  
ボランティアに行く前に、各学校等の被災状況を踏まえ、子どもたちへの指導に配慮することなどが記されています。  
大郷町立、黒川島高校ほかからたのみの、被災地からの配入生がいることも考えられるため、様子方に留意することなどを呼びかけています。  
その他、実施されるサマースタールの形態に触れ、学習支援ボランティアの在り方についても記されています。



開上中学校に向かう早稲田大学生への事前指導  
～セミナーハウス～



ボランティアに向かう前に本学生と鹿児島大学生との交流会  
～岩手県岩手市～



ニガオでエイゴ  
～大郷中学校～



志津川の避難所を視察した際の一斉指導  
～大郷小学校にて～



亀井教育長さんも真剣に  
～くりはら塾～

'12 9. 18

10月17日(水) 韓国大邱教育大学教員 仙台市立荒浜小学校視察



本学の協定校、韓国の大邱教育大学の教員(学長)と被災生を、被災した荒浜小学校へご案内し、震災当時の様子や現在の状況などを説明しました。



教育復興支援センターだより 7号

10月20日(土)～21日(日) 大津にて活動紹介＆意見交換会を実施



20日(土)  
宮城教育大学生協学生委員主催、震災復興プロジェクト「私たちにとっての震災復興」において、門前町一帯に特任教授の基礎講座がありました。



県内各地で行われた学生ボランティア活動の様子に見入る一般客。

'12 10. 30



21日(日)  
各ボランティアリーダーによる活動紹介や、どのようにしたら学習支援ボランティアへの参加学生を増やせるかなど活発な意見交換が行われ、情報共有の重要性を確認しました。  
高校生や前年度の特任教授の参加もありました。

全国生涯学習ネットワークフォーラム2012 宮城分科会

11月3日(土)・4日(日) 開催の表紙フォーラム・宮城分科会「つながりを持った教育復興、復興教育と地域創造」にパネル展示、登壇の機会に恵まれました。



パネル展示

教育復興支援センターだより 8号



ハモニースタッフの熱議 MUE(ミュー)ちゃんチームの熱議 マナビーチームの熱議

2012年 JICA 集団研修派遣事業

※「震災と教育復興」の講義を担当  
11月2日(金)に「震災と教育復興」と題した講義も、教育復興支援センターにて電子黒板を用いて行いました。



※第3回東北日本大震災被災地視察研修を企画  
11月8日(木)に女川町地域センター、石巻市立門前小学校、仙台市立荒浜小学校を視察しました。



'12 11. 27

**第4回・第5回東日本大震災被災地視察研修**

12月9日(日)と12月16日(日)に、ボランティア協力員等を対象に「東日本大震災被災地視察研修」を実施。また、実施に先立ち、5日(水)・7日(金)に説明会を開催しました。



センターにて事前説明会



石巻市立大川小学校



南三陸町戸倉小学校の児童が一休をあかした五十鈴神社 & 記念碑



南三陸町防災センター

教育復興支援センターだより 9号

13  
1. 7

**高校生が考える震災復興**

～私たちにできること～

主催 学生教育復興プロジェクト

12月19日(水) 13:00～15:00 総務会館大集会室において、ボランティア報告会が開催されました。  
中井基センター長挨拶、岡部浩吉特任教授の講演、参加団体活動報告、パネル展示があり、参加者は  
【様々なボランティア活動があること】  
【なぜ、ボランティアが求められているのか】  
【自分たちができることとは何か】  
等を考える機会となった。



参加団体活動報告

**iPad 講習会を開催中**

期	月日	内容	参加人数
第1回	1月16日(水)	iPad講習会	6名
第2回	1月18日(金)	iPad講習会	8名
第3回	1月23日(水)	iPad講習会	6名
第4回	1月25日(金)	iPad講習会	6名
第5回	2月1日(金)	iPad活用講習会	9名
第6回	2月6日(水)	iMovie活用講習会	10名



今回は教職員のみです。学内Wi-Fiに接続中



学生たちにまぎって職員も！同じことを何度も聞いてもやさしく教えてください。

教育復興支援センターだより 11号

13  
2.

**学校・地域連携シンポジウム**



2月11日(月)仙台ガーデンパレスにて中井基センター長による取組報告・講演

**キャリア教育に関する研修会**



国立教育政策研究所 総括研究員 藤田 昇先生による基調講演・質疑応答・意見交換

**復興カフェ in Miyako**

2月18日(月) 12:00～12:45に、本学学生会館にて第1回目を開催しました。

開催場所：「気仙沼市駅前郵便局における避難状況と本館の復興」  
報告者： 庄子 亮哉 (東北大学選挙学研究所特任助教授)



3月11日(月)に第2回目を開催予定!

**冬期休業中 学習支援ボランティア**

【学習支援ボランティア状況】

☆ 栗原市内中学校	12月24日～26日	宮城教育大学生
☆ 鹿嶋市内小中学校	12月25日～26日	宮城教育大学生
☆ 気仙沼市内7中学校	12月25日～27日	宮城教育大学生 東北学院大学生 早稲田大学生
☆ 大郷町立大郷小中学校	12月25日～27日	宮城教育大学生
☆ 大和町立大和中学校	12月25日～27日	宮城教育大学生
☆ 大和町立宮城中学校	12月25日～27日	宮城教育大学生
☆ 大南町立大南中学校	12月25日～26日	宮城教育大学生 東北福祉大学生 東北学院大学生
☆ 釜石市立東方中学校	12月25日～26日	宮城教育大学生 北海道教育大学生 東北学院大学生
☆ 栗原市内中学校	12月27日～28日	宮城教育大学生
☆ 栗田町内中学校	1月4日～5日	宮城教育大学生 東北学院大学生



じっくり基礎を教えて～くりはら塾～



2次関数のグラフはこのようになっていますが～くりはら塾～



本日の学習支援の内容は以上の通りです。～吉川東中学校での事前打ち合わせ～



その真摯なやりましよう～大和中学校にて～



早朝、フェリーで大島中など、各会場へ～気仙沼市の宿泊所にて～



16の小中学校からのたくさんの友達と～くりはら塾小学生の顔～



子どもたちに寄り添って～復興市立第一小学校にて～

教育復興支援センターだより 10号

13  
1. 8

**3月8日(金)・15日(金) 奈良教育大学ボランティア学生被災地視察研修**



女川町地域医療センターにて、津波の到達地点の高さに驚いています。



女川の3階建ての建物が倒壊した場所にて

**3月8日(金)上総教育大学(土谷研)・本学(菅井研)合同セミナー**



伊藤特任教授が博記学生に対して、「本センターの役割と活動内容」の講演を行いました。

**文部科学省 東日本大震災復興支援イベント ～教育・研究機関としてできること、そしてこれから～**

3月11日(月)文部科学省「情報ひろば」において、模範イベントに参加しパネル展示を行いました。



**3月11日(月) 第2回 復興カフェ in Miyako**

東日本大震災発生から2年にあたる、3月11日(月)に本学学生会館にて第2回目を開催しました。

開催場所：「気仙沼市駅前郵便局における避難状況と本館の復興」

報告者： 岡部 浩吉(特任教授)

今日の復興カフェは、TV会議システムにて他地各事務所へ配信しました。



教育復興支援センターだより 12号

13  
3. 22

④ タイ教育省教職員開発研究所との連携(4月23日・火)

本学とタイ教育省教職員開発研究所が防災教育プログラムの開発と実践に向けた国際交流協定締結に伴い、タイ王国教育省次官一行が来日しました。本センター教員が名取・石巻訪問に同行し、宮城県総合教育センターで、防災教育のための教材開発について相談しました。また津波で被災した関上の復興商店街や、津波の爪痕を確認出来る日和山を訪れ、地元の校長先生から被災と復興の様子をうかがい、授業を参観しました。教育省次官は、防災教育の分野で情報交換や交流を通じて大災害への備えを学ぶなどの連携授業を進めたい意向を示しました。



⑤ ボランティア協力員 総会(4月24日・水)

昨年度からスタートしたボランティア協力員制度が2年目に入り、2年生になった協力員の呼びかけに応じた新1年生69名をきき約100名が出席しました。総会の進行は2年生連絡員が担当し、和やかな中に終了することができました。5月には協力員対象の「被災地視察研修」も予定されていて、ボランティア活動促進等、今後の活躍に期待が持たれます。



⑥ 第11回 iPad講習会(4月25日・木) & 新聞づくり講習会(5/29)のご案内

第11回目の講習会は、本センター事務局員と協働する先生と研究員として学生も参加し受講生は8名となりました。次回以降はiPadアプリの講習会を開催予定。また、河北新報社と協働の新聞づくり講習会を開催することを予定しています。



⑥ グリーンウェア活動に参加(5月27日・月)

教育復興支援センター棟が完成したのを記念して、国連の生物多様性条約事務局が、5月22日の「国際生物多様性の日」に、世界各地の青少年の手で、それぞれの学校の敷地などに緑化を促す、と呼びかけているグリーンウェア活動に参加し、四季咲きバラ4本(赤・白・黄色・ピンク)を植樹しました。



⑥ 第4回復興カフェ(5月29日・水)

気仙沼出身の本学学部生・菊田真由さんに、震災体験や、その後の2年間を通して考えていた課題、「ボランティアに行きたいけど、何が出来るかわからない」という宮城大生へのメッセージなどについてお話しいただきました。今回も気仙沼事務所とTV会議システムを活用しましたが、当日は菊田真由さんのお母様が気仙沼事務所にて、真由さんの発表をご覧になっていました。



⑦ 第1回ボランティア新聞を作ろう講習会(5月29日・水)

ボランティアを行っている学生、いまからやりたいた学生などを対象に、河北新報社の方から、ボランティア新聞作成を通して、学域新聞や卒論に役立つノウハウを伝えていただきました。次回は6月26日(水)。



【今後の主な予定】

- ※第5回復興カフェ(6/10・月)
- ※第10回&11回被災地視察研修会(6/15・土 6/16・日)
- ※センター竣工式・シンポジウム(6/29・土)

① 第2回ボランティア活動報告会(3月16日・土)

場所 宮城教育大学 管理棟3階 中会議室 参加者 奈良教育大学学生・本学学生  
参加学生の活動紹介後、今後の課題について話し合う時間を設けた。

【今後の課題(参加学生より)】

- ・教育復興支援センターの存在と役割を大学内に広く知らせ、学生らが活用しやすい環境づくりをする。
- ・学生へ研修会を行う等、サポート体制も充実させ、ボランティアへ参加しやすい環境も整えていきたい。
- ・大学内でも積極的かつ日常的になるべく報告会等を行い、学生たちへ支援の輪を広げていきたい。
- ・ボランティアは、自分のことを自分で責任もってできることが大前提で、余力がなければ充実した支援を行えるものではない。なので、学生らがよりボランティアに参加できるように環境づくりを大学側にも支援して欲しいと思う。



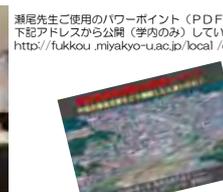
② 仙台市博物館より「仙台平野の歴史地震と津波」パネル寄贈

仙台市博物館より連絡や史料を募る、主な地震災害の記録を時代順に見やすく表現された大変貴重なパネル(B1版・28枚)を頂きました。新センター棟へ展覧し、本学の防災・復興教育や教員養成教育等の充実に向けて活用していきます。(4月12日御礼に伺いました。)



③ 第3回復興カフェ in Miyako(4月18日・木)

平成25年度より本センター特任教授(副センター長)に兼任の瀬尾和夫先生に、「宮古市田地区の現状について」お話しいただきました。第2回に続き、今回も気仙沼事務所へTV会議にて配信しました。



瀬尾先生ご使用のPowerPoint(PDFファイル)を下記アドレスから公開(学内のみ)しています。  
<http://fukkuo.miyako-u.ac.jp/local/cafe3.pdf>



① 地域と共同する大学づくり(シンポジウム～地域と大学の更なる協働に向けて～)(5月10日・金)

文部科学省では、地域と共同する大学づくりを目指し、平成23年度から全国18大学とともに熟議を開催しています。本学でも、昨年度開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム2012」において、学びを通じた絆づくりと活力あるコミュニティ形成～一人一人にできること～をテーマに熟議を行いました。そして、これらの取り組みの集大成として5月10日(金)に、「地域と共同する大学づくりシンポジウム」が開催され、全国の各大学における成果を報告・共有するとともに、大学と地域の更なる協働の在り方を議論し、本学はパネル展示を実施しました。



② 第8・9回被災地視察研修(5月11日・土、26日・日)

第8・9回は、南三陸町防災対策庁舎～戸倉小学校～石巻市立大川小学校を視察しました。参加者は、ボランティア協力員を中心に職員も含まれ70名。戸倉小学校の麻生川教頭先生の話聞きながら、実際に避難したルートを歩きました。また、ダンボールの住家が激しい大川小学校を視察した学生からは、震災を風化させてはいけない、被害の程度を認めておき、震災の経験者としてできることは、震災直後も増えている、などの感想がありました。



③ 第3回ボランティア協力員運営定例会(5月13日・月)

ボランティア協力員24名が出席し、第3回運営定例会が開かれました。ボランティア協力員の目的、活動内容案、年間計画案、係分担、担当分けなどを検討、1年生の代表が赤間仁美さんに決まりました。(2年生の代表は渡辺涼子さんです)

④ 教員補助事業 運動会開催補助 石巻支援学校・荒浜小学校(5月25日・土)

創立30周年記念・石巻支援学校と仙台市立荒浜小学校の運動会開催補助のボランティアを派遣しました。朝の準備、終わってからの後片付け、そして競技中の運営と頑張ってくれた学生に先生方や地域の方々から、あたたかい感謝のこぼれが溢れてきました。



教育復興支援センターだより

④ 第6回拡大復興カフェ In Miyako (6月26日・水)

「震災を忘れないために～学生からのメッセージ」をテーマに1年生の赤嶋に美さん、首藤大知さん、2年生の渡辺太さんに、震災当時の体験や、これからの活動に対する想い、宮教大生へのメッセージなどを話しいたしました。司会は、第4回復興カフェ発表者の野田真由さんでした。今回は、秋明会館・大集会室で開催したため、昼食持参で聞いている学生が多く、カフェらしいリラックスした雰囲気の中、行われました。



⑤ 第2回ボランティア新聞を作ろう講習会 (6月26日・水)



5月29日に続き、第2回目のボランティア新聞を作ろう講習会を開催しました。  
※学生がつくるボランティア新聞の完成が楽しみです。



学生たちが、手作りケーキでセンター誕生を祝ってくれました。

⑥ 竣工式&竣工記念オープニングシンポジウム (6月29日・土)

本センター棟竣工を記念して、竣工式とシンポジウムを開催しました。竣工式では、学長挨拶、来賓祝辞、センター棟の概要説明の後に、学習支援ボランティア協力員による決意表明がありました。午後にはシンポジウムで、本センターのこれまでの活動内容を振り返るとともに、パネリストディスカッションを通じて、地域に根ざした視点での長い支援のシステム作り、震災を抱えて生きる、地方からものを考える考え続けるなど、時間をオーバーして復興支援を議論しました。



岩沼市立玉浦小学校でのボランティア活動報告など

ボランティア協力員による決意表明

パネリストたち

教育復興支援センターだより

⑩ 学習支援ボランティア夏休み活動 壮行会 (7月31日・水)

学生提案の夏休みの学習支援ボランティア活動・壮行会が開かれました。学生たちはお昼休みから5時まで三々五々集まり、はじめてボランティア活動に参加する学生たちもまさって、ボランティア活動に対する抱負や、活動内容紹介などが行われました。夏休み明けには、学習支援ボランティア活動報告会も予定されています。



ケーキの差し入れ

⑪ オープンキャンパス (8月1日・木)

本学のオープンキャンパスで、教育復興支援センターへも大勢の見学者が訪れました。学生たちが集まるミーティングルームで、ボランティア活動を実践している先輩たちの話を聞いていく生徒もいました。高校生を集めたので、センター棟へ掲示しています。どうぞご覧ください。



平成25年度夏休み学習支援ボランティア活動予定

学年	活動内容	実施日時	実施場所
1年生	学習支援	7月31日(水)	センター棟
2年生	学習支援	8月1日(木)	センター棟
3年生	学習支援	8月2日(金)	センター棟
4年生	学習支援	8月3日(土)	センター棟
5年生	学習支援	8月4日(日)	センター棟
6年生	学習支援	8月5日(月)	センター棟
7年生	学習支援	8月6日(火)	センター棟
8年生	学習支援	8月7日(水)	センター棟
9年生	学習支援	8月8日(木)	センター棟
10年生	学習支援	8月9日(金)	センター棟
11年生	学習支援	8月10日(土)	センター棟
12年生	学習支援	8月11日(日)	センター棟

教育復興支援センターだより

⑦ 「鹿妻復興マップづくり」プログラムに協力しました。(6月26日・水、7月10日・水)

東北大学災害科学国際研究所や山形大学の防災教育研究者が実施している「鹿妻復興マップづくり」に、本学学生がボランティアで参加しました。石巻市立鹿妻小学校4年生の「総合的な学習の時間」で実施する「鹿妻復興マップづくり」プログラムで、東日本大震災で被害のあった地域の変化を前向きに受け止めていくための活動へのサポートでした。



山形大学・村山教授による事前指導



さあ、児童たちと出発(東北福祉大や早稲田の学生も)

⑧ 学習支援ボランティア研修会 壮行式・不安解消会 (7月17日・水)

本センターとボランティア協力員主催の標記研修会を開催しました。約50人が出席し、中井センター長の挨拶、ボランティア活動に参加した学生や、高校時代にボランティア学生の影響を受けた学生の話の後、質疑応答が行われました。



⑨ 東松島市教員研修会開催 (7月29日・月)

本センターと東松島市教育委員会共催の教員研修会を開催しました。筑波大学教授藤田晃之氏を講師にお迎えし、247名の受講者の中で「学校における志教育の在り方について」と題した講演後、「東松島市の志教育で何育てるか」について、質疑応答が行われました。



教育復興支援センターだより



15号  
13.9.2

夏期休業中 学習支援ボランティア =後期編

【学習支援ボランティア状況】

☆ 栗原市1中学校	8月18日～8月20日	宮城教育大	
☆ 栗原市教育委員会	8月19日～8月21日	宮城教育大	
☆ 仙台市立立涌町中学校	8月19日～8月21日	宮城教育大	東北学院大
☆ 石巻市立北上小学校	8月19日～8月21日	宮城教育大	東北学院大
☆ 南三陸戸倉小学校	8月19日～8月22日	宮城教育大	東北学院大
☆ 宮城県黒川高等学校	8月19日～8月22日	宮城教育大	
☆ 大郷町立大郷小中学校	8月19日～8月23日	宮城教育大	
☆ 南三陸町志津川中学校	8月19日～8月23日	宮城教育大	上越教育大
☆ 女川町立女川中学校	8月19日～8月23日	愛知教育大	
☆ 色麻町立色麻小中学校	8月19日～8月23日	宮城教育大	福岡教育大
☆ 塩竈市立4中学校	8月19日～8月23日	宮城教育大	京都教育大
☆ 岩沼市中央公民館	8月20日～8月22日	宮城教育大	東京学芸大
☆ 岩沼市立玉浦小学校	8月20日～8月22日	宮城教育大	
☆ 丸森町立5小学校	9月24日～9月27日	宮城教育大	奈良教育大



緊張しながらも、しっかりと教員補助  
=丸森町立大張小学校=



畳の上で、寺子屋風に  
=くりはら塾=



しっかり教材研究をして、生徒たちの前  
=栗原市立築館中学校=



ほのほのした雰囲気の中で  
=色麻町立色麻小学校=

④ 学生主催の被災地視察研修～気仙沼地域～ (10月14日・月祝)

第12回目の被災地視察研修は、気仙沼出身の本学学生企画・運営によるもので、ポスター、パンフレット、旗、横断幕など全て手作りだった。新校舎建築後一度も入ることなく震災にあった気仙沼洋高校は、未だに瓦礫や車が残ったままだった。(参加者33名)



手造りポスターなどで  
参加者募集



長時間のバス乗車を  
充実させるために  
調査報告や  
被災地クイズで



気仙沼出身の学生からの説明  
～ホテルの屋上～

震災当時の市民動きの話を聞く  
～気仙沼事務所内で職員から～

⑤ 大学祭企画 ボランティア報告会・10/26(土)＆フォーラム・10/27(日)

ボランティア報告会は、【宮教が考える震災復興～学生ボランティアの復興支援～】とし、学内で特色ある取組をしている気仙沼ボランティア、くりはら塾、若松会、異文化交流部、梨の花プロジェクト、女川町ボランティアなど9団体が活動報告を行った。フォーラムでは、学校現場の先生4名をお招きし、【震災時の学校現場と新しい防災教育】についてご講演いただいた。講演の中で、災害時の情報収集の大切さや教員の役割、緊急時の備蓄やこのころのケア、主体的な防災訓練や体験を伴う防災活動等の実践例と、学生ボランティア活動の重要性が強調された。



⑥ 第8回復興カフェ in Miyakyo (10月31日・木)

「台風26号による伊豆大島における災害と支援」と題し、本センター研究開発部門の教員が実施した、台風26号による、伊豆大島の被害調査について、速報し、今後の支援や復興の在り方について議論した。



夏期休業中 学習支援ボランティア =前期編

【学習支援ボランティア状況】

☆ 女川町立女川小学校	7月22日～7月26日	宮城教育大	東北大
☆ 柴田町内4小中学校	7月22日～8月23日	宮城教育大	
☆ 仙台市立七郷中学校	7月25日～8月8日	宮城教育大	
☆ 大河原町立大河原中学校	7月25日～8月20日	宮城教育大	
☆ 亘理町立遠・荒浜中学校	7月30日～8月5日	宮城教育大	
☆ 角田市立3小中学校	8月5日～8月9日	宮城教育大	群馬大
☆ 大崎市立4小中学校	8月5日～8月9日	宮城教育大	
☆ 気仙沼市立8中学校	8月5日～8月9日	宮城教育大	早稲田大
☆ 色麻町立色麻小学校	8月5日～8月9日	宮城教育大	
☆ 大和町立大和・宮床中学校	8月5日～8月9日	宮城教育大	
☆ 登米市南方公民館	8月5日～8月9日	宮城教育大	京都教育大
☆ 丸森町立丸森中学校	8月5日～8月9日	宮城教育大	奈良教育大

☆ 名取市立岡上中学校	8月5日～8月9日	宮城教育大	早稲田大
☆ 登米市立4小中学校	8月5日～8月9日	大坂教育大	
☆ 仙台市立蒲町中学校	8月6日～8月9日	宮城教育大	
☆ 一関市立荏荏中学校	8月7日～8月9日	宮城教育大	
☆ 美里町立小田中学校	8月7日～8月11日	宮城教育大	
☆ 美里町立不動室中学校	8月8日～8月12日	宮城教育大	
☆ 明成高校	8月10日～8月12日	宮城教育大	



明日に備えて、しっかりと1日を振り返って  
=気仙沼市の宿泊施設=



毎朝、カモメに送られ大島へ



真剣な学習姿勢には、真剣な見取りで  
=名取市立岡上中学校=



どんなに暑くても、笑顔で対応  
=大崎市長岡地区公民館=



16号

13.10.1



17号

13.11.11

① 岩沼市教育委員会との地域連携・被災地研修講演会 (8月20日・火)

東日本大震災から2年6ヶ月を迎えた今、震災で甚大な被害を受けた岩沼市玉浦地区にある玉浦小学校・玉浦中学校の震災復興に向けた取り組みを中心に、岩沼市教育委員会学校教課長・山川課長にお話をいただいた。岩沼地域の学習支援ボランティア活動を実施している本学学生や、北海道教育大学生は、課題を乗り越え未来に向かって進んでいる岩沼市の現状を熱心に聴講した。この地域連携「被災地研修講演会」は仙南事務所を活用し、本センターとTV会議システムにて中継した。



② 第7回復興カフェ開催 (9月19日・木)

ポートランド国立大学・ステイブーン・リード・ジョンソン博士による「持続し復興力ある地域をつくるコミュニティの物語」と題した、第7回復興カフェを開催した。今回は附属図書館と共催という初の試みであった。東日本大震災後のコミュニティの復活・復興を考えると「ポートランドストーリー」という、行政への強力な市民参加、街づくりの全米モデルの手法があることなどをお話いただいた。



③ 二心の復興=沖縄県立芸術大学との連携～大学間連携共同教育推進事業から～

9月25日(水)から29日(日)において、沖縄県立芸術大学の被災地交流として「彫刻展」や「琉球芸能公演」、「空手スポーツ教室」が開催された。その交流の一環として参加学生の被災地研修、津波被災した荒浜地区の子どものも招いた「シーサーづくり」のワークショップが行われた。



=やがて撤去される  
南三陸防災庁舎の前で=



=もう津波が来ないようにと  
魔除けのシーサーづくり=

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災  
世界会議報告

VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

教育復興支援センターより

④ 学生企画第2弾 南相馬被災地視察開催 (12月7日・土)

南相馬出身の本学学生2名がガイド役を務める南相馬被災地視察を実施した。気仙沼被災地視察において、学生企画第2弾である。今回は、父兄、留学生、仙台市の国連防災世界会議準備担当課長など多様な参加者約40名が、坂元町立中央小学校、互換処理施設、小高区の市街地、海沿いなどを視察した。車中では南相馬にちなんだクイズなど楽しい企画もあった。



小高駅前に置かれた「まほろの自転車」

⑤ 南東北3大学連携シンポジウム (12月8日・日)

仙台情報・産業プラザ(AER)にて、東北の未来を創り出す大学の使命と題した標記シンポジウムを開催した。山形大学・鶴岡専攻学長の基調講演「ソフトパワー大国をめざして～東北からの発信の可能性～」やハネルティスカッション(コーディネーター)に野澤尚副センター長、ハネラーに小田隆史特任准教授が参加)があり、開会の挨拶には、福島大学・入戸野修学長の手紙も披露された。



⑥ 石巻市立鹿妻小学校復興マップ発表会 (12月11日・水)

本年、6月・7月に東北大学災害国際研究所・佐藤健研究室主催の、石巻市立鹿妻小学校での「復興マップづくり」プログラムの一環として本学のボランティア学生を石巻市立鹿妻小学校へ派遣した。その鹿妻小学校の子たちから、感謝の気持ちのこもった「復興マップ」の完成発表会の招待状が届き、3名が出席した。4学年12チームが、平成24年度のデータも掲載した復興マップを発表発表した。発表会には、学生ボランティアに交じって、地域の方々や父兄も多く参加した。発表後、完成した復興マップは廊下に張り出されゆくり見ることができた。この復興マップは東北大学災害国際研究所で冊子にする予定である。



ボランティア学生へ届いた手紙の招待状



教育復興支援センターより

⑩ 教育復興支援ボランティア協力員第2回総会 (1月15日・水)

本学学生の教育復興支援ボランティアに対する興味・関心を高めることを目的に立ち上げた、教育復興支援ボランティア協力員の第2回総会が開催された。約100名からなる協力員の代表から、今年度の総括(活動報告や成果、反省点など)があり、1年生の協力員より来年度の体制(運営メンバーなど)の提案があり、新入生への協力員呼びかけ体制などが確認された。新年度になれば、3年、2年、1年(新入生)の協力員が揃う。



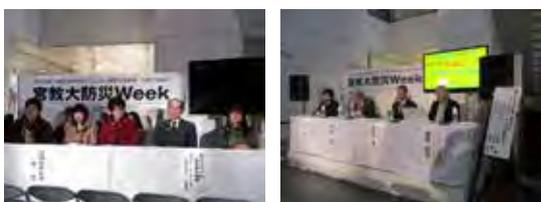
⑪ AERで学ぼう 宮教大防災Week (1月21日・火～25日・土)

本学が受託した【学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業】の一環である、標記防災連続講座に特任教員たちが講師として協力した。協力した講座は、オープニング\*第3回国連防災世界会議仙台開催の意義、津波災害と学校-東日本大震災時の津波避難行動から学んだこと、クロージング\*東北から語り継ぐ未来のメッセージ-3.11の経緯から、である。なお、この連続講座について、TV会議システムを活用し、本センターや気仙沼プラントへ同時中継にて配信した。



オープニング

センター事務室TV エール会場(左・気仙沼プラント)



Data.fm 「Hope for MIYAGI」の公開収録

クロージング

学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業HPはこちらです。 <http://manabimiyako-uac.jp/>

教育復興支援センターより

⑦ お茶の水女子・附属校との連携事業 (山形近郊被災地視察・学生企画第3弾 気仙沼被災地視察研修 (12月14日・土～15日・日))

お茶の水女子・水野勲教授の被災地視察調査に、お茶大附属高校ボランティア部関係者が同行した。土曜日には山形市近郊調査視察、翌日は、本学学生企画の気仙沼被災地視察研修を実施した。土曜日の半日コースは、仙台市立荒浜小学校、関上中学校、名取市日和山、国の重要文化財に指定されている洞人家住宅、岩沼市千年希望の丘を視察した。翌日の気仙沼視察は、気仙沼出身の本学学生2名が運営スタッフとしてメディアへの対応、視察環境との連絡調整などの大部分を担当した。



気仙沼プラザホテル屋上にて

⑧ 非常用発電機の定期運転 (12月18日・水)

当センターに設置された非常用発電機には、設置の機能保全のため毎月1回10分間の定期運転が義務づけられているので、定期運転を実施した。この非常用発電機は、センター棟2階サーバ室の電源を確保し、非常用に備えるためのものである。



センター1階正産玄関に設置

⑨ 大郷町教員研修会 (12月24日・火)

大郷町教育委員会主催、本センター共催で教員研修会を開催した。テーマは「東日本大震災の影響が懸念される児童・生徒を考慮した授業づくり」と題し、吉田利弘特任教授が「学校生活での授業時間の占める割合を基に、授業を通じた教育経営の在り方」を軸に、判断力を高めるために表現力を重視した授業経営の在り方」を授業を軸にした、児童生徒の学び意欲の向上、教職員の指導意欲の向上のための学校運営の在り方を講話した。



教育復興支援センターだより  
18号  
14. 1. 31

④ 第3回国連防災世界会議 1年前シンポジウムに参加して (3月1日・土)

平成27年3月に開催予定の第3回国連防災世界会議が仙台市で開催されるにあたり、会議開催まであと1年となったこの時期に、世界へ、そして未来へ目を届けていくべきなのを考えるためのシンポジウムが開催された。内閣府大臣官舎講堂（防災担当）佐々木克樹氏の「国際防災と日本の役割について」の基調講演と、「第3回国連防災世界会議」仙台開催と「防災・減災」、「復興」の未来と題したパネルディスカッションがあった。また、シンポジウムに先立ち「3.11サイカルタ」を使ったワークショップや展示コーナーがあった。



⑤ 第10回復興カフェ in Miyako (3月17日・月)

金沢大学環境保全センター長・鈴木克徳教授を講師にお迎えし、第10回復興カフェを開催した。「地域活性化を对象とした人材育成における大学と地域の連携」と題し、金沢大学の里山教育研究活動と地域貢献、角龍の里山自然学校、「能登里山マスター」養成プログラムなどお話し頂いた。



⑥ 気仙沼市復興座談会 (3月18日・火)

本センター研究プロジェクトの一環として、気仙沼市連携センターにて気仙沼市復興座談会が開催された。講師に、気仙沼市商工会議所会長・菅家昭彦氏、巖谷水産代表取締役・交野竜司氏、冷凍水産加工業共同組合長・菊田初男氏をお迎えし、気仙沼市の復興について同市における産業の核である水産業を軸に水産業の流通、冷蔵、加工、小売の連携について問題点を整理した。



⑧ グリーンウェイブ活動2014に参加 (5月22日・水)

国連が定める国際生物多様性の日 (5月22日) に、世界各地の子どもたちが学校や地域などで植樹等を行う「グリーンウェイブ」活動2014へ、昨年引き続き参加し、今年はブルーベリー2本（同系統内の2品種）を植樹した。今年も昨年植樹した四季咲きのバラ同様、環境教育実践研究センターの協力を得て実践した。



昨年植樹した四季咲きのバラ(数種のツボミあり)

⑩ 宮城県立石巻支援学校の運動会を支援 (5月24日・土)

石巻支援学校・運動会の教員補助ボランティア学生を派遣した。今年は学生の他にも、本学教員1名がボランティアとして参加し、東北福祉大学のボランティア学生とともに、競技補助、児童生徒の介助、テントの撤去など大活躍した。



⑫ JENESYS2.0 フィリピン防災コースの学生来訪 (5月30日・金)

JENESYS2.0の一環として、「防災」をテーマにフィリピンの大学生等37名が来訪した。一行は、防災のモデル都市に選ばれた宮城県仙台市を訪れ、本センターを訪れた。センター職員より、教育の復興状況を聞き、本学の学生との文化交流（お習字・折り紙など）の楽しいひとときを過ごした。また、昨年フィリピンを襲った台風30号被害への募金（15,907円）を、フィリピンにてボランティア活動を実施している学生へ託した。



⑦ ボランティア協力員総会 (4月23日・水)

平成26年度第1回ボランティア協力員総会が210番教室にて開催された。中井センター長の挨拶、職員紹介に続き、協力員の活動概要などの説明があり、新1年生55人を含む150人（3年32人、2年63名）体制でスタートすることになった。今後、学習支援ボランティア活動への参加呼びかけの地、運営メンバーを中心に新入生対象の被災地視察研修・復興カフェ in Miyako・大学祭などを企画・運営していく。



⑮ IDEAタイ校長研修 (4月24日・木～4月25日・金)

本学と連携協定を結んでいるタイIDEAから、校長研修のため、団長 Mr.Anusak Ayuwattthana (タイ教育省南部国境地域教育開発部長) 他31名が本学を訪れ、日本の学校教育について講話を受けた。教育復興支援センターでは「本センターの概要と活動」を説明し、翌日の女川・石巻の被災地視察訪問を担当した。女川町立女川中学校では、授業見学や校長先生のお話しもあり、参加者たちは興味深げに聞き受けていた。



⑯ ボランティア協力員第1回定例会 (5月8日・木)

ボランティア協力員第1回定例会がセンターミーティングルームにて開催された。2年生の協力員を中心に23名の運営委員が、今年度の目標、運営メンバーの体制、役割・役割などを話し合い、今後やってみたいことなどを検討した。



教育復興支援センターだより

19号  
14.6.11

I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 世界会議報告

VIII メモリアル  
イベント報告

IX 資料

教育復興支援センターより

④ 被災地視察研修 4回開催 (6月14日・土～6月29日・日)

6月の土日に、通算15～18回目の被災地視察研修を実施した。今回は全コース学生企画で、気仙沼コース、半日コース・2回、鹿角コースで、参加人数は4日間で109名であった。刻々と変わる被災地には慰霊碑などが建立されているが、6月15日(日)には、名取市日和山近くにてお地蔵さんの建立式典が営まれていた。



震災遺構候補の宮城県気仙沼向洋高校

お地蔵さんプロジェクトによる建立式

岩沼市千年希望の丘にて集合写真

カナダ政府からの寄付により建設されたメープル郡にて昼餐

南相馬市小高区役所前にて出身の学生から説明を受ける

優美地区の方のお話を聞くことができた

教育復興支援センターだより

20号  
14.8.7

① 仙台市立荒浜小学校運動会支援 (5月31日・土)

30度を超える熱い中、19名のボランティア学生は、先生方の指導の下、朝8時から東宮城野小学校(仮校舎)の校庭で行われた運動会の事前準備、競技の補助、後片付けなどの支援活動を行った。初めて参加する学生に対して、先輩(4年生)からの助言もあり、学生同士の学び合いも見られた。



② 仙台市立中野小学校運動会支援 (6月7日・土) E5015 幼児教育コース 観戦ボランティア

あいにくの雨により決行が危ぶまれたものの、状況によって体育館や校庭へ移動しながら無事運動会が開催された。体育館で競技を行うと決まった時には、少し残念そうな様子の子どもたちでしたが、競技が始まると一変、全力で一つ一つの種目に取り組み、そして全力で楽しんでいった。運動会全体を通して、今まで見たことのない仮校舎の姿、表情を見ることができ、本当に楽しかった。私自身、週一でボランティアとして活動させてもらっているが、これからも活動を続ける中で、子どもたちのため、中野小学校のために、自分に出ることを一生懸命頑張りたいと改めて強く感じた一日だった。



③ 第11回復興カフェ in Miyako 開催 (6月11日・水)

第11回は、日系アメリカ人ジャーナリストで映画制作者の、ダイアン・ワカミ氏に「日系アメリカ人ジャーナリストからみた東日本大震災」をテーマに、記録ドキュメンタリー映画「Stories from Tohoku」の製作に至った経緯や思いをお話いただいた。その後、映画上映を行ったが、ワカミ氏から「何かを受け入れながら前に進んでいく」東北の姿を伝えたかったとのメッセージがあった。



教育復興支援センターより

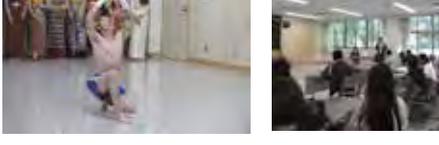
⑤ 平成26年度 夏学期中のボランティア賞 (8月4日付け)

学年・団体(活動名)	種別	活動内容	活動期間	活動回数	活動時間	活動場所	活動内容	活動回数	活動時間	活動場所
1. 東宮城野小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	東宮城野小学校	児童会活動	1	180分	東宮城野小学校
2. 中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	中野小学校	運動会支援	1	180分	中野小学校
3. 荒浜小学校	1	運動会支援	5/31	1	180分	荒浜小学校	運動会支援	1	180分	荒浜小学校
4. 復興カフェ in Miyako	1	復興カフェ in Miyako	6/11	1	180分	復興カフェ in Miyako	復興カフェ in Miyako	1	180分	復興カフェ in Miyako
5. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
6. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
7. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
8. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
9. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
10. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
11. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
12. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
13. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
14. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
15. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
16. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
17. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
18. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
19. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
20. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
21. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
22. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
23. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
24. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
25. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
26. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
27. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
28. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
29. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
30. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
31. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
32. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
33. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
34. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
35. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
36. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
37. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
38. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
39. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
40. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
41. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
42. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
43. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
44. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
45. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
46. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
47. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
48. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校
49. 仙台市立荒浜小学校	1	児童会活動	5/31	1	180分	仙台市立荒浜小学校	児童会活動	1	180分	仙台市立荒浜小学校
50. 仙台市立中野小学校	1	運動会支援	6/7	1	180分	仙台市立中野小学校	運動会支援	1	180分	仙台市立中野小学校

教育復興支援センターより

⑥ JENESYS2.0 (タイコース) 来訪 (6月23日・月)

5月末のフィリピンコースに続き、JENESYS2.0の「防災」をテーマにタイの大学生等39名が来訪した。センター職員より、本学の説明や教育の復興状況聞いた後、タイの学生による演奏、ムエタイ、教職員も交じた踊りの披露があった。その後、本学の学生との交流のひとときを過ごした。



⑦ 不安解消会 (7月16日・水)

夏休みの学習支援ボランティア活動を実施するにあたり、参加学生の不安(特に一年生)を取り除くことを目的に、ボランティア協力員(1年生、2年生)が不安解消会を開催した。中井センター長の開会の挨拶後、ボランティア経験者の話、Q&Aなどが紹介された。この不安解消会は、夏休み中の学習支援ボランティアの壮行会も兼ねている。



⑧ オープンキャンパス (8月1日・金)

本学のオープンキャンパスで、教育復興支援センターにも大勢の見学者が訪れ、ボランティア協力員たちが対応した。学生が集うミーティングルームで、ボランティア活動の話に耳を傾ける高校生も大勢いた。



④ 日本安全教育学会 第15回国城大会(9月13日・土~14日・日)

東北工業大学にて開催された標記学会「東北から発信する学校防災教育と学校安全~実践上の課題を乗り越えるために」に小田特任准教授が、実行委員として関わった。また、「教員養成大学におけるサービスマニングとしての防災・復興教育」の学術発表を行った。



⑤ 再(また)アエルで学ぼう! 被災大防災3days(9月19日・金~21日・日)

AER(アエル) アトリウム2階にて標記公開集中講座を開催した。この企画は本学が文部科学省より委託された社会教育としての、「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の一環で昨年引き続き実施した。本学の教員による講座に交差して、学生による「学習支援ボランティア活動の報告」と【被災地視察訪問の報告】もあった。初日(19日)は教育復興支援センター事務室や、気仙沼事務所に、本センターのテレビ会議システムを活用して同時中継を行った。



⑥ 日本国際協力センター「北米地域との青少年交流」事業一行来訪(10月16日・木)

JICEの「KAKEHASHI Project-The Bridge for Tomorrow」から引率者を兼ねた21名の米国青少年が本学の学生たちと交流した。大学紹介、日本文化紹介、秋田会館での昼食後、仙台市近郊の東日本大震災被災地視察を行った。被災地視察では、教育復興支援センター・ボランティア協力員「被災地視察担当」の学生が英語で案内役を務め、同世代の学生との相互理解と交流の促進を図った。



⑨ iPad講習会(11月5日・水)

来年3月開催の国連防災世界会議に向けて、教育復興支援センターの活動を紹介する動画作成のための【iPad講習会】を開催した。参加者たちは、本センター貸出用のiPadを活用して、写真撮影を行い、プレゼン用加工した。今後、3月の会議に向けて講習会を複数開催し、完成した動画を、ぜひだいいメディアテークやフォーラム会場にて上映予定である。

※本センターでは、学生に対して学習支援ボランティア活動用に「iPad」の貸出を行っている。



⑩ 第13回復興カフェ In Miyako(11月13日・木)

附属図書館展示ホールにて、第13回復興カフェ In Miyakoを開催した。今回は、8月に起こった「大規模な広域土砂災害」の現地調査の様子を、当センター瀬尾和副センター長に報告頂いた。(発表資料は、センター・2F廊下に掲示) 今後の復興カフェは、【福島のいき市】と、JICA教員研修で訪れた【岩手県陸前高田市】の震災復興状況について、報告する予定である。(12月と1月)



東北大学災害科学国際研究所(26年11月竣工)から見た宮城教育大学



教育復興支援センターだより

21号 '14.11.18

① タイ・チュロンコン大学一行が本センターを視察(8月5日・月)

タイ・Chulalongkorn UniversityからAthapol Anunthavorasak(アナルポ)教授とスタッフ3名が来訪した。Athapol教授は、9年前、本学の教員研修生として環境教育実践研究センターに、1年間在籍した。東日本大震災後の教育の復興状況やタイの洪水など防災・復興の情報交換を行った。また、来年3月に仙台にて開催の第3回国連防災世界会議に向けて、タイ王国やユネスコなどの貴重な情報を得た。



② 第3回国連防災世界会議半年前フォーラム(8月31日・日)

仙台市が主催となり、「復興・防災の活動とまちづくり~伝える防災 感じる防災~」と題した半年前フォーラムが開催され、本学から職員1名とボランティア活動に積極的に関わってきた学生2名が参加した。地域で活動する若者たちがテーブルを囲んでの議論、参加者を変えてのワークショップが行われ、日々暮らしのなかで防災を意識し、蓄積された知恵を伝える、ボランティア活動を楽しませる、繋がりを忘れないなどが話し合われた。



仙台市国連防災世界会議準備室担当課長の挨拶

仙台市民活動サポートセンター

③ 災害後・紛争後の教育分野での国際緊急人道支援 ネットワーク調査(8月23日~)

INEE(緊急時の教育のための機関間ネットワーク) ニューヨークオフィスなどを小田特任准教授が訪問し、関係者への聞き取り調査を行った。INEEは緊急時の教育のための最低基準(教育ミニマムスタンダード・準備・対応・復興)などを刊行し、全世界でネットワークを構築、研修や学術誌の刊行等を行っている。これまでは紛争後の緊急人道支援を扱ったものが主だったが、今後は災害後の教育へも注力することになった。今後、東日本大震災での経験と教訓を、こうしたネットワークのコンテンツにフィードバックすることが重要だと考える。



⑦ 第12回出張復興カフェ In Miyako(10月19日・日)

本学では文部科学省と共催で、来年3月開催の国連防災世界会議において、「学生による被災地視察研修」を実施する予定である。今回の「出張復興カフェ In Miyako」では、被災地視察研修の候補地である、国重要指定文化財「洞窟家住宅」において、仙台いぬ研究会の協力をいただき、教職員や学生たちの事前視察研修を実施した。



⑧ 大学祭・教育復興支援センター企画「復興と教育」(10月25日・土~26日・日)

今年の大学祭では、映画「Stories From Tohoku」「日系アメリカ人と震災」を上映(ダイアン・フカミ監督からメッセージビデオもあり)、国際理解教育研究センター・研究協力員の金子奈奈さんから「日系アメリカ人から見た震災」をお話し頂いた。翌日は学校現場の先生(南三陸町立志津川中学校・畷田浩文先生、仙台市立長町小学校・武田芳興先生)お二人に基調講話をいただき、「子どもに震災を伝える」というテーマで意見交換会を行った。



⑨ JICA教員研修(10月31日・金~11月2日・日)

JICA教員研修生(7カ国12名)が昨年に引き続き陸前高田市を視察し、米崎小学校仮設住宅・自治会長・佐藤一寿氏から講話をいただいた。2日には、横田川の駅で祭りに参加、戸羽市長に面談した。また、長い巻き巻くづくりに挑戦し教員を楽しんだ。米崎小学校仮設住宅では、地域住民たちと、さんまの炭火焼きを食し、研修生たちのお国自慢の料理を振る舞って、世界地図や地球儀を回しながら歓談した。



I 年表

II 支援実践部門

III 研究開発部門

IV 人材育成

V 刊行物

VI 外部資金

VII 国連防災世界会議報告

VIII メモリアルイベント報告

IX 資料

教育復興支援センターだより

③ 第15回復興カフェ in Miyako (1月22日・木)

JICA教員研修の一環で、陸前高田市視察研修を実施したので、随行した藤原和主任と、陸前高田の被災地調査を実施した、瀬尾副センター長から復興状況について報告頂いた。瀬尾副センター長から、ペルトコンペによる土地の嵩上げが各地で行われていることを中心とした復興状況の報告と、藤原主任からは、社員の養育で生計を立てる人たちが、震災後、一度消えたマーケットを再び復活させることがいかに難しいかということや、陸前高田市立米崎小学校の仮設住宅にて国際交流が実施されたことの紹介があった。



④ 国連防災世界会議プレイベント (1月28日・水)

第3回国連防災世界会議にて、本学は総合フォーラムの一つとして、文部科学省・日本ユネスコ国内委員会と共催し、ESDと人づくり、防災教育をテーマにシンポジウムを開催するにあたり、プレイベント・【東北発！防災教育の新たな展開を考えるワークショップ】～ポストDESDとポストIHAを考える～を開催した。

- ①防災教育日本連絡会事務局長 (東北大学災害科学国際研究所) ・桜井美子准教授 「IHA2と防災教育に関する“仙台宣言” 発出にむけて」

- ②本センター・小田隆史特任准教授 「宮教大・ESD推進の軌跡、震災後の歩み～国連防災世界会議総合フォーラムに向けて」

- ③本学学校教育講座・田端健人教授 「ESDと震災復興を通じた教育系大学の連携を目指して」

の発表後に、参加者による「国連防災世界会議へ向けた教育現場からの期待」と題したワークショップを行った。参加者には現職の教員も多く、短時間ではあったが素晴らしいワークショップとなった。今回も本センター所有のTV会議システムを活用して、気仙沼市連携センターやセンター内事務室へ映像を配信した。



**本センター所有のTV会議システムについて**  
RICOH Unified Communication System Apps のアカウントを5つ契約しました。TV会議をご検討の方は、教育復興支援センターまで連絡ください。(附属学校間とも接続可能です。)

① 被災地視察研修 石巻・女川 (11月30日・日)

学生主催による被災地視察研修(石巻・女川方面)を実施した。学生・教職員合わせて22名が参加、石巻の門脇小学校、大川小学校、女川の江ノ島会館、地域医療センターを訪れ、当時の被災状況および現在の復興状況を視察した。



② 第14回復興カフェ in Miyako (12月19日・金)

復興教育学創設室の「仮設テナントの炊き出し研修」と合わせ、【拡大・復興カフェ in Miyako】を開催した。昼休みに中庭にて、災害時のホットサンドづくりを体験した後、附属図書館展示ホールにて福島県いわき市の復興状況等について、当センター瀬尾和大副センター長と小田特任准教授が報告した。次回の復興カフェは、11月のJICA教員研修で訪れた【岩手県陸前高田市】の震災復興状況について報告する。



③ 第2回ボランティア協力員総会 (1月21日・水)

平成26年度第2回ボランティア協力員総会が210番教室にて開催された。中井センター長の挨拶の後、各地域におけるボランティア活動について、代表の学生から活動報告、感想等、発表がなされた。新ボランティア協力員代表(新2年生・佐々木奏太さん)から来年度に向けての抱負が述べられた。



教育復興支援センターだより

⑤ 第16回復興カフェ in Miyako (2月4日・水)

仙台市立中野小学校や仙台市立飛浜小学校にて、ボランティア活動を継続して実践してきた学生に、本学の後輩たちに望むボランティア活動などについて報告していただいた。平成27年度をもって閉校する中野小学校ボランティア学生からは、継続することで覚えてくるものがあり、閉校を意図活動が求められていて、最後の1年間をどのように活動するかなどの話があった。飛浜小学校ボランティア学生からは、飛浜小学校の教員へのアンケートに基づき、ボランティア学生にやって欲しいこと(子どもたちをきろんとして欲しい)、やって欲しくないこと(子どもたちに名前ではなく〇〇先生と呼ばれて欲しい)などの話があった。



⑥ 第3回国連防災世界会議のご案内 (2015年3月14日・土～18日・水)

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会とともに、総合フォーラム「持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開～より良い子どもたちの未来に向けて～」を3月16日(月)東北大学秋保ホールにて開催します。持続可能な開発のための教育の10年 Decade of Education for Sustainable Development (DESD) 及び兵庫行動枠組(4FA)が最終年を迎える今、これまでの取組を振り返り、持続可能な開発のための教育の防災教育への貢献についてを被災地での実践事例とともに議論します。また、会議の期間中に本学として様々な取り組みを実施します。



教育復興支援センターだより



22号 15.3.6

教育復興支援センターより

③ 第1回ボランティア協力員総会 (4月22日・水)

平成27年度第1回ボランティア協力員総会が開催された。中井センター長挨拶の後、2年生代表の佐々木太志さんから、これまでの協力員や運営委員の活動紹介があった。その後、昨年11月に実施した石巻・女川方面の被災地視察研修に参加した学生から視察の報告があった。今年で1～4年生のボランティア協力員がそろった。協力員たちは、今後、運営委員を募って様々な活動を実践していく。



④ グリーンウェイブ2015に参加 (5月21日・木)

国連が定める国際生物多様性の日(5月22日)の前日に、世界各地の子どもたちが学校や地域などで植樹等を行うグリーンウェイブセンターとして参加した。今年は英語教育講座の先生からご寄付いただいたいたシャクヤク・ポトスを植樹した。昨年植樹したブルーベリーも元気に育ち実をつけている。



⑤ 南相馬被災地視察研修 (6月6日・土)

南相馬市出身の学生を中心に、企画運営した被災地視察研修を実施。参加者は教職員も含め24名で留学生の参加もあった。小高区は日中の立ち入りが認められているため、駅前コンサートが開催されていたが、一歩住宅街に足を踏み入れると人影は見られなかった。沿岸部の村上地区では、中間貯蔵施設が整理されてきたためか、津波で破壊された家屋も撤去され、1年前と比べ少なくなっていた。



教育復興支援センターだより



23号  
15.7.21

① 第17回復興カフェ in Miyako (3月9日・月)

ニュージーランド・オークランド大学のCarol Mutch准教授をお招きし、第17回復興カフェ in Miyakoを開催した。小田特任准教授から教育復興支援センターの概要について説明があった後、震災後の復興状況や被災した子どもたちのケア、防災教育プログラム等、日本とニュージーランド双方の取組みを話し合い、有益な情報・意見交換が行われた。Carol准教授からは、震災に限らず、学歴せぬ事柄におけるリーダーシップを養成するプログラムを、作成していることなどの報告があった。



② 第3回国連防災世界会議関連事業 (3月14日・土～3月18日・水)

第3回国連防災世界会議が仙台市にて開催された。期間中、本学主催の下記イベントが開催された。

- ・1月28日イベント・仙台市民会館やせんだいメディアでのブース展示
- ・仙台広域圏ESD・ROE運営委員会主催「東日本震災と持続可能な防災シンポジウム」
- ・コミュニケーションスペースにおいて展示やプレゼンテーション
- ・東日本震災・総合フォーラム
- ・「持続可能な開発のための教育を遂げた防災・減災の展開」
- ・復興大学主催ハブリックフォーラム・学生主催の被災地/バスツアー



総合フォーラム：ハブリックフォーラム

入場者数：1,100名

総合フォーラム：本学学生発表



復興大学：本学学生発表

せんだいメディアテーク：ブース展示

被災地/バスツアー：陸上中学校前にて

教育復興支援センターより

⑥ 第18回復興カフェ in Miyako (7月7日・水)

「東日本大震災を伝える」と題した復興カフェが開催され、山形県陸奥中学より2年生31名・教員2名を含む45名が参加した。高校1年生が宛てた震災(首藤大知氏)、被災地の子どもたち(卒業生幸田清人氏)、その時中学生は(伊藤芳郎特任教授)の3人の話聴提供があった。中学生たちは復興カフェ終了後、学内見学、秋明会館にて大学生と一緒に昼食を取った。



⑦ ボランティア不安解消会 (7月8日・水)

夏の学習支援ボランティア活動開始にあたって、ボランティア不安解消会が開催された。中井センター長の挨拶、ボランティア経験者からの話の後、当センターからの連絡事項の紹介があった。不安解消Q&Aも配布された。



⑧ 第19回復興カフェ in Miyako (7月14日・火)

本学の学部生向け科目「環境と開発」(担当教員・西城潔/小田隆史)の一環として、「福島原発事故後の地域社会の変化と課題」をテーマに実施したフィールド実習の報告をかねた復興カフェが開催された。学生たちは3グループにわかれ一人ずつプレゼンを行った。



教育復興支援センターより

⑨ 共催：ナパール地震災害緊急報告会 (6月11日・水)

日本地すべり学会、東北地理学会、東北大学災害科学国際研究所、本センター主催の掲載報告会『ナパール地震災害調査報告-斜面災害を中心に-』を開催した。八木浩司・山形大学地域教育文化学部教授を講師にお迎えし、5月19日～6月2日に実施したナパール地域の調査をご報告頂いた。会場(東北大学災害科学国際研究所)と本センターをTV会議(右下画像・iPad・携帯電話)にて中継、教職員が参加した。



⑩ 被災地視察ツアー in 気仙沼・南三陸 (6月20日・土)

気仙沼や南三陸出身の学生による被災地視察研修を開催した。東日本大震災の津波によって壊滅的な被害を受け、「震災遺構」としてたどり取り上げられる「気仙沼向洋高校」や「南三陸町防災対策庁舎」を実際を目にし、参加した学生たちは言葉がでない様子だった。



⑪ 附属3校重合同防災訓練 (6月29日・月)

本学附属3校園にて「上杉キャンパス合同避難訓練」が実施された。午前10時に震度6の地震発生、小学校給食室より火災発生を想定して避難が開始された。当日PTA役員があり、保護者たちが見守るなかでの避難訓練であった。教育実習中の本学学生も交えての避難訓練だったため、教職を目指している学生にとって良い経験となった。当センターより教職員が視察、TV会議システムにて本学へ中継した。



教育復興支援センターレポート

④ 平成27年度 夏期期間中のボランティア一覧

毎年恒例！ボランティア向け！現在、募集中の被災地復興支援ボランティアです！

No.	学校名 / 地区名	人数	日程	時間	内容	備考
1	鹿児島県立鶴岡小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
2	鹿児島県立山形小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
3	鹿児島県立川内小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
4	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
5	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
6	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
7	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
8	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
9	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
10	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
11	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
12	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
13	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
14	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
15	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
16	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
17	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
18	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
19	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
20	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
21	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
22	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
23	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
24	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
25	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
26	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
27	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
28	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
29	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで
30	鹿児島県立大塚小中学校	5	7/23(日)	10:00-14:00	授業支援活動	15:00まで

教育復興支援センターだより  
24号  
15.11.5

① 防災教育研修会・大崎市 (7月28日・火)

大崎市立沼部小学校『防災教育の研修会』において、小田隆史准教授が講話とワークショップの講師を担当した。夏休みにPTAで子どもたちとハードマップづくりを行うための研修会ということもあって、暑い体育館で皆一生涯懸命に取り組んでいた。小学校5年生のお子さんもグループ代表で発表した。



② オープンキャンパス (7月31日・金)

ボランティア協力員たちが、オープンキャンパスで本学を訪れた高校生たちに、教育復興支援センターの取り組みを説明した。青葉山の住人(やぎの“つよし”)も歓迎のパフォーマンス。大喜びの高校生たちだった。



③ 第20回復興カフェ in Miyako (8月24日・月)

第20回復興カフェでは、愛知教育大学の学生3名と学習支援ボランティア活動や被災地視察について意見交換を行った。今回、愛知教育大学から参加した学生3名(市川真基氏、伊藤善之氏、中島恵氏)は、本学学生(佐々木義太氏、濱田恭兵氏)とともに、個人的に被災地視察を実施し、その帰途に当センターにて、見上学長、中井センター長等と懇談した。学生からは被災地と繋がっていたい、情報発信・共有をしたい、感じごとを伝えていきたいなどの意見があった。



8月14日、学習支援ボランティア活動終了後、挨拶にきた愛知教育大学の学生たち

教育復興支援センターレポート

⑤ JICA集団研修 被災地視察研修会 (10月12日・月)

JICA研修コース「教員養成課程における方法と技術」の研修生を対象に、被災地視察研修を実施した。JICA関係者と教育復興支援センター担任教員の16名で、仙台市野田津渡放草を収めた仙台市立荒浜小学校と名取市立南上中学校、高い津波が押し寄せたリアス海岸の女川町を視察した。参加者たちは荒浜小学校の視察では、避難者が救われるまでの校長の対応や、平野部での避難の困難さに関心を示していた。南上中学校の校舎を見た後、日と夜と横になった生徒の慰霊碑を訪れたが、犠牲の大きさに言葉を失っていた。



南上中生の慰霊碑に訪れる研修生 (右) 女川町の2階にて

⑥ JENESYS2015 招へいプログラム研修生との交流 (10月15日・木)

外務省主管のASEANが国及び来日学生を対象とした若者招待プログラム「JENESYS2015」により、来日中の学生等(約40名)が本学を訪れた。午前中、市瀬教授の授業にて本学学生と交流、午後は、東日本大震災被災地を視察した。(本学学生5名が英語で仙台荒浜・名取南上などを案内した)



⑦ 第44回宮城教育大学祭 (10月24日・土～25日・日)

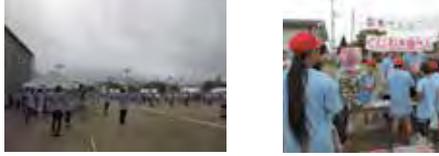
第44回大学祭において教育復興支援センターでは、教育復興支援ボランティア協力員(大学祭担当)たち手作りの活動年表やボランティア活動のポスターや、東北地域づくり協会のパネルも展示した。



教育復興支援センターレポート

⑧ 仙台市立荒浜小学校運動会 (9月5日・日)

小雨降る中、開校140周年記念「ふるさと荒浜学区民大運動会」が七郷小学校にて開催された。児童(1年、2年、5年生)16名と約200人の助成会や保護者、学校関係者が参加し、荒浜小学校最後の運動会となった。児童全員の短距離走では、一人一人決意表明がなされ、最後の演技『みんなで踊ろう!』では、参加者全員が輪になり、アンコールが繰り返されるほどの盛り上がりを見た。関係者からの寄付による【くし引き屋さん(担当:本学ボランティア学生)】も大活躍だった。



⑨ 第三回公開集申講座 宮城教育大学防災ウィークエンド (9月13日・日)

本学学生(4名)が、「学習支援ボランティア活動報告/被災地視察研修企画への思い」について発表した。福島出身の学生からは、様々な災害が起こったので、防災教育が進んでいると思われているが、集落が分散、失われた町なのでそれどころではない、大学で学んだことを福島で実践したい等の報告があった。参加者アンケートでは、「学生の生の声の心が響き、涙が出てきた」などの感想が寄せられた。また、「宮城県北部の大雨災害調査報告」(日本地理学会災害対応委員会HP9.13)も掲示した。



⑩ 仙台市立中野小学校運動会 (10月3日・土)

平成27年10月3日(土)秋晴れの中、41回目の「中野学区区民大運動会」が開催された。最後の運動会を催すかのように、40名の児童とたくさん地域のの方々による演技が繰り広げられた。学生たちも、運営の手伝いの台詞を縫って一人一人の名前を呼びながら懸命に声援を送っていた。



④ 第22回拡大復興カフェ in Miyako (11月26日・木)

雨の降る寒い中、復興教育創設室 キャンプ炊き出しプロジェクト担当の拡大復興カフェが開催された。11月24日に炊き出し研修の練習を行い、当日は、30分で作る簡単ハン・ド缶オープンヒザ・ポリ袋ご飯、焼きチーズなどが振舞われた。会場が、本学の中庭だったため、お昼休みの学生たちで賑わった。当センター職員は焼きチーズ作りを担当した。(当日の気象情報：12:40現在 気温7度 湿度98% 気圧1004hPa 時間雨量 1.0mm)



⑤ 第2回ボランティア協力員総会 (1月20日・水)

平成28年度においてもボランティア協力員を募集することになり、中井センター長より現1年生に募集の協力依頼が行われた。被災地視察・大学祭・学習支援ボランティア活動報告の後、初代代表より「目の力が合わさればもっともっと大きなことができる。危険も継続しながら、やらなければいけないこと、何をすべきか考えながら行動することが大事」とのエールを受け、来年度代表から「1人の力では何もできないが、集まれば大きなことができる。力を貸して下さい」との挨拶があった。



初代 代表



1年生 代表

⑥ 防災教育を中心とした学校安全フォーラム (1月22日・金) 【後援事業】

宮城県教育委員会、東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センター主催、本センター後援の標記フォーラムが、岩沼市議会館にて開催された。午前の部「未来をひらく地域に根差した安全教育～」では、基調講演とパネルディスカッションが行われた。午後の部「未来へつなぐ防災教育」において、本センター小田特任准教授が、トミー・ムリア・ハッサインドネシアアチエ津波博物館の特別講演「アチエにおける津波アーカイブと教育への活用」の逐次通訳を行った。



教育復興支援センターだより

25号  
16.3.2

① 第21回復興カフェ in Miyako (10月28日・水)

第21回では本学教務会館にて、サイエンスインストラクター・防災キャスターの岡部清人氏に『防サイエンスショー美しく科学・伝える防災』と題した防災に役立つことについて、化学実験を交えてお話しいただいた。昼食時ということもあって約100名が防災教育の新しい手法を体験した。



② 仙台市立中野小学校学芸会 (10月31日・土)

今年度で閉校となる中野小学校の最後の学芸会に、本学学生7名が運営補助ボランティアとして参加した。事前準備から、児童生徒の介助、照明、物品の運搬等を本学学生たちがサポートし、劇や合唱で大盛り上がりとなった学芸会となった。学芸会の途中で校長先生からボランティア学生たちの紹介があった。



③ 石巻支援学校学習発表会 (10月31日・土)

穏やかな天候のもと、障害のある児童生徒たちが、日々練習を重ねてきた成果を発表した。ボランティア活動に参加した学生は本学生3名を合わせ18名。受付・案内、会場準備、児童生徒対応等の係を務めるほか、石巻好又館高校の先輩・後輩の交流もあった。



⑦ 第23回復興カフェ in Miyako (2月17日・水)

今回は、小田特任准教授と藤原忠と主任が教育復興支援センターの活動を英語(日本語補足付)で発表した。藤原主任からは当センターの設立経緯、現在の活動、センターの今後など、小田特任准教授からは海外の震災・防災教育などのプレゼンがあった。参加者から英語での質問もあり、貴重な復興カフェとなった。



★皆様のご参加をお待ちしています。

教育復興支援センター メモリアルイベント ご案内  
2016年3月9日(水)～3月14日(月)  
【震災から5年 私たちはあの日を忘れない】

目的： 震災から5年目の節目にあたり、東日本大震災を忘れないため、被災地視察研修やメモリアルフォーラムなどを開催する。

日程：

3月 9日(水) 被災地視察研修(石巻市立大川小学校)  
8:00宮教大発～17:00宮教大着

3月10日(木) 被災地視察研修(仙台近郊・午後出発)  
13:00宮教大発～17:00宮教大着

3月11日(金) メモリアルフォーラム

場所：教務会館2F交流・談話スペース

時間：12:00～17:00

内容：・「あの日を忘れない～そなえも忘れない～」炊きだしプロジェクト  
・復興支援ボランティア学生のお話(慶知教育大学学生を交えて)  
・追悼式典テレビ中継  
・14:46 黙祷  
・懇談会「活動を振り返ろう」(センター特任教授からのお話を含む)

3月14日(月) 仙台市立七郷中学校野球部生徒紅白試合(本学グラウンド)

10:30～トレーニング

13:00～感謝の会

13:30～紅白試合

問い合わせ先 022-214-3296  
Eメール fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp



東日本大震災

踏み出そう! 子どもたちの笑顔のために

# あすへ向けての軌跡

震災から5年間のまとめ

---

---

平成28年3月31日発行

編集・発行 / 国立大学法人  
宮城教育大学 教育復興支援センター

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

電話 022-214-3296 022-214-3667

E-mail fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp

制作・印刷 / 株式会社ホクトコーポレーション

---

---



このパンフレットは「木なし印刷」により印刷しております。



環境にやさしい植物油インク「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。

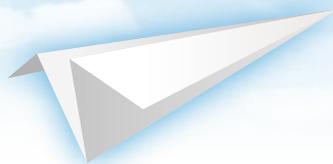
ご支援いただきました皆様  
協働いただきました皆様  
ありがとうございました

地域とともに 子どもたちの  
笑顔のために  
これからが 本当の復興です

東日本大震災

踏み出そう! 子どもたちの笑顔のために  
あすへ向けての軌跡

震災から5年間の  
まとめ



発行



国立大学法人  
宮城教育大学

教育復興支援センター

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

TEL 022-214-3296

E-Mail : fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp

